

Gentran:Server[®] for Windows[®]

ユーザーガイド

バージョン 5.0

Sterling Commerce
An IBM Company

著作権に関する表示

Gentran:Server for Windows

© Copyright 1995 - 2004
Sterling Commerce, Inc.
ALL RIGHTS RESERVED

スターリング コマース ソフトウェア

営業秘密に関する表示

GENTRAN:SERVER FOR WINDOWS ソフトウェア (「スターリング コマース ソフトウェア」) は、米国スターリング コマース社、その関連企業またはそのライセンスの機密と営業秘密を有する財産であり、プロダクト使用契約の条件に基づいて提供されます。事前の書面による許可のない複製または開示は禁じられています。権利は制限されています。

本資料、本資料で述べられたスターリング コマース ソフトウェア、およびそれらに含まれる情報とノウハウは、スターリング コマース、その関連企業またはそのライセンスの専有的な、秘密の、財産的価値を有する営業秘密であり、許可されていない目的のために使用することおよび適正なスターリング コマースからの事前の書面による承認を受けることなく第三者に開示することは禁じられています。本資料と本資料で述べられたスターリング コマース ソフトウェアは、その複製、変更および使用を禁止または規制する条項が規定されたプロダクト使用契約に基づいて提供されます。複製を許可された場合には、複製が部分的であるか全体的であるかを問わず、その複製物にこの営業秘密表示とスターリングコマースの著作権表示を表示するものとします。

FAR に規定されることにより米国の政府機関、政府の委託業者又はさらにその者の委託業者に対して本資料が提供された場合は、Title 48 CFR 52.227-19 による制限付きの権利として提供されます。また、DFAR に規定されることにより米国の政府機関、政府の委託業者又はさらにその者の委託業者に対して本資料とスターリング コマース ソフトウェアが提供された場合は、商業用ソフトウェアと商業用ソフトウェア資料に関する Title 48 CFR 227-7202 の記載に基づくスターリング コマースの一般的な実施許諾契約に基づいて提供されます。

これらの条件の準拠法は、米国オハイオ州法 (法の抵触に関する規定を除く) が適用されます。締結済みの契約に基づいてスターリング コマース ソフトウェアを使用している場合には、これらの条件は当該締結済み契約に優先するものではなく、また、これを修正するものでもありません。

本資料に記載されている製品名は、該当各社の商標または登録商標である場合があります。Gentran 及び Gentran:Server はスターリングコマースの登録商標です。

サードパーティソフトウェア

スターリング コマース ソフトウェアの一部には、サードパーティ (「サードパーティ ライセンサ」) から提供された製品 (「サードパーティソフトウェア」) が含まれる場合や、サードパーティソフトウェアと同一の記録媒体で配布される場合があります。

保証の放棄

本資料と本資料で述べられたスターリング コマース ソフトウェアは「現状のもの」として、またはスターリング コマースのプロダクト使用契約で規定された「限定保証」とともに提供されるものとします。「限定保証」以外には、商品性および特定目的への適合性を含みいかなる明示的および黙示的保証も行われません。スターリングコマースは適宜本表示を改訂し、又はその内容を変更できるものとし、その改訂又は変更をいかなる個人又は法人に対しても通知する義務を負わないものとします。

サードパーティソフトウェアは、商品性の黙示的保証および特定目的への適合性を含めて (ただしこれらに限定されない)、いかなる保証ならびに明示的および黙示的保証も伴わずに「現状のもの」として提供され、いかなる保証も行われません。また、米国国内に居住するか、本ソフトウェアを米国国内で使用している場合、所有権または権利の非侵害に関する明示的および黙示的保証は行われません。

目次

本書について

- ▶ はじめに viii
- ▶ 本書の構成 ix
- ▶ サポート情報 xi

基本操作

- ▶ Gentran:Server for Windows について 1-2
- ▶ Gentran:Server の操作方法 1-6
- ▶ Gentran:Server データ トランスレーション処理 1-10
- ▶ パスワードの変更方法 1-16

トランスレーション オブジェクトの使い方

- ▶ 概要 2-2
- ▶ [EDI トランスレーション オブジェクト] ブラウザ 2-3
- ▶ [トランスレーション オブジェクトの登録] ダイアログ ボックス 2-7
- ▶ 新しいトランスレーション オブジェクトの登録方法 2-9
- ▶ トランスレーション オブジェクトの削除方法 2-11

パートナーの使い方

概要 3-3

- ▶ はじめに 3-3

パートナー プロファイルの使い方 3-4

- ▶ 概要 3-4
- ▶ [パートナー エディタ] ダイアログ ボックス 3-7
- ▶ [パートナーの定義 (新規作成 / 編集)] ダイアログ ボックス 3-9
- ▶ [インバウンド関係] ダイアログ ボックス 3-11
- ▶ [インバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックス 3-16
- ▶ [インバウンド グループ選択] ダイアログ ボックス 3-25
- ▶ [インバウンド グループ登録] ダイアログ ボックス 3-27
- ▶ [インバウンド インターチェンジ選択] ダイアログ ボックス 3-31
- ▶ [インバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックス 3-33
- ▶ [アウトバウンド関係] ダイアログ ボックス 3-37
- ▶ [アウトバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックス 3-41

▶ [アウトバウンド グループ選択]ダイアログ ボックス	3-46
▶ [アウトバウンド グループ登録]ダイアログ ボックス	3-48
▶ [アウトバウンド インターチェンジ選択]ダイアログ ボックス	3-53
▶ [アウトバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックス	3-55
▶ 新しいパートナーの定義の作成方法	3-60
▶ 新しいインバウンド関係の作成方法	3-62
▶ 新しいアウトバウンド関係の作成方法	3-71
▶ パートナーの定義の編集と削除	3-82
パートナー プロファイルのルーティング	3-84
▶ [インポート ファイルの選択]ダイアログ ボックス	3-84
▶ [エクスポート ファイルの組み込み]ダイアログ ボックス	3-86
▶ [パートナーのコピー]ダイアログ ボックス	3-88
▶ パートナー プロファイルのインポート方法	3-93
▶ パートナー プロファイルのエクスポート方法	3-96
▶ パートナー プロファイルのインポート方法	3-97
パートナー テーブルの使い方	3-100
▶ 概要	3-100
▶ [パートナー テーブル]ダイアログ ボックス	3-101
▶ [新しいテーブル]ダイアログ ボックス	3-103
▶ [クロスリファレンス選択]ダイアログ ボックス	3-105
▶ [クロスリファレンスの登録]ダイアログ ボックス	3-106
▶ [照合の選択]ダイアログ ボックス	3-107
▶ [照合の登録]ダイアログ ボックス	3-108
▶ [テーブル エクスポート ファイルの組み込み]ダイアログ ボックス	3-109
▶ [テーブル インポート ファイルの選択]ダイアログ ボックス	3-111
▶ テーブルの作成方法	3-113
▶ テーブルの編集方法	3-115
▶ テーブル内のエントリの削除方法	3-116
▶ テーブルの削除方法	3-117
▶ パートナー テーブルのエクスポート方法	3-118
▶ テーブルのインポート方法	3-121
パートナー所在地の使い方	3-123
▶ 概要	3-123
▶ [所在地の選択]ダイアログ ボックス	3-124
▶ [所在地の登録]ダイアログ ボックス	3-125
▶ パートナー所在地の作成方法	3-127
▶ パートナー所在地の編集方法	3-128
▶ パートナー所在地の削除方法	3-129

ドキュメントの使い方

概要	4-3
▶ はじめに	4-3
ドキュメント ブラウザ	4-4
▶ ドキュメント ブラウザへのアクセス方法	4-4
▶ [インドキュメント]ブラウザ	4-7
▶ [? インドキュメント]ブラウザ	4-9
▶ [インドローワ]ブラウザ	4-11
▶ [ワークスペース]ブラウザ	4-13
▶ [アウト ドキュメント]ブラウザ	4-15
▶ [? アウト ドキュメント]ブラウザ	4-17
▶ [アウト ドローワ]ブラウザ	4-19
▶ [処理中]ブラウザ	4-21
関連のダイアログ ボックス	4-23
▶ [表示の選択]ダイアログ ボックス	4-23
▶ [印刷の選択]ダイアログ ボックス	4-25
▶ [エクスポート方法の選択]ダイアログ ボックス	4-27
▶ [ドキュメントをエクスポートするファイル]ダイアログ ボックス	4-29
▶ [インポートするアプリケーションファイル]ダイアログ ボックス	4-31
▶ [ドキュメントの検索]ダイアログ ボックス	4-33
▶ [フィルタ]ダイアログ ボックス	4-35
ドキュメントの作成と編集	4-39
▶ ドキュメントの作成方法	4-39
▶ ドキュメントの開き方と編集方法	4-43
ドキュメントの管理	4-47
▶ ドキュメントの表示方法	4-47
▶ 現在処理中のドキュメントの表示方法	4-51
▶ ドキュメント内の特定のテキストの検索方法	4-52
▶ ドキュメントの検索方法	4-56
▶ ドキュメントの並べ替え方法	4-57
▶ [アウト ドローワ]での状態によるドキュメントのフィルタ方法	4-58
▶ ドキュメントの削除方法	4-59
▶ ドキュメントの印刷方法	4-60
ドキュメントのルーティング	4-62
▶ ドキュメントの[インドローワ]への移動	4-62
▶ ドキュメントのコピー(再処理と再送)	4-63
▶ ドキュメントのポスト	4-64
▶ ドキュメントのアンポスト	4-65
▶ ドキュメントへの応答方法	4-66
▶ ドキュメントのインポート方法	4-68
▶ ドキュメントのエクスポート方法	4-70

コミュニケーションズの使い方

- ▶ 概要 5-2
- ▶ [送信キュー]ブラウザ 5-3
- ▶ [コミュニケーションセッション]ダイアログ ボックス 5-4
- ▶ [ファイル処理]ダイアログ ボックス 5-5
- ▶ ドキュメントの送信方法 5-6
- ▶ 全ドキュメントの送信方法 5-7
- ▶ ドキュメントの再送方法 5-9
- ▶ ドキュメントの受信方法 5-11
- ▶ 送信キューの表示方法 5-13
- ▶ データ ファイルの処理方法 5-14

インターチェンジの使い方

- ▶ 概要 6-2
- ▶ [インターチェンジ]ブラウザ 6-3
- ▶ [インターチェンジのフィルタ]ダイアログ ボックス 6-9
- ▶ インターチェンジの表示方法 6-12
- ▶ 表示されたインターチェンジのフィルタ方法 6-15
- ▶ インターチェンジにドキュメントを表示する方法 6-17
- ▶ パートナーにインターチェンジを添付する方法 6-19
- ▶ インターチェンジの再送方法 6-22
- ▶ インターチェンジ、グループ、ドキュメントを手動で受信確認する方法 6-24

外部データの使い方

- ▶ 概要 7-2
- ▶ [外部データの概要]ビューア 7-4
- ▶ [外部データ フィルタ]ダイアログ ボックス 7-8
- ▶ 外部データ ファイルの表示方法 7-11
- ▶ 外部データ ファイルのフィルタ方法 7-13

受信確認の使い方

- ▶ 概要 8-2
- ▶ インバウンド受信確認の基準の定義方法 8-3
- ▶ アウトバウンド受信確認の基準の定義方法 8-6
- ▶ ドキュメントを手動で受信確認する方法 8-10
- ▶ EDIFACT 受信確認の注意事項 8-12
- ▶ 受信確認の時間切れをチェックする方法 8-14

トラッキングの使い方

- ▶ 概要 9-2
- ▶ インバウンド情報のトラッキング 9-3
- ▶ アウトバウンド情報のトラッキング 9-6
- ▶ データ オーディット情報の表示および印刷 9-9
- ▶ トラック情報の表示および印刷 9-11

アーカイブと復元の使い方

- 概要 10-2**
 - ▶ はじめに 10-2
- データのアーカイブ 10-3**
 - ▶ 概要 10-3
 - ▶ アーカイブ マネージャ 10-5
 - ▶ [Gentran EDI アーカイブ定義] ダイアログ ボックス 10-11
 - ▶ [インターチェンジ選択基準] ダイアログ ボックス 10-13
 - ▶ [インターチェンジの検索] ダイアログ ボックス 10-16
 - ▶ [グループの検索] ダイアログ ボックス 10-19
 - ▶ [ドキュメントの検索] ダイアログ ボックス 10-21
 - ▶ [メールボックスのアーカイブ定義] ダイアログ ボックス 10-23
 - ▶ [メールボックスの選択基準] ダイアログ ボックス 10-25
 - ▶ [メールボックスの検索] ダイアログ ボックス 10-27
 - ▶ [外部データのアーカイブ定義] ダイアログ ボックス 10-29
 - ▶ [外部データ選択基準] ダイアログ ボックス 10-31
 - ▶ [外部データの検索] ダイアログ ボックス 10-33
 - ▶ [検索結果] ダイアログ ボックス 10-35
 - ▶ [ソート順] ダイアログ ボックス 10-37
 - ▶ アーカイブ定義の作成方法 10-38
 - ▶ データのアーカイブ方法 10-40
 - ▶ アーカイブ データの表示方法 10-41
 - ▶ アーカイブ データの検索方法 10-45
- アーカイブ データの復元 10-47**
 - ▶ 概要 10-47
 - ▶ [インターチェンジの復元] ブラウザ 10-49
 - ▶ 復元されたインターチェンジの表示方法 10-55
 - ▶ 復元されたインターチェンジのフィルタ方法 10-58
 - ▶ 復元されたドキュメントの表示方法 10-60
 - ▶ 復元されたドキュメントの再処理方法 10-62
 - ▶ 復元されたインターチェンジの再送方法 10-63

プロセス管理の使い方

概要	11-2
▶ はじめに	11-2
セッション	11-4
▶ 概要	11-4
▶ セッションの作成方法	11-11
▶ セッションの編集方法	11-14
▶ セッションの削除方法	11-17
イベント	11-18
▶ 概要	11-18
▶ 新しいイベントの作成方法	11-27
▶ イベントの編集方法	11-31
▶ イベントの削除方法	11-35
▶ イベントの表示方法	11-36
▶ イベントをアクティブ化および一時停止する方法	11-41
▶ イベントを即時に実行する方法	11-44
カレンダー	11-46
▶ 概要	11-46
▶ カレンダーを作成または編集する方法	11-49
▶ カレンダーの削除方法	11-51

用語解説

本書について

目次

-
- ▶ はじめにviii
 - ▶ 本書の構成ix
 - ▶ サポート情報xi
-

はじめに

はじめに

スターリング コマースの Windows オペレーティング システム用電子データ インターチェンジ (EDI) ソフトウェア、Gentran:Server[®] for Windows[®] をご購入いただきありがとうございます。

Gentran:Server には、トレーディング パートナーとの電子データ交換に必要な以下のツールが用意されています。

- ▶ データ トランスレーション
- ▶ プロセス管理
- ▶ コミュニケーションズ システム

このソフトウェアおよびサポート ツールは使いやすく、業務にすぐ役立てることができます。

本書の構成

はじめに

このマニュアルでは、オンライン ヘルプを補完することを目的に、Gentran:Server で実行できる各種タスクについて、その実行手順を含め詳しく解説しています。タスクの手順を解説しているこのマニュアルは、ステップバイステップ方式で Gentran:Server のインストールに関するあらゆる質問に答えることを目的としています。

本書の対象読者

このマニュアルは、以下の業務の担当者を対象としています。

- ▶ EDI の導入
- ▶ トレーディング パートナー関係の設定
- ▶ EDI ドキュメントの作成および使用
- ▶ ドキュメントの送受信
- ▶ ドキュメントの受信確認
- ▶ ドキュメントのトラッキング
- ▶ 自動処理の構成および使用

前提知識

このマニュアルの前提知識として、PC の使用および Microsoft® Windows または Windows 2000 の機能に関する知識が必要です。

(次のページへ続く)

本書の内容

この『ユーザーガイド』は、以下の章から構成されています。各章の概要を説明します。

- ▶ 第1章「はじめに」では、このマニュアルの内容、構成、および表記について説明します。また、カスタマサポートの情報、および Gentran:Server for Windows の概要についても説明します。
- ▶ 第2章「トランスレーション オブジェクトの使い方」では、トランスレーション オブジェクトを登録 (インストール)、削除、表示する方法について説明します。
- ▶ 第3章「パートナーの使い方」では、パートナー プロファイルを設定する方法について説明します。パートナー プロファイルやパートナー テーブルのインポートやエクスポート、およびパートナー プロファイルをコピーする方法についても説明します。
- ▶ 第4章「ドキュメントの使い方」では、ドキュメントを操作する方法について説明します。
- ▶ 第5章「コミュニケーションズの使い方」では、ドキュメントの送信、受信、再送の方法、および送信キューの表示方法について説明します。
- ▶ 第6章「インターチェンジの使い方」では、インターチェンジおよびインターチェンジ内のドキュメントを表示する方法、インターチェンジの表示にフィルタをかける方法、インターチェンジをパートナーに添付 (結合) する方法、インターチェンジを再送する方法について説明します。
- ▶ 第7章「外部データの使い方」では、外部データ ファイルの表示および印刷の方法について説明します。
- ▶ 第8章「受信確認の使い方」では、ドキュメント、グループ、またはインターチェンジの受信確認を手動で設定する方法、ドキュメントの整合性をとるためのインバウンドおよびアウトバウンド受信確認の基準を定義する方法、時間切れ受信確認をチェックする方法について説明します。
- ▶ 第9章「トラッキングの使い方」では、トラック情報の表示および印刷の方法について説明します。
- ▶ 第10章「アーカイブと復元の使い方」では、データをアーカイブする方法、およびアーカイブしたデータを復元する方法について説明します。
- ▶ 第11章「プロセス管理の使い方」では、自動プロセス管理イベントの作成、編集、削除、活性化、一時停止の方法について説明します。また、セッションおよびカレンダーの使い方についても説明します。
- ▶ 「用語集」では、EDI や Gentran:Server の用語や概念について解説します。

オンライン ヘルプ システム

このマニュアルの内容の大半がオンライン ヘルプ システム (GENTRAN.HLP) にも記載されています。このマニュアルに記載されている全ダイアログ ボックス要素の定義、処理の詳細情報、操作手順の説明は、すべてオンライン ヘルプにも含まれています。

サポート情報

はじめに

スターリング コマース社では、Gentran:Server ソフトウェアに関する質問や問題についてお答えするため、熟練した製品サポート担当者によるサポートを提供しています。

メモ

Gentran:Server のカスタマ サポートは、スターリング コマース社以外の製品 (SQL Server、Oracle など) のサポートは行っていません。ただし、他社の製品を Gentran:Server と併用できるように構成するサポートは提供しています。

電話番号

ご利用になるサポート電話番号は、『インストール準備 カード』を参照してください。

サポートに連絡する前に

迅速なサポートを提供するため、以下の事項についてご協力をお願いします。

- まず、発生した問題を再現してみて、イベントの正確な順序を記録してください。
- 製品サポートへのお問い合わせの際には、下記の情報をご用意ください。

情報	説明
ユーザー情報	会社名、氏名、電話番号および内線番号、およびケース番号 (以前に報告された問題を照会する場合)。
システム構成	Gentran:Server バージョン (およびインストールされているサービス パック)、プライマリ Gentran システム コントローラおよび問題が発生しているすべてのコンピュータの情報。Windows オペレーティング システムのバージョン、搭載メモリ、有効ディスク容量、データベース バージョン、Microsoft Data Access (MDAC) のバージョン、および Internet Explorer のバージョン。 ハードウェア、ソフトウェア、およびシステムの構成に対して加えた最近の変更も記入してください。
システム データ ストア	どのコンピュータがシステム データ ストア内にフォルダを格納しているのか。 (次のページへ続く)

情報	説明
エラー メッセージ	表示されたエラー メッセージの正確な語句表現とソフトウェアでのエラーが発生した時点、およびログファイルも記録してください。
試みた解決策	問題の解決を試みた際の手順とその結果の記録、推定される問題の発生回数と問題を再生することができるかどうかを報告してください。

スターリング コマース社 Support Web Site (英語) へのアクセス

スターリング コマース社 Customer Support Web Site は Gentran:Server for Windows のサポートに関する以下の重要な情報が記載されています。

- ▶ サポート サービスの範囲
- ▶ カスタマ サポート ポリシー
- ▶ 優先コール
- ▶ カスタマ サポートの電話番号一覧
- ▶ Support on Demand ケースの作成方法
- ▶ Support on Demand ケースのステータスの確認方法
- ▶ Support on Demand ケースへの情報追加の方法

Customer Support Web Site は常にアップデートされており、スターリング コマース製品のユーザーの皆様にご利用いただけます。この Web サイトには、最新の製品アップデート情報が記載されています。製品情報に関する重要な情報源としてご活用ください。

参照

Customer Support World Wide Web Site へのアクセス方法に関する情報については、『インストール準備 カード』を参照してください。

マニュアル

Customer Support Web Site にはドキュメント ライブラリがあり、Gentran:Server for Windows マニュアル セットがすべて含まれています。随時このライブラリから製品マニュアルを PDF フォーマットでダウンロードできます。

基本操作

目次

▶ Gentrans:Server for Windows について.....	2
▶ Gentrans:Server の操作方法.....	6
▶ Gentrans:Server データ トランスレーション処理.....	10
▶ パスワードの変更方法.....	16

Gentran:Server for Windows について

概要

Gentran:Server for Windows は、Microsoft Windows 環境で動作するデータ トランスレーション、プロセス管理、およびコミュニケーション システムの機能をまとめたソフトウェアです。この製品は、EDI およびその他の同様のデータ タイプのトランスレーションとコミュニケーション用に設計されています。

プロセス管理システムにより、扱いにくいアドオンではなくアプリケーションのエクステンションとして、Gentran:Server を多様な業務アプリケーションと統合することができます。

システム コンポーネント

Gentran:Server システムは、複数の論理コンポーネントからなります。Gentran:Server は、データベース、システム データ ストア、プロセス コントローラ、コミュニケーション コントローラ、ユーザー インターフェイス クライアントなどを組み合わせ、多様な方法で配備することができます。

必須コンポーネント

各システムには、"プライマリ Gentran システム コントローラ"、"システム データ ストア"、および"データベース"が必要です。

データベース

"データベース"は、Gentran:Server がシステム データを格納するために使用するリレーショナル データベースです。このデータベースを使用すると、複数のユーザーが同じデータにアクセスできます。この製品のほかのコンポーネントは、データベース コントローラでさまざまなデータベース管理システムを使用できるようにする ODBC (Open Database Connectivity) を使用してこのデータベースと対話します。

参照

Gentran:Server との使用が認証されているデータベース管理システムを確認するには、『サポート情報』カードを参照してください。

(次のページへ続く)

システム データ ストア

"システム データ ストア"は、すべての共有 Gentran:Server データの保管場所として使用されます。通常、システム データ ストアは、Gentran:Server システム内の各コンピュータのファイルサーバーとなるコンピュータに置かれます。Gentran:Server システムに置くことができるシステム データ ストアは1つのみですが、必要に応じて、関連付けられたフォルダおよびファイルを複数のコンピュータに分散させることができます。

メモ

システム データ ストアが置かれるコンピュータは、Gentran:Server システム内のすべてのコンピュータからアクセス可能でなければなりません。

コントローラ

Gentran:Server システムの "コントローラ"には、以下の2つの種類があります。

- ▶ 1つのプライマリ システム コントローラ
- ▶ 1つまたは複数のセカンダリ コントローラ (必要に応じて)

プライマリシステム コントローラ

"プライマリ システム コントローラ"は、システム内での処理要求の管理と発送、オーディット機能の管理、およびその他すべてのシステム コンポーネントの制御に使用します。

セカンダリ コントローラ

分散ライセンスを購入した場合は、Windows ネットワーク内に追加のコントローラ ("セカンダリ コントローラ")を配置できます。これにより、プロセスの負荷を分散でき、より効率的なスループットを実現できます。セカンダリ コントローラは、以下のいずれかになります。

- ▶ プロセス コントローラ
- ▶ コミュニケーション コントローラ
- ▶ プロセス コントローラ、コミュニケーション コントローラ兼用

プロセス コントローラ

"プロセス コントローラ"は、プライマリ システム コントローラに似た機能を装備しています。プライマリ システム コントローラによって制御され、Windows ネットワークの複数のコンピュータにプロセスを分散するために使用するコントローラです。

コミュニケーション コントローラ

"コミュニケーション コントローラ"は、Gentran:Server とデータを交換する組織 (付加価値ネットワーク (VAN) またはトレーディング パートナー) とのコミュニケーションを統制するために使用します。コミュニケーション コントローラでは、専用線接続やダイヤルアップ接続だけでなく、サード パーティ製のコミュニケーション パッケージとの相互作用もサポートされています。

コミュニケーション コントローラは、コミュニケーションズ ゲートウェイ経由でインストールします。

(次のページへ続く)

ユーザー インターフェイス クライアント

"ユーザー インターフェイス クライアント" は、システムの監視および制御に必要な機能を提供します。メインとなるデータ管理コンポーネントによって、次にアクセスするためのグラフィカル ユーザー インターフェイスが提供されます。

- ▶ ドキュメントの場所
- ▶ パートナー プロファイル
- ▶ コミュニケーションのセットアップおよびログ
- ▶ システムのオーディット ログ
- ▶ プロセス管理のセットアップおよび管理

ユーザー インターフェイス クライアントのコンポーネント

Gentran:Server のユーザー インターフェイス クライアントは、次の 5 つの主なコンポーネントから構成されています。

- ▶ **[電子商取引 (EC) マネージャ]** ウィンドウは、ハイレベルのナビゲーションツールとドキュメント管理ツールを装備しているデータ管理コンポーネントです。[電子商取引 (EC) マネージャ] から、[パートナー エディタ]、[ドキュメント エディタ]、[アプリケーション インテグレーション]、および [フォーム インテグレーション] にアクセスすることもできます。
- ▶ **[パートナー エディタ]** を使用すると、自社およびトレーディング パートナーのパートナー情報を定義、編集、削除することができます。
- ▶ **[ドキュメント エディタ]** は、データを入力するためのツールです。このエディタを使用して、ドキュメントの作成、修正、表示を行うことができます。
- ▶ **アプリケーション インテグレーション** サブシステムを使用すると、インポート オブジェクト、エクスポート オブジェクト、およびドキュメント ターンアラウンド トランスレーション オブジェクトを生成できます。
- ▶ **フォーム インテグレーション** サブシステムを使用すると、画面入力オブジェクトおよび印刷トランスレーション オブジェクトを生成できます。

論理コンポーネント

これまでに説明したユーザー インターフェイス クライアントおよびコントローラ コンポーネントはシステムの論理コンポーネントです。これらのコンポーネントは、ニーズに合わせて 1 つのコンピュータにまとめて配置することも、複数のコンピュータに分けて配置することもできます。

一般的なシステム

通常、Gentran:Server ユーザー インターフェイス クライアントとして動作させるコンピュータに比べ、プライマリ システム コントローラ、コミュニケーション コントローラ、プロセス コントローラをまとめて動作させるコンピュータに、より高い性能が求められます。

アプリケーション インテグレーションを使用して、必要となるトランスレーション オブジェクトのインストールを完了したら、必要に応じてプロセス コントローラやコミュニケーション コントローラを追加し、プロセスの負荷を分散できます。

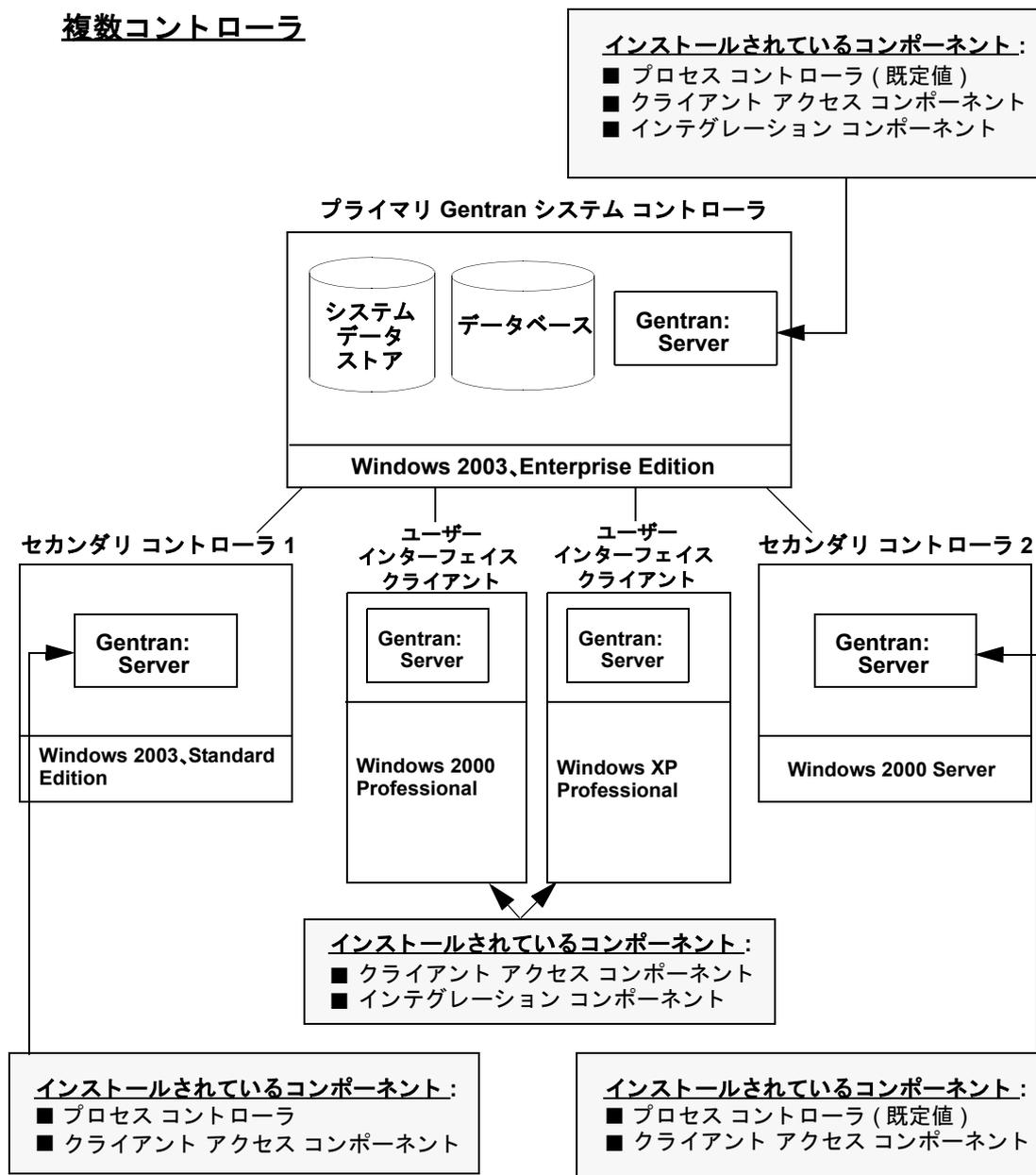
(次のページへ続く)

論理コンポーネント
(続き)

システム コンポーネントの相互作用図

次の図に、Gentran:Server システムの論理コンポーネント間の相互作用を示します。

複数コントローラ



Gentran:Server の操作方法

概要

[Gentran:Server 電子商取引 (EC) マネージャ] ウィンドウでは、次の 5 通りの方法で各種機能にアクセスできます。

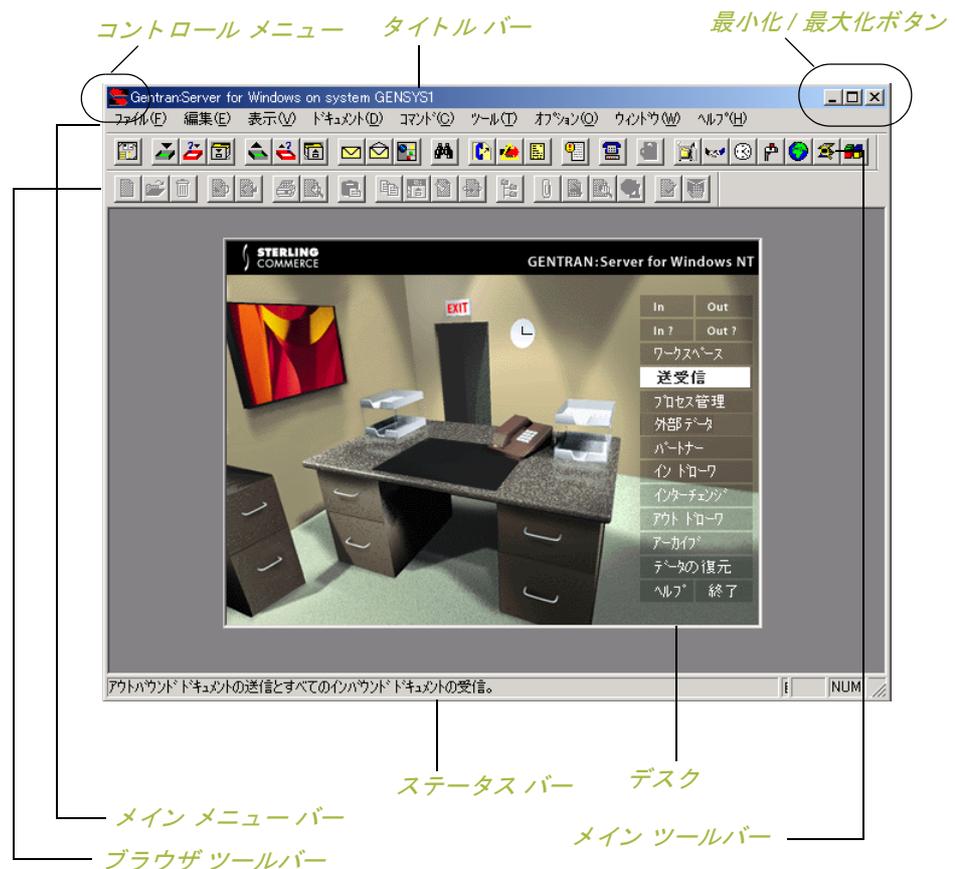
- ▶ メイン メニューバーからメニュー オプションをクリックします。
- ▶ [メイン ツールバー] の適切なボタンをクリックします。
- ▶ [ブラウザ ツールバー] の適切なボタンをクリックします。
- ▶ [デスク] の適切な部分をクリックします。
- ▶ 選択したブラウザ ウィンドウ内の適切なボタンをクリックします。

メモ

F5 を押すか、または [リフレッシュ] (ほとんどのブラウザで使用可能) をクリックすると、[電子商取引 (EC) マネージャ] の表示がリフレッシュされます。

[電子商取引 (EC) マネージャ] ウィンドウ

次の図に、[電子商取引 (EC) マネージャ] ウィンドウを示します。



(次のページへ続く)

コンポーネント

Gentran:Server のメイン ウィンドウは、次のコンポーネントから構成されています。

- ▶ コントロール メニュー
- ▶ タイトル バー
- ▶ 最小化 / 最大化 ボタン
- ▶ メイン メニュー バー
- ▶ メイン ツールバー
- ▶ ブラウザ ツールバー
- ▶ デスク
- ▶ ステータス バー

コントロール メニュー

"コントロール メニュー"では、次のコマンドが選択できます。[復元]、[移動]、[サイズ]、[最小化]、[最大化]、[閉じる]。

タイトル バー

Gentran:Server のデスクトップ上の "タイトル バー"には、アプリケーションの名前、およびログインしているシステムの名前が表示されます。タイトルバーをドラッグすることにより、デスクトップ上の [電子商取引 (EC) マネージャ] ウィンドウを移動することができます。

メモ

タイトルバーには、現在ログインしているシステムの名前が表示されます。

最小化 / 最大化 ボタン

"最小化" ボタンをクリックすると、ウィンドウが縮小されてアイコンとして表示されます。"最大化" ボタンをクリックすると、ウィンドウが拡大されて最大サイズで表示されます。

メイン メニュー バー

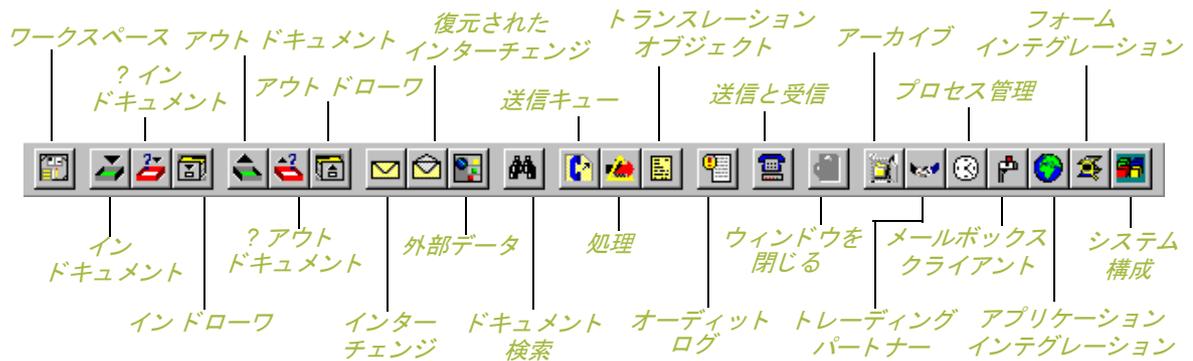
"メイン メニュー バー"には、以下のドロップダウン メニューが表示されます (これらのメニューに表示されるコマンドの詳細については、オンライン ヘルプを参照してください)。使用できないアイテムはグレー表示になっています。

(次のページへ続く)

コンポーネント (続き)

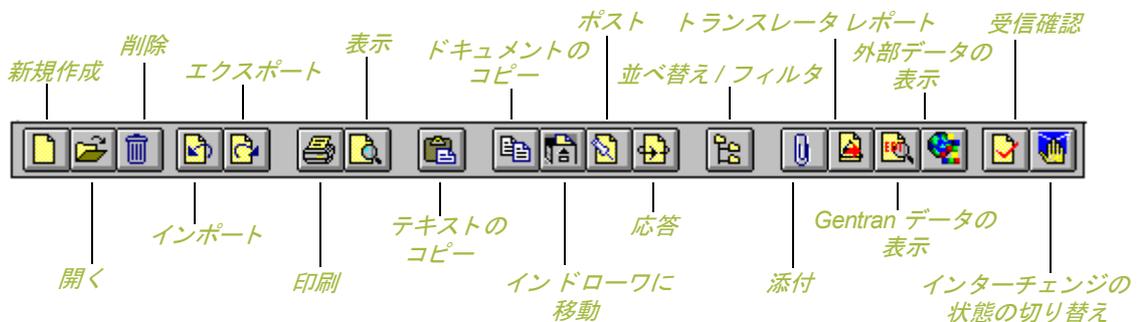
メイン ツールバー

"メイン ツールバー"からは、Gentran:Server で頻繁に使用するブラウザおよび機能にアクセスできます。使用できないアイテムはグレー表示になっています。メイン ツールバーはドッキング可能なツールバーなので、[電子商取引 (EC) マネージャ] ウィンドウの端に配置することができます。次の図に、メイン ツールバーを示します。



ブラウザ ツールバー

"ブラウザ ツールバー"から、Gentran:Server のブラウザに備えられている機能を実行できます。使用できないアイテムはグレー表示になっています。[ブラウザ ツールバー]はドッキング可能なツールバーなので、[電子商取引 (EC) マネージャ] ウィンドウの端に配置することができます。次の図に、ブラウザ ツールバーを示します。



(次のページへ続く)

**コンポーネント
(続き)****デスク**

"デスク" は、Gentran:Server コンポーネントとドキュメントの場所をグラフィカルに表したものです。デスクを使用すると、Gentran:Server で頻繁に使用するブラウザ、機能、およびサブシステムに、素早く簡単にアクセスすることができます。ブラウザ、機能、またはサブシステムにアクセスするには、それを表す [デスク] 上の適切な領域をクリックします。

ブラウザアイコンには、ドキュメントの場所にドキュメントが存在する場合に、ドキュメントの絵として表示されるものもあります。また、パートナー エディタ サブシステム、ヘルプ システム、"プロセス管理" 機能 (時計のアイコン)、および "送受信" 機能 (電話のアイコン) にデスクからアクセスできます。さらに、[デスク] を使用して、Gentran:Server を終了することもできます (出口 / ドアのアイコン)。

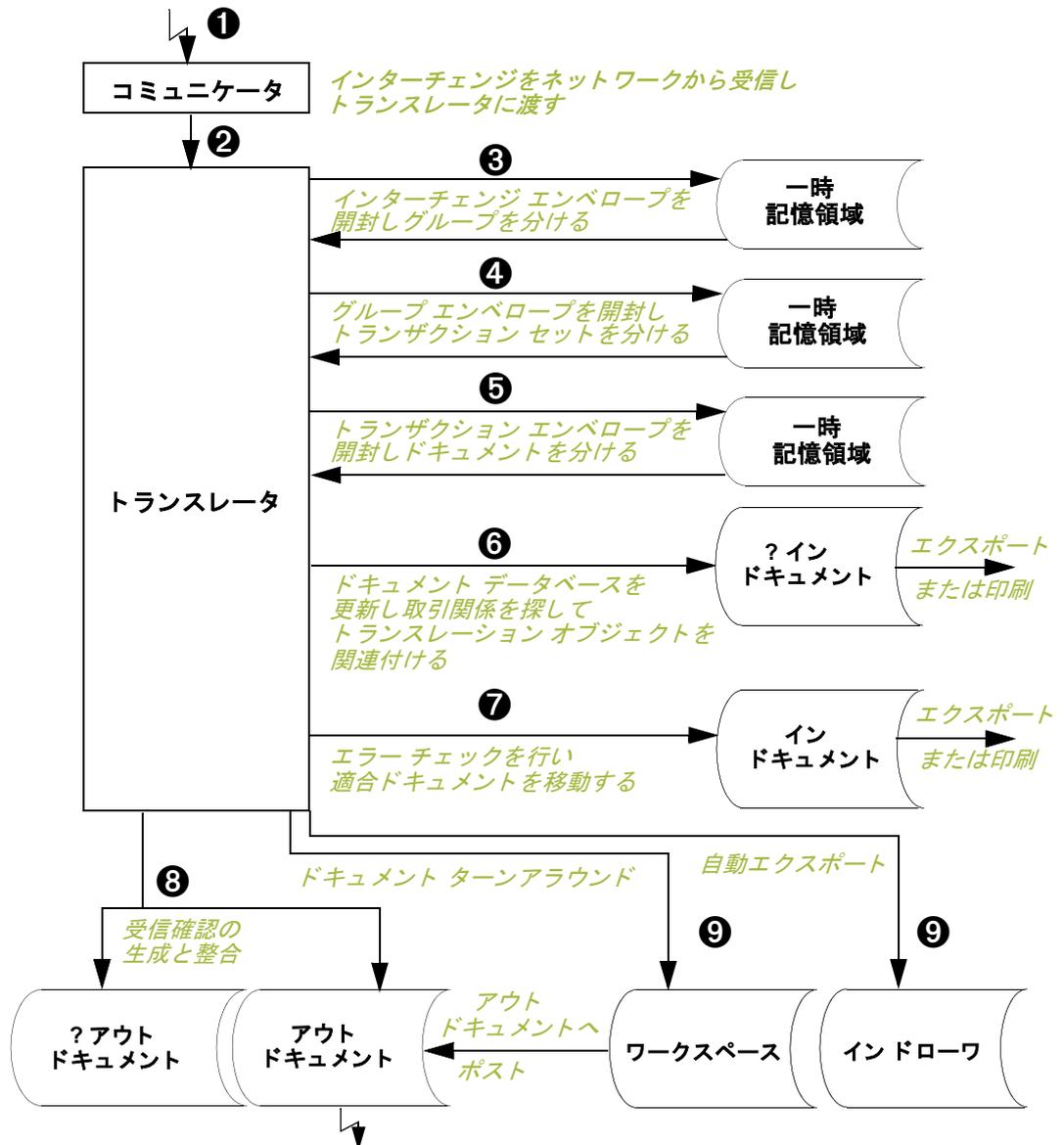
ステータス バー

"ステータス バー" には、選択、コマンド、および処理の状態情報が表示されます。また、メニューで反転表示したアイテムの定義、現在のキーボードの入力モード (たとえば、"Caps Lock" キーは CAP、"Num Lock" キーは NUM) も表示されます。

Gentran:Server データ トランスレーション処理

インバウンド データのトランス レーション

次の図に、インバウンド トランスレーション処理を示します。



(次のページへ続く)

インバウンド データのトランス レーション処理

インバウンド データのトランスレーションは、以下の手順で処理されます。

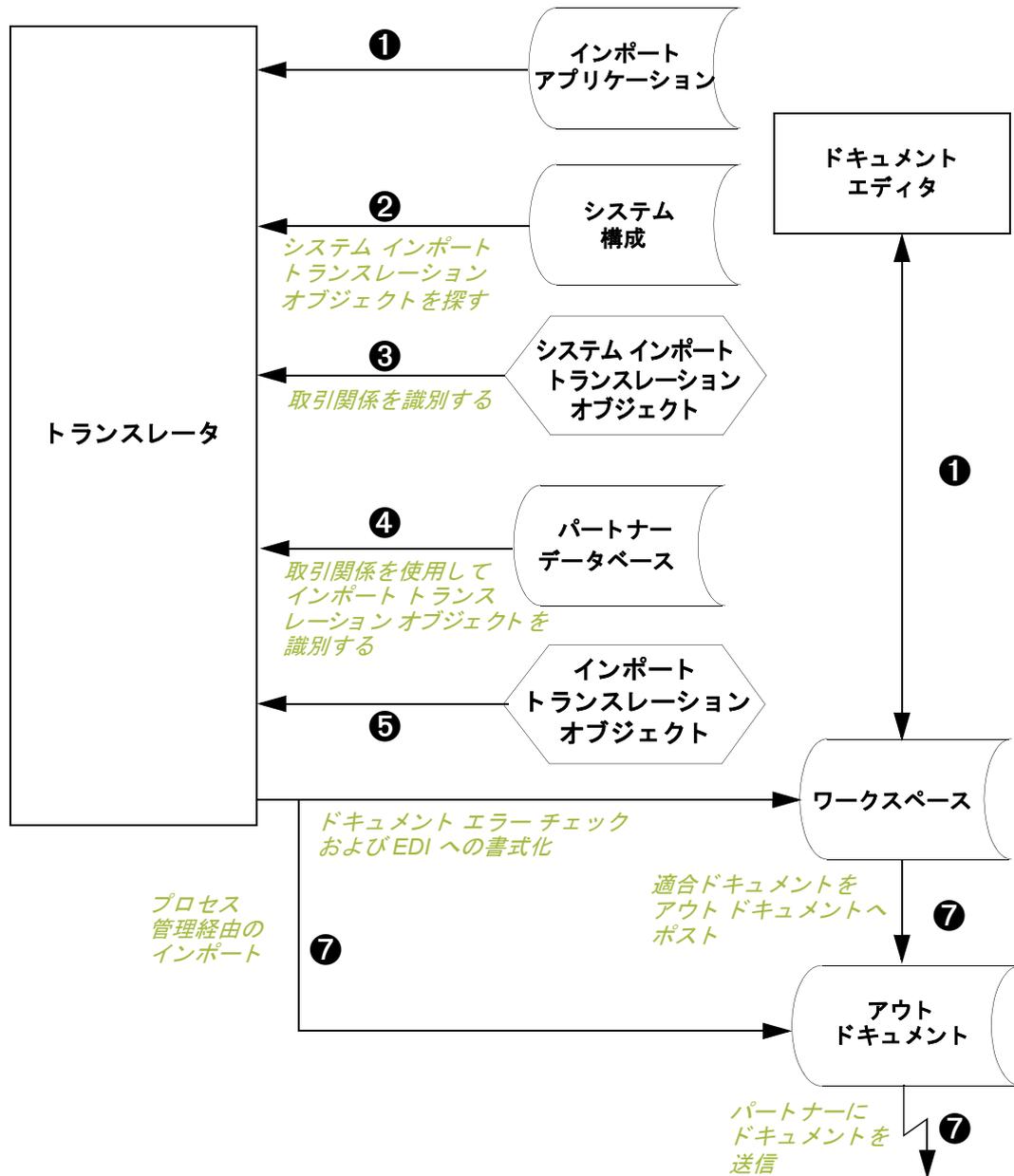
段階	説明
1	コミュニケータは、ネットワーク経由で、トレーディング パートナーからのインターチェンジを受信します。
2	コミュニケータがインターチェンジをトランスレータに渡します。
3	トランスレータは、インターチェンジ エンベロープを開封し、各グループを一時記憶領域に分けるために、システム インターチェンジ ブレーク トランスレーション オブジェクトを使用します。
4	トランスレータは、グループ エンベロープを開封し、各トランザクション セットを一時記憶領域に分けるために、システム グループ ブレーク トランスレーション オブジェクトを使用します。
5	トランスレータは、システム トランザクション ブレーク トランスレーション オブジェクトを使用して、以下を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ トランザクション エンベロープを開封する ▶ 各ドキュメントを、システム データ ストアの別々のファイルに分ける ▶ ドキュメントに関する参照情報とともに、レコードをデータベースに書き込む
6	トランスレータが、各ドキュメントの取引関係を見つけるかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 見つける場合は、その関係と関連付けられているエクスポート、ドキュメント ターンアラウンド、および印刷の各トランスレーション オブジェクトの識別が行われます。取引関係およびトランスレーション オブジェクトを見つけることができた場合は、そのトランスレーション オブジェクトを使用してドキュメントのエラー チェックが行われます。 ▶ 見つけない場合 (取引関係またはトランスレーション オブジェクトが見つからない場合)、そのドキュメントは不適合としてマークされ、[? インドキュメント] に格納されます。
7	ドキュメントが、EDI スタンダードに適合しているかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 適合している場合は、ドキュメントの状態が適合に変更され、[インドキュメント] に格納されます。 ▶ 適合していない場合は、[? インドキュメント] に格納されたままとなります。詳細なエラー レポートが生成されるので、ユーザーはこれをもとに原因を究明することができます。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 段階	説明
8	<p>取引関係で、ドキュメントのファンクショナル受信確認が生成されるように指定した場合、トランスレータは、システム受信確認トランスレーションオブジェクトを使用して受信確認を生成します。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 適合している受信確認は、送信のため [アウト ドキュメント] に移されます。▶ 適合していない受信確認 (または、受信確認トランスレーションオブジェクトでエラーが発生した場合) は、 [? アウト ドキュメント] に移されます。 <p>また、トランスレータは、受信確認タイプのトランスレーション (例 : 997、CONTRL など) を受信したときにも受信確認の整合性を取ります。</p>
9	<p>取引関係で自動エクスポートまたは自動ターンアラウンドを指定した場合は、指定されたエクスポート トランスレーション オブジェクトでエクスポートが行われるか、指定されたドキュメントターンアラウンド トランスレーション オブジェクトで適切な応答ドキュメントが生成されます。</p>

(次のページへ続く)

アウトバウンド
データのトランス
レーション

次の図に、アウトバウンド トランスレーション処理を示します。



アウトバウンド データのトランス レーションプロセス

アウトバウンド データのトランスレーションは、以下の手順で処理されます。

段階	説明
1	<p>次の3通りのうちのいずれかの方法で、アウトバウンド データのトランスレーションを開始します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 時間限定セッションまたはポーリング セッションを使用して、プロセス管理システムでファイルをインポートします。すべての有効なドキュメントが適合状態でデータベースに書き込まれ、[アウト ドキュメント]に格納されます。無効なドキュメントは不適合状態となり、[? アウト ドキュメント]に格納されます。 ▶ アプリケーション ファイルをインポートします。手動でインポートしたドキュメントは、[ワークスペース]に格納されます。 ▶ [ドキュメント エディタ]を使用してドキュメントを入力します(適切なデータ入力トランスレーション オブジェクトが Gentran:Server に登録されている場合のみ)。これらのドキュメントは[ワークスペース]に格納されます。
2	<p>ファイルをインポートする場合、システム構成からのインポート定義がチェックされ、ファイル名とシステム インポート トランスレーション オブジェクトが照合されます。</p>
3	<p>アプリケーション ファイル内の各ドキュメントに対応する取引関係(パートナー エディタで確立)は、このシステム インポート トランスレーション オブジェクトを使用して識別されます。これにより、ドキュメントの処理にどのインポート マップを使用するかが識別されます。</p>
4	<p>ファイル内のドキュメントに対応する取引関係が識別され、その関係で指定されているインポート トランスレーション オブジェクトが確認されます。</p>
5	<p>トランスレータは、インポート トランスレーション オブジェクトを使用して、ドキュメントのエラーチェックを行います。適合している(有効な)ドキュメントは"OK"とマークされます。適合していない(無効な)ドキュメントは"失敗"とマークされます。</p>
6	<p>まだインポート ファイル内にドキュメントが残っている場合は、すべてのドキュメントが処理されるまでステップ3～5が繰り返されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

段階	説明
7	<p>[電子商取引 (EC) マネージャ] を介して手動でファイルをインポートしたり、[ドキュメント エディタ] を使用した場合は、適合ドキュメントを [アウトドキュメント] にポストする必要があります。</p> <p>メモ [アウトドキュメント] に格納されたドキュメントは、プロセス管理システムまたは [電子商取引 (EC) マネージャ] の伝送オプションを使用して送信できます。</p>

パスワードの変更方法

はじめに

Gentran:Server のパスワードは、ユーザー アクセス プロファイルに格納されています。

メモ

- 変更するときには、古いパスワードが必要になります。パスワードを忘れてしまった場合には、システム管理者に問い合わせてください。
- 統合セキュリティを使用している場合、Windows のパスワードを変更するときに Gentran:Server のパスワードおよびデータベースのパスワードも変更する必要があるかもしれません。

参照

使用するセキュリティ モードについて質問がある場合には、システム管理者に問い合わせてください。

手順

パスワードを変更するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[オプション] メニューから [選択] を選択します。 システムからの応答 [選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[パスワードの変更] タブを選択し、オプションを表示します。
3	[旧パスワード] ボックスに、古いパスワードを入力します。
4	[新しいパスワード] ボックスに、新しいパスワードを入力します。
5	[新しいパスワードの確認] ボックスに、新しいパスワードをもう一度入力します。 メモ [新しいパスワードの確認] ボックスと [新しいパスワード] ボックスの入力が一致しない場合には、再入力を求めるプロンプトが表示されます。
6	完了したら、[OK] をクリックして、変更を保存します。 システムからの応答 システムが更新され、次にシステムにログオンする際には新しいパスワードを入力する必要があります。

トランスレーション オブジェクトの 使い方

目次

▶ 概要	2
▶ [EDI トランスレーション オブジェクト] ブラウザ	3
▶ [トランスレーション オブジェクトの登録] ダイアログ ボックス ..	7
▶ 新しいトランスレーション オブジェクトの登録方法	9
▶ トランスレーション オブジェクトの削除方法	11

概要

本章の内容

この章では、Gentran:Server でのトランスレーション オブジェクトの使用方法について説明します。

トランスレーション オブジェクトの定義

トランスレーション オブジェクトとは、データがある形式から別の形式に変換するために必要なすべてのデータをトランスレータに提供するために、定義、リンク、およびルールを組み合わせたセットです。Gentran:Server では、トランスレータ サブシステムの処理の制御にトランスレーション オブジェクトを使用します。

トランスレーション オブジェクトの作成

トランスレーション オブジェクトは、Gentran:Server のアプリケーション インテグレーション サブシステムまたはフォーム インテグレーション サブシステムを使用し、アプリケーション マップやフォーム定義をコンパイルして作成されます。

参照

これらのサブシステムについての詳細は、『アプリケーション インテグレーション ユーザー ガイド』および『Forms Integration User's Guide』を参照してください。

トランスレーション オブジェクトの種類

トランスレーション オブジェクトには、2つの種類があります。

- ▶ システム トランスレーション オブジェクト
- ▶ ユーザー トランスレーション オブジェクト

システム トランスレーション オブジェクト

システム トランスレーション オブジェクトでは、インターチェンジ、ファンクショナルグループ、およびトランザクション セットの作成と分割を制御します。また、ファンクショナル受信確認を生成したり、ファンクショナル受信確認との整合性をとるためにも使用されます。

ユーザー トランスレーション オブジェクト

ユーザー トランスレーション オブジェクトでは、画面入力、インポート、エクスポート、および印刷レポート作成を制御します。必要なシステム トランスレーション オブジェクトはすべて、Gentran:Server システムによって自動的にインストールされます。

[EDI トランスレーション オブジェクト] ブラウザ

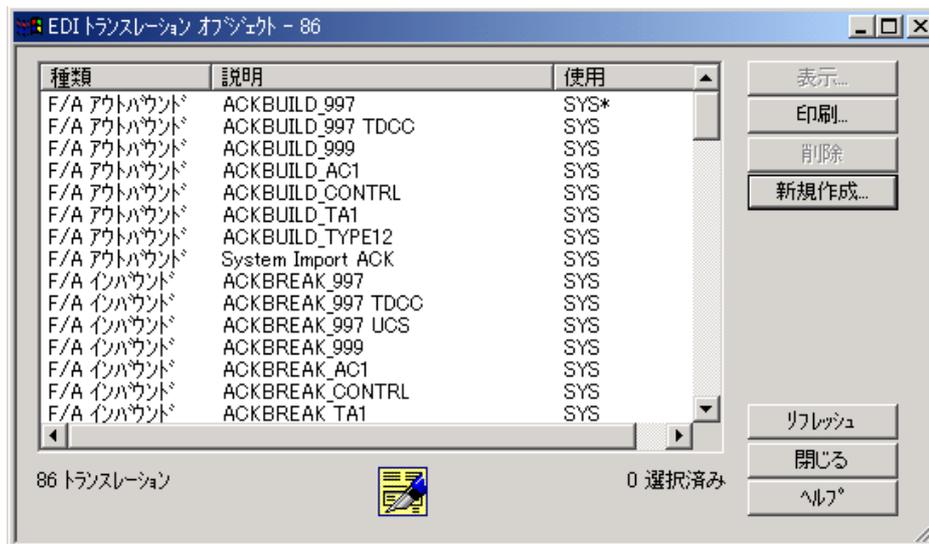
はじめに

次の表に、"EDI トランスレーション オブジェクト" 機能を構成するシステム コンポーネントを示します。

ブラウザまたは ダイアログ ボックス	機能
EDI トランスレーション オブジェクト	トランスレーション オブジェクトの表示、印刷、 削除、および登録に使用します。
トランスレーション オブジェクトの登録	システムに登録するトランスレーション オブジェ クトの選択に使用します。

[EDI トランスレー ションオブジェクト] ブラウザの図

次の図に、[EDI トランスレーション オブジェクト] ブラウザを示します。



(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、[EDI トランスレーション オブジェクト] ブラウザの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
種類	定義済みのトランスレーション オブジェクトの種類が表示されます。 例 エクスポート、インポート、システム インポートなど。
説明	トランスレーション オブジェクトを正確に特定するための説明が表示されます。
使用	現在、トランスレーション オブジェクトがインバウンド パートナー関係またはアウトバウンド パートナー関係に関連付けられているかどうかを示されます。有効な値は、以下のとおりです。
各部	機能
Yes	トランスレーション オブジェクトが使用中であることを示します。
No	トランスレーション オブジェクトが使用されていないことを示します。
SYS*	システム トランスレーション オブジェクトが使用中であることを示します。
SYS	システム トランスレーション オブジェクトが使用されていないことを示します。
メモ	トランスレーション オブジェクトが現在使用中である (インバウンド パートナー関係またはアウトバウンド パートナー関係に関連付けられている) 場合、そのトランスレーション オブジェクトは削除できません。また、システム トランスレーション オブジェクト (SYS* または SYS) に指定されているトランスレーション オブジェクトも削除できません。 システム トランスレーション オブジェクトとは、インポート、エクスポート、データ登録、画面入力、ターンアラウンド、および印刷以外のすべてのトランスレーション オブジェクトです。また、説明に "システム" と記述されているトランスレーション オブジェクトは、すべてシステム トランスレーション オブジェクトです。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能									
表示	選択したトランスレーション オブジェクトが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ トランスレーション オブジェクトの説明 ▶ トランスレーション オブジェクトのタイプ (例 : Export) ▶ 入力と出力エージェンシー (例 : X for ANSI X12) ▶ 入力と出力バージョン (例 : 003030) ▶ 入力と出力トランザクションセット ID (例 : 850) ▶ 入力と出力リリース (TRADACOMS のみ) ▶ トランスレーションオブジェクトのファイル名 (例 : 3030.tpl) 									
印刷	[印刷の選択] ダイアログ ボックスが表示されます、これを使用して、選択したトランスレーション オブジェクトを印刷するのか、または選択したトランスレーション オブジェクトの概要リストを印刷するのかを指定できます。 <p>メモ 書式化されたバージョンはトランスレーション オブジェクトの印刷時に必ず印刷されるので、書式化オプションは使用できません。</p> 次の表に従って、次に行う操作を決めます。									
	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">選択するオプション</th> <th style="width: 50%;">実行する操作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="651 1173 960 1267">選択されたアイテム</td> <td data-bbox="960 1173 1407 1267">選択したトランスレーション オブジェクトが印刷されます。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="651 1267 960 1514">選択された項目の概要リスト</td> <td data-bbox="960 1267 1407 1514"> [印刷] ダイアログ ボックスが表示されます。 <p>メモ [OK] をクリックすると、すべてのトランスレーション オブジェクトについての概要リストが印刷されます。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="651 1514 960 1787">なし</td> <td data-bbox="960 1514 1407 1787"> [印刷] ダイアログ ボックスが表示されます。 <p>メモ [OK] をクリックすると、すべてのトランスレーション オブジェクトについての概要リストが印刷されます。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	選択するオプション	実行する操作	選択されたアイテム	選択したトランスレーション オブジェクトが印刷されます。	選択された項目の概要リスト	[印刷] ダイアログ ボックスが表示されます。 <p>メモ [OK] をクリックすると、すべてのトランスレーション オブジェクトについての概要リストが印刷されます。</p>	なし	[印刷] ダイアログ ボックスが表示されます。 <p>メモ [OK] をクリックすると、すべてのトランスレーション オブジェクトについての概要リストが印刷されます。</p>	実行する操作
	選択するオプション	実行する操作								
	選択されたアイテム	選択したトランスレーション オブジェクトが印刷されます。								
選択された項目の概要リスト	[印刷] ダイアログ ボックスが表示されます。 <p>メモ [OK] をクリックすると、すべてのトランスレーション オブジェクトについての概要リストが印刷されます。</p>									
なし	[印刷] ダイアログ ボックスが表示されます。 <p>メモ [OK] をクリックすると、すべてのトランスレーション オブジェクトについての概要リストが印刷されます。</p>									
選択されたアイテム	選択したトランスレーション オブジェクトが印刷されます。									
選択された項目の概要リスト	[印刷] ダイアログ ボックスが表示されます。 <p>メモ [OK] をクリックすると、すべてのトランスレーション オブジェクトについての概要リストが印刷されます。</p>									
なし	[印刷] ダイアログ ボックスが表示されます。 <p>メモ [OK] をクリックすると、すべてのトランスレーション オブジェクトについての概要リストが印刷されます。</p>									
削除	選択しているトランスレーション オブジェクトを削除します。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>									

(続き) 各部	機能
新規作成	[トランスレーション オブジェクトの登録] ダイアログ ボックス が表示され、これを使用してトランスレーション オブジェクトをシステムに認識させることができます。
リフレッシュ	ブラウザの表示を更新します。
閉じる	[EDI トランスレーション オブジェクト] ブラウザを終了します。
ヘルプ	状況依存オンライン ヘルプが表示されます。

[トランスレーション オブジェクトの登録] ダイアログ ボックス

はじめに

[トランスレーション オブジェクトの登録] ダイアログ ボックスを使用すると、選択したトランスレーション オブジェクト ファイルを Gentran:Server に登録する (トランスレーション オブジェクト をシステムに認識させる) ことができます。

図

次の図に、[トランスレーション オブジェクトの登録] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

次の表に、[トランスレーション オブジェクトの登録] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
場所	ファイルが格納されているドライブとフォルダが表示されます。
ファイル名	登録するファイルの名前が表示されます。
ファイルの種類	アクセスするファイルの種類を示します。 メモ トランスレーション オブジェクトのファイル拡張子は .TPL です。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
開く	選択されているファイルを選択し、[開く] ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	ファイルを選択せずに、[開く] ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	状況依存ヘルプが表示されます。

新しいトランスレーション オブジェクトの登録方法

はじめに

[トランスレーション オブジェクトの登録] ダイアログ ボックスを使用すると、トランスレーション オブジェクト ファイルを **Gentran:Server** に登録し、そのトランスレーション オブジェクトがシステムで認識されるようにすることができます。

手順

トランスレーション オブジェクトを登録するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[表示] メニューから、[トランスレーション オブジェクト] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [EDI トランスレーション オブジェクト] ブラウザが表示されます。</p>
2	<p>[新規作成] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [トランスレーション オブジェクトの登録] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
3	<p>システムに登録するトランスレーション オブジェクト ファイルをリスト ボックスから選択するか、[ファイル名] ボックスにファイル名を入力します。</p> <p>メモ 複数のトランスレーション オブジェクトをまとめて反転表示にするには、1 番目のトランスレーション オブジェクトをクリックし、Shift キーを押しながら一番最後のトランスレーション オブジェクトをクリックします。隣接していない複数のトランスレーション オブジェクトを反転表示にするには、Ctrl キーを押しながら各トランスレーション オブジェクトをクリックします。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
4	<p>[開く] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 トランスレーション オブジェクト ファイルが登録され、[トランスレーション オブジェクトの登録] ダイアログ ボックスが終了します。</p> <p>メモ 選択したファイルが無効な場合は、警告メッセージが表示されます。インストールできるのは、有効な Gentran:Server トランスレーション オブジェクトのみです。</p> <p>トランスレーション オブジェクトが重複している場合には、既存のトランスレーション オブジェクトを上書きするかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。</p>

トランスレーション オブジェクトの削除方法

はじめに

不要になったトランスレーション オブジェクトはシステムから削除できます。ただし、インバウンドまたはアウトバウンドのパートナー関係に関連付けられている場合 ([EDI トランスレーション オブジェクト] ブラウザの [使用] 列が [Yes] の場合) は削除できません。

また、"システム トランスレーション オブジェクト" ("SYS*" または "SYS") として指定されているトランスレーション オブジェクトは、削除できないようになっています。

手順

トランスレーション オブジェクトを削除するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[表示] メニューから、[トランスレーション オブジェクト] を選択します。 システムからの応答 [EDI トランスレーション オブジェクト] ブラウザが表示されます。
2	削除するトランスレーション オブジェクトを選択します。
3	[削除] をクリックします。 システムからの応答 削除後に、削除を確認するメッセージが表示されます。
4	これらのトランスレーション オブジェクトを削除するかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 削除する場合は、[はい] をクリックします。 ▶ 削除しない場合は、[いいえ] をクリックします。

パートナーの使い方

目次

- 概要..... 3**
 - ▶ はじめに 3
- パートナー プロファイルの使い方..... 4**
 - ▶ 概要 4
 - ▶ [パートナー エディタ] ダイアログ ボックス 7
 - ▶ [パートナーの定義 (新規作成 / 編集)] ダイアログ ボックス 9
 - ▶ [インバウンド関係] ダイアログ ボックス 11
 - ▶ [インバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックス 16
 - ▶ [インバウンド グループ選択] ダイアログ ボックス 25
 - ▶ [インバウンド グループ登録] ダイアログ ボックス 27
 - ▶ [インバウンド インターチェンジ選択] ダイアログ ボックス 31
 - ▶ [インバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックス 33
 - ▶ [アウトバウンド関係] ダイアログ ボックス 37
 - ▶ [アウトバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックス 41
 - ▶ [アウトバウンド グループ選択] ダイアログ ボックス 46
 - ▶ [アウトバウンド グループ登録] ダイアログ ボックス 48
 - ▶ [アウトバウンド インターチェンジ選択] ダイアログ ボックス 53
 - ▶ [アウトバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックス 55
 - ▶ 新しいパートナーの定義の作成方法 60
 - ▶ 新しいインバウンド関係の作成方法 62
 - ▶ 新しいアウトバウンド関係の作成方法 71
 - ▶ パートナーの定義の編集と削除 82
- パートナー プロファイルのルーティング 84**
 - ▶ [インポート ファイルの選択] ダイアログ ボックス 84
 - ▶ [エクスポート ファイルの組み込み] ダイアログ ボックス 86
 - ▶ [パートナーのコピー] ダイアログ ボックス 88
 - ▶ パートナー プロファイルのインポート方法 93
 - ▶ パートナー プロファイルのエクスポート方法 96
 - ▶ パートナー プロファイルのインポート方法 97

パートナー テーブルの使い方	100
▶ 概要	100
▶ [パートナーテーブル]ダイアログ ボックス	101
▶ [新しいテーブル]ダイアログ ボックス	103
▶ [クロスリファレンス選択]ダイアログ ボックス	105
▶ [クロスリファレンスの登録]ダイアログ ボックス	106
▶ [照合の選択]ダイアログ ボックス	107
▶ [照合の登録]ダイアログ ボックス	108
▶ [テーブル エクスポート ファイルの組み込み] ダイアログ ボックス	109
▶ [テーブル インポート ファイルの選択]ダイアログ ボックス	111
▶ テーブルの作成方法	113
▶ テーブルの編集方法	115
▶ テーブル内のエントリの削除方法	116
▶ テーブルの削除方法	117
▶ パートナー テーブルのエクスポート方法	118
▶ テーブルのインポート方法	121
パートナー所在地の使い方	123
▶ 概要	123
▶ [所在地の選択]ダイアログ ボックス	124
▶ [所在地の登録]ダイアログ ボックス	125
▶ パートナー所在地の作成方法	127
▶ パートナー所在地の編集方法	128
▶ パートナー所在地の削除方法	129

概要

はじめに

本章の内容

この章では、Gentran:Server の [パートナー エディタ] の使い方について説明します。主な内容は、次のとおりです。

- ▶ パートナー プロファイルの使い方
- ▶ パートナー プロファイルのルーティング
- ▶ パートナー テーブルの使い方
- ▶ パートナー所在地の使い方

パートナー エディタ

[パートナー エディタ] では、自社および全トレーディング パートナーについて、すべてのパートナー関係情報の定義、編集、削除を行うことができます。パートナー関係を使用すると、トレーディング パートナーとの間でデータを送受信できます。

[パートナー エディタ] では内部システム パートナー (内部システム ユーザー) が使用できるため、システムに対して自社を定義付けできます。

Gentran:Server for RosettaNet

RosettaNet[®] で使用するパートナーの定義については、『Gentran:Server for RosettaNet UserGentran's Guide』の「Using Partner Editor with Gentran:Server for RosettaNet」を参照してください。

パートナー プロファイルの使い方

概要

はじめに

パートナー プロファイルを設定する方法としては、インポート、コピー、作成という3通りがあります。どの方法で行うかは、元になるパートナー プロファイルがあるかどうかによって決まります。次の表に従って、どの方法で行うかを決めます。

パートナー プロファイルの作成方法	使用する場合
既存のプロファイルをインポートする	この方法は、パートナー プロファイルを Sterling Commerce から受信する場合や、パートナーの詳細をインポートできるプロファイルが既に存在する場合に使用します。別の Gentran:Server システムからエクスポートしたプロファイルも使用できます。 参照 詳細については、「 パートナー プロファイルのインポート方法 」を参照してください。
既存のプロファイルをコピーする	この方法は、既存のプロファイルをコピーして、一意のパートナーの定義とキーとなるエンベロープ情報を入力する場合に使用します。 参照 詳細については、「 パートナー プロファイルのインポート方法 」を参照してください。
新しいプロファイルを作成する	この方法は、インポートまたはコピーできるプロファイルがない場合に使用します。 参照 新しいパートナー プロファイルの作成方法については、「 パートナー プロファイルを定義する手順 」を参照してください。

(次のページへ続く)

パートナーの定義

パートナー プロファイルを作成するには、まず " パートナーの定義 " を行います。パートナーの定義には、パートナーに関する基本情報が含まれます。これらの情報は、パートナー プロファイルのほかの部分より前に定義する必要があります。

作業

データを交換する相手となる各パートナーについて、パートナーの定義を作成する必要があります。

**パートナー
プロファイル**

パートナー プロファイルを完成させるには、インバウンド関係またはアウトバウンド関係 (あるいはその両方) を定義する必要があります。

- ▶ このトレーディング パートナーから情報を受信して処理する場合は、適切な " インバウンド関係 " を定義する必要があります。
- ▶ このトレーディング パートナーに情報を送信する場合は、" アウトバウンド関係 " を定義する必要があります。

作業

データを交換する相手となる各パートナーについて、パートナー プロファイルを作成する必要があります。

(次のページへ続く)

パートナー プロフィールを 定義する手順

パートナー プロファイルを作成するには、次の表に従います。

段階	説明
1	<p>パートナーの定義を作成します。</p> <p>参照 「新しいパートナーの定義の作成方法」を参照してください。</p>
2	<p>必要に応じて、インバウンド関係を作成します。</p> <p>参照 「新しいインバウンド関係の作成方法」を参照してください。</p>
3	<p>必要に応じて、アウトバウンド関係を作成します。</p> <p>参照 「新しいアウトバウンド関係の作成方法」を参照してください。</p>
4	<p>入力したデータやインバウンドで受信したデータを補足したり変換するために、パートナー関係にクロスリファレンス テーブルまたは lookup テーブルを使用する必要があるかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 使用する必要がある場合は、「テーブルの作成方法」を参照してください。 ▶ 使用する必要がない場合は、ステップ 5 に進みます。
5	<p>パートナーの住所および連絡先に関連する情報の格納に、所在地を使用する必要があるかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 使用する必要がある場合は、「パートナー所在地の作成方法」を参照してください。 ▶ 使用する必要がない場合は、パートナー プロファイルの定義は以上で完了です。

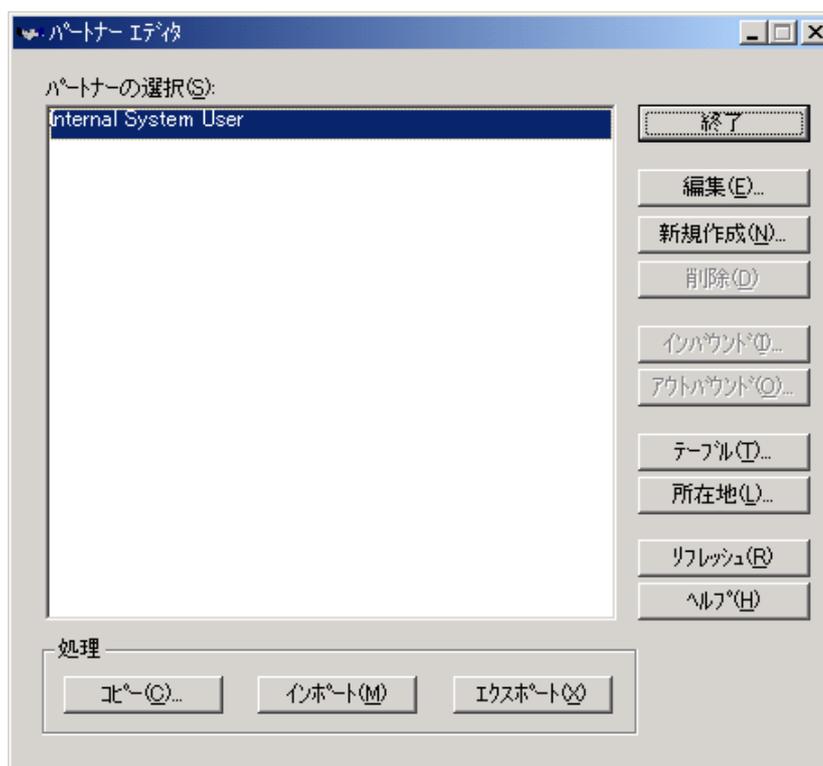
[パートナー エディタ]ダイアログ ボックス

はじめに

[パートナー エディタ]を使用すると、自社およびパートナーの全パートナー情報を、定義、編集、削除することができます。

図

次の図に、[パートナー エディタ]ダイアログ ボックスを示します。



(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、[パートナー エディタ] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
パートナーの選択	パートナー プロファイルが一覧表示されます。
コピー	[パートナーのコピー] ダイアログ ボックス が表示され、パートナー プロファイルがコピーできます。
インポート	[インポート ファイルの選択] ダイアログ ボックス が表示され、パートナー プロファイルがインポートできます。
エクスポート	[エクスポート ファイルの組み込み] ダイアログ ボックス が表示され、パートナー プロファイルがエクスポートできます。
終了	[パートナー エディタ] ダイアログ ボックスを閉じます。
編集	選択したパートナーの [パートナーの定義 (新規作成 / 編集)] ダイアログ ボックス が表示されます。
新規作成	[パートナーの定義 (新規作成 / 編集)] ダイアログ ボックス が表示され、新しいパートナーの定義を作成できます。
削除	選択したパートナー プロファイルがシステムから削除されます。
インバウンド	選択したパートナーの [インバウンド関係] ダイアログ ボックス が表示されます。
アウトバウンド	選択したパートナーの [アウトバウンド関係] ダイアログ ボックス が表示されます。
テーブル	選択したパートナーの [パートナー テーブル] ダイアログ ボックス が表示されます。
所在地	選択したパートナーの [所在地の選択] ダイアログ ボックス が表示されます。
リフレッシュ	ダイアログ ボックスの表示を更新します。
ヘルプ	状況依存ヘルプが表示されます。

[パートナーの定義 (新規作成 / 編集)] ダイアログ ボックス

はじめに

[パートナーの定義] ダイアログ ボックスを使用すると、新しいパートナーの定義を作成したり、作成済みのパートナーの定義を編集できます。

図

次の図に、[パートナーの定義 - 新規作成] ダイアログ ボックスを示します。

各部と機能

次の表に、[パートナーの定義] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
プロファイル ID	選択したパートナーの一意の識別子を指定します。
名前	パートナーの一意の名前を指定します。 メモ この名前がパートナー選択リストに表示されるので、なるべくそのまま説明になるような名前にします。
EDI コード	このパートナーの EDI 識別子を指定します。この値は、インバウンド処理の際に正しいトレーディング パートナーの定義を選択するために使用されます。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
アプリケーション コード	このパートナーの識別に使用するアプリケーション コードを指定します。この値は、アウトバウンド インポート 処理の際に正しいトレーディング パートナーの定義を選択するために使用されます。
既定のメール ボックス	非 RosettaNet EDI 関係についてこのパートナーを識別するために使用する既定のメールボックスを指定します。 参照 詳細については、『コミュニケーションズ ユーザー ガイド』を参照してください。
既定の E メール アドレス	非 RosettaNet EDI 関係についてこのパートナーを識別するために使用する既定の E メール アドレスを指定します。 参照 詳細については、『コミュニケーションズ ユーザー ガイド』を参照してください。
保存	変更した情報が保存されます。
終了	[パートナーの定義] ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。
メールボックスの 新規作成	[メールボックスの新規作成ウィザード]が表示され、新しいメールボックスを作成できます。 参照 詳細については、『コミュニケーションズ ユーザー ガイド』を参照してください。
メールボックスの 編集	[メールボックス プロパティ] ダイアログ ボックスが表示され、メールボックスを編集できます。 参照 詳細については、『コミュニケーションズ ユーザー ガイド』を参照してください。

[インバウンド関係]ダイアログ ボックス

はじめに

インバウンド関係では、パートナーから EDI ドキュメントを受信するためにシステムが必要とするパラメータを定義します。[インバウンド関係]ダイアログボックスによって、関係の設定に必要なすべてのダイアログ ボックスが制御されます。

受信するドキュメントは、正確に指定する必要があります。また、ターンアラウンドドキュメント、エクスポート ルール、あるいは印刷条件を定義するために使用するトランスレーション オブジェクトも定義します。

図

次の図に、"詳細" オプションを含めた [インバウンド関係]ダイアログ ボックスを示します。

(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、[インバウンド関係] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
関係の説明	既存のインバウンド関係を指定します。
スタンダード	<p>この関係で使用する EDI スタンダードを指定します。</p> <p>メモ 既存のトランスレーション オブジェクトが用意されているスタンダードのみが表示されます。このボックスは既存の関係に対して変更することはできません。このボックスの選択は必須です。</p> <p>有効な値</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [A] — TRADACOMS ▶ [C] — CII ▶ [D] — NCPDP ▶ [E] — EDIFACT ▶ [O] — ODETTE ▶ [P] — OTHER ▶ [R] — ROSETTANET ▶ [T] — TDCC ▶ [U] — UCS ▶ [V] — VDA
バージョン	<p>この関係で使用する EDI スタンダードのバージョンを指定します。</p> <p>メモ 既存のトランスレーション オブジェクトが用意されている選択されたスタンダードのバージョンのみが表示されます。このボックスを既存の関係に対して変更した場合、次に定義されているすべての情報がクリアされるので、再度選択しなければなりません。このボックスの選択は必須です。</p>
トランザクションセット	<p>この関係で使用するトランザクション セットを指定します。</p> <p>メモ 選択されたバージョンのトランザクション セットのみが表示されます (既存のトランスレーション オブジェクトがある場合)。このボックスを既存の関係に対して変更した場合、その下のところで定義されているすべての情報がクリアされるので、再度選択しなければなりません。このボックスの選択は必須です。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
リリース	<p>この関係で使用するリリース番号を指定します。</p> <p>メモ 既存のトランスレーション オブジェクトが用意されている、選択されたトランザクション セットのリリースのみが表示されます。このボックスは現在、TRADACOMS スタンダードで定義されているメッセージにのみ使用されています。このボックスの選択は、全 TRADACOMS メッセージに対して必須です。</p>
トランザクションは受信確認です	このパートナー関係で定義されているトランザクションが受信確認であることを確認してください。
グループ	<u>[インバウンド グループ 選択] ダイアログ ボックス</u> が表示されます。
インターチェンジ	<u>[インバウンド インターチェンジ 選択] ダイアログ ボックス</u> が表示されます。
保存	変更した情報が保存されます。
終了	[インバウンド 関係] ダイアログ ボックスを閉じます。
新規作成	[新しいインバウンド 関係] ダイアログ ボックスを開いて、新規の関係を作成できます。
削除	指定したインバウンド 関係がシステムから削除されます。
トランスレーション	<u>[インバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックス</u> が表示されます。
詳細	詳細オプションの表示 / 非表示を切り替えます。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
順番検査	<p>システムで順番検査を使用するかどうか、およびその順番検査を連番で行うか日付順に行うかを指定します。重複 Control Number の検査を行うよう 指定することもできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [なし] 順番検査は使用されません。 ▶ [重複] Control Number が重複していないかチェックします。 ▶ [連番] Control Number は最後の番号よりも1つ大きくなければなりません。 ▶ [日付順] Control Number は最後の番号よりも大きくなければなりません。 <p>メモ 重複した Control Number が検出されたり、順番が間違っている連番または日付順 Control Number が検出された場合、ドキュメントは [? インドキュメント] に格納されます。</p>
最後に使用した Control Number	<p>次のトランザクションセット Control Number またはメッセージ参照の順番検査に使用する値を指定します。この値は、受信した最後のトランザクション セットまたはメッセージの順序番号で置き換えられます。このボックスは最初は 0 に設定されます。</p> <p>メモ このボックスは、[順番検査] が [なし] の場合には使用できません。</p>
ドキュメントの重複	<p>ドキュメント名の重複をチェックするかどうかを指定します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 重複したドキュメント名が検出されると、それらのドキュメントは [? インドキュメント] に格納されます。 ▶ 特定の関係の重複ドキュメント検査がアクティブな場合、この関係で使用されているトランスレーションオブジェクトでドキュメント名を、スタンダードルールまたは拡張ルールを使用して更新する必要があります。 <p>参照 スタンダードルールと拡張ルールの使用に関する詳細は、『アプリケーション インテグレーション ユーザーガイド』を参照してください。</p>
エラー チェックをしない	<p>この関係について、ドキュメントのエラー チェックを行うかどうかを指定します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
受信確認の生成	<p>この関係で定義されているトランザクション セット (メッセージ) を受信したときに、このトレーディング パートナーへのファンクショナル受信確認を生成します。このフィールドの既定値は [いいえ] (受信確認を生成しない) です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [いいえ] 受信確認を生成しません。 ▶ [はい - エラー詳細なし] エラー詳細がない受信確認を生成します。 ▶ [はい - エラー詳細あり] エラー詳細がある受信確認を生成します。 <p>メモ このボックス全体は、この関係の中のドキュメント (トランザクション セット) が受信確認の場合には非アクティブ (グレー表示) になっています。</p>
テスト インジケータ	<p>このトレーディング パートナーから受信するドキュメントをテストとして扱うか本番として扱うかを指定します。</p>
受信確認処理	<p>インバウンド ブレイク セッション (即時)、またはスケジュール間隔 (延期) の間に行われる受信確認の整合の種類を指定してください。既定値は [即時処理] です。</p>

[インバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックス

はじめに

[インバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックスは、この関係により定義されているデータを処理するために使用するトランスレーション オブジェクトを指定する場合に使用します。

次の表に、インバウンド トランスレーション レベルを一番下のレベルから順にまとめます。

各部	機能
ドキュメント	指定されているトランスレーション オブジェクトと突き合わせてドキュメントの妥当性を検査し、ドキュメントがスタンダードに適合していることを確認して、EDI から印刷またはアプリケーション書式に変換します。
トランザクション	単一のドキュメントを囲んでいる EDI 固有のエンベロープを削除します。
グループ	関連するトランザクションのセットを囲んでいる EDI 固有のエンベロープを削除します (トランザクションは同じ種類である必要はありません)。
インターチェンジ	同じトレーディング パートナーについて定義されているグループを囲む EDI 固有のエンベロープを削除します。

(次のページへ続く)

図

次の図に、" 詳細 " オプションを含めた [インバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックスを示します。

(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、[インバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
ターンアラウンド / 自動	<p>すべてのターンアラウンド ドキュメント オプションが表示されます。ドキュメントを受け取ったときに作成されるターンアラウンド ドキュメントは、受け取ったドキュメントからのエレメントが可能な限り多く含まれる自然応答ドキュメントです。</p> <p>メモ 定義されているターンアラウンド処理を自動にしたい場合には、[自動] チェック ボックスをクリックします。[自動] ボックスが選択されていない場合には、受け取ったドキュメントは処理のため選択されるまで [インドキュメント] の中に残されます。</p>
エクスポート ファイル / 自動	<p>関係により定義されているスタンダード、バージョン、トランザクション セット、およびリリースに関する登録済みのすべてのエクスポート トランスレーション オブジェクトが表示されます。これにより、EDI ドキュメントが届いたときに、そのドキュメントを出力ファイルにエクスポートするように指定できます。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ドキュメントを受け取ったときにエクスポート ファイルを自動的に作成したい場合に、[自動] チェック ボックスをクリックします。[自動] ボックスが選択されていない場合には、受け取ったドキュメントは処理のため選択されるまで [インドキュメント] の中に残されます。 ▶ この関係に対して "エクスポート ファイル名" を定義した場合、それぞれのドキュメントは個々に一意的なファイルへエクスポートされます。ファイル名に書式制御文字を使用した場合は、エクスポートされた各ドキュメントのドキュメント キーが変更され、プロセス ID は同じインターチェンジからエクスポートされたすべてのドキュメントで同じとなり、一意の ID は変更されます。したがって、"ドキュメント キー" および "一意の ID" の特殊文字 (下記参照) を使用し、固有のファイル名を派生させることができます。 <p>参照 これらの値の詳細については、「エクスポート ファイル名」を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
印刷	<p>関係により定義されているスタンダード、バージョン、トランザクション セット、およびリリースに対するシステム上の印刷 トランスレーション オブジェクトすべてが表示されます。選択した トランスレーション オブジェクトを使って、このパートナーから受信したドキュメントを印刷します。</p>
エクスポート ファイル名	<p>エクスポート 操作を実行した結果として作成または追加されるファイルの名前を指定します。このファイル名には、通常の文字と書式制御文字を混在させることができます。書式制御文字は、トランスレータによってそれらの文字が表すランタイム値に置き換えられます。</p> <p>サポートしている書式制御文字</p> <p>%y (2 桁表記の年) %Y (4 桁表記の年) %m (略称表記の月) %M (10 進数表記の月) %d (略称表記の曜日) %D (10 進数表記の日付) %H (24 時間形式の時間) %N (分) %S (秒) %K (ドキュメント キー) %P (プロセス識別子) %U (現在時間、エクスポート ファイル名、プロセス識別子、rand() 関数を使用することによって派生させた一意の数値)</p> <p>メモ</p> <p>ランタイム ファイル名はエクスポート 1 回ごとに生成されます。</p> <p>例</p> <p>書式制御文字を使用したランタイム ファイル名の一例です。</p> <p>d:¥GENSRVNT¥exports¥dockey%Kprocid%Puniqueid%U.dat</p>
保存	<p>変更した情報が保存されます。</p>
終了	<p>[インバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックスを閉じます。</p>
詳細	<p>詳細オプションの表示 / 非表示を切り替えます。</p>
ヘルプ	<p>状況依存ヘルプを表示します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>



(続き) 各部	機能
メールボックスへ エクスポート	<p>このボックスをオンにすると、" メールボックスへエクスポート " 機能が呼び出され、インバウンド トランスレーションの出力をメールボックス サーバー マネージャに戻すよう配信できるようになります。その結果、メールボックス サーバー マネージャは、最終的な場所までデータを配信するために最終メッセージブローカーとしての役割を果たすことができるようになります。</p> <p>メモ</p> <p>" エクスポート ファイル名 " を指定した場合、その名前の有効性が維持され、" 添付ファイル名 " となります。そのファイル名の書式制御文字の有効性も維持されるため、ドキュメント キーが使用されている場合には複数の添付ファイルが作成されることがあります。たとえば、 「d:\gensrvnt\exports\dockey%Kprocid%Puniqueid%U.dat」 という名前が使用されている場合、処理されたドキュメントごとにドキュメント キーが一意的な名前を作成するため、各ドキュメントごとに新しい添付ファイルが作成されます。</p> <p>メールボックスへのエクスポートを設定するには、[インバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックスの次のコンポーネントを完成させる必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [エクスポート ファイル名] ボックスに、ファイル名を入力します。 ▶ [メールボックスへエクスポート] チェック ボックスをオンにします。 ▶ [受信メールボックス] リストからメールボックスを選択します ([受信 E メール アドレス] はオプションです)。 ▶ [コンテンツ タイプ / サブ タイプ] ボックスで、コンテンツ タイプを入力します (コンテンツ サブタイプはオプションです)。
パートナー既定値 のメールボックス と E メール アド レスを使用	<p>このチェックボックスをオンにすると、インバウンド トランスレーションの出力が、このパートナーに既定のメールボックスおよび E メール アドレスにエクスポートされます。</p>
受信メール ボックス	<p>インバウンド トランスレーションおよびアウトバウンド トランスレーションの出力の配送先メールボックスを選択するためのメールボックスのリストが表示されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
メールボックスの 新規作成	<p>[メールボックスの新規作成ウィザード]が表示され、新しいメールボックスを作成できます。</p> <p>参照 詳細については、『コミュニケーションズ ユーザー ガイド』を参照してください。</p>
受信 E メール アドレス	<p>インバウンド トランスレーションの出力の配送先 E メールアドレスが表示されます。</p>
メールボックスの 編集	<p>[Create New Mailbox] ウィザードが表示され、メールボックスを編集できます。</p> <p>参照 詳細については、『コミュニケーションズ ユーザー ガイド』を参照してください。</p>
コンテンツタイプ/ サブタイプ	<p>インバウンド トランスレーションの出力を含むメッセージのコンテンツタイプ/サブタイプが表示されます。</p> <p>参照 詳細については、『コミュニケーションズ ユーザー ガイド』を参照してください。</p>
アプリケーション ID	<p>ドキュメントの宛先を示すアプリケーション識別子を定義します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
アプリケーション エイリアス バリュー	<p>アプリケーション インポート機能の実行中に別の関係定義の代わりに使用する、この関係の定義に対する基準を定義します。</p> <p>例 このアプリケーションには、請求書またはクレジット メモを生成できるデータが含まれています。請求書に対しては一方の関係定義を使い、クレジット メモに対しては他方の関係定義を使用することにします。</p> <p>これが請求書なのか、クレジット メモなのかを定義するボックスが、アプリケーションの中にあります。クレジット メモが作成される場合にはこのボックスに "CREDIT" という文字列が入り、請求書が作成される場合には "INVOICE" という文字列が入ります。クレジット メモを定義する関係のアプリケーション エイリアスバリューに "CREDIT" という文字列を入力し、請求書の関係定義に "INVOICE" という文字列を入力します。</p> <p>メモ このボックスは、アプリケーション エイリアスバリューを使用するように定義されているトランスレーション オブジェクトを受信する場合にのみ使用します。</p>
インポート	<p>関係と関連付けられたほかのトランスレーション オブジェクトが格納されます。これにより、トランザクションおよびドキュメントのトランスレーション レベルでシステムの動作を変更することができます。必要に応じてパートナー固有のトランスレーション オブジェクトを使用したり、必要数の機能を実行することが可能となります。</p> <p>メモ この関係について特定のインポート トランスレーション オブジェクトを既に作成しており、このパートナー関係に対するシステムの動作を変更したい場合に、[インポート] リストからトランスレーション オブジェクトを選択します。インポート トランスレーション オブジェクトはインバウンド定義に適さない場合があります。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
画面入力	<p>関係と関連付けられたほかのトランスレーション オブジェクトが格納されます。これにより、トランザクションおよびドキュメントのトランスレーション レベルでシステムの動作を変更することができます。必要に応じてパートナー固有のトランスレーション オブジェクトを使用したり、必要数の機能を実行することが可能となります。</p> <p>メモ この関係について特定のデータ登録トランスレーション オブジェクトを既に作成しており、このパートナー関係に対するシステムの動作を変更したい場合 (たとえば、インバウンド データの書式付き表示を変更したい場合) には、[画面入力] リスト ボックスからトランスレーション オブジェクトを選択します。</p>
トランザクション	<p>関係と関連付けられたほかのトランスレーション オブジェクトが格納されます。これにより、トランザクションおよびドキュメントのトランスレーション レベルでシステムの動作を変更することができます。必要に応じてパートナー固有のトランスレーション オブジェクトを使用したり、必要数の機能を実行することが可能となります。</p> <p>メモ この関係について特定のトランザクション ブレーク トランスレーション オブジェクトを既に作成しており、このパートナー関係に対するシステムの動作を変更したい場合に、[トランザクション] リストからトランスレーション オブジェクトを選択します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
受信確認	<p>関係と関連付けられたほかのトランスレーション オブジェクトが格納されます。これにより、トランザクションおよびドキュメントのトランスレーション レベルでシステムの動作を変更することができます。必要に応じてパートナー固有のトランスレーション オブジェクトを使用したり、必要数の機能を実行することが可能となります。</p> <p>メモ</p> <p>この関係について特定のトランスレーション オブジェクトを既に作成しており、このパートナー関係に対するシステムの動作を変更したい場合に、[受信確認] リストからトランスレーション オブジェクトを選択します。</p> <p>システムは、受信確認の整合性を取るときに、その受信確認を内部ファイルにマップしてから処理を行います。受信確認の処理方法を変更する必要がある場合には、[受信確認] リストから、さらにトランスレーション オブジェクトを選択しなければなりません。</p> <p>トランザクション セットが受信確認であり、受信確認追加トランスレーション オブジェクトを選択している場合、システムは受信確認の整合性を取るためにエクスポートトランスレーション オブジェクトの代わりに追加トランスレーション オブジェクトを使用します。</p>

[インバウンド グループ選択]ダイアログ ボックス

はじめに

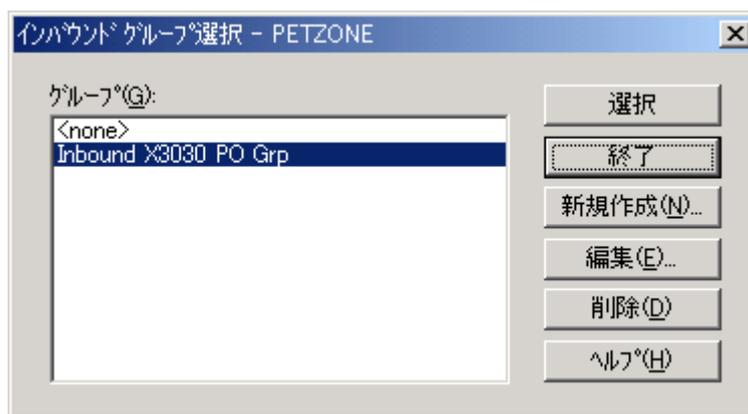
[インバウンド グループ選択]ダイアログ ボックスを使って、この関係と関連付けるべき既存のファンクショナルグループの定義を選択します。また、新しいファンクショナルグループの定義や、既存の定義の修正および削除にも、このダイアログ ボックスを使用します。使用できるグループは、[インバウンド 関係]ダイアログ ボックスで選択したバージョンによって決まります。

メモ

ファンクショナルグループは、ANSI X12、TDCC、およびUCSスタンダードでは必須、EDIFACTとODETTEではオプション、そしてTRADACOMSについては指定されていません。

図

次の図に、[インバウンド グループ選択]ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

次の表に、[インバウンド グループ選択]ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
グループ	このトレーディング パートナーについて設定されているすべてのファンクショナルグループ定義が表示されます。
選択	表示されているファンクショナルグループでこの関係ともに使用するものを選択します。 メモ 使用しているスタンダードにグループが不要であり、使わない場合は、<none> を選択します。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
終了	[インバウンド グループ選択] ダイアログ ボックスを閉じます。
新規作成	[インバウンド グループ登録] ダイアログ ボックス が表示され、新しいグループを作成できます。
編集	[インバウンド グループ登録] ダイアログ ボックス が表示され、選択したグループを編集できます。
削除	選択したグループがシステムから削除されます。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。

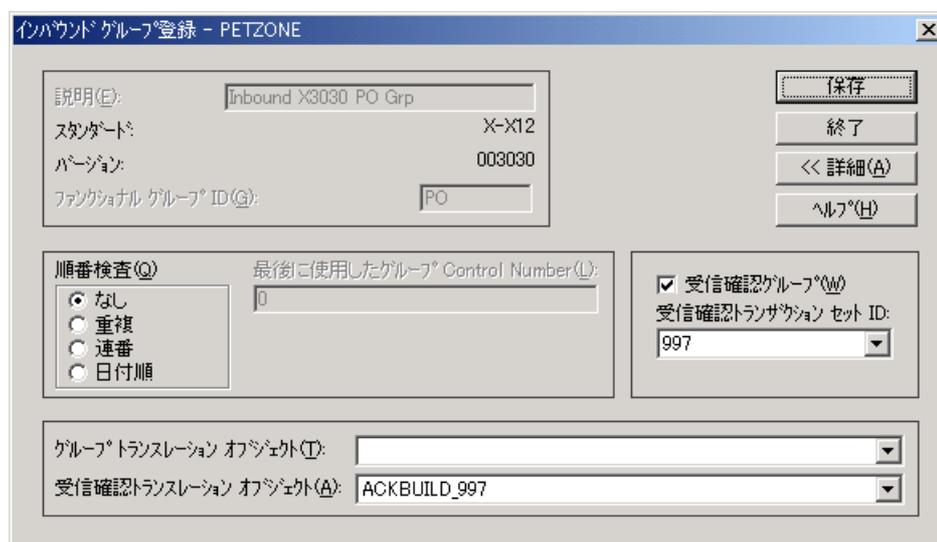
[インバウンド グループ登録] ダイアログ ボックス

はじめに

[インバウンド グループ登録] ダイアログ ボックスは、ファンクショナル グループの定義を指定するために使用します。

図

次の図に、"詳細" オプションを含めた [インバウンド グループ登録] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

次の表に、[インバウンド グループ登録] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
説明	ファンクショナル グループ説明の名前が入ります。
スタンダード	この関係定義に使用されている EDI スタンダードが表示されます。
バージョン	この関係に使用されている EDI スタンダードのバージョンが表示されます。

(次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
ファンクショナル グループ ID	<p>指定されているファンクショナルグループの識別コードが表示されます。これらの識別ボックスは、ドキュメントのようにそれぞれの適切なスタンダードのグループごとに定義されています。スタンダードでは、それぞれのドキュメントタイプで使用すべきファンクショナルグループIDを定義しています。このボックスは必須です。</p> <p>例</p> <p>IN 810 X12 請求書 PO 850 X12 発注書 IG 830 UCS 請求書 OG 875 UCS P. O. INVOIC EDIFACT INVOIC ORDERS EDIFACT ORDERS INVOIC Tradacoms INVOIC ORDERS Tradacoms ORDERS</p> <p>このエレメントは次の場所にあります。</p> <p>ANSI X12: GS01 EDIFACT: UNG01 TRADACOMS: BAT</p>
保存	変更した情報が保存されます。
終了	[インバウンド グループ登録] ダイアログ ボックスを閉じます。
詳細	詳細オプションの表示 / 非表示を切り替えます。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
<p>順番検査</p>	<p>インバウンド 順番検査を使用するかどうか、およびその順番検査を連番で行うか日付順に行うかを指定します。重複 Control Number の検査を行うよう 指定することもできます。</p> <p>[なし] 順番検査は使用されません。</p> <p>[重複] Control Number が重複していないかチェックします。</p> <p>[連番] Control Number は最後の番号よりも 1 つ大きくなければなりません。</p> <p>[日付順] Control Number は最後の番号よりも大きくなければなりません。</p> <p>メモ 重複した Control Number が検出されたり、順番が間違っている連番または日付順 Control Number が検出された場合、ドキュメントは [? インドキュメント] に格納されます。</p>
<p>最後に使用したグループ Control Number</p>	<p>グループ Control Number の順番検査を行うために使用する値を指定します。この番号は、システムが受け取ったグループ Control Number で置き換えられます。このボックスは最初は 0 に設定されます。</p>
<p>受信確認グループ</p>	<p>この関係で定義されているグループを受信したときに、このトレーディング パートナーヘファンクショナル受信確認が送信されます。このボックスの既定値はオフ (受信確認を想定しない) です。</p> <p>メモ このチェック ボックスは、トランザクションセットが受信確認の場合にはグレー表示 (非アクティブ) になっています。</p>
<p>受信確認 トランザクション セット ID</p>	<p>このグループに対して生成する受信確認が入ります。</p> <p>例 ANSI X12 = 997 ファンクショナル受信確認 UCS/EDIA = 999 受入 / 拒否アドバイス EDIFACT = CNTRL</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
グループ トラン スレーション オブジェクト	<p>トレーディング パートナー グループの動作が通常のシステムの動作と異なる場合に、そのパートナー固有のグループブレイク マップ トランスレーション オブジェクトを選択することができます。パートナー固有のグループ分けを実行させたい場合に、このリストから トランスレーション オブジェクトを選択します。</p> <p>注意 [グループ トランスレーション オブジェクト] および [受信確認 トランスレーション オブジェクト] リスト内の トランスレーション オブジェクトは、特に理由がない限り変更しないようにしてください。</p>
受信確認 トラン スレーション オブジェクト	<p>受信確認ブレイク マップがあれば、ここに入ります。</p> <p>メモ この関係について特定の トランスレーション オブジェクトを既に作成しており、このパートナー グループに対するシステムの動作を変更したい場合に、[受信確認 トランスレーション オブジェクト] リストから トランスレーション オブジェクトを選択します。システムは、受信確認の整合性を取るときに、その受信確認を内部ファイルにマップしてから処理を行います。受信確認の処理方法を変更する必要がある場合には、[受信確認] リストから、さらに トランスレーション オブジェクトを選択しなければなりません。</p> <p>注意 [グループ トランスレーション オブジェクト] および [受信確認 トランスレーション オブジェクト] リスト内の トランスレーション オブジェクトは、特に理由がない限り変更しないようにしてください。</p>

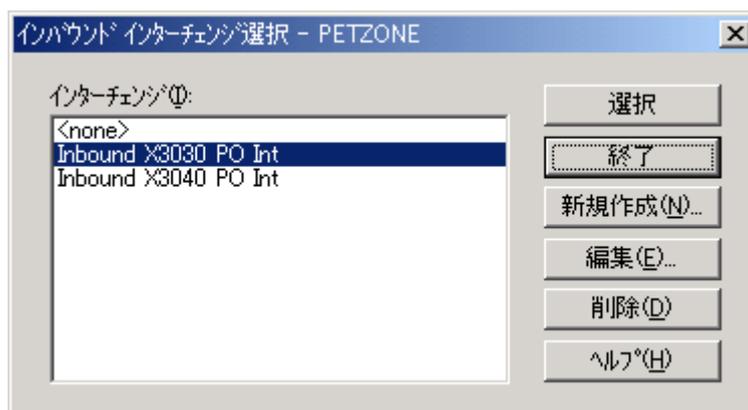
[インバウンド インターチェンジ選択] ダイアログ ボックス

はじめに

[インバウンド インターチェンジ選択]ダイアログ ボックスは、この関係と関連付けるべき既存のインターチェンジの定義を選択するために使用します。また、新しいインターチェンジの定義や、既存の定義の修正および削除にも、このダイアログ ボックスを使用します。使用できるインターチェンジは、[インバウンド関係]ダイアログ ボックスで選択したバージョンによって決まります。インターチェンジは、EDIFACT、ODETTE、TRADACOMS、および UCS では必須、ANSI X12 と TDCC ではオプションです。

図

次の図に、[インバウンド インターチェンジ選択]ダイアログ ボックスを示します。



(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、[インバウンド インターチェンジ選択]ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
インターチェンジ	このトレーディング パートナーについて設定されているすべてのインターチェンジ定義が表示されます。
選択	表示されているインターチェンジでこの関係とともに使用するものを選択します。 メモ 使用しているスタンダードにインターチェンジが不要であり、使わない場合は、<none> を選択します。
終了	[インバウンド インターチェンジ選択]ダイアログ ボックスを閉じます。
新規作成	[インバウンド インターチェンジ登録]ダイアログ ボックス が表示され、新しいインターチェンジを作成できます。
編集	[インバウンド インターチェンジ登録]ダイアログ ボックス が表示され、選択したインターチェンジを編集できます。
削除	選択したインターチェンジがシステムから削除されます。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。

[インバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックス

はじめに

[インバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスを使って、新規インターチェンジの定義を指定します。

メモ

EDIFACT バージョン 4 は、8 ビットの ASCII 以外の文字セットを使用してエンコードされたインターチェンジを作成 (および処理) をサポートするために必要なインフラストラクチャを定義します。インターチェンジのエンコーディングが、Gentran:Server が動作しているオペレーティング システムに既定のコードページに一致する限り、Gentran:Server for Windows はエンコードされたインターチェンジの処理をサポートします。

図

次の図に、" 詳細 " オプションを含めた [インバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスを示します。

(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、[インバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
説明	インターチェンジの説明の名前が入ります。
スタンダード	この関係定義に使用されている EDI スタンダードが表示されます。
バージョン	この関係に使用されている EDI スタンダードのバージョンが表示されます。
インターチェンジ ID	指定したインターチェンジのタイプを定義します。スタンダードでは、それぞれのスタンダードで使用すべきインターチェンジ ID が定義されています。このボックスは必須です。 例 ANSI X12 – ISA ICS UCS – BG EDIFACT – UNB Tradacoms – STX
保存	変更した情報が保存されます。
終了	[インバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスを閉じます。
詳細	詳細オプションの表示 / 非表示を切り替えます。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。
順番検査	システムで順番検査を使用するかどうか、およびその順番検査を連番で行うか日付順に行うかを指定します。重複 Control Number の検査を行うよう指定することもできます。 [なし] 順番検査は使用されません。 [重複] Control Number が重複していないかチェックします。 [連番] Control Number は最後の番号よりも 1 つ大きくなければなりません。 [日付順] Control Number は最後の番号よりも大きくなければなりません。 メモ 重複した Control Number が検出されたり、順番が間違っている連番または日付順 Control Number が検出された場合、ドキュメントは [? インドキュメント] に格納されます。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
最後に使用した Control Number	<p>次のインターチェンジ Control Number の順番検査を行うために使用する値を指定します。この番号は、受け取った最後のインターチェンジの Control Number で置き換えられます。このボックスは最初は 0 に設定されます。</p> <p>メモ このボックスは、[順番検査] が [なし] の場合には使用できません。</p>
受信確認の インターチェンジ	<p>この関係で定義されているインターチェンジセットを受信したときに、このトレーディング パートナーへファンクショナル受信確認が送信されます。このボックスの既定値はオフ (受信確認を想定しない) です。</p>
受信確認 トランザクション セット ID	<p>このインターチェンジに対して生成したい受信確認を指定します。</p> <p>例 ANSI X12 = 997 ファンクショナル受信確認 UCS/EDIA = 999 受入 / 拒否アドバイス EDIFACT = CNTRL</p>
インターチェンジ トランスレーション オブジェクト	<p>トレーディング パートナー インターチェンジの動作が通常のシステムの動作と異なる場合に、そのパートナー固有のインターチェンジブレーク マップ トランスレーション オブジェクトを指定します。パートナー固有のインターチェンジをシステムに実行させたい場合に、このリストからトランスレーション オブジェクトを選択します。</p> <p>注意 [インターチェンジ トランスレーション オブジェクト] および [受信確認 トランスレーション オブジェクト] リスト内のトランスレーション オブジェクトは、特に理由がない限り変更しないようにしてください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
受信確認 トラン スレーション オブジェクト	<p>受信確認ブレイク マップがあれば、ここに入ります。</p> <p>この関係について特定のトランスレーション オブジェクトを既に作成しており、このパートナー インターチェンジに対するシステムの動作を変更したい場合に、[受信確認トランスレーションオブジェクト]リストからトランスレーションオブジェクトを選択します。システムは、受信確認の整合性を取るときに、その受信確認を内部ファイルにマップしてから処理を行います。受信確認の処理方法を変更する必要がある場合には、[受信確認]リストから、さらにトランスレーションオブジェクトを選択しなければなりません。</p> <p>注意 [インターチェンジトランスレーションオブジェクト]および[受信確認トランスレーションオブジェクト]リスト内のトランスレーションオブジェクトは、特に理由がない限り変更しないようにしてください。</p>

[アウトバウンド関係]ダイアログ ボックス

はじめに

アウトバウンド関係により、EDIドキュメントをトレーディングパートナーへ送信するのに必要なパラメータが定義されます。[アウトバウンド関係]ダイアログボックスによって、関係の設定に必要なすべてのダイアログボックスが制御されます。

送信するドキュメントを、正確に指定する必要があります。また、データ登録ダイアログボックス、インポートルール、または印刷条件を定義するために使用するトランスレーションオブジェクトも指定しなければなりません。加えて、トレーディングパートナーとの間で合意した特定のEDIエンベロープ条件を定義するよう求められます。

図

次の図に、"詳細"オプションを含めた[アウトバウンド関係]ダイアログボックスを示します。

(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、[アウトバウンド関係] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
関係の説明	関係の説明を示します。
スタンダード	<p>この関係で使用する EDI スタンダードを指定します。</p> <p>メモ 既存のトランスレーション オブジェクトが用意されているスタンダードのみが表示されます。このボックスは既存の関係に対して変更することはできません。このボックスの選択は必須です。</p> <p>有効な値</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [A] — TRADACOMS ▶ [C] — CII ▶ [D] — NCPDP ▶ [E] — EDIFACT ▶ [O] — ODETTE ▶ [P] — OTHER ▶ [R] — ROSETTANET ▶ [T] — TDCC ▶ [U] — UCS ▶ [V] — VDA
バージョン	<p>この関係で使用する EDI スタンダードのバージョンを指定します。</p> <p>メモ 既存のトランスレーション オブジェクトが用意されている選択されたスタンダードのバージョンのみが表示されます。このボックスを既存の関係に対して変更した場合、その下のところで定義されているすべての情報がクリアされるので、再度選択しなければなりません。このボックスの選択は必須です。</p>
トランザクション セット	<p>この関係で使用するトランザクション セットを指定します。</p> <p>メモ 選択されたバージョンのトランザクション セットのみが表示されます (既存のトランスレーション オブジェクトがある場合)。このボックスを既存の関係に対して変更した場合、その下のところで定義されているすべての情報がクリアされるので、再度選択しなければなりません。このボックスの選択は必須です。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
リリース	<p>この関係で使用するリリース番号を指定します。</p> <p>メモ 既存のトランスレーション オブジェクトが用意されている、選択されたトランザクション セットのリリースのみが表示されます。このボックスは現在、TRADACOMS スタンダードで定義されているメッセージにのみ使用されています。このボックスの選択は、全 TRADACOMS メッセージに対して必須です。</p>
グループ	<p>[アウトバウンド グループ 選択] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
インターチェンジ	<p>[アウトバウンド インターチェンジ 選択] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
保存	<p>変更した情報が保存されます。</p>
終了	<p>[アウトバウンド関係]ダイアログ ボックスを閉じます。</p>
新規作成	<p>[新しいアウトバウンド関係]ダイアログ ボックスを開いて、新規の関係を作成できます。</p>
削除	<p>指定したアウトバウンド関係がシステムから削除されます。</p>
トランスレーション	<p>[アウトバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
エンベロープ	<p>指定したバージョンに応じて、以下のアウト バウンド エンベロープ ダイアログ ボックスのいずれかが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [アウトバウンド UNH エンベロープ] ▶ [アウトバウンド MHD エンベロープ] ▶ [アウトバウンド ST エンベロープ] <p>参照 各エンベロープ ダイアログ ボックスの詳細については、[パートナー エディタ]のオンライン ヘルプを参照してください。</p>
詳細	<p>詳細オプションの表示 / 非表示を切り替えます。</p>
ヘルプ	<p>状況依存ヘルプを表示します。</p>
最後に使用した Control Number	<p>次のトランザクションセット Control Number またはメッセージ参照の生成に使用する値を指定します。生成される番号は常にこのボックスの中の番号よりも1つ上です。このボックスは最初は0に設定されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
受信確認を期待	<p>パートナーがこの関係で定義されているトランザクションセット (メッセージ) を受信した際に、システムでこのトレーディング パートナーからファンクショナル受信確認が受け取られることが想定されます。このボックスの既定値はオフ (受信確認を想定しない) です。</p>
時間切れ	<p>予期しているファンクショナル受信確認を時間切れであるとみなすまでの経過時間数を定義します。このボックスは、[受信確認を期待] ボックスがチェックされている場合にのみ有効です。このフィールドの既定値は "48" なので、2 日経過した受信確認が時間切れとみなされます。このフィールドに値「0」を入力すると、受信確認は即座に時間切れとみなされます。</p> <p>メモ このボックスは、[受領確認を期待] がチェックされていない場合には使用できません。</p>
ドキュメントの重複	<p>ドキュメント名の重複をチェックするかどうかを指定します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [ワークスペース] に手動でドキュメントをインポートした場合、この機能によって重複ドキュメントがチェックされます。重複したドキュメントは、削除しない限りは [ワークスペース] 内に入ったままです。重複したドキュメントを移動またはポストしようとする、警告メッセージが表示されます。[プロセス管理] のインポート機能を使用してドキュメントをインポートした場合、重複ドキュメントは [? アウト ドキュメント] に格納されます。 ▶ 特定の関係の重複ドキュメント検査がアクティブな場合、この関係で使用されているトランスレーションオブジェクトでドキュメント名を、スタンダードルールまたは拡張ルールを使用して更新する必要があります。 <p>参照 スタンダードルールと拡張ルールの使用に関する詳細は、『アプリケーション インテグレーション ユーザーガイド』を参照してください。</p>
テスト インジケータ	<p>この関係定義の状態をテストとするか本番とするかを定義します。既定値は [本番] です。</p>

[アウトバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックス

はじめに

[アウトバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックスは、この関係により定義されているデータを処理するために使用するトランスレーション オブジェクトの指定に使用します。

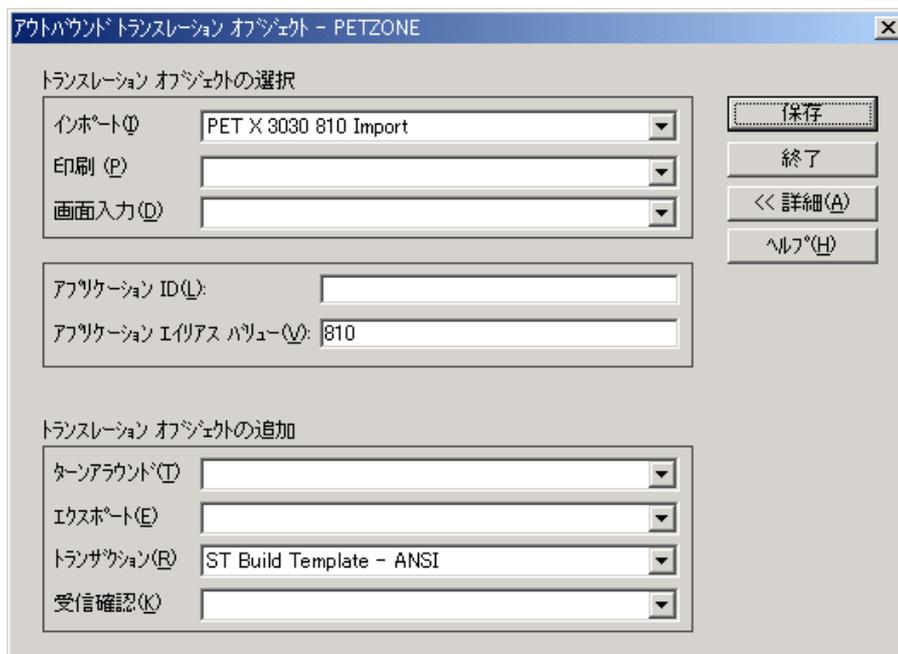
次の表に、アウトバウンド トランスレーション レベルを一番下のレベルから順にまとめます。

各部	機能
ドキュメント	インポート書式またはデータ登録から EDI に変換します。
トランザクション	単一のドキュメントを囲んでいる EDI 固有のエンベロープを作成します。
グループ	関連するトランザクションのセットを囲んでいる EDI 固有のエンベロープを作成します (トランザクションは同じ種類でなくてもかまいません)。
インターチェンジ	同じトレーディング パートナーについて定義されているグループを囲む EDI 固有のエンベロープを作成します。

(次のページへ続く)

図

次の図に、"詳細" オプションを含めた [アウトバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

次の表に、[アウトバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
インポート	関係により定義されているスタンダード、バージョン、トランザクション セット、およびリリースに対するシステムのインポート トランスレーション オブジェクトすべてが表示されます。
印刷	関係により定義されているスタンダード、バージョン、トランザクション セット、およびリリースに対するシステムの印刷 トランスレーション オブジェクトすべてが表示されます。選択した トランスレーション オブジェクトを使って、このパートナーに送信されるドキュメントを印刷します。
画面入力	関係により定義されているスタンダード、バージョン、トランザクション セット、およびリリースに対するシステムの画面入力 トランスレーション オブジェクトすべてが表示されます。

(次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
保存	変更した情報が保存されます。
終了	[アウトバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックスを閉じます。
詳細	詳細オプションの表示 / 非表示を切り替えます。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。
アプリケーション ID	ドキュメントの宛先を示すアプリケーション識別子を定義します。
アプリケーション エイリアス バリュー	<p>アプリケーション インポート機能の実行中に別の関係定義の代わりに使用する、この関係の定義に対する基準を定義します。</p> <p>例 このアプリケーションには、請求書またはクレジット メモを生成できるデータが含まれています。請求書に対しては一方の関係定義を使い、クレジット メモに対しては他方の関係定義を使用することにします。</p> <p>これが請求書なのか、クレジット メモなのかを定義するボックスが、アプリケーションの中にあります。クレジット メモが作成される場合にはこのボックスに "CREDIT" という文字列が入り、請求書が作成される場合には "INVOICE" という文字列が入ります。クレジット メモを定義する関係のアプリケーション エイリアス バリューに "CREDIT" という文字列を入力し、請求書の関係定義に "INVOICE" という文字列を入力します。</p> <p>メモ このボックスは、アプリケーション エイリアス バリューを使用するように定義されているトランスレーション オブジェクトを受信する場合にのみ使用します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
ターンアラウンド	<p>関係と関連付けられたほかのトランスレーション オブジェクトが格納されます。これにより、トランザクションおよびドキュメントのトランスレーション レベルでシステムの動作を変更することができます。必要に応じてパートナー固有のトランスレーション オブジェクトを使用したり、必要数の機能を実行することが可能となります。</p> <p>この関係について特定のターンアラウンド トランスレーション オブジェクトを既に作成しており、このパートナー関係に対するシステムの動作を変更したい場合に、[ターンアラウンド] リスト ボックスからトランスレーション オブジェクトを選択します。</p> <p>メモ ターンアラウンド トランスレーション オブジェクトは、アウトバウンド 関係に適さない場合があります。</p>
エクスポート	<p>関係と関連付けられたほかのトランスレーション オブジェクトが格納されます。これにより、トランザクションおよびドキュメントのトランスレーション レベルでシステムの動作を変更することができます。必要に応じてパートナー固有のトランスレーション オブジェクトを使用したり、必要数の機能を実行することが可能となります。</p> <p>この関係について特定のエクスポート トランスレーション オブジェクトを既に作成しており、このパートナー関係に対するシステムの動作を変更したい場合に、[エクスポート] リスト ボックスからトランスレーション オブジェクトを選択します。エクスポート トランスレーション オブジェクトを使って、アウトバウンド ドキュメントをファイルへエクスポートできます。</p>
トランザクション	<p>関係と関連付けられたほかのトランスレーション オブジェクトが格納されます。これにより、トランザクションおよびドキュメントのトランスレーション レベルでシステムの動作を変更することができます。必要に応じてパートナー固有のトランスレーション オブジェクトを使用したり、必要数の機能を実行することが可能となります。</p> <p>この関係について特定のトランザクションビルド トランスレーション オブジェクトを既に作成しており、このパートナー関係に対するシステムの動作を変更したい場合に、[トランザクション] リスト ボックスからトランスレーション オブジェクトを選択します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
受信確認	<p>関係と関連付けられたほかのトランスレーション オブジェクトが格納されます。これにより、トランザクションおよびドキュメントのトランスレーション レベルでシステムの動作を変更することができます。必要に応じてパートナー固有のトランスレーション オブジェクトを使用したり、必要数の機能を実行することが可能となります。</p> <p>この関係について特定のトランスレーション オブジェクトを既に作成しており、このパートナー関係に対するシステムの動作を変更したい場合に、[受信確認] リスト ボックスからトランスレーション オブジェクトを選択します。システムは、受信確認を生成するときに、受信確認詳細が格納されている内部ファイルに受信確認をエクスポートしてからその内部ファイルをマップします。受信確認の処理方法を変更する必要がある場合には、[受信確認] リストから、さらにトランスレーション オブジェクトを選択しなければなりません。</p>

[アウトバウンド グループ選択] ダイアログ ボックス

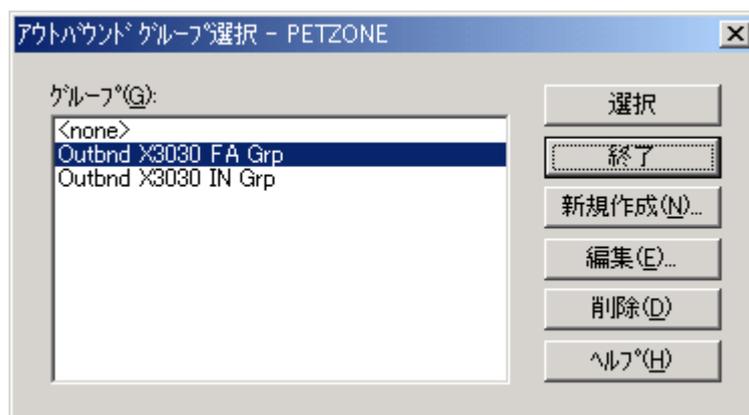
はじめに

[アウトバウンド グループ選択] ダイアログ ボックスを使って、この関係と関連付けるべき既存のファンクショナル グループの定義を選択します。また、新しいファンクショナル グループの定義や、既存の定義の修正および削除にも、このダイアログ ボックスを使用します。使用できるグループは、[アウトバウンド 関係] ダイアログ ボックスで選択したバージョンによって決まります。

ファンクショナル グループは、ANSI X12、TDCC、および UCS スタンドでは必須、EDIFACT と ODETTE ではオプション、TRADACOMS については指定されていません。

図

次の図に、[アウトバウンド グループ選択] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

次の表に、[アウトバウンド グループ選択] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
グループ	このトレーディング パートナーについて設定されているすべてのファンクショナル グループ定義が表示されます。
選択	示されているファンクショナル グループからこの関係に使用するものを選択します。
終了	[アウトバウンド グループ選択] ダイアログ ボックスを終了します。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
新規作成	[アウトバウンド グループ登録] ダイアログ ボックスが表示され、新しいグループを作成できます。
編集	[アウトバウンド グループ登録] ダイアログ ボックスが表示され、選択したグループを編集できます。
削除	選択したグループがシステムから削除されます。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。

[アウトバウンド グループ登録] ダイアログ ボックス

はじめに

[アウトバウンド グループ登録] ダイアログ ボックスを使って、新規のファンクショナルグループの定義を指定します。

図

次の図に、"詳細" オプションを含めた [アウトバウンド グループ登録] ダイアログ ボックスを示します。

(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、[アウトバウンド グループ登録] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
説明	ファンクショナル グループ説明の名前が入ります。
スタンダード	この関係定義に使用されている EDI スタンダードが表示されます。
バージョン	この関係に使用されている EDI スタンダードのバージョンが表示されます。
ファンクショナル グループ ID	<p>指定されているファンクショナル グループの識別コードが表示されます。これらの識別ボックスは、ドキュメントのようにそれぞれの適切なスタンダードのグループごとに定義されています。スタンダードでは、それぞれのドキュメント タイプで使用すべきファンクショナル グループ ID を定義しています。このボックスは必須です。</p> <p>例</p> <p>IN 810 X12 請求書 PO 850 X12 発注書 IG 830 UCS 請求書 OG 875 UCS P. O. INVOIC EDIFACT INVOIC ORDERS EDIFACT ORDERS INVOIC Tradacoms INVOIC ORDERS Tradacoms ORDERS</p> <p>このエレメントは次の場所にあります。</p> <p>ANSI X12: GS01 EDIFACT: UNG01 TRADACOMS: BAT</p>
保存	変更した情報が保存されます。
終了	<p>[アウトバウンド グループ登録] ダイアログ ボックスを閉じます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>



(続き) 各部	機能
エンベロープ	<p>[アウトバウンド関係]ダイアログ ボックスで指定したバージョンに応じて、以下のアウトバウンド ファンクショナルグループ エンベロープ ダイアログ ボックスのいずれかが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [アウトバウンド GS ファンクショナルグループ] ▶ [アウトバウンド UNG ファンクショナルグループ] ▶ [アウトバウンド BAT ファンクショナルグループ] <p>参照 各エンベロープ ダイアログ ボックスの詳細については、[パートナー エディタ] のオンライン ヘルプを参照してください。</p>
詳細	詳細オプションの表示 / 非表示を切り替えます。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。
最後に使用したグループ Control Number	<p>次のインターチェンジ Control Number を生成するために使用する値を指定します。生成される番号は常にこのボックスの中の番号よりも 1 つ上です。このボックスは最初は 0 に設定されます。</p> <p>メモ 受領確認が正常に動作するかを確認するには、同じパートナー内の個々のグループの関係に異なる Control Number を定義しなければいけません。</p>
受信確認を期待	<p>パートナーがこの関係で定義されているグループを受信した際に、システムでこのトレーディング パートナーからファンクショナル受信確認が受け取られることが想定されます。このボックスの既定値はオフ (受信確認を想定しない) です。</p>
時間切れ	<p>予期しているファンクショナル受信確認を時間切れであるとみなすまでの経過時間数を定義します。このボックスは、[受信確認を期待] ボックスがチェックされている場合にのみ有効です。このフィールドの既定値は "48" なので、2 日経過した受信確認が時間切れとみなされます。このボックスに値「0」を入力すると、受信確認は即座に時間切れとみなされます。</p> <p>メモ このボックスは、[受領確認を期待] がチェックされていない場合には使用できません。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
グループからの 順番	このグループ設定に対する、トランザクション セット Control Number の割り当てを、グループのレベルで管理するかどうかを指定します。このボックスがチェックされていない場合には、次のボックスは使用できません。
最後に使用した Control Number	このファンクショナルグループ内で定義されているセットに対して、次のトランザクションセット Control Number の生成に使用される値を指定します。生成される番号は常にこのボックスの中の番号よりも 1 つ上です。このボックスは最初は 0 に設定されます。 メモ このボックスは、[グループからの順番] がチェックされていない場合には使用できません。
書式	生成されるトランザクションセット Control Number の書式を指定します。 [正常] 番号は、最後に使用した Control Number を増分することにより生成されます。番号の長さは、スタンダードで定義されています。 [6/3] 番号は 2 つの数値で構成されます。最初の 6 桁はファンクショナルグループ Control Number の最後の 6 桁です。最後の 3 桁はファンクショナルグループ内の "1" から始まるカウンタです。この書式は、トレーディング パートナーが指示している場合にしか使用しません。 [5/4] 番号は 2 つの数値で構成されます。最初の 5 桁はファンクショナルグループ Control Number の最後の 5 桁です。最後の 4 桁はファンクショナルグループ内の "1" から始まるカウンタです。これは通常の TDCC 番号割り当て規則です。自動車、鉄道、および海洋輸送業界で使用します。 [5/3] 番号は 2 つの数値で構成されます。最初の 5 桁はファンクショナルグループ Control Number の最後の 5 桁です。最後の 3 桁はファンクショナルグループ内の "1" から始まるカウンタです。これは通常の UCS 規則で、食料雑貨業界や倉庫業界で使用します。 メモ このボックスは、[グループからの順番] がチェックされていない場合には使用できません。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
グループ トラン スレーション オブジェクト	<p>トレーディング パートナー グループの動作が通常のシステムの動作と異なる場合に、そのパートナー固有のグループビルド マップ トランスレーション オブジェクトが入ります。パートナー固有のグループ分けを実行させたい場合に、このリストからトランスレーション オブジェクトを選択します。</p> <p>注意 [グループ トランスレーション オブジェクト] および [受信確認 トランスレーション オブジェクト] リスト内のトランスレーション オブジェクトは、特に理由がない限り変更しないようにしてください。</p>
受信確認 トラン スレーション オブジェクト	<p>受信確認ビルド マップがあれば、ここに入ります。</p> <p>この関係について特定のトランスレーション オブジェクトを既に作成しており、このパートナー グループに対するシステムの動作を変更したい場合に、[受信確認 トランスレーション オブジェクト] リストからトランスレーション オブジェクトを選択します。システムは、受信確認の整合性を取るときに、その受信確認を内部ファイルにマップしてから処理を行います。受信確認の処理方法を変更する必要がある場合には、[受信確認] リストから、さらにトランスレーション オブジェクトを選択しなければなりません。</p> <p>注意 [グループ トランスレーション オブジェクト] および [受信確認 トランスレーション オブジェクト] リスト内のトランスレーション オブジェクトは、特に理由がない限り変更しないようにしてください。</p>

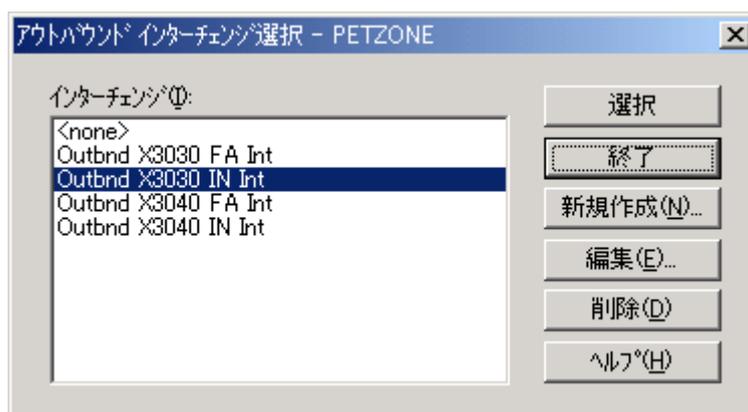
[アウトバウンド インターチェンジ選択] ダイアログ ボックス

はじめに

[アウトバウンド インターチェンジ選択]ダイアログ ボックスを使って、この関係と関連付けるべき既存のインターチェンジの定義を選択します。また、新しいインターチェンジの定義や、既存の定義の修正および削除にも、このダイアログ ボックスを使用します。使用できるインターチェンジは、[アウトバウンド関係]ダイアログ ボックス上で選択したバージョンによって決まります。インターチェンジは、EDIFACT、ODETTE、TRADACOMS、および UCS では必須、ANSI X12 と TDCC ではオプションです。

図

次の図に、[アウトバウンド インターチェンジ選択]ダイアログ ボックスを示します。



(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、[アウトバウンド インターチェンジ選択] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
インターチェンジ	このトレーディング パートナーについて設定されているすべてのインターチェンジ定義が表示されます。
選択	表示されているインターチェンジでこの関係とともに使用するものを選択します。 メモ 使用しているスタンダードにインターチェンジが不要であり、使わない場合は、<none> を選択します。
終了	[インバウンド インターチェンジ選択] ダイアログ ボックスを閉じます。
新規作成	[アウトバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックス が表示され、新しいインターチェンジを作成できます。
編集	[アウトバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックス が表示され、選択したインターチェンジを編集できます。
削除	選択したインターチェンジがシステムから削除されます。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。

[アウトバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックス

はじめに

[アウトバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスを使って、新規のインターチェンジの定義を指定します。

メモ

EDIFACT バージョン 4 は、8 ビットの ASCII 以外の文字セットを使用してエンコードされたインターチェンジを作成 (および処理) をサポートするために必要なインフラストラクチャを定義します。インターチェンジのエンコーディングが、Gentran:Server が動作しているオペレーティング システムに既定のコードページに一致する限り、Gentran:Server for Windows はエンコードされたインターチェンジの処理をサポートします。

図

次の図に、" 詳細 " オプションを含めた [アウト バウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスを示します。

(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、[アウトバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
説明	インターチェンジの説明の名前が入ります。
スタンダード	この関係定義に使用されている EDI スタンダードが表示されます。
バージョン	この関係に使用されている EDI スタンダードのバージョンが表示されます。
インターチェンジ ID	指定したインターチェンジのタイプを定義します。スタンダードでは、それぞれのスタンダードで使用すべきインターチェンジ ID が定義されています。このボックスは必須です。 例 ANSI X12 – ISA ICS UCS – BG EDIFACT – UNB Tradacoms – STX
保存	変更した情報が保存されます。
終了	[アウトバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスを閉じます。
詳細	詳細オプションの表示 / 非表示を切り替えます。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
エンベロープ	<p>[アウトバウンド関係]ダイアログ ボックスで指定したバージョンに応じて、以下のアウトバウンド インターチェンジエンベロープダイアログ ボックスのいずれかが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [アウトバウンド ISA エンベロープ] ▶ [アウトバウンド ICS エンベロープ] ▶ [アウトバウンド BG エンベロープ] ▶ [アウトバウンド UNB エンベロープ] ▶ [アウトバウンド UNA エンベロープ] ▶ [アウトバウンド STX エンベロープ] ▶ [アウトバウンド VDA エンベロープ] ▶ [アウトバウンド NCPDP エンベロープ] ▶ [アウトバウンド エンベロープ PIP の開始] <p>参照 各エンベロープダイアログ ボックスの詳細については、[パートナー エディタ]のオンライン ヘルプを参照してください。</p>
ヘルプ	<p>状況依存ヘルプを表示します。</p>
規定値のメールボックスと E メールアドレスを使用	<p>[パートナーの定義(新規作成/編集)]ダイアログ ボックスで指定した既定のメールボックスと E メールアドレスが使用されることを示します。</p>
メールボックス	<p>RosettaNet 関係についてこのパートナーを識別するために使用するメールボックスを指定します。</p> <p>参照 詳細については、『コミュニケーションズ ユーザー ガイド』を参照してください。</p>
E メールアドレス	<p>非 RosettaNet 関係についてこのパートナーを識別するために使用する E メールアドレスを指定します。</p> <p>参照 詳細については、『コミュニケーションズ ユーザー ガイド』を参照してください。</p>
メールボックスの 新規作成	<p>[メールボックスの新規作成ウィザード]が表示され、新しいメールボックスを作成できます。</p> <p>参照 詳細については、『コミュニケーションズ ユーザー ガイド』を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
メールボックスの 編集	[メールボックス プロパティ] ダイアログ ボックスが表示され、メールボックスを編集できます。 参照 詳細については、『コミュニケーションズ ユーザー ガイド』を参照してください。
コンテンツ タイプ	インターチェンジのコンテンツ タイプを定義します。
1つのインター チェンジにおける ドキュメントの 最大数を設定	この関係において、1 インターチェンジにつき使用できるドキュメントを、指定された最大数に制限します。
1つのインター チェンジにおける ドキュメントの 最大数	この関係において、1 インターチェンジにつき使用できるドキュメント数の上限を指定します。
最後に使用した Control Number	次のインターチェンジ Control Number を生成するために使用する値を指定します。生成される番号は常にこのボックスの中の番号よりも 1 つ上です。このボックスは最初は 0 に設定されます。
受信確認を期待	パートナーがこの関係で定義されているインターチェンジセットを受信した際に、システムでこのトレーディングパートナーからファンクショナル受信確認が受け取られることが想定されます。このボックスの既定値はオフ (受信確認を想定しない) です。
時間切れ	<p>予期しているファンクショナル受信確認を時間切れであるとみなすまでの経過時間数を定義します。このボックスは、[受信確認を期待] ボックスがチェックされている場合にのみ有効です。このフィールドの既定値は "48" なので、2 日経過した受信確認が時間切れとみなされます。このフィールドに値「0」を入力すると、受信確認は即座に時間切れとみなされます。</p> <p>メモ このボックスは、[受領確認を期待] がチェックされていない場合には使用できません。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
インターチェンジ トランスレーション オブジェクト	<p>トレーディング パートナー インターチェンジの動作が通常のシステムの動作と異なる場合に、そのパートナー固有のインターチェンジビルド マップトランスレーション オブジェクトを選択することができます。パートナー固有のインターチェンジをシステムに実行させたい場合に、このリストからトランスレーション オブジェクトを選択します。</p> <p>注意 [インターチェンジトランスレーション オブジェクト]および[受信確認トランスレーション オブジェクト]リスト内のトランスレーション オブジェクトは、特に理由がない限り変更しないようにしてください。</p>
受信確認 トラン スレーション オブジェクト	<p>受信確認ビルド マップがあれば、ここに入ります。</p> <p>この関係について特定のトランスレーション オブジェクトを既に作成しており、このパートナー インターチェンジに対するシステムの動作を変更したい場合に、[受信確認トランスレーション オブジェクト]リストからトランスレーション オブジェクトを選択します。システムは、受信確認の整合性を取るときに、その受信確認を内部ファイルにマップしてから処理を行います。受信確認の処理方法を変更する必要がある場合には、[受信確認]リストから、さらにトランスレーション オブジェクトを選択しなければなりません。</p> <p>注意 [インターチェンジトランスレーション オブジェクト]および[受信確認トランスレーション オブジェクト]リスト内のトランスレーション オブジェクトは、特に理由がない限り変更しないようにしてください。</p>

新しいパートナーの定義の作成方法

はじめに

パートナーの定義には、パートナーに関する基本情報が含まれます。これらの情報は、パートナープロファイルのほかの部分より前に定義する必要があります。

前提知識

新しいパートナーの定義を設定するためには、次の情報が必要となります。

- ▶ このパートナーとの通信に使用するコミュニケーションプロファイル名
- ▶ このパートナーの EDI コード
- ▶ インポートファイルでこのパートナーの識別に使用するアプリケーションコード
このアプリケーションコードは、インポート機能を使用してメッセージを処理する場合にのみ必要となります。

手順

新しいパートナーの定義を作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[ツール]メニューから、[パートナー エディタ]を選択します。 システムからの応答 [パートナー エディタ]ダイアログボックスが表示されます。
2	[新規作成]をクリックします。 システムからの応答 [パートナーの定義 (新規作成 / 編集)]ダイアログボックスが表示されます。
3	[プロファイル ID]ボックスに、このパートナーのプロファイル ID を入力します。プロファイル ID は英数字からなり、一意である必要があります。 メモ 特殊文字は使用できません。
4	[名前]ボックスにパートナー名を入力します。
5	[EDI コード]ボックスに、このパートナーの EDI 識別子を入力します。 メモ この識別子は、インバウンド処理の際のパートナーの選択に使用されます。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
6	<p>必要に応じて、このパートナーを識別するためのアプリケーションコードを [アプリケーションコード] ボックスに入力します。</p> <p>メモ アプリケーションコードは、アウトバウンドのインポート処理の際、パートナーの選択に使用されます。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [既定のメールボックス] リスト ボックスから適切なメールボックスを選択するか、 ▶ [メールボックスの新規作成] をクリックして、新しいメールボックスを作成します。 <p>メモ メールボックスの作成の詳細については、『コミュニケーションズユーザーガイド』を参照してください。</p>
8	<p>パートナーの定義の情報をすべて入力したら、[保存] をクリックします。</p>
9	<p>[終了] をクリックして [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスに戻ります。</p> <p>メモ パートナー プロファイルを完成させるには、インバウンド関係またはアウトバウンド関係 (あるいはその両方) を作成する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ このトレーディング パートナーから情報を受信して処理する場合は、適切なインバウンド関係を定義する必要があります。 ▶ このトレーディング パートナーに情報を送信する場合は、アウトバウンド関係を定義する必要があります。

新しいインバウンド関係の作成方法

はじめに

トレーディング パートナーからの情報を正しく受信して処理するには、データファイルの受信に必要なパラメータを定義する適切なインバウンド関係を確立する必要があります。それぞれのインバウンド関係では、パートナーからどのビジネスドキュメントを受信するかを定義します。

必要なパラメータ

インバウンド関係の作成に使用するパラメータを、いくつか設定する必要があります。これらのパラメータにより、次が指定できます。

- ▶ 受信するデータのタイプ
- ▶ 受信した情報の妥当性を検証する際の基準
- ▶ 受信が想定されているドキュメントのファンクショナルグループおよびインターチェンジ

トランスレーション オブジェクト

それぞれのインバウンド関係には、1つ以上のインバウンド トランスレーション オブジェクトを関連付ける必要があります。このトランスレーション オブジェクトによって、受信したデータの処理方法が決まります。ターンアラウンドドキュメントのエクスポート、印刷、作成のルール of 定義にどのトランスレーション オブジェクトを使用するかを指定する必要があります。最低でも、1つのトランスレーション オブジェクトが使用できなければなりません。

メモ

新しいトランスレーション オブジェクトが必要となる場合は、インバウンド関係を作成する前にトランスレーション オブジェクトを登録しなければなりません。トランスレーション オブジェクトを登録する方法については、「[新しいトランスレーション オブジェクトの登録方法](#)」を参照してください。

(次のページへ続く)

インバウンド グループと インバウンド インターチェンジ

インバウンド関係の設定を完了するには、インバウンド インターチェンジとインバウンド ファンクショナル グループを定義または選択する必要があります。インバウンド ファンクショナル グループでは、ファンクショナル グループの書式、および書式の検証に使用するパラメータを定義します。インバウンド インターチェンジでは、インターチェンジの書式、および書式の検証に使用するパラメータを定義します。

ただし、ファンクショナル グループまたはインターチェンジの選択がオプションとなるトランザクションもあります。トレーディング パートナーがインターチェンジを使用しない場合には、これらを選択する必要はありません。インバウンドのファンクショナル グループおよびインターチェンジを選択する必要があるかどうかについては、以下に示すスタンダードごとの説明を参照してください。

- ▶ **ANSI X12** ドキュメントの場合は、ファンクショナル グループは必須ですが、インターチェンジはオプションとなることがあります。ただし、ほとんどのドキュメントでは、インターチェンジとファンクショナル グループの両方が必須となります。
- ▶ **TDCC** の場合は、インターチェンジはオプション、ファンクショナル グループは必須です。
- ▶ **UCS** の場合は、インターチェンジとファンクショナル グループの両方が必須です。
- ▶ **EDIFACT** の場合は、インターチェンジは必須、ファンクショナル グループはオプションです。
- ▶ **ODETTE** の場合は、インターチェンジは必須、ファンクショナル グループはオプションです。
- ▶ **TRADACOMS** の場合は、インターチェンジは必須、ファンクショナル グループはありません。

メモ

オプションのファンクショナル グループまたはインターチェンジを使用しない場合でも、該当するダイアログ ボックスで <none> を選択することにより、グループまたはインターチェンジを使用しないことを指定しておく必要があります。

始める前に

インバウンド関係を設定するには、その前にパートナーの実装を計画するため、次の情報が必要となります。

- ▶ トレーディング パートナーが使用する EDI スタンダード (ANSI など)
- ▶ トレーディング パートナーが使用するスタンダードのバージョン (たとえば、ANSI の場合は 003020、EDIFACT の場合は 090001)
- ▶ トレーディング パートナーが使用するトランザクション セットのコード (たとえば、EDIFACT 請求書の場合は "INVOIC")
- ▶ パートナーからの受信時に、トランザクション セットを収めるファンクショナル グループおよびインターチェンジの種類

(次のページへ続く)

[インバウンド関係] ダイアログボックス

パートナーの実装が計画できたら、[インバウンド関係]ダイアログボックスを使用してインバウンド関係を作成できます。[インバウンド関係]ダイアログボックスによって、関係の設定に使用するすべてのダイアログボックスが制御されます。

インバウンド関係の 定義

次の表に、インバウンド関係を定義する際の手順を示します。

段階	説明
1	新しいインバウンド関係を作成します。
2	この関係で使用するインバウンド トランスレーション オブジェクトを作成し、登録します。 参照 トランスレーション オブジェクトの作成に関する詳細は『アプリケーション インテグレーション ユーザー ガイド』を、トランスレーション オブジェクトの登録に関する詳細は『 新しいトランスレーション オブジェクトの登録方法 』を参照してください。
3	少なくとも 1 つのインバウンド トランスレーション オブジェクトを選択します。
4	パートナーからドキュメントを受信する方法を定義するため、少なくとも 1 つのインバウンド グループを選択します。 メモ 使用するスタンダードに応じて、ファンクショナル グループまたはインターチェンジがオプションとなります (オプションになるかどうかを判断するには、『 インバウンド グループとインバウンド インターチェンジ 』を参照してください)。
5	パートナーからドキュメントを受信する方法を定義するため、少なくとも 1 つのインバウンド インターチェンジを選択します。 メモ 使用するスタンダードに応じて、ファンクショナル グループまたはインターチェンジがオプションとなります (オプションになるかどうかを判断するには、『 インバウンド グループとインバウンド インターチェンジ 』を参照してください)。
6	インバウンド関係にドキュメントを受信した結果としてファンクショナル受信確認を生成する場合、対応するアウトバウンド関係を設定する必要があります。このアウトバウンド関係は、パートナーへの受信確認を生成するために使用します。 参照 受信確認の生成に使用するアウトバウンド関係を確立する方法については、『 新しいアウトバウンド関係の作成方法 』を参照してください。

(次のページへ続く)

手順

インバウンド関係を作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
新しいインバウンド関係の作成	
1	<p>[ツール]メニューから、[パートナー エディタ]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [パートナー エディタ]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ インバウンド関係を作成するパートナー プロファイルを選択します。 ▶ [インバウンド]をクリックします。 <p>システムからの応答 [インバウンド関係]ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p>メモ 既に、このパートナーのパートナーの定義が作成されている必要があります。</p> <p>参照 詳細については、「新しいパートナーの定義の作成方法」を参照してください。</p>
3	<p>[新規作成]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [新しいインバウンド関係]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
4	<p>説明ボックスに、一意の関係名 (たとえば「インバウンド請求書」)を入力します。</p>
5	<p>[保存]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 新しいインバウンド関係が作成され、[インバウンド関係]ダイアログ ボックスに戻ります。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
6	<p>[インバウンド関係] ダイアログ ボックスの適切なドロップダウン リスト ボックスから次を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [スタンダード] ▶ [バージョン] ▶ [トランザクション セット] ▶ [リリース] (リリースは TRADACOMS の場合のみ選択します) <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ これらのリストの内容は、Gentran:Server に登録されたトランスレーション オブジェクトから表示されます。たとえば、Gentran に登録された ANSI X12 バージョン 003040 にはトランスレーション オブジェクトがない場合、このダイアログ ボックスではそのバージョンを選択することができません。 ▶ 送信されてきたトランザクションの詳細がト レーディング パートナー側で定義されている場合、このダイアログ ボックスに必要な情報はそのパートナーから入手する必要があります。
7	<p>[順番検査]、[最後に使用した Control Number]、[ドキュメントの重複]、[受信確認の生成] など、パートナーの処理要件に合わせてパラメータを定義する必要がある場合は、[詳細] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [インバウンド関係] ダイアログ ボックスが拡張されます。</p>
インバウンド トランスレーション オブジェクトの選択	
1	<p>[インバウンド関係] ダイアログ ボックスで、[トランスレーション] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [<u>インバウンド トランスレーション オブジェクト</u>] ダイアログ <u>ボックス</u>が表示されます。]</p>
2	<p>ドロップダウン リストで、このインバウンド関係に必要なトランスレーション オブジェクトを選択します。</p> <p>メモ リスト ボックスに、トランスレーション オブジェクトの種類 (たとえば、エクスポート、印刷など) とトランザクション セットに適切な、システムに登録されているすべてのトランスレーション オブジェクトが表示されます。</p> <p>トランスレーション オブジェクトがドロップダウン リストに表示されない場合は、その種類のトランスレーション オブジェクトが、関係で定義したドキュメントのバージョン用には登録されていません。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
3	エクスポート ファイル トランスレーション オブジェクトを選択し、特定のファイルにエクスポートする場合には、[エクスポート ファイル名] ボックスにファイルの UNC (汎用命名規則) 名を入力します。
4	インバウンド トランスレーション オブジェクトの出力をメールボックス サーバー マネージャに直接戻すよう配送するためにメールボックスと E メール アドレスを指定するときに " メールボックスへエクスポート " 機能を使用するかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 使用する場合には、[メールボックスへエクスポート] チェックボックスをオンにし、適切なボックスに入力します。次のステップに進みます。 <p>参照 ダイアログ ボックスの各部とその機能に関する詳細については、「[インバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックス」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 使用しない場合は、次のステップに進みます。
5	[保存] をクリックして選択内容を保存し、[インバウンド 関係] ダイアログ ボックスに戻ります。
インバウンド ファンクショナル グループの選択	
1	[インバウンド 関係] ダイアログ ボックスで、[グループ] をクリックして既存のグループのリストを表示します。 <p>システムからの応答 [インバウンド グループ 選択] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	必要なグループが、[グループ] リストに表示されているかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 表示されている場合は、グループ (グループを使用しない場合は <none>) を選択して [選択] をクリックします。この表の、「インバウンド インターチェンジの選択」のセクションに進みます。 <p>システムからの応答 反転表示したグループが選択され、[インバウンド 関係] ダイアログ ボックスに戻ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 表示されていない場合は、ステップ 3 に進んでグループを作成します。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
3	<p>[インバウンド グループ 選択] ダイアログ ボックスで、[新規作成] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [インバウンド グループ 登録] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
4	<p>[説明] ボックスに、グループの説明を入力します。</p>
5	<p>[ファンクショナル グループ ID] ボックスに、指定しているファンクショナルグループの ID を入力します。</p> <p>メモ 各種のドキュメント でどのファンクショナルグループ ID を使用する必要があるかは、EDI スタンダード によって定義されています。</p>
6	<p>ファンクショナルグループの処理についてより複雑な要件を設定する場合は、[詳細] をクリックしてファンクショナルグループ設定オプションをすべて表示します。</p> <p>システムからの応答 [インバウンド グループ 登録] ダイアログ ボックスが拡張されます。</p>
7	<p>このダイアログ ボックスで必要なパラメータを設定したら、[保存] をクリックして情報を格納し、[インバウンド グループ 選択] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 新しいグループを反転表示にします。 ▶ [選択] をクリックします。 <p>システムからの応答 反転表示したグループが選択され、[インバウンド 関係] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>
インバウンド インターチェンジの選択	
1	<p>[インバウンド 関係] ダイアログ ボックスで、[インターチェンジ] をクリックして既存のインターチェンジのリストを表示します。</p> <p>システムからの応答 [インバウンド インターチェンジ 選択] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
2	<p>必要なインターチェンジが、[インターチェンジ] リストに表示されているかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 表示されている場合は、インターチェンジ (グループを使用しない場合は <none>) を選択して [選択] をクリックします。この表の、「インバウンド関係のまとめ」のセクションに進みます。 <p>システムからの応答 反転表示したインターチェンジが選択され、[インバウンド関係] ダイアログ ボックスに戻ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 表示されていない場合は、ステップ 3 に進んでインターチェンジを作成します。
3	<p>[インバウンド インターチェンジ選択] ダイアログ ボックスで、[新規作成] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [インバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
4	<p>[説明] ボックスに、インターチェンジの説明を入力します。</p>
5	<p>[インターチェンジ ID] ボックスに、指定しているインターチェンジの ID を入力します。</p> <p>メモ 各種のドキュメントでどのインターチェンジ ID を使用する必要があるかは、EDI スタンドardsによって定義されています。</p>
6	<p>インターチェンジの処理についてより複雑な要件を設定する場合は、[詳細] をクリックしてインターチェンジ設定オプションをすべて表示します。</p> <p>システムからの応答 [インバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスが拡張されます。</p>
7	<p>このダイアログ ボックスで必要なパラメータを設定したら、[保存] をクリックして情報を格納し、[インバウンド インターチェンジ選択] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 新しいインターチェンジを反転表示にします。 ▶ [選択] をクリックします。 <p>システムからの応答 反転表示したインターチェンジが選択され、[インバウンド関係] ダイアログ ボックスに戻ります。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
インバウンド関係のまとめ	
1	[インバウンド関係] ダイアログ ボックスで、[保存] をクリックしてインバウンド関係を保存します。
2	[終了] をクリックして [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスに戻ります。

新しいアウトバウンド関係の作成方法

はじめに

トレーディング パートナーに情報を送信する場合は、アウトバウンド関係を定義する必要があります。アウトバウンド関係は、トレーディング パートナーにデータ ファイルを送信するために必要なパラメータを定義するものです。それぞれのアウトバウンド関係では、1つのビジネスドキュメントの書式、そのビジネスドキュメントの書式の設定方法、および指定したトレーディング パートナーへの送信方法を定義します。

必要なパラメータ

アウトバウンド関係の作成に使用するパラメータを、いくつか設定する必要があります。これらのパラメータにより、次が指定できます。

- ▶ 要求されたメッセージの作成方法
- ▶ 入力情報の妥当性を検証する際の基準
- ▶ 送信準備において、ファンクショナル グループおよびインターチェンジ エンベロープを作成する方法

トランスレーション オブジェクト

それぞれのアウトバウンド関係には、1つ以上のアウトバウンド トランスレーション オブジェクトを関連付ける必要があります。このトランスレーション オブジェクトにより、送信したデータの書式設定方法が決まります。画面入力やファイル インポートのルールの定義にどのトランスレーション オブジェクトを使用するかを指定する必要があります。最低でも、1つのトランスレーション オブジェクトが使用できなければなりません。

メモ

新しいトランスレーション オブジェクトが必要となる場合は、アウトバウンド関係を作成する前にトランスレーション オブジェクトを登録しなければなりません。トランスレーション オブジェクトを登録する方法については、「[新しいトランスレーション オブジェクトの登録方法](#)」を参照してください。

(次のページへ続く)

アウトバウンド グループと アウトバウンド インターチェンジ

アウトバウンド関係の設定を完了するには、アウトバウンド インターチェンジとアウトバウンド ファンクショナルグループを定義または選択する必要があります。アウトバウンド ファンクショナルグループでは、ファンクショナルグループの書式、および書式の検証に使用するパラメータを定義します。アウトバウンド インターチェンジでは、インターチェンジの書式、および書式の検証に使用するパラメータを定義します。

ただし、ファンクショナルグループまたはインターチェンジの選択がオプションとなるトランザクションもあります。トレーディングパートナーがインターチェンジを使用しない場合には、これらを選択する必要はありません。アウトバウンドのファンクショナルグループおよびインターチェンジを選択する必要があるかどうかについては、以下に示すスタンダードごとの説明を参照してください。

- ▶ **ANSI X12** ドキュメントの場合は、ファンクショナルグループは必須ですが、インターチェンジはオプションとなることがあります。ただし、ほとんどのドキュメントでは、インターチェンジとファンクショナルグループの両方が必須となります。
- ▶ **TDCC** の場合は、インターチェンジはオプション、ファンクショナルグループは必須です。
- ▶ **UCS** の場合は、インターチェンジとファンクショナルグループの両方が必須です。
- ▶ **EDIFACT** の場合は、インターチェンジは必須、ファンクショナルグループはオプションです。
- ▶ **ODETTE** の場合は、インターチェンジは必須、ファンクショナルグループはオプションです。
- ▶ **TRADACOMS** の場合は、インターチェンジは必須、ファンクショナルグループはありません。

メモ

オプションのファンクショナルグループまたはインターチェンジを使用しない場合でも、該当するダイアログボックスで <none> を選択することにより、グループまたはインターチェンジを使用しないことを指定しておく必要があります。

始める前に

アウトバウンド関係を設定するには、その前にパートナーの実装を計画するため、次の情報が必要となります。

- ▶ トレーディングパートナーが使用する EDI スタンダード (ANSI X12 など)
- ▶ パートナーが使用するスタンダードのバージョン (たとえば、ANSI の場合は 003020、EDIFACT の場合は 090001)
- ▶ 使用するトランザクションセットのコード (たとえば、EDIFACT 請求書の場合は "INVOIC")
- ▶ パートナーへの送信時に、トランザクションセットを収めるファンクショナルグループおよびインターチェンジエンベロープの種類

(次のページへ続く)

[アウトバウンド関係]ダイアログボックス

パートナーの実装が計画できたら、[アウトバウンド関係]ダイアログボックスを使用してアウトバウンド関係を作成できます。[アウトバウンド関係]ダイアログボックスによって、関係の設定に使用するすべてのダイアログボックスが制御されます。

アウトバウンド関係の定義

次の表に、アウトバウンド関係を定義する際の手順を示します。

段階	説明
1	新しいアウトバウンド関係を作成します。
2	スタンダードとして EDIFACT、ODETTE、または TRADACOMS を使用する場合は、この種類のドキュメントに使用するエンベロープ (ヘッダー) 情報を指定する必要があります。ANSI、UCS、および TDCC の場合は、エンベロープ情報はオプションです。
3	この関係で使用するインバウンド トランスレーション オブジェクトを作成し、登録します。 参照 トランスレーション オブジェクトの作成に関する詳細は『アプリケーション インテグレーション ユーザー ガイド』を、トランスレーション オブジェクトの登録に関する詳細は『 新しいトランスレーション オブジェクトの登録方法 』を参照してください。
4	少なくとも 1 つのアウトバウンド トランスレーション オブジェクトを選択します。
5	パートナーからドキュメントを受信する方法を定義するため、少なくとも 1 つのアウトバウンド グループ (エンベロープ情報を含む) を作成して選択します。 メモ 使用するスタンダードに応じて、ファンクショナルグループまたはインターチェンジがオプションとなります (オプションになるかどうかを判断するには、『 アウトバウンドグループとアウトバウンド インターチェンジ 』を参照してください)。
6	パートナーからドキュメントを受信する方法を定義するため、少なくとも 1 つのアウトバウンド インターチェンジ (エンベロープ情報を含む) を作成して選択します。 メモ 使用するスタンダードに応じて、ファンクショナルグループまたはインターチェンジがオプションとなります (オプションになるかどうかを判断するには、『 アウトバウンドグループとアウトバウンド インターチェンジ 』を参照してください)。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

段階	説明
7	<p>アウトバウンド関係にドキュメントを送信した結果としてファンクショナル受信確認を受信する場合、そのアウトバウンド関係の確立の間に、対応するインバウンド関係が設定されます。このインバウンド関係は、パートナーから受信確認を受信するために使用します。</p> <p>参照 受信確認の生成に使用するインバウンド関係を確立する方法については、「新しいインバウンド関係の作成方法」を参照してください。</p>

手順

アウトバウンド関係を作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
新しいアウトバウンド関係の作成	
1	<p>[ツール] メニューから、[パートナー エディタ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ アウトバウンド関係を作成するパートナー プロファイルを選択します。 ▶ [アウトバウンド] をクリックします。 <p>システムからの応答 [アウトバウンド関係] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p>メモ 既に、このパートナーのパートナーの定義が作成されている必要があります。</p> <p>参照 詳細については、「新しいパートナーの定義の作成方法」を参照してください。</p>
3	<p>[新規作成] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [新しいアウトバウンド関係] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
4	<p>説明ボックスに、一意の関係名を入力します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
5	<p>[保存] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 新しいアウトバウンド関係が作成され、[アウトバウンド関係] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>
6	<p>[アウトバウンド関係] ダイアログ ボックスの適切なドロップダウン リスト ボックスから次を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [スタンダード] ▶ [バージョン] ▶ [トランザクション セット] ▶ [リリース] (リリースは TRADACOMS の場合のみ選択します) <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ これらのリストの内容は、Gentran:Server に登録されたトランスレーションオブジェクトから表示されます。たとえば、Gentran に登録された ANSI X12 バージョン 003040 にはトランスレーションオブジェクトがない場合、このダイアログ ボックスではそのバージョンを選択することができません。 ▶ 送信されてきたトランザクションの詳細がトレーディングパートナー側で定義されている場合、このダイアログ ボックスに必要な情報はそのパートナーから入手する必要があります。
7	<p>[最後に使用した Control Number]、[受信確認の生成]、[時間切れ]、[ドキュメントの重複]、[テスト インジケータ] など、パートナーの処理要件に合わせてパラメータを定義する必要がある場合は、[詳細] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [アウトバウンド関係] ダイアログ ボックスが拡張されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
トランザクション エンベロープの選択 (EDIFACT、ODETTE、および TRADACOMS では必須、ANSI、UCS、および TDCC ではオプション)	
1	<p>スタンダードとして EDIFACT、ODETTE、または TRADACOMS を使用する場合は、[エンベロープ]をクリックしてエンベロープ (ヘッダー) 情報を指定します。</p> <p>メモ ANSI、UCS、および TDCC の場合は、エンベロープ情報はオプションです。</p> <p>システムからの応答 次のダイアログ ボックスのいずれかが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [アウトバウンド UNH エンベロープ]ダイアログ ボックス ▶ [アウトバウンド MHD エンベロープ]ダイアログ ボックス ▶ [アウトバウンド ST エンベロープ]ダイアログ ボックス
2	<p>適切な情報を入力し、[保存]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 情報が保存され、[アウトバウンド関係]ダイアログ ボックスに戻ります。</p>
アウトバウンド トランスレーション オブジェクトの選択	
1	<p>[アウトバウンド関係]ダイアログ ボックスで、[トランスレーション]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 <u>[アウトバウンド トランスレーション オブジェクト]ダイアログ ボックス</u>が表示されます。</p>
2	<p>ドロップダウン リストで、このアウトバウンド関係に必要なトランスレーション オブジェクトを選択します。</p> <p>メモ リスト ボックスには、トランスレーション オブジェクトの種類 (エクスポート、印刷など) およびトランザクション セットに使用できるすべてのトランスレーション オブジェクトが表示されず (ただし、システムに登録されているもののみ)。</p> <p>トランスレーション オブジェクトがドロップダウン リストに表示されない場合は、その種類のトランスレーション オブジェクトが、関係で定義したドキュメントのバージョン用には登録されていません。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
3	インポート トランスレーション オブジェクトを選択した場合は、次を定義する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ [アプリケーション ID] ボックスに、ドキュメントの送信先を示すアプリケーション ID を入力します。 ▶ [アプリケーション エイリアス バリュース] ボックスに、アプリケーション インポート機能の実行時に、この関係をほかの関係と区別するための基準を入力します。
4	[保存] をクリックして選択内容を保存し、[アウトバウンド関係] ダイアログ ボックスに戻ります。
アウトバウンド ファンクショナル グループの選択	
1	[アウトバウンド関係] ダイアログ ボックスで、[グループ] をクリックして既存のグループのリストを表示します。 システムからの応答 <u>[アウトバウンド グループ選択] ダイアログ ボックス</u> が表示されます。
2	必要なグループが、[グループ] リストに表示されているかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 表示されている場合は、グループ (グループを使用しない場合は <none>) を選択して [選択] をクリックします。この表の、「アウトバウンド インターチェンジの選択」のセクションに進みます。 システムからの応答 反転表示したグループが選択され、[アウトバウンド関係] ダイアログ ボックスに戻ります。 ▶ 表示されていない場合は、ステップ 3 に進んでグループを作成します。
3	[アウトバウンド グループ選択] ダイアログ ボックスで、[新規作成] をクリックします。 システムからの応答 <u>[アウトバウンド グループ登録] ダイアログ ボックス</u> が表示されます。
4	[説明] ボックスに、グループの説明を入力します。 <div style="text-align: right;">(次のページへ続く)</div>

(続き) ステップ	操作
5	<p>[ファンクショナル グループ ID] ボックスに、指定しているファンクショナルグループの ID を入力します。</p> <p>メモ 各種のドキュメント でどのファンクショナルグループ ID を使用する必要があるかは、EDI スタンドード によって定義されています。</p>
6	<p>ファンクショナルグループの処理についてより複雑な要件を設定する場合は、[詳細] をクリックしてファンクショナルグループ設定オプションをすべて表示します。</p> <p>システムからの応答 [アウトバウンド グループ登録] ダイアログ ボックスが拡張されます。</p> <p>推奨事項 [グループ トランスレーション オブジェクト] および [受信確認 トランスレーション オブジェクト] リスト内のトランスレーション オブジェクトは、特に理由がない限り変更しないようにしてください。</p>
7	<p>[エンベロープ] をクリックして、ファンクショナルグループ セグメントの生成に使用するパラメータを設定します。</p> <p>システムからの応答 次に表示されるアウトバウンド ファンクショナルグループ ダイアログ ボックスは、[アウトバウンド関係] ダイアログ ボックスで選択したスタンダードによって異なります。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [アウトバウンド GS ファンクショナルグループ] ▶ [アウトバウンド UNG ファンクショナルグループ] ▶ [アウトバウンド BAT ファンクショナルグループ]
8	<p>エンベロープを設定するダイアログ ボックスに必要なパラメータを設定したら、[保存] をクリックして情報を格納し、[アウトバウンド グループ登録] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>
9	<p>[アウトバウンド グループ登録] ダイアログ ボックスで [保存] をクリックして情報を格納し、[アウトバウンド グループ選択] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 新しいグループを反転表示にします。 ▶ [選択] をクリックします。 <p>システムからの応答 反転表示したグループが選択され、[アウトバウンド関係] ダイアログ ボックスに戻ります。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
アウトバウンド インターチェンジの選択	
1	<p>[アウトバウンド関係]ダイアログ ボックスで、[インターチェンジ]をクリックして既存のインターチェンジのリストを表示します。</p> <p>システムからの応答 [アウトバウンド インターチェンジ選択]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<p>必要なインターチェンジが、[インターチェンジ]リストに表示されているかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 表示されている場合は、インターチェンジ (グループを使用しない場合は <none>) を選択して [選択] をクリックします。この表の、「アウトバウンド関係のまとめ」のセクションに進みます。 <p>システムからの応答 反転表示したインターチェンジが選択され、[アウトバウンド関係]ダイアログ ボックスに戻ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 表示されていない場合は、ステップ 3 に進んでインターチェンジを作成します。
3	<p>[アウトバウンド インターチェンジ選択]ダイアログ ボックスで、[新規作成] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [アウトバウンド インターチェンジ登録]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
4	<p>[説明] ボックスに、インターチェンジの説明を入力します。</p>
5	<p>[インターチェンジ ID] ボックスに、指定しているインターチェンジの ID を入力します。</p> <p>メモ 各種のドキュメントでどのインターチェンジ ID を使用する必要があるかは、EDI スタンドアードによって定義されています。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
6	<p>インターチェンジの処理についてより複雑な要件を設定する場合は、[詳細] をクリックしてインターチェンジ設定オプションをすべて表示します。</p> <p>システムからの応答 [アウトバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスが拡張されます。</p> <p>推奨事項 [インターチェンジ トランスレーション オブジェクト] および [受信確認 トランスレーション オブジェクト] リスト内の トランスレーション オブジェクトは、特に理由がない限り変更しないようにしてください。</p>
7	<p>既定のメールボックスと E メール アドレスを使用するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 使用する場合は、ステップ 9 に進みます。 ▶ 使用しない場合は、次のステップに進みます。
8	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [既定のメールボックス] リスト ボックスから適切なメールボックスを選択するか、 ▶ [メールボックスの新規作成] をクリックして、新しいメールボックスを作成します。 <p>メモ メールボックスの作成の詳細については、『コミュニケーションズ ユーザー ガイド』を参照してください。</p>
9	<p>[エンベロープ] をクリックして、インターチェンジ セグメントの生成に使用するパラメータを設定します。</p> <p>システムからの応答 次に表示されるアウトバウンド インターチェンジ ダイアログ ボックスは、[アウトバウンド関係] ダイアログ ボックスで選択したスタンダードによって異なります。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [アウトバウンド ISA エンベロープ] ▶ [アウトバウンド ICS エンベロープ] ▶ [アウトバウンド BG エンベロープ] ▶ [アウトバウンド UNB エンベロープ] ▶ [アウトバウンド UNA エンベロープ] ▶ [アウトバウンド STX エンベロープ] ▶ [アウトバウンド エンベロープ PIP の開始] <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
10	エンベロープを設定するダイアログ ボックスで必要なパラメータを設定したら、[保存] をクリックして情報を格納し、[アウトバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスに戻ります。
11	[アウトバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスで [保存] をクリックして情報を格納し、[アウトバウンド インターチェンジ選択] ダイアログ ボックスに戻ります。
12	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 新しいインターチェンジを反転表示にします。 ▶ [選択] をクリックします。 <p>システムからの応答 反転表示したインターチェンジが選択され、[アウトバウンド 関係] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>
アウトバウンド関係のまとめ	
1	[アウトバウンド 関係] ダイアログ ボックスで、[保存] をクリックしてアウトバウンド関係を保存します。
2	[終了] をクリックして [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスに戻ります。

パートナーの定義の編集と削除

はじめに

パートナーの定義には、パートナーについての基本プロフィール情報が含まれています。これらの情報は、パートナーのレコードの残り部分に関連付けられています。[パートナー エディタ] ダイアログ ボックスを使用して、パートナーの定義を編集したり削除したりできます。

パートナー プロフィールの編集

パートナー プロフィールを編集するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[ツール] メニューから、[パートナー エディタ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [パートナーの選択] リスト ボックスから編集するパートナーを選択します。 ▶ [編集] をクリックします。 <p>システムからの応答 そのパートナーの [パートナーの定義 (新規作成 / 編集)] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 必要な変更を行います。 ▶ [保存] をクリックします。 <p>システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスに戻ります。</p> <p>メモ パートナー関係のほかの部分 (インバウンド関係、アウトバウンド関係など) を編集することもできます。この場合は、[パートナー エディタ] ダイアログ ボックスの適切なボタン ([インバウンド] または [アウトバウンド]) をクリックします。</p> <p>編集不可になっているボックス (関係の "キー") を編集することはできません。この場合は、そのパートナーのインバウンド関係またはアウトバウンド関係を新たに作成する必要があります。</p> <p>参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 新しいインバウンド関係の作成については、「新しいインバウンド関係の作成方法」を参照してください。 ▶ 新しいアウトバウンド関係の作成については、「新しいアウトバウンド関係の作成方法」を参照してください。

(次のページへ続く)

**パートナー
プロファイルの削除**

パートナー プロファイルを削除するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[ツール] メニューから、[パートナー エディタ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [パートナーの選択] リスト ボックスから編集するパートナーを選択します。 ▶ [削除] をクリックします。 <p>システムからの応答 削除を確認するメッセージが表示されます。</p> <p>注意 パートナー関係を削除すると、そのパートナーに関連付けられたドキュメントおよびインターチェンジも削除されます。</p> <p>削除しようとするパートナーのドキュメントまたはインターチェンジが存在している場合、実際に削除される前に警告メッセージが表示されます。</p>
3	<p>選択したパートナー プロファイルを削除するには、[はい] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 パートナー プロファイルと、これに関連付けられたすべてのレコードが削除されます。</p>

パートナー プロファイルのルーティング

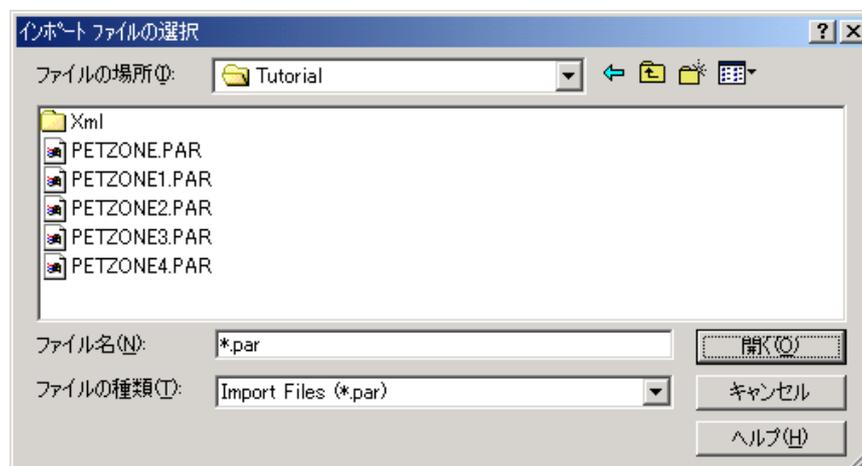
[インポート ファイルの選択] ダイアログ ボックス

はじめに

[インポート ファイルの選択] ダイアログ ボックスを使用すると、パートナーをシステムにインポートできます。

図

次の図に、[インポート ファイルの選択] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

次の表に、[インポート ファイルの選択] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
場所	現在のフォルダが表示されます。
ファイル名	インポートするファイルの名前が表示されます。
ファイルの種類	ファイルの種類が表示されます。 メモ パートナーの既定ファイル拡張子は .PAR です。
開く	選択したパートナー ファイルのインポート処理を開始します。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
キャンセル	操作を取り消してダイアログ ボックスを終了します。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。

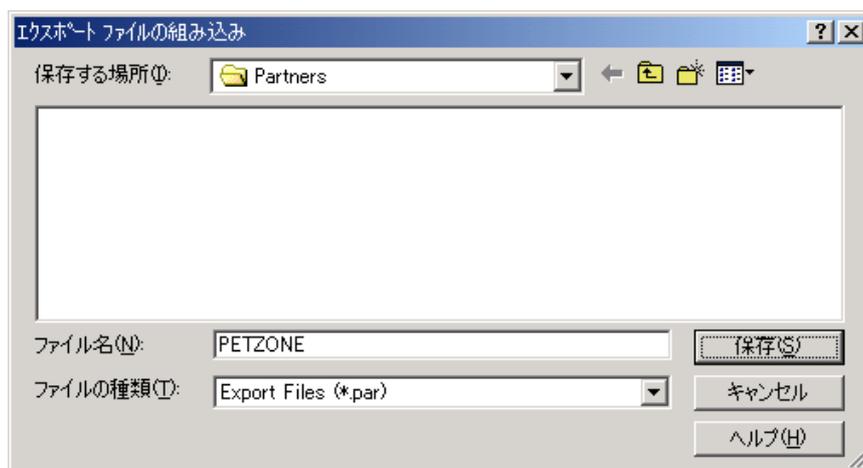
[エクスポート ファイルの組み込み] ダイアログ ボックス

はじめに

[エクスポート ファイルの組み込み] ダイアログ ボックスを使うと、パートナー エクスポート ファイル名を指定してエクスポート処理を開始できます。

図

次の図に、[エクスポート ファイルの組み込み] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

次の表に、[エクスポート ファイルの組み込み] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
保存する場所	現在のフォルダが表示されます。
ファイル名	<p>エクスポートするファイルの名前が表示されます。</p> <p>メモ [パートナー名] フィールドは、ファイルの名前を生成するために使用されます。Windows 用に予約された文字 (/、\、:、*、?、"、<、>、 など) が [パートナー名] に使用された場合、ファイル名にはそれらの文字が使われず空白スペースに置き換えられます (名前の中にある該当文字 1 文字につき、空白スペースが 1 つ挿入されます)。</p> <p>例 [パートナー名] が「AB/CD-TEST」の場合、ファイル名は「AB CD TEST.par」となります。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
ファイルの種類	ファイルの種類が表示されます。 メモ パートナーの既定ファイル拡張子は .PAR です。
保存	エクスポート処理を開始します。
キャンセル	選択を行わずにダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。

[パートナーのコピー] ダイアログ ボックス

はじめに

パートナーのコピー機能を使って、パートナーを選択しコピーすることができます。パートナーをコピーした後、このダイアログ ボックスを使ってパートナーの定義やコピーされたパートナーのその他の識別ボックスを変更することができます。

メモ

コピーする前にパートナープロファイルをエクスポートする必要があります。詳細については、「[パートナープロファイルのエクスポート方法](#)」を参照してください。パートナープロファイルで使用している EDI スタンドアードがわからない場合には、そのプロファイルをチェックしてその情報を取得してから、エクスポートとコピーを行ってください。



次の図に、[パートナーのコピー] ダイアログ ボックスを示します。

Group Receiver Qualifier(G):		EDIFACT 又は UNG のみ
Group Receiver ID(Y):		ANSI/EDIFACT/UCS/TDCC
Interchange Receiver Qualifier(Q):		ANSI/EDIFACT/UCS/TDCC
Interchange Receiver ID(T):		ANSI/EDIFACT/UCS/TDCC
Interchange Communication ID(Q):		UCS
Interchange Password(W):		UCS
Recipient Code(O):		Tradacoms
Recipient Name(R):		Tradacoms
Receiver DUNS+4(U):		RosettaNet

(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、[パートナーのコピー]ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
プロファイル ID	選択したパートナーの一意の識別子を指定します。
名前	パートナーの一意の名前を指定します。 メモ この名前がパートナー選択リストに表示されるので、なるべくそのまま説明になるような名前にします。
EDI コード	このパートナーの EDI 識別子を指定します。この値は、インバウンド処理の際に正しいトレーディング パートナーの定義を選択するために使用されます。
アプリケーションコード	このパートナーの識別に使用するアプリケーション コードを指定します。この値は、アウトバウンド インポート処理の際に正しいトレーディング パートナーの定義を選択するために使用されます。
既定のメールボックス	このパートナーの識別に使用するメールボックスを指定します。 参照 詳細については、『コミュニケーションズ ユーザー ガイド』を参照してください。
パートナーの選択	[インポートファイルの選択]ダイアログ ボックス が表示され、コピーするパートナー プロファイルを選択できます。
保存	変更した情報が保存されます。
クリア	ダイアログ ボックスの情報をクリアします。
終了	[パートナーのコピー]ダイアログ ボックスを終了します。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
Group Receiver Qualifier	<p>UNG グループ ヘッダー上に置かれるときのパートナーの修飾子を定義します。修飾子は EDI スタンドによって定義済みです。コピーしたパートナー プロファイルで EDIFACT または ODETTE スタンドを使っている場合には、このボックスへの入力が必要です。入力されていない場合は、コピーされたパートナー プロファイルのエンベロープ情報からこのボックスが取り出されます。</p> <p>メモ このボックスは、EDIFACT および ODETTE スタンドでは必須です。</p>
Group Receiver ID	<p>このトレーディング パートナーのグループ ID を定義します。コピーしたパートナー プロファイルで ANSI、EDIFACT、ODETTE、UCS、または TDCC スタンドを使っている場合には、このボックスへの入力が必要です。入力されていない場合は、コピーされたパートナー プロファイルのエンベロープ情報からこのボックスが取り出されます。</p> <p>メモ このボックスは、ANSI、EDIFACT、ODETTE、UCS、および TDCC スタンドでは必須です。最小長 1 で、最大長 15 です。</p>
Interchange Receiver Qualifier	<p>インターチェンジ ヘッダー上に置かれるときのトレーディング パートナーの修飾子を定義します。修飾子は EDI スタンドによって定義済みです。コピーしたパートナー プロファイルで ANSI、EDIFACT、ODETTE、UCS、または TDCC スタンドを使っている場合には、このボックスへの入力が必要です。入力されていない場合は、コピーされたパートナー プロファイルのエンベロープ情報からこのボックスが取り出されます。</p> <p>メモ このボックスは、ANSI、EDIFACT、ODETTE、UCS、および TDCC スタンドでは必須です。最小長 1 で、最大長 4 です。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
Interchange Receiver ID	<p>このトレーディング パートナーのインターチェンジ ID を定義します。コピーしたパートナー プロファイルで ANSI、EDIFACT、ODETTE、UCS、または TDCC スタンドを使用している場合には、このボックスへの入力が必要です。入力されていない場合は、コピーされたパートナー プロファイルのエンベロープ情報からこのボックスが取り出されます。</p> <p>メモ このボックスは、ANSI、EDIFACT、ODETTE、UCS、および TDCC スタンドでは必須です。最小長 1 で、最大長 15 です。</p>
Interchange Communication ID	<p>BG コミュニケーション識別子を定義します。この ID は BG インターチェンジ ヘッダー上に表示されます。コピーしたパートナー プロファイルで UCS スタンドを使用している場合には、このボックスへの入力が必要です。入力されていない場合は、コピーされたパートナー プロファイルのエンベロープ情報からこのボックスが取り出されます。</p> <p>メモ このボックスは USC スタンドでは必須です。</p>
Interchange Password	<p>自社とトレーディング パートナーとの間で取り決めたパスワードを定義します。このパスワードは BG インターチェンジ ヘッダー上に表示されます。コピーしたパートナー プロファイルで UCS スタンドを使用している場合には、このボックスへの入力が必要です。入力されていない場合は、コピーされたパートナー プロファイルのエンベロープ情報からこのボックスが取り出されます。</p> <p>メモ このボックスは USC スタンドでは必須です。</p>
Recipient Code	<p>自社とトレーディング パートナーとの間で合意しているコードを定義します。コピーしたパートナー プロファイルで TRADACOMS スタンドを使用している場合には、このボックスへの入力が必要です。入力されていない場合は、コピーされたパートナー プロファイルのエンベロープ情報からこのボックスが取り出されます。</p> <p>メモ [Recipient Code] は、[Recipient Name] ボックスに入力していない場合に必須です。このボックスは TRADACOMS スタンドでは必須です。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
Recipient Name	<p>このパートナーの名前を定義します。コピーしたパートナープロファイルで TRADACOMS スタンドードを使っている場合には、このボックスへの入力が必要です。入力されていない場合は、コピーされたパートナープロファイルのエンベロープ情報からこのボックスが取り出されます。</p> <p>メモ [Recipient Name] は、[Recipient Code] ボックスに入力していない場合に必須です。このボックスは TRADACOMS スタンドードでは必須です。</p>
Receiver:DUNS+4	<p>ドキュメントを受信しているパートナーの DUNS 番号を指定します。</p> <p>メモ この値は必須です。</p>

パートナー プロファイルのインポート方法

はじめに

パートナー プロファイルでは、インバウンド データおよびアウトバウンド データの処理と構造を制御するパラメータを定義します。結果として、パートナー プロファイルは非常に複雑なものになり、かなりの数のパラメータを定義しなければならない場合もあります。

この作業を簡素化するため、Gentran:Server には、パートナーの詳細をファイルからインポートするためのパートナー インポート機能が用意されています。パートナーの詳細ファイルには、別の Gentran:Server システムからエクスポートしたパートナー プロファイルを使用できます。

また、インポート機能を使って、既存のパートナーの情報を更新することもできます。既存のパートナー プロファイルに情報をインポートすることにより、新しい取引関係を追加することができます。この際、既存の関係は変更されません。

メモ

パートナー プロファイルに関連付けられているテーブル (クロスリファレンス、照合、または所在地) もインポートされます。

参照

詳細については、『管理 ガイド』の付録「[パートナー ファイルの配置](#)」を参照してください。

始める前に

パートナー プロファイルをインポートする前に、そのパートナーのメールボックスを作成する必要があります。メールボックスの作成については、『コミュニケーションズ ユーザー ガイド』を参照してください。

(次のページへ続く)

手順

パートナー プロファイルをインポートするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[ツール] メニューから、[パートナー エディタ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 <u>[パートナー エディタ] ダイアログ ボックス</u>が表示されます。</p>
2	<p>[インポート] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 <u>[インポート ファイルの選択] ダイアログ ボックス</u>が表示されます。</p>
3	<p>以下のいずれかの方法で、パートナー ファイルの場所を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [ファイルの場所] リスト ボックスで選択する。または、 ▶ [ファイル名] ボックスに入力する。
4	<p>[開く] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [インポート] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p>メモ このダイアログ ボックスでは、このトレーディング パートナーが正しいかどうかを検証できます。</p>
5	<p>[保存] をクリックして次に進みます。</p>
6	<p>追加のパートナー情報の入力を指示するメッセージが表示されたら、情報を入力して [保存] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 パートナーの詳細 (まだシステム上に存在していない場合) と、トランスレーション オブジェクトが存在する関係がインポートされます。このプロセスでは、適切な [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスが表示され、必要な追加情報の入力が指示されます。サイトに関する情報が必要な場合は、ダイアログ ボックスが表示されます。通常は、アウトバウンド EDI エンベロープの生成に使用する EDI 識別子によって制限されます。[パートナー エディタ] ダイアログ ボックスは、必要な情報がすべて入力されるまで表示されます。</p> <p>インポートが完了すると、[インポート処理は完了しました。警告やエラーに注意してください。] というメッセージが表示されます。[OK] をクリックして [インポート] ダイアログ ボックスに戻ります。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
7	[OK] をクリックして [インポート] ダイアログ ボックスに戻ります。
8	[終了] をクリックして [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスに戻ります。

パートナー プロファイルのエクスポート方法

はじめに

Gentran:Server には、既存のパートナーの詳細をファイルにエクスポートする機能も用意されています。パートナーをフロッピー ディスクにエクスポートして、パートナー システムのバックアップとして使用することもできます。

メモ

パートナー プロファイルに関連付けられているテーブル (クロスリファレンス、照合、または所在地) もエクスポートされます。

参照

詳細については、『管理 ガイド』の付録「[パートナー ファイルの配置](#)」を参照してください。

手順

パートナー プロファイルをエクスポートするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[ツール] メニューから、[パートナー エディタ] を選択します。 システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックス が表示されます。
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ パートナーを選択します。 ▶ [エクスポート] をクリックします。 システムからの応答 [エクスポート ファイルの組み込み] ダイアログ ボックス が表示されます。
3	以下のいずれかの方法で、エクスポート ファイルの名前を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ [ファイルの場所] リスト ボックスで選択する。または、 ▶ [ファイル名] ボックスに入力する。 メモ パートナーの名前および .PAR 拡張子をもとに、エクスポート ファイルの名前を指定するよう指示されます。
4	[保存] をクリックして、パートナーをエクスポートします。

パートナー プロファイルのインポート方法

はじめに

パートナーのコピー機能を使用すると、パートナーを選択してコピーできます。つまり、類似のパートナー プロファイルであれば、一から入力し直す必要はありません。既存のプロファイルのコピーすれば、一意のパートナーの定義とキーとなるエンベロープ情報を入力するだけです。

パートナーのコピー機能は、取引関係が類似しているパートナーを簡単に作成できるように設計されています。

メモ

コピーする前にパートナー プロファイルをエクスポートする必要があります。パートナー プロファイルで使用している EDI スタンドアードがわからない場合には、そのプロファイルをチェックしてその情報を取得してから、エクスポートとコピーを行ってください。

参照

詳細については、「[パートナー プロファイルのエクスポート方法](#)」を参照してください。

手順

パートナー プロファイルのコピーするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[ツール]メニューから、[パートナー エディタ]を選択します。 システムからの応答 [パートナー エディタ]ダイアログ ボックス が表示されます。
2	[コピー]をクリックします。 システムからの応答 [パートナーのコピー]ダイアログ ボックス が表示されます。
3	[パートナーの選択]をクリックします。 システムからの応答 [インポート ファイルの選択]ダイアログ ボックス が表示され ます。
4	以下のいずれかの方法で、コピーするファイルを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ [ファイルの場所]リスト ボックスで選択する。または、 ▶ [ファイル名]ボックスに入力する。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
5	<p>[開く] をクリックして、そのパートナーをコピーします。</p> <p>メモ モデル パート ナー プロファイルの名前は、[パート ナーのコピー] ダイアログ ボックスのタイトル バーに表示されます。エクスポートされたパートナーの既定のファイル拡張子は ".PAR" です。</p>
6	<p>[パートナーのコピー] ダイアログ ボックスの [プロファイル ID] ボックスに、一意のプロファイル ID を入力します。</p>
7	<p>[名前] ボックスにパートナー名を入力します。</p>
8	<p>[EDI コード] ボックスに、このパートナーの EDI 識別子を入力します。</p> <p>メモ この識別子は、インバウンド処理の際のパートナーの選択に使用されます。</p>
9	<p>必要に応じて、このパートナーを識別するためのアプリケーションコードを [アプリケーションコード] ボックスに入力します。</p> <p>メモ アプリケーションコードは、アウトバウンドのインポート処理の際、パートナーの選択に使用されます。</p>
10	<p>[既定のメールボックス] リスト ボックスから適切なメールボックスを選択します。</p> <p>メモ メールボックスの作成の詳細については、『コミュニケーションズ ユーザー ガイド』を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
11	<p>ダイアログ ボックスの [エンベロープ] セクションの適切なボックスに情報を入力します。</p> <p>メモ コピーしたパートナー プロファイルで使用しているスタンダードで、必要とされるボックスのみを入力するようにします。スタンダードは、各ボックスの右に表示されています。</p> <p>コピーしたパートナー プロファイルでスタンダードを使用している場合は、そのスタンダードで必要となるすべてのエンベロープボックスを入力する必要があります。そのスタンダードで必要となるボックスが入力されていない場合は、コピーしたパートナー プロファイルのエンベロープから、必要な情報が自動的に取得されます。</p> <p>例 たとえば、コピーしたパートナー プロファイルで UCS スタンダードを使用している場合は、特に [Interchange Communication ID] ボックスを入力する必要があります。</p>
12	<p>パートナーの情報をすべて入力したら、[保存] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 <u>[アウトバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックス</u>が表示されます。</p>
13	<p>既定のメールボックスを変更する必要があるかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 変更する必要がある場合は、[既定のメールボックス] リストボックスから適切なメールボックスを選択するか、[メールボックスの新規作成] をクリックして新しいメールボックスを作成し、続いて [保存] をクリックします。 ▶ 変更する必要がない場合は [保存] をクリックします。 <p>システムからの応答 コピー処理が正常に完了すると、そのことを通知するメッセージが表示されます。[OK] をクリックすると [パートナーのコピー] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>
14	<p>[終了] をクリックして [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>

パートナー テーブルの使い方

概要

はじめに

ファイルまたはドキュメント エディタ機能からシステムにドキュメントが登録された場合には、トランスレーション処理によりテーブルを設定して、パートナー データベースの情報を使用することができます。

テーブルの使用

[パートナー エディタ]では内部システム パートナー (内部システム ユーザー) が使用できるため、システムに対して自社を定義付けできます。テーブルは、トレーディング パートナーあるいは特別なシステム パートナーとともに使用するよう設定できます。

- ▶ 特定のパートナーに基づいて作成されたテーブルは、そのパートナーに対してのみ有効です。
- ▶ 内部システム ユーザーに基づいて設定したテーブルは、全体で使用できます。

テーブルの使い方

パートナー テーブルまたはシステム パートナー テーブルの使用は、設計時にトランスレーション オブジェクト内で定義します。これにより、名前や住所などのよく使用する項目を、入力し直すことなくアウトバウンド データに挿入することができます。また、lookup テーブルおよびクロスリファレンス テーブルを使用して、入力したデータまたはインバウンドで受信したデータを補足したり変換したりすることもできます。

Gentran:Server では、クロスリファレンス テーブルおよび lookup テーブルは、新たに作成したり、システムから既存のテーブルをインポートおよびエクスポートすることもできます。

メモ

- ▶ Gentran:Server のパートナー テーブルのインポートとエクスポートだけができます。
- ▶ テーブルが使用できるのは、特定のテーブルにアクセスできるトランスレーション オブジェクトが作成されている場合のみです。

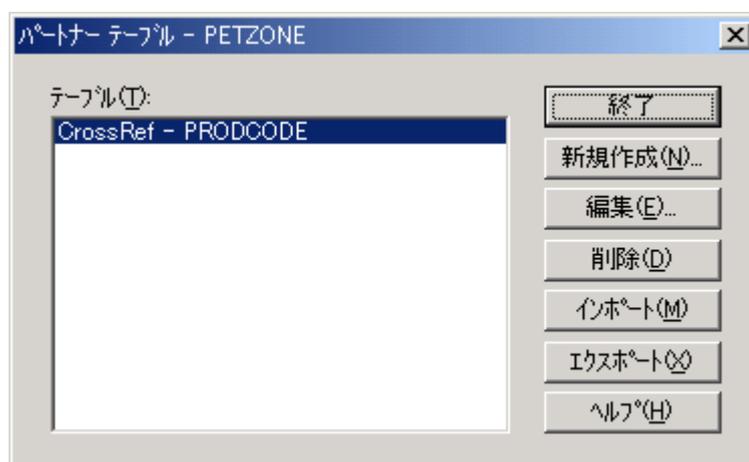
[パートナー テーブル] ダイアログ ボックス

はじめに

[パートナー テーブル] ダイアログ ボックスを使うと、クロスリファレンスまたは lookup テーブルを作成、編集、削除できます。テーブルは、そのデータを含むように指定されているトランスレーション オブジェクトでしか使用されません。Sterling Commerce からトランスレーション オブジェクトを受け取った場合には、そのトランスレーション オブジェクトとともに使用するテーブルを作成する必要があるかどうか通知されます。

図

次の図に、[パートナー テーブル] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

次の表に、[パートナー テーブル] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
テーブル	現在定義されているパートナー テーブルがすべて表示されます。
終了	[パートナー テーブル] ダイアログ ボックスを終了します。
新規作成	[新しいテーブル] ダイアログ ボックス が表示され、新しいテーブルを作成できます。
編集	[クロスリファレンス選択] ダイアログ ボックス または [照合の選択] ダイアログ ボックス が表示され、選択したテーブルを編集できます。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
削除	選択したパートナー テーブルがシステムから削除されます。
インポート	[テーブル インポート ファイルの選択] ダイアログ ボックスが表示され、パートナー テーブルがインポートできます。
エクスポート	[テーブル エクスポート ファイルの組み込み] ダイアログ ボックスが表示され、パートナー テーブルがエクスポートできます。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。

[新しいテーブル] ダイアログ ボックス

はじめに

[新しいテーブル] ダイアログ ボックスを使うと、新しいクロスリファレンスまたは lookup テーブルを作成できます。

図

次の図に、[新しいテーブル] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

次の表に、[新しいテーブル] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
テーブル名	テーブルの名前が入ります。 メモ テーブル名は、そのテーブルを必要とするトランスレーション オブジェクトで使用した名前と同じである必要があります。データベースが大文字と小文字を区別する場合、スタンダードルールや拡張ルールを使ってテーブルを参照する時は、テーブル名の大文字と小文字を正確に入力してください。 参照 スタンダードルールと拡張ルールに関する詳細は、『アプリケーション インテグレーション ユーザー ガイド』を参照してください。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
テーブルの種類	テーブルの種類を指定します。有効な値は次のとおりです。 [クロスリファレンス] アウトバウンド処理の際に自社の値をトレーディング パートナーの値に変換したり、インバウンド処理の際にトレーディング パートナーの値を自社の値に変換したりするのに使用されます。 [照合] インバウンド データまたはアウトバウンド データの中の値を検索する場合に使用します。
保存	変更した情報が保存されます。
終了	【新しいテーブル】ダイアログ ボックスが閉じます。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。

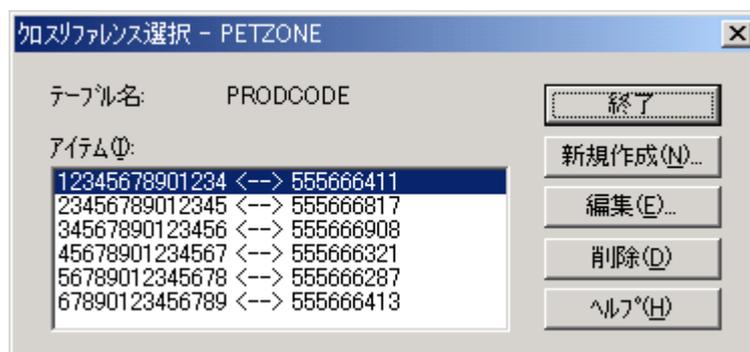
[クロスリファレンス選択]ダイアログボックス

はじめに

[クロスリファレンス選択]ダイアログボックスには、すべてのクロスリファレンスパートナーテーブルが含まれます。

図

次の図に、[クロスリファレンス選択]ダイアログボックスを示します。



各部と機能

次の表に、[クロスリファレンス選択]ダイアログボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
アイテム	テーブルアイテムの一覧が表示されます。
終了	[クロスリファレンス選択]ダイアログボックスを閉じます。
新規作成	[クロスリファレンスの登録]ダイアログボックス が表示され、新しいテーブルアイテムを作成できます。
編集	[クロスリファレンスの登録]ダイアログボックス が表示され、選択したテーブルアイテムを編集できます。
削除	選択したテーブルアイテムが削除されます。
ヘルプ	状況依存ヘルプが表示されます。

[クロスリファレンスの登録]ダイアログボックス

はじめに

[クロスリファレンスの登録]ダイアログボックスを使用すると、新しいテーブルアイテムを作成できます。

図

次の図に、[クロスリファレンスの登録]ダイアログボックスを示します。

各部と機能

次の表に、[クロスリファレンスの登録]ダイアログボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
自社の値	パートナーのデータ値に対応する自社のデータ値が入ります。
パートナーの値	自社のデータ値に対応するパートナーのデータ値が入ります。
説明	コードの説明が入ります。
参照データ	特定のコード値と関連付けられているときにマップできる値が、最高4つまで入ります。 メモ これらのボックスは、現在 Gentran:Server で使用されていません。

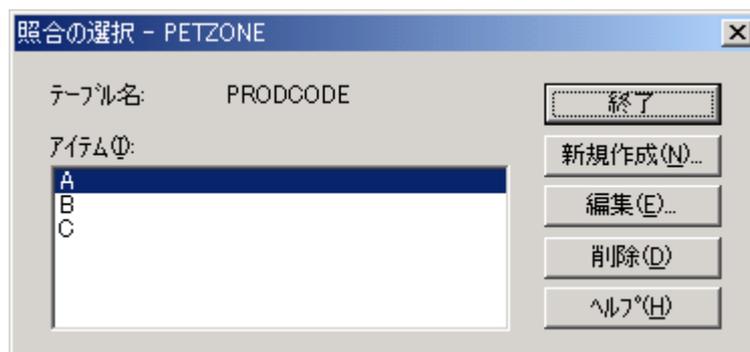
[照合の選択]ダイアログボックス

はじめに

[照合の選択]ダイアログボックスには、すべての照合パートナーテーブルが含まれます。

図

次の図に、[照合の選択]ダイアログボックスを示します。



各部と機能

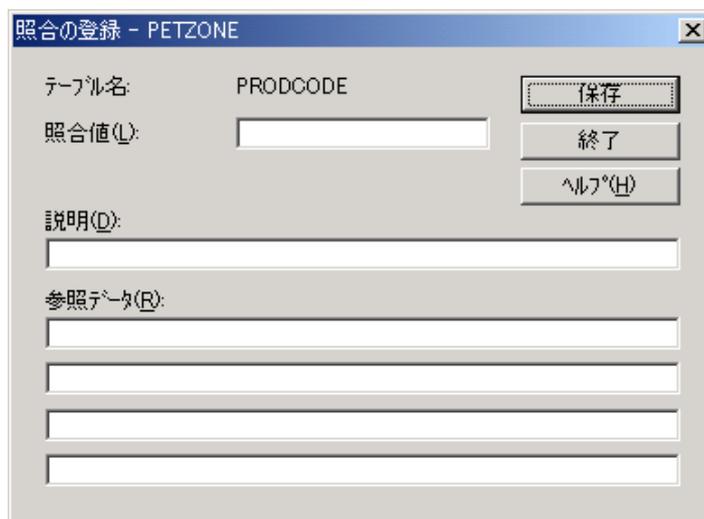
次の表に、[照合の選択]ダイアログボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
アイテム	テーブルアイテムの一覧が表示されます。
終了	[照合の選択]ダイアログボックスを閉じます。
新規作成	[照合の登録]ダイアログボックスが表示され、新しいテーブルアイテムを作成できます。
編集	[照合の登録]ダイアログボックスが表示され、選択したテーブルアイテムを編集できます。
削除	選択したテーブルアイテムが削除されます。
ヘルプ	状況依存ヘルプが表示されます。

[照合の登録] ダイアログ ボックス

はじめに [照合の登録] ダイアログ ボックスを使用すると、新しいテーブル アイテムを作成できます。

図 次の図に、[照合の選択] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能 次の表に、[照合の登録] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
照合値	インバウンドまたはアウトバウンド処理の際にデータの中に見つかる (照合される) 値が入ります。
説明	コードの説明が入ります。
参照データ	特定のコード値と関連付けられているときにマップできる値が、最高4つまで入ります。 メモ これらのボックスは、現在 Gentran:Server で使用されていません。

[テーブル エクスポート ファイルの組み込み] ダイアログ ボックス

はじめに

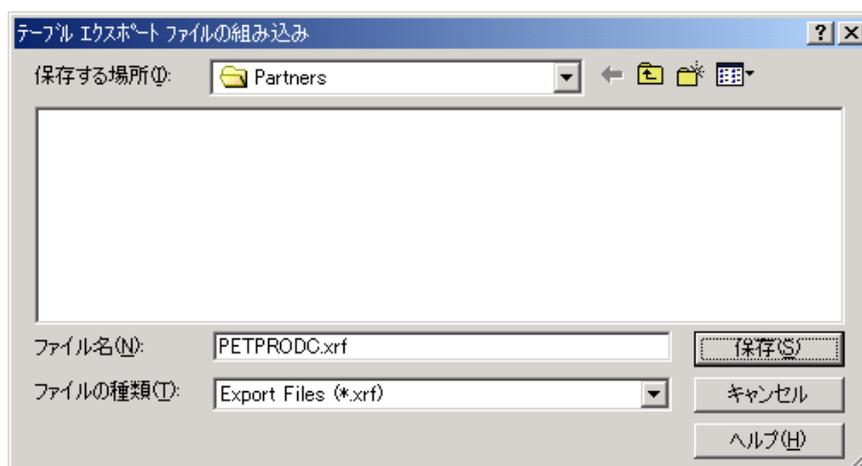
"テーブル エクスポート" 機能を使って、パートナーのクロスリファレンスおよび lookup テーブルをシーケンシャル ファイルに書き出すことができます。またこれにより、トレーディング パートナー 1 社のテーブルを定義し、別のパートナー プロファイルにそのテーブルをコピーすることができます。

メモ

- ▶ Gentran:Server のパートナー テーブルのエクスポートだけできます。
- ▶ クロスリファレンス テーブルの既定のファイル拡張子は .XRF です。lookup テーブルの既定のファイル拡張子は .LKP です。

図

次の図に、[テーブル エクスポート ファイルの組み込み] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

次の表に、[テーブル エクスポート ファイルの組み込み] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
保存する場所	現在のフォルダが表示されます。
ファイル名	エクスポートするファイルの名前が表示されます。

(次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
ファイルの種類	ファイルの種類が表示されます。 メモ クロスリファレンス テーブルの規定ファイル拡張子は .XRF、lookup テーブルの規定ファイル拡張子は .LKP です。
保存	テーブルのエクスポート処理を開始します。
キャンセル	選択を行わずにダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。

[テーブル インポート ファイルの選択] ダイアログ ボックス

はじめに

" テーブルのインポート " 機能を使用すると、パートナーのクロスリファレンス テーブルおよび lookup テーブルをシーケンシャル ファイルからインポートすることができます。これにより、ほかのパートナーのプロファイルについて作成したテーブルをインポートし、Gentran:Server のほかのユーザーとテーブルを共有し、エクスポート ファイル配置でデータを書式設定することにより、Gentran:Server の外部でテーブルを作成することができます。

メモ

- ▶ Gentran:Server のパートナー テーブルのインポートだけです。
- ▶ クロスリファレンス テーブルの既定のファイル拡張子は .XRF です。lookup テーブルの既定のファイル拡張子は .LKP です。

図

次の図に、[テーブル インポート ファイルの選択] ダイアログ ボックスを示します。



(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、[テーブル インポート ファイルの選択] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
ファイルの場所	現在のフォルダが表示されます。
ファイル名	インポートするファイルの名前が表示されます。
ファイルの種類	ファイルの種類が表示されます。 メモ クロスリファレンス テーブルの規定ファイル拡張子は .XRF、lookup テーブルの規定ファイル拡張子は .LKP です。
開く	選択したパートナー テーブル ファイルのインポート処理を開始します。
キャンセル	操作を取り消してダイアログ ボックスを終了します。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。

テーブルの作成方法

手順

パートナー テーブルを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[ツール] メニューから、[パートナー エディタ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ クロスリファレンス テーブルまたは lookup テーブルを作成するパートナー プロファイルまたはシステム パートナー (内部システム ユーザー) を選択します。 ▶ [テーブル] をクリックします。 <p>システムからの応答 [パートナー テーブル] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
3	<p>[新規作成] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [新しいテーブル] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
4	<p>[テーブル名] ボックスに、一意のテーブル名を入力します。</p> <p>メモ テーブル名は、そのテーブルを必要とするトランスレーション オブジェクトで使用した名前と同じである必要があります。データベースが大文字と小文字を区別する場合、スタンダードルールや拡張ルールを使ってテーブルを参照する時は、テーブル名の<big>大文字と小文字</big>を正確に入力してください。</p> <p>参照 スタンダードルールと拡張ルールに関する詳細は、『アプリケーション インテグレーション ユーザー ガイド』を参照してください。</p>
5	<p>[テーブルの種類] として、[クロスリファレンス] または [照合] を選択します。</p>
6	<p>[保存] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 入力した情報が保存され、[クロスリファレンス 選択] ダイアログ ボックスまたは[照合の選択] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
7	<p>[新規作成] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [新しいテーブル] ダイアログ ボックスで選択したテーブルの種類に応じて、[クロスリファレンスの登録] ダイアログ ボックス または [照合の登録] ダイアログ ボックス が表示されます。</p>
8	<p>テーブル値を入力します。テーブル値としては、以下を入力できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ クロスリファレンスの場合は 2 つの値、lookup テーブルの場合は 1 つの値 ▶ 説明 ▶ その他の参照情報 <p>メモ 入力するデータをどのように使用するかは、トランスレーションオブジェクトがどのように定義されているかによって異なります。何が必要かが不明な場合は、トランスレーション オブジェクトの設計者に問い合わせてください。</p>
9	<p>1 つのテーブルレコードを入力するたびに [保存] をクリックして情報を保存してから、次のレコードの入力に移ります。</p>
10	<p>登録がすべて完了したら、[終了] をクリックして [クロスリファレンスの選択] (または [照合の選択]) ダイアログ ボックスに戻ります。</p>
11	<p>[終了] をクリックして [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>

テーブルの編集方法

手順

パートナー テーブルを編集するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[ツール]メニューから、[パートナー エディタ]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [パートナー エディタ]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ クロスリファレンス テーブルまたは lookup テーブルを編集するパートナー プロファイルまたはシステム パートナー (内部システム ユーザー) を選択します。 ▶ [テーブル]をクリックします。 <p>システムからの応答 [パートナー テーブル]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 修正するテーブルを選択します。 ▶ [編集]をクリックします。 <p>システムからの応答 テーブルの種類に応じて、[クロスリファレンス選択]ダイアログ ボックスまたは[照合の選択]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 修正するアイテムを選択します。 ▶ [編集]をクリックします。 <p>システムからの応答 テーブルの種類に応じて、[クロスリファレンスの登録]ダイアログ ボックスまたは[照合の登録]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
5	修正を加えます。
6	修正がすべて完了したら、[保存]をクリックして[クロスリファレンスの選択](または[照合の選択])ダイアログ ボックスに戻ります。
7	[終了]をクリックして[パートナー エディタ]ダイアログ ボックスに戻ります。

テーブル内のエントリの削除方法

手順

パートナー テーブル内のエントリを削除するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[ツール]メニューから、[パートナー エディタ]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [パートナー エディタ]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ テーブル エントリを削除するパートナー プロファイルまたはシステム パートナー (内部システム ユーザー) を選択します。 ▶ [テーブル]をクリックします。 <p>システムからの応答 [パートナー テーブル]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 修正するテーブルを選択します。 ▶ [編集]をクリックします。 <p>システムからの応答 テーブルの種類に応じて、[クロスリファレンス選択]ダイアログ ボックスまたは[照合の選択]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 修正するアイテムを選択します。 ▶ [削除]をクリックします。 <p>システムからの応答 削除を確認するダイアログ ボックスが表示されます。</p>
5	<p>[はい]をクリックして削除を実行し、[クロスリファレンス選択]または[照合の選択]ダイアログ ボックスに戻ります。</p>
6	<p>[終了]をクリックして[パートナー エディタ]ダイアログ ボックスに戻ります。</p>

テーブルの削除方法

手順

パートナー テーブルを削除するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[ツール] メニューから、[パートナー エディタ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ テーブルを削除するパートナー プロファイルを選択します。 ▶ [テーブル] をクリックします。 <p>システムからの応答 [パートナー テーブル] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 削除するテーブルを選択します。 ▶ [削除] をクリックします。 <p>システムからの応答 削除を確認するダイアログ ボックスが表示されます。</p>
4	<p>[はい] をクリックして削除を実行し、[パートナー エディタ] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>

パートナー テーブルのエクスポート方法

はじめに

"テーブルのエクスポート"機能を使用すると、パートナーのクロスリファレンス テーブルおよび lookup テーブルをシーケンシャル ファイルにエクスポートできます。これにより、あるトレーディング パートナーのテーブルを定義しておき、そのテーブルを別のパートナー プロファイルにコピーすることができます。

参照

詳細については、『管理 ガイド』の付録「[パートナー ファイルの配置](#)」を参照してください。

エクスポート ファイルの配置

通常、別のパートナー プロファイル用に作成したテーブルをエクスポートしてからインポートします。ただし、必要に応じて、エクスポート ファイルのデータを整形することによって、Gentran:Server の外部でテーブルを作成することもできます。

エクスポート ファイルは、フリーフォーマットの ASCII テキスト ファイルです。フィールドが可変長であるため、各フィールドを 16 進 01 で区切る (分割する) 必要があります。

メモ

ファイルの作成には、テキスト エディタ (メモ帳など) を使用します。照合エクスポート ファイルの既定のファイル拡張子は ".LKP" です。クロスリファレンス ファイルの既定のファイル拡張子は ".XRF" です。

lookup テーブルのフィールド

次の表に、lookup テーブルのフィールドをまとめます。必須フィールドは、アスタリスク (*) で示します。

フィールド	説明
PartnerKEY*	パートナーの一意の識別子
TableCode	lookup テーブルの場合は "L"
TableName*	テーブル選択リストに表示されるテーブル名。分かりやすい名前にします。
Item*	インバウンド処理またはアウトバウンド処理の際に、データ内で照合する値
説明	アイテムに関する簡単な説明
Text1、Text2、Text3、Text4	このテーブルを使用するトランスレーション オブジェクトで必要となる追加の参照情報

(次のページへ続く)

**エクスポート
ファイルの配置
(続き)**

クロスリファレンス テーブルのフィールド

次の表に、クロスリファレンス テーブルのフィールドをまとめます。必須フィールドは、アスタリスク (*) で示します。

フィールド	説明
PartnerKEY*	パートナーの一意の識別子
TableCode	クロスリファレンス テーブルの場合は "C"
TableName*	テーブル選択リストに表示されるテーブル名。 分かりやすい名前にします。
MyItem*	パート ナーのデータ 値に対応する 自社のデータ 値
PartnerItem*	自社のデータ 値に対応するパート ナーのデータ 値
説明	アイテムに関する簡単な説明
Text1、Text2、Text3、Text4	このテーブルを使用するトランスレーション オブジェクトで必要となる追加の参照情報

(次のページへ続く)

手順

パートナー テーブルをエクスポートするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[ツール] メニューから、[パートナー エディタ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 <u>[パートナー エディタ] ダイアログ ボックス</u>が表示されます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ クロスリファレンス テーブルまたは lookup テーブルをエクスポートするパートナー プロファイルまたはシステム パートナー (内部システム ユーザー) を選択します。 ▶ [テーブル] をクリックします。 <p>システムからの応答 <u>[パートナー テーブル] ダイアログ ボックス</u>が表示されます。</p>
3	<p>[エクスポート] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 <u>[テーブル エクスポート ファイルの組み込み] ダイアログ ボックス</u>が表示されます。</p>
4	<p>[保存する場所] ドロップダウン リスト ボックスで、エクスポート テーブル ファイルの場所を選択します。</p> <p>メモ Gentran:Server のパートナー テーブルのエクスポートだけです。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ▶ エクスポート ファイル名を、[ファイル名] ボックスに入力するか、 ▶ リスト ボックスから選択します。 <p>メモ クロスリファレンス テーブルの既定のファイル拡張子は .XRF です。lookup テーブルの既定のファイル拡張子は .LKP です。</p>
6	<p>[保存] をクリックして、エクスポート処理を開始します。</p> <p>メモ エクスポート処理が完了すると、情報ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
7	<p>[OK] をクリックして [パートナー テーブル] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>
8	<p>[終了] をクリックして [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>

テーブルのインポート方法

はじめに

テーブルのインポート機能を使用すると、パートナーのクロスリファレンステーブルおよび lookup テーブルをシーケンシャルファイルからインポートすることができます。これにより、別のパートナープロファイル用に作成したテーブルをインポートし、エクスポートファイルのデータを整形することによって、Gentran:Server の外部でテーブルを作成することができます。

参照

詳細については、『管理 ガイド』の付録「[パートナーファイルの配置](#)」を参照してください。

手順

パートナーテーブルをインポートするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[ツール]メニューから、[パートナー エディタ]を選択します。 システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックス が表示されます。
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ クロスリファレンス テーブルまたは lookup テーブルをインポートするパートナープロファイルまたはシステムパートナー (内部システム ユーザー) を選択します。 ▶ [テーブル] をクリックします。 システムからの応答 [パートナー テーブル] ダイアログ ボックス が表示されます。
3	[インポート] をクリックします。 システムからの応答 [テーブル インポート ファイルの選択] ダイアログ ボックス が表示されます。
4	[ファイルの場所] ドロップダウン リスト ボックスで、テーブルファイルの場所を選択します。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
5	<ul style="list-style-type: none"> ▶ インポート ファイル名を、[ファイル名] ボックスに入力するか、 ▶ リスト ボックスから選択します。 <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ Gentrans:Server のパートナー テーブルのインポートだけです。 ▶ クロスリファレンス テーブルの既定のファイル拡張子は .XRF です。lookup テーブルの既定のファイル拡張子は .LKP です。
6	<p>[開く] をクリックして、インポート処理を開始します。</p> <p>メモ エクスポート処理が完了すると、情報ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
7	<p>[OK] をクリックして [パートナー テーブル] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>
8	<p>[終了] をクリックして [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>

パートナー所在地の使い方

概要

はじめに

1つのパートナープロファイルに、複数の所在地テーブルが関連付けられている場合があります。所在地テーブルには、パートナーの住所および連絡先に関連する情報を格納できます。所在地テーブルには、さまざまな使用方法があります。所在地は、所在地キー(参照コード)の1つを使用して、トランスレーションオブジェクト内で参照されます。所在地が使用できるのは、特定の所在地にアクセスできるトランスレーションオブジェクトを使用している場合のみです。

例

たとえば、パートナーの店舗の住所、倉庫の住所、あるいは"請求先"の住所のリストが必要になることがあります。これら情報は、所在地テーブルに格納できます。

必要なパラメータ

次を指定するため、2つのパラメータを設定する必要があります。

- ▶ トレーディングパートナーの所在地の名前
- ▶ この所在地を識別するために使用する参照コード

これらのパラメータは、パートナー所在地の作成に使用します。

始める前に

パートナー所在地を設定するには、その前にパートナーの実装を計画するため、次の情報が必要となります。

- ▶ このパートナー所在地を表す一意の名前
- ▶ 所在地を示す少なくとも1つの参照コード

[所在地の選択] ダイアログ ボックス

はじめに

[所在地の選択] ダイアログ ボックスを使って、パートナー固有の名前や住所の情報を追加、編集、または削除できます。所在地は、そのデータを含むように指定されているトランスレーション オブジェクトでしか使用されません。

図

次の図に、[所在地の選択] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

次の表に、[所在地の選択] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
所在地	定義済みの所在地がすべて表示されます。
終了	[所在地の選択] ダイアログ ボックスを閉じます。
新規作成	[所在地の登録] ダイアログ ボックス が表示され、新しい所在地を作成できます。
編集	[所在地の登録] ダイアログ ボックス が表示され、選択した所在地を編集できます。
削除	選択した所在地がシステムから削除されます。
ヘルプ	状況依存ヘルプが表示されます。

[所在地の登録] ダイアログ ボックス

はじめに

[所在地の登録] ダイアログ ボックスにより、所在地情報を作成または編集できます。

図

次の図に、[所在地の登録] ダイアログ ボックスを示します。

各部と機能

次の表に、[所在地の登録] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
名前	このトレーディング パートナーの所在地の名前が入ります。この名前が所在地選択リストに表示されるので、その所在地を正確に表した名前にしなければなりません。 メモ このボックスは必須です。
参照コード 1	定義されている所在地を識別するための参照コード (たとえば DUNS 番号) を指定します。 メモ このボックスは必須です。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
参照コード 2	定義されている所在地を識別するための参照コード (たとえば DUNS 番号) を指定します。
担当者	担当者個人名が入ります。
住所 1 住所 2 住所 3	パートナーの会社住所が入ります。
市	パートナー所在地の市名が入ります。
都道府県	パートナー所在地の都道府県名が入ります。
郵便番号	パートナー所在地の郵便番号が入ります。
国	パートナー所在地の国名が入ります。
電話番号	パートナーの電話番号が入ります。
ファックス	パートナーのファックス番号が入ります。

パートナー所在地の作成方法

手順

パートナー所在地を作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[ツール] メニューから、[パートナー エディタ] を選択します。 システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	所在地を作成するパートナー プロファイルまたはシステム パートナー (内部システム ユーザー) を選択し、[所在地] をクリックします。 システムからの応答 [所在地の選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
3	[新規作成] をクリックします。 システムからの応答 [所在地の登録] ダイアログ ボックスが表示されます。
4	[名前] ボックスに、パートナー内でこの所在地を定義する一意の識別子を入力します。
5	[参照コード 1] ボックスに、定義する所在地の一意の識別子を入力します。 例 所在地の DUNS 番号
6	必要に応じて、その他のボックスに入力します。 メモ [参照コード 2] を使用する場合は、この識別子も一意である必要があります。
7	[保存] をクリックします。 システムからの応答 所在地情報が保存され、ブランクの [所在地の登録] ダイアログ ボックスが表示されます。
8	このパートナーの別の所在地を登録する場合は、必要に応じてステップ 4～7 を繰り返します。
9	[終了] をクリックして [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスに戻ります。

パートナー所在地の編集方法

手順

パートナー所在地を編集するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[ツール] メニューから、[パートナー エディタ] を選択します。 システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	所在地を作成するパートナー プロファイルまたはシステム パートナー (内部システム ユーザー) を選択し、[所在地] をクリックします。 システムからの応答 [所在地の選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
3	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [所在地] リスト ボックスから所在地を選択します。 ▶ [編集] をクリックします。 システムからの応答 [所在地の登録] ダイアログ ボックスが表示されます。
4	必要な変更を加えます。 メモ [参照コード 1] ボックスは必須です。
5	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 所在地情報を保存して [所在地の登録] ダイアログ ボックスに戻るには、[保存] をクリックします。 ▶ 変更内容を保存せずに [所在地の選択] ダイアログ ボックスに戻るには、[終了] をクリックします。
6	[終了] をクリックして [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスに戻ります。

パートナー所在地の削除方法

手順

パートナー所在地と、これに関連付けられたすべてのレコードを削除するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[ツール] メニューから、[パートナー エディタ] を選択します。 システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	所在地を作成するパートナー プロファイルまたはシステム パートナー (内部システム ユーザー) を選択し、[所在地] をクリックします。 システムからの応答 [所在地の選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
3	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [所在地] リスト ボックスから所在地を選択します。 ▶ [削除] をクリックします。 システムからの応答 削除を確認するダイアログ ボックスが表示されます。
4	[はい] をクリックして、削除を確定します。
5	[終了] をクリックして [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスに戻ります。

ドキュメントの使い方

目次

概要	3
▶ はじめに	3
ドキュメント ブラウザ	4
▶ ドキュメント ブラウザへのアクセス方法	4
▶ [イン ドキュメント]ブラウザ	7
▶ [? イン ドキュメント]ブラウザ	9
▶ [イン ドローワ]ブラウザ	11
▶ [ワークスペース]ブラウザ	13
▶ [アウト ドキュメント]ブラウザ	15
▶ [? アウト ドキュメント]ブラウザ	17
▶ [アウト ドローワ]ブラウザ	19
▶ [処理中]ブラウザ	21
関連のダイアログ ボックス	23
▶ [表示の選択]ダイアログ ボックス	23
▶ [印刷の選択]ダイアログ ボックス	25
▶ [エクスポート方法の選択]ダイアログ ボックス	27
▶ [ドキュメントをエクスポートするファイル] ダイアログ ボックス	29
▶ [インポートするアプリケーションファイル] ダイアログ ボックス	31
▶ [ドキュメントの検索]ダイアログ ボックス	33
▶ [フィルタ]ダイアログ ボックス	35
ドキュメントの作成と編集	39
▶ ドキュメントの作成方法	39
▶ ドキュメントの開き方と編集方法	43
ドキュメントの管理	47
▶ ドキュメントの表示方法	47
▶ 現在処理中のドキュメントの表示方法	51
▶ ドキュメント内の特定のテキストの検索方法	52
▶ ドキュメントの検索方法	56
▶ ドキュメントの並べ替え方法	57

▶ [アウト ドローワ]での状態によるドキュメントのフィルタ方法 .	58
▶ ドキュメントの削除方法	59
▶ ドキュメントの印刷方法	60
ドキュメントのルーティング	62
▶ ドキュメントの [イン ドローワ] への移動	62
▶ ドキュメントのコピー (再処理と再送)	63
▶ ドキュメントのポスト	64
▶ ドキュメントのアンポスト	65
▶ ドキュメントへの応答方法	66
▶ ドキュメントのインポート方法	68
▶ ドキュメントのエクスポート方法	70

概要

はじめに

本章の内容

この章では、Gentran:Server のドキュメント機能の使い方について、以下の項目に沿って説明します。

- ▶ ドキュメントの作成と編集
- ▶ ドキュメントの管理
- ▶ ドキュメントのルーティング

EDI ドキュメント

Gentran:Server では、EDI ドキュメントとそれに対応するアプリケーション データの関係をトラックできます。インポート処理の場合、処理の開始時にアプリケーション データの固定コピーがシステム内で作成されます。インバウンド (エクスポート) 処理の場合、ドキュメントに一意的識別子が割り当てられます。この識別子は、受信したドキュメントに関連するすべてのデータベースに反映されます。

参照

- ▶ ドキュメントのインポートについての詳細は、「[ドキュメントのインポート方法](#)」を参照してください。
- ▶ ドキュメントのエクスポートについての詳細は、「[ドキュメントのエクスポート方法](#)」を参照してください。
- ▶ Gentran:Server でのトラッキングについての詳細は、「[トラッキングの使い方](#)」を参照してください。

ドキュメント エディタ

[ドキュメント エディタ] は、Gentran:Server のデータ登録ツールとして機能します。このエディタを使用して、ドキュメントの作成、修正、表示を行うことができます。

メモ

[ドキュメント エディタ] を使用するには、システムで適切な画面入力トランスレーションオブジェクトを登録して、対応するアウトバウンド関係をパートナーについて設定する必要があります。

ドキュメント ブラウザ

ドキュメント ブラウザへのアクセス方法

はじめに

Gentran:Server では、次の3通りの方法でドキュメント ブラウザにアクセスできます。

- ▶ [デスク]を使用すると、[インドキュメント]、[? インドキュメント]、[ワークスペース]、[アウトドキュメント]、[? アウトドキュメント]、[インターチェンジ]、[インドローワ]、および[アウトドローワ]にアクセスできます。
- ▶ [メイン ツールバー]を使用すると、[インドキュメント]、[? インドキュメント]、[ワークスペース]、[アウトドキュメント]、[? アウトドキュメント]、[インターチェンジ]、[インドローワ]、[アウトドローワ]、および[送信キュー]にアクセスできます。
- ▶ [表示]メニューを使用すると、[インドキュメント]、[? インドキュメント]、[ワークスペース]、[アウトドキュメント]、[? アウトドキュメント]、[インターチェンジ]、[インドローワ]、[アウトドローワ]、および[送信キュー]にアクセスできます。

[概要]ダイアログボックス

上記3つの方法で、[インドキュメント]、[? インドキュメント]、[アウトドキュメント]、[? アウトドキュメント]、[インドローワ]、または[アウトドローワ]の各ブラウザを選択すると、そのブラウザの概要ダイアログボックスが表示されます。

概要ダイアログボックスには、そのブラウザに含まれている各パートナーの各種ドキュメントの番号が表示されます。これにより、ブラウザに表示するドキュメントに、ドキュメントの種類とパートナーでフィルタをかけることができます。

(次のページへ続く)

ブラウザの列

すべてのブラウザで、次の表に示す列が表示されます。

メモ

ブラウザを並べ替えるには該当する値の列タイトルをクリックします。

各部	機能
パートナー	トレーディング パートナーを示します。
種類	EDI ドキュメントの種類を示します。 例 810 は、請求書を表します。
名前	ユーザーが割り当てたドキュメント名が表示されます。
状態	表示される状態はブラウザによって異なります。 参照 状態値の詳細については、「用語解説」を参照してください。
参照データ	このドキュメントを識別するために、トランスレーションオブジェクトの設計者によって割り当てられた参照データを表示します。 <ul style="list-style-type: none">セグメント / エlement 固定値 (たとえば、PO ドキュメントの発注書番号)空白 (参照データが割り当てられていません)

(次のページへ続く)

手順

次のブラウザにアクセスするには、次の手順に従います。

- ▶ [インドキュメント]
- ▶ [?インドキュメント]
- ▶ [アウトドキュメント]
- ▶ [?アウトドキュメント]
- ▶ [インドローワ]
- ▶ [アウトドローワ]

ステップ	操作
1	<p>[デスク]の適切な領域から、ブラウザを選択します。</p> <p>システムからの応答 そのブラウザの概要ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<p>該当するパートナーのドキュメントの種類を選択します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 複数のパートナー/ドキュメントの種類の組み合わせを反転表示にするには、1番目のパートナー/ドキュメントの種類をクリックし、Shift を押しながらグループの一番最後のパートナー/ドキュメントの種類をクリックします。 ▶ 概要ダイアログ ボックスで隣接していない複数のパートナー/ドキュメントの種類を反転表示にするには、Ctrl を押しながらそれぞれのパートナー/ドキュメントの種類をクリックします。
3	<p>[表示]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 それらのドキュメントを含むブラウザが表示されます。</p>

[インドキュメント]ブラウザ

はじめに

[インドキュメント]ブラウザには、システムによって受信されたが、ユーザーが未処理のドキュメントのリストが表示されます。ドキュメントの処理(印刷またはエクスポート)が終了すると、ドキュメントは[インドロー]に転送されます。

図

次の図に、[インドキュメント]ブラウザを示します。



各部と機能

この表に、[インドキュメント]ブラウザの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
表示	[表示の選択]ダイアログボックスが表示され、選択したドキュメントを表示できます。
印刷	[印刷の選択]ダイアログボックスが表示され、選択したドキュメントを印刷できます。
削除	<p>選択したドキュメントを削除します。</p> <p>メモ ドキュメントが受信確認処理(受信確認の生成または整合)を待っている場合、そのドキュメントの処理が終わるまで削除されません。</p> <p>(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
エクスポート	[エクスポート方法の選択]ダイアログボックスが表示され、選択したドキュメントをエクスポートできます。
移動	選択したドキュメントを[インドラワー]に移動します。
受信	[コミュニケーションセッション]ダイアログが表示され、受信専用セッションを開始できます。
リフレッシュ	ブラウザの表示をリフレッシュします。
閉じる	ブラウザを閉じます。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。

[? インドキュメント]ブラウザ

はじめに

[? インドキュメント]ブラウザには、システムによって受信されたが、エラーチェックに合格しなかったドキュメント、または識別可能なパートナーまたはトランザクションセットを持たないドキュメントのリストが表示されます。

図

次の図に、[? インドキュメント]ブラウザを示します。



各部と機能

次の表に、[? インドキュメント]ブラウザの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
表示	[表示の選択]ダイアログボックスが表示され、選択したドキュメントを表示できます。
印刷	[印刷の選択]ダイアログボックスが表示され、選択したドキュメントを印刷できます。
削除	<p>選択したドキュメントを削除します。</p> <p>メモ ドキュメントが受信確認処理(受信確認の生成または整合)を待っている場合、そのドキュメントの処理が終わるまで削除されません。</p> <p>(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
エクスポート	[エクスポート方法の選択]ダイアログ ボックスが表示され、選択したドキュメントをエクスポートできます。
移動	選択したドキュメントを [インドローワ] に移動します。
リフレッシュ	ブラウザの表示をリフレッシュします。
閉じる	ブラウザを閉じます。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。

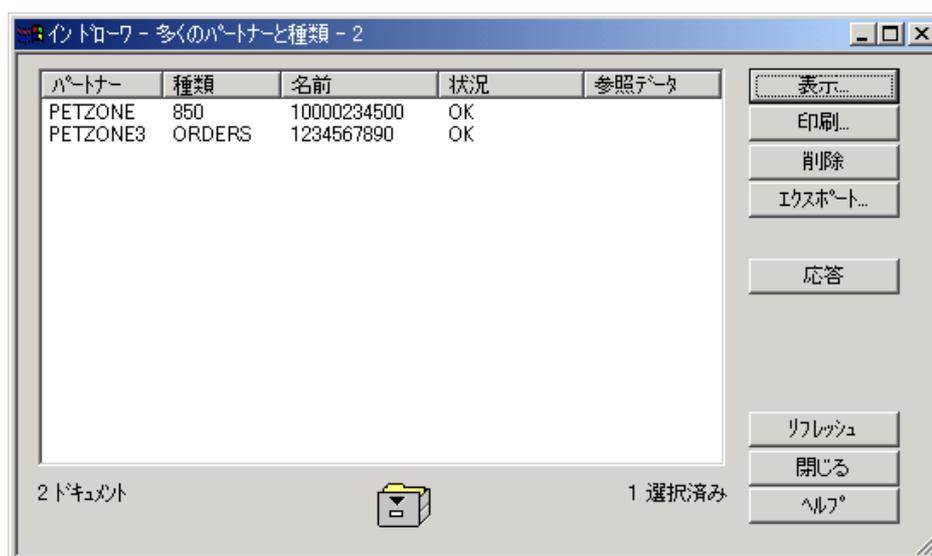
[イン ドローワ]ブラウザ

はじめに

[イン ドローワ]ブラウザには、システムによって受信され、処理されたドキュメントがリストされます。

図

次の図に、[イン ドローワ]ブラウザを示します。



各部と機能

次の表に、[イン ドローワ]ブラウザの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
表示	[表示の選択]ダイアログボックスが表示され、選択したドキュメントを表示できます。
印刷	[印刷の選択]ダイアログボックスが表示され、選択したドキュメントを印刷できます。
削除	選択したドキュメントを削除します。
エクスポート	[エクスポート方法の選択]ダイアログボックスが表示され、選択したドキュメントをエクスポートできます。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
応答	<p>選択したドキュメントに対応するターンアラウンドドキュメントを作成します。</p> <p>メモ " 応答 " 機能は、1つ以上のドキュメントが選択されていて、かつ選択したドキュメントにターンアラウンドトランスレーションオブジェクトが存在する場合にのみ有効になります。</p> <p>参照 パートナー関係内でのターンアラウンドトランスレーションオブジェクトの選択については、「[インバウンドトランスレーションオブジェクト]ダイアログボックス」を参照してください。</p>
リフレッシュ	ブラウザの表示をリフレッシュします。
閉じる	ブラウザを閉じます。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。

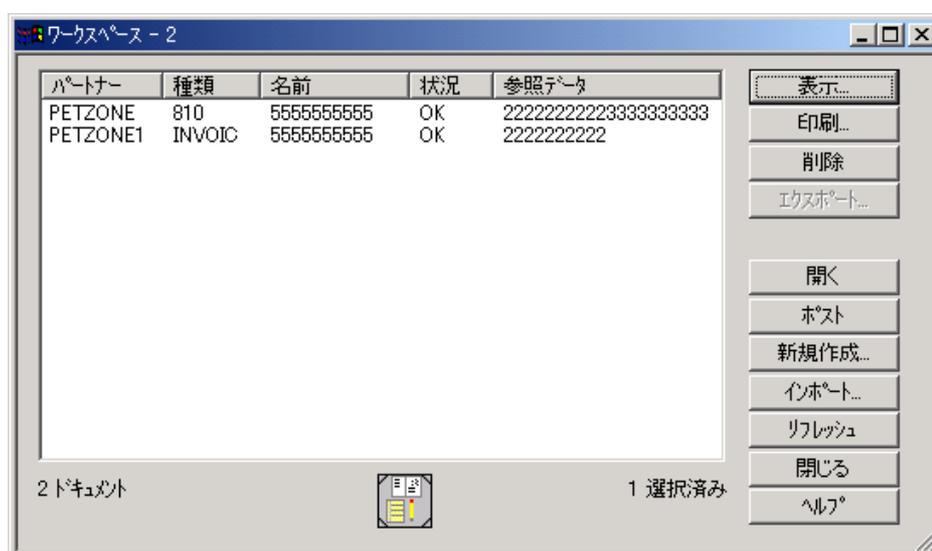
[ワークスペース]ブラウザ

はじめに

[ワークスペース]ブラウザには、システムによって受信されたが、ユーザーが未処理のドキュメントのリストが表示されます。ドキュメントの処理(印刷またはエクスポート)が終了すると、ドキュメントは[インドローワ]に転送されます。

図

次の図に、[ワークスペース]ブラウザを示します。



各部と機能

次の表に、[ワークスペース]ブラウザの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
表示	[表示の選択]ダイアログボックスが表示され、選択したドキュメントを表示できます。
印刷	[印刷の選択]ダイアログボックスが表示され、選択したドキュメントを印刷できます。
削除	選択したドキュメントを削除します。
エクスポート	この機能は、このブラウザに対して有効ではありません。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
開く	選択したドキュメントの編集に使用する [ドキュメント エディタ] にアクセスします。
ポスト	<p>選択した適合ドキュメントを [アウトドキュメント]ブラウザ に移動します。</p> <p>メモ ドキュメントは、送信の前に [アウトドキュメント] にポストします。</p>
新規作成	<p>[ドキュメント エディタ] で新しいドキュメントを入力するときの、パートナーとトランザクションセットの組み合わせを選択するとき使用する [新しいドキュメントの作成] ダイアログ ボックスにアクセスします。</p> <p>メモ [ドキュメント エディタ] では、関連付けられている画面入力トランスレーションオブジェクトを使用して、情報をシステムに入力します。</p> <p>参照 適切なパートナー関係に使用する画面入力トランスレーションオブジェクトの選択については、「新しいアウトバウンド関係の作成方法」を参照してください。</p>
インポート	<p>外部アプリケーションファイルからのデータのインポートをアクティブにするときに使用する [インポートするアプリケーションファイル]ダイアログ ボックス にアクセスします。</p> <p>メモ ファイルの内容に応じて、パートナー、トランザクション、またはトランスレーションオブジェクトの情報の入力を要求される場合があります。"インポート" 機能を実行しても、選択しているドキュメントには影響を与えません。</p>
リフレッシュ	ブラウザの表示をリフレッシュします。
閉じる	ブラウザを閉じます。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。

[アウト ドキュメント]ブラウザ

はじめに

[アウト ドキュメント]ブラウザには、送信の準備が完了しているドキュメントのリストが表示されます。ドキュメントは、正常に送信された後、自動的に[アウト ドローワ]に転送されます。

図

次の図に、[アウト ドキュメント]ブラウザを示します。



各部と機能

次の表に、[アウト ドキュメント]ブラウザの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
表示	[表示の選択]ダイアログボックスが表示され、選択したドキュメントを表示できます。
印刷	[印刷の選択]ダイアログボックスが表示され、選択したドキュメントを印刷できます。
削除	選択したドキュメントを削除します。
エクスポート	この機能は、このブラウザからは実行できません。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
送信	<p>[送信/受信]ダイアログボックスが表示され、データを送信するコミュニケーションセッションを手動で開始できます。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none">● 選択されたドキュメントのみがエンベロープに収められて送信されます。ドキュメントが選択されていない場合は、すべてのドキュメントが送信されます。正常に送信されたドキュメントは、[アウトドローワ]に移動します。● また、送信セッションを開始すると、受信待ちの状態にあるドキュメントを受信する処理がシステム内で実行されます。● "送信"機能は、現在選択されているブラウザが[アウトドキュメント]であり、かつドキュメントが選択されている場合、またはインターチェンジブラウザのインターチェンジが"準備完了"の状態になっている場合にのみ有効になります。
アンポスト	選択したドキュメントを移動して、[ワークスペース]ブラウザに戻します。
リフレッシュ	ブラウザの表示をリフレッシュします。
閉じる	ブラウザを閉じます。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。

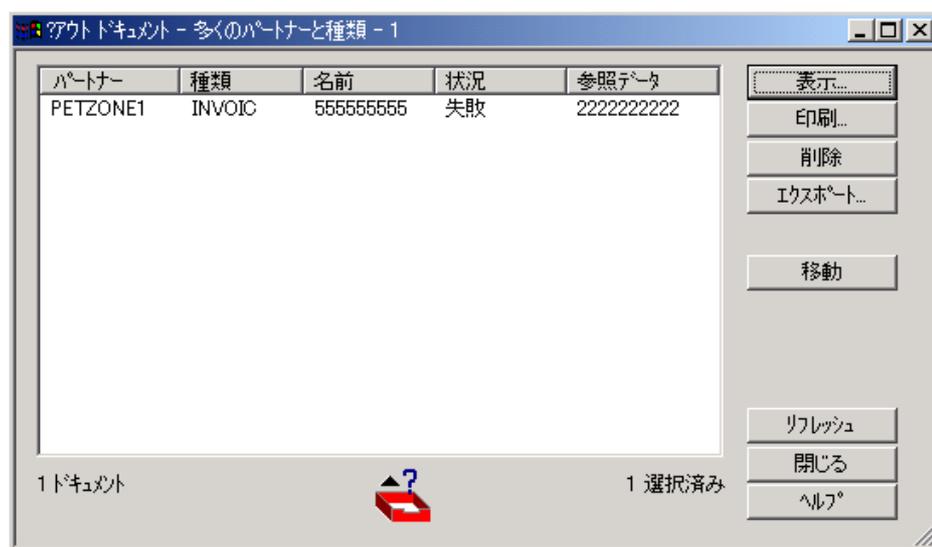
[? アウト ドキュメント] ブラウザ

はじめに

[? アウト ドキュメント] ブラウザには、システムにインポートされたが無効になったドキュメントのリストが表示されます。

図

次の図に、[? アウト ドキュメント] ブラウザを示します。



各部と機能

次の表に、[? アウト ドキュメント] ブラウザの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
表示	[表示の選択]ダイアログボックスが表示され、選択したドキュメントを表示できます。
印刷	[印刷の選択]ダイアログボックスが表示され、選択したドキュメントを印刷できます。
削除	選択したドキュメントを削除します。
エクスポート	この機能は、このブラウザからは実行できません。
移動	選択したドキュメントを[インドラワー]に移動します。
リフレッシュ	ブラウザの表示をリフレッシュします。

(次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
閉じる	ブラウザを閉じます。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。

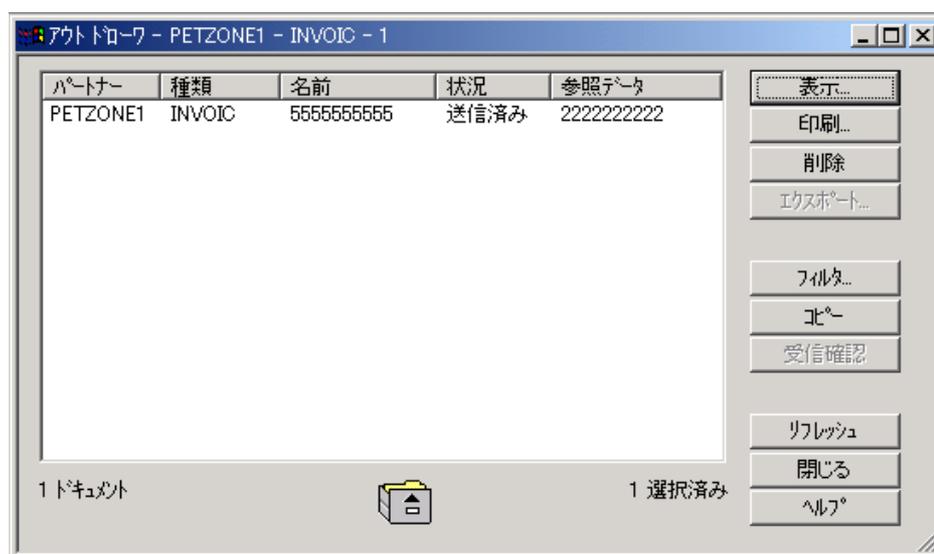
[アウト ドローワ]ブラウザ

はじめに

[アウト ドローワ]ブラウザには、正常に送信されたドキュメントのリストが表示されます。

図

次の図に、[アウト ドローワ]ブラウザを示します。



各部と機能

次の表に、[アウト ドローワ]ブラウザの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
表示	[表示の選択]ダイアログボックスが表示され、選択したドキュメントを表示できます。
印刷	[印刷の選択]ダイアログボックスが表示され、選択したドキュメントを印刷できます。
削除	選択したドキュメントを削除します。
フィルタ	[フィルタ]ダイアログボックスが表示され、ブラウザ内のドキュメントの表示方法をフィルタできます。
エクスポート	この機能は、このブラウザからは実行できません。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
コピー	選択したドキュメントをコピーまたは[ワークスペース]に戻します。 メモ この機能を使用すると、送信済みのドキュメントの再処理および再送信を行うことができます。
受信確認	選択したドキュメントの状態を受信確認に変更します。
リフレッシュ	ブラウザの表示をリフレッシュします。
閉じる	ブラウザを閉じます。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。

[処理中]ブラウザ

はじめに

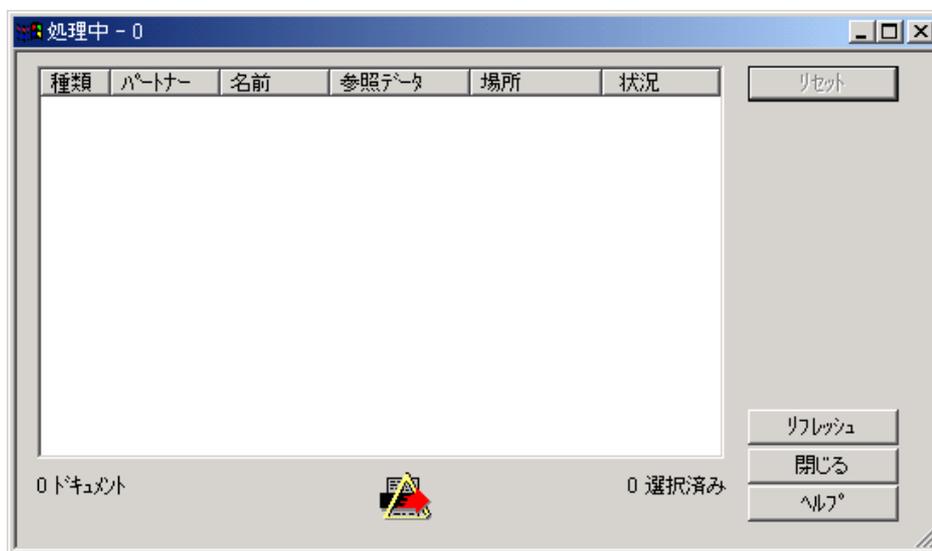
[処理中]ブラウザには、現在処理中のドキュメントのリストが表示されます。

メモ

[処理中]ブラウザには、ドキュメント処理の現在の状態が表示されます。処理中のドキュメントの状態コードは**1**です。ドキュメントまたは受信確認が延期の状態コードは**2**です。

図

次の図に、[処理中]ブラウザを示します。



各部と機能

次の表に、[処理中]ブラウザの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
リセット	このダイアログボックスに表示されているが、処理は既に終了しているドキュメントを、元の場所に戻します。 メモ 通常、この機能はドキュメントの処理が正常に終了しなかった場合に使用します。
リフレッシュ	ブラウザの表示をリフレッシュします。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
閉じる	ブラウザを閉じます。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。

関連のダイアログ ボックス

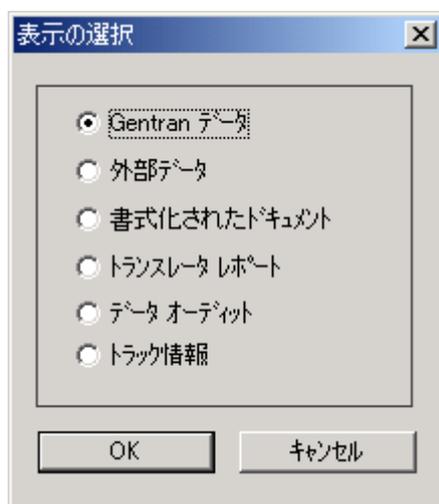
[表示の選択] ダイアログ ボックス

はじめに

[表示の選択] ダイアログ ボックスで、選択したドキュメントの表示方法を指定できます。

図

次の図に、[表示の選択] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

次の表に、[表示の選択] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
Gentran データ	EDI データを表示します。
外部データ	トランスレーション内で使用するデータ ファイルを表示します。 メモ トランスレーション内で使用した外部データ ファイルがない場合、このオプションは利用できません。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
書式化された ドキュメント	画面入力トランスレーション オブジェクトを使用して [ドキュメント エディタ]のデータが表示されます。 メモ このオプションは、そのドキュメントに画面入力トランス レーション オブジェクトが存在しない場合は選択できま せん。
トランスレータ レポート	トランスレータがこのドキュメントに対して実行した動作 のレポート、および EDI またはトランスレーション オブ ジェクトに関するエラーのリストです。 参照 トランスレータ レポートの詳細については、『管理 ガイ ド』の「 エラー メッセージ 」を参照してください。
データ オーディット	1つのドキュメントについて使用可能なドキュメント ト ラック情報を表示します。 メモ この機能は、ドキュメント レベルのオーディットが無効 になっている場合は使用できません。
トラック情報	Gentran データとメールボックス メッセージ情報との間で の、外部データ ファイルのトラック情報を表示します。
OK	選択した機能を実行し、ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	ダイアログ ボックスを閉じます。

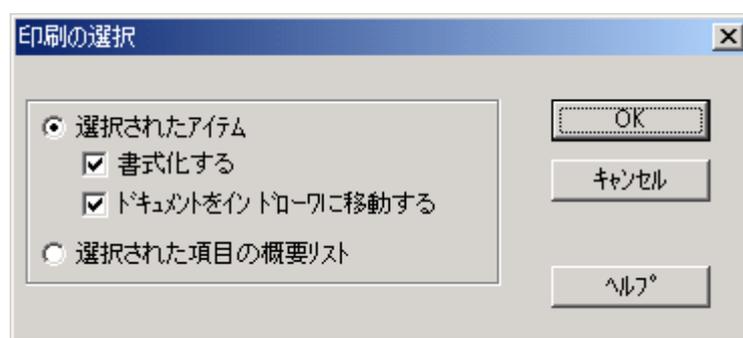
[印刷の選択] ダイアログ ボックス

はじめに

[印刷の選択] ダイアログ ボックスで、選択されているアイテム (ドキュメントやトランスレーション オブジェクト) を印刷するまたはブラウザに表示されているすべてのアイテムの概要リストを印刷するのかを指定できます。

図

次の図に、[印刷の選択] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

次の表に、[印刷の選択] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
選択されたアイテム	選択されているアイテムを印刷することを示します。
書式化する	(適切なトランスレーション オブジェクトを使用して) 書式化したとおりにアイテムを印刷することを示します。 メモ トランスレーション オブジェクト (常に書式化済み) を印刷する場合または対象のアイテムに対応しないトランスレーション オブジェクトを印刷する場合には、このオプションは利用できません。
ドキュメントをインドローワに移動する	ドキュメントを現在の場所に保存するかまたは (このオプションを選択して) ドキュメントを [インドローワ] に移動するかを指定します。 メモ このオプションは、[インドキュメント] ブラウザおよび [? インドキュメント] ブラウザでのみ利用できます。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
選択された項目の 概要リスト	ブラウザに表示されているすべてのアイテムの概要リスト を印刷することを示します。
OK	選択した機能を実行し、ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	状況依存ヘルプが表示されます。

[エクスポート方法の選択]ダイアログ ボックス

はじめに

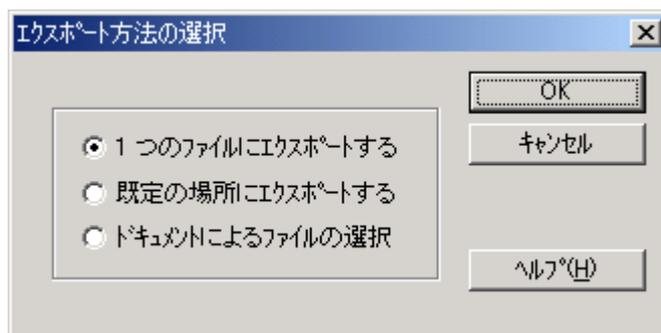
[エクスポート方法の選択]ダイアログ ボックスを使用すると、ドキュメントを外部ファイルに書き込んで、これを別のアプリケーションで処理することができます。

メモ

- このオプションを利用するには、ドキュメント用のシステム エクスポート トランスレーション オブジェクト、または各パートナーに固有のドキュメント用エクスポート トランスレーション オブジェクトが必要です。
- "エクスポート"機能は、[インドキュメント]、[インドローワ]、または[?インドキュメント]のブラウザでドキュメントを選択している場合にのみ使用できます。

図

次の図に、[エクスポート方法の選択]ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

次の表に、[エクスポート方法の選択]ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
1つのファイルにエクスポートする	選択したすべてのドキュメントがデータに変換され、 [ドキュメントをエクスポートするファイル]ダイアログボックス にアクセスしてこれらのデータを1つのファイルに書き込みます。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
既定の場所に エクスポートする	選択したドキュメントを、パートナーのインバウンド関係で設定したファイルに書き込みます。 参照 エクスポート ファイルの指定についての詳細は、「 [インバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックス 」を参照してください。
ドキュメントによる ファイルの選択	[ドキュメントをエクスポートするファイル] ダイアログ ボックス が表示され、エクスポートするために選択したドキュメントの名前を変更できます。
OK	選択した機能を実行し、ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	状況依存ヘルプが表示されます。

[ドキュメントをエクスポートするファイル] ダイアログ ボックス

はじめに

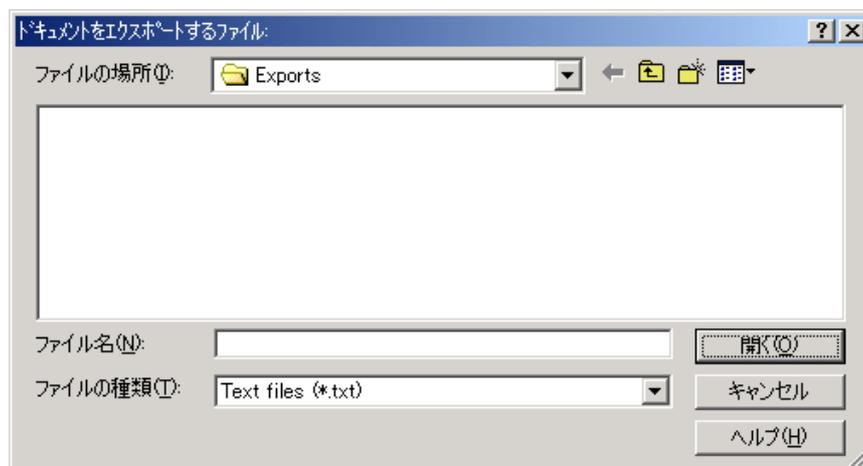
[ドキュメントをエクスポートするファイル] ダイアログ ボックスで、選択したドキュメントのエクスポート先となるファイルの名前を指定できます。

メモ

- このオプションを利用するには、ドキュメント用のシステム エクスポート トランスレーション オブジェクト、または各パートナーに固有のドキュメント用エクスポート トランスレーション オブジェクトが必要です。
- "エクスポート" 機能は、[インドキュメント]、[インドロウ]、または [? インドキュメント] のブラウザでドキュメントを選択している場合にのみ使用できます。

図

次の図に、[ドキュメントをエクスポートするファイル] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

次の表に、[ドキュメントをエクスポートするファイル] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
ファイルの場所	ファイルのパスとフォルダが表示されます。
ファイル名	エクスポートするファイルの名前を指定します。

(次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
ファイルの種類	ファイルの種類が表示されます。
開く	選択した機能を実行し、ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	状況依存ヘルプが表示されます。

[インポートするアプリケーション ファイル] ダイアログ ボックス

はじめに

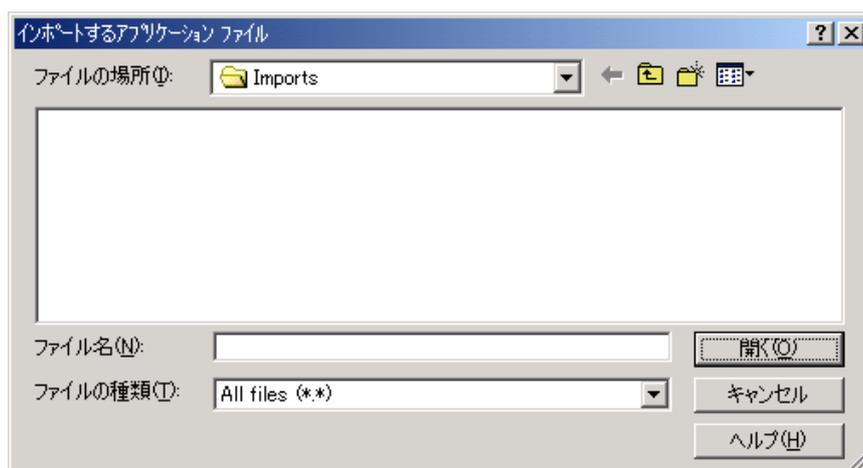
[インポートするアプリケーション ファイル] ダイアログ ボックスを使用すると、外部アプリケーション ファイルからデータをインポートすることができます。

メモ

ファイルの内容に応じて、パートナー、トランザクション、またはトランスレーション オブジェクトの情報の入力を要求される場合があります。"インポート" 機能によって、選択できるドキュメントが制限されることはありません。

図

次の図に、[インポートするアプリケーション ファイル] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

次の表に、[インポートするアプリケーション ファイル] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
ファイルの場所	ファイルのパスとフォルダが表示されます。
ファイル名	インポートするファイルの名前を指定します。
ファイルの種類	ファイルの種類が表示されます。
開く	選択した機能を実行し、ダイアログ ボックスを閉じます。

(次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
キャンセル	ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	状況依存ヘルプが表示されます。

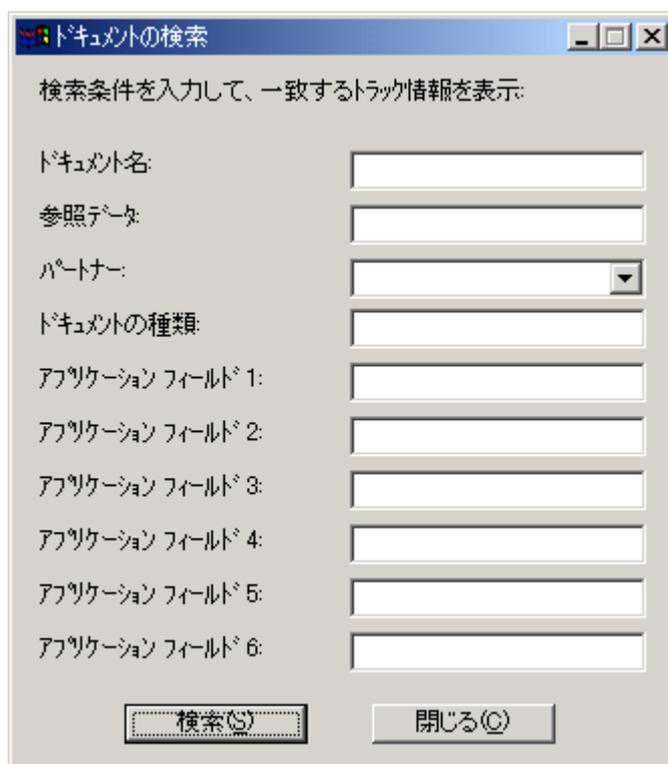
[ドキュメントの検索] ダイアログ ボックス

はじめに

[ドキュメントの検索] ダイアログ ボックスを使用して、Gentran:Server でシステム全体を検索するときの基準を指定することができます。また、このダイアログ ボックスを使用すると、個々のブラウザを手動で検索せずに、ドキュメントのサブセットを素早く見つけることができます。

図

次の図に、[ドキュメントの検索] ダイアログ ボックスを示します。



(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、[ドキュメントの検索] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
ドキュメント名	ユーザーが割り当てたドキュメント名が表示されます。
参照データ	このドキュメントを識別するために、トランスレーションオブジェクトの設計者によって割り当てられた参照データを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ セグメント / エlement 固定値 (たとえば、PO ドキュメントの発注書番号) ▶ ブランク (参照データが割り当てられていません)
パートナー	ドキュメントを作成または受信するときの、相手先パートナーを示します。
ドキュメントの種類	EDI ドキュメントの種類を示します。 例 810 は、請求書を表します。
アプリケーションフィールド 1	特定のアプリケーション フィールドを指定します。
アプリケーションフィールド 2	特定のアプリケーション フィールドを指定します。
アプリケーションフィールド 3	特定のアプリケーション フィールドを指定します。
アプリケーションフィールド 4	特定のアプリケーション フィールドを指定します。
アプリケーションフィールド 5	特定のアプリケーション フィールドを指定します。
アプリケーションフィールド 6	特定のアプリケーション フィールドを指定します。
検索	指定されたドキュメントを検索し、一致するドキュメントを返します。
閉じる	ダイアログ ボックスを閉じます。

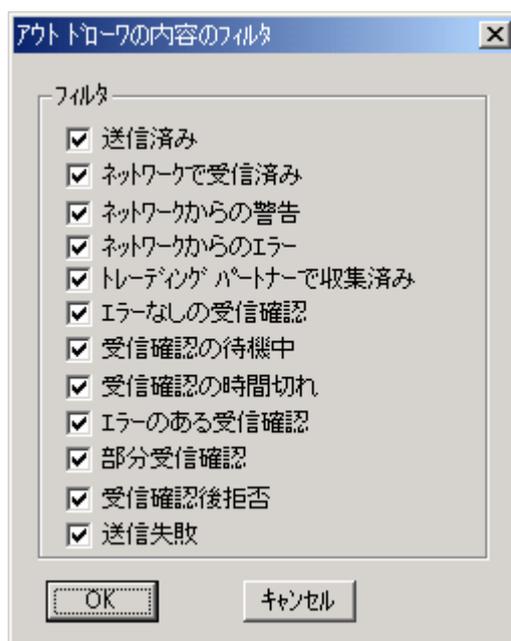
[フィルタ]ダイアログボックス

はじめに

[アウトドローワ]では、状態によってドキュメントの表示にフィルタをかけるようになっている場合に、"フィルタ"機能を使用できます。

図

次の図に、[フィルタ]ダイアログボックスを示します。



(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、[フィルタ]ダイアログボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
フィルタ	<p>[アウト ドローワ]内のドキュメントをドキュメント状態でフィルタをかけて表示する場合は、各状態の隣のチェックボックスをオフにします。これにより、特定の状態のドキュメントが表示されないようにすることができます。</p> <p>メモ チェックボックスをオフにすると、その状態のドキュメントは表示されなくなります。既定では、状態に関係なく、すべてのドキュメントが表示されます。</p> <p>次の表に従って、どのチェックボックスをオンにするかを決めます。</p>
状態コード	値
送信済み	ドキュメントを正常に送信できたことを示します。
ネットワークで受信済み	<p>ドキュメントが付加価値ネットワークに正常に配送されたことを示します。</p> <p>メモ COMMERCE:Network を使用してこの状態を取得するには、メールボックスがデータ書式で 20 のレポートを受信できるように設定しておく必要があります。</p>
ネットワークからの警告	<p>ドキュメントが付加価値ネットワークへ配送され、そのネットワークでデータに重大ではないエラーが検出されたことを示します。このデータは、指定されたトレーディング パートナーがデータ収集の目的に利用できます。</p> <p>メモ COMMERCE:Network を使用してこの状態を取得するには、メールボックスがデータ書式で 20 のレポートを受信できるように設定しておく必要があります。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能	
フィルタ (続き)	状態コード	値
	ネットワークからのエラー	ドキュメントが付加価値ネットワークへ配送され、そのネットワークでデータに重大なエラーが検出されたことを示します。このデータは、指定されたトレーディング パートナーがデータ収集の目的に利用できます。 メモ COMMERCE:Network を使用してこの状態を取得するには、メールボックスがデータ書式で 20 のレポートを受信できるように設定しておく必要があります。
	トレーディング パートナーで収集済み	付加価値ネットワークを介してドキュメントがトレーディング パートナーに正常に配送されたことを示します。 メモ COMMERCE:Network を使用してこの状態を取得するには、メールボックスがデータ書式で 70 のレポートを受信できるように設定しておく必要があります。
	エラーなしの受信確認	パートナーがドキュメントの受信確認を行い、エラーがなかったことを示します。
	受信確認の待機中	ドキュメントがインバウンド ファンクショナル受信確認との整合性をとられるのを待っていることを示します。
	受信確認の時間切れ	ドキュメントがインバウンド ファンクショナル受信確認との整合性をとられるのを待っていたが、受信確認が遅いとみなされる待ち時間を越えたことを示します。
エラーのある受信確認	パートナーがドキュメントの受信確認を行い、エラーがあったにもかかわらず、パートナーがそのドキュメントを受け入れたことを示します。 (次のページへ続く)	

(続き) 各部	機能	
フィルタ (続き)	状態コード	値
	部分受信確認	この状態は、このドキュメントに対する受信確認が想定どおりに実行されず、グループまたはインターチェンジのいずれかの一部が受信確認された場合にのみ表示されます。 メモ パートナーがインターチェンジレベルまたはグループレベルで部分的な受信確認を発行する場合、その受信確認では、受け入れるかまたは拒否するかをトランザクションレベルで示す必要があります。
	受信確認後拒否	パートナーがドキュメントの受信確認を行い、エラーがあったことを示します。パートナーは、ドキュメントの受取を拒否しています。
	送信失敗	送信が失敗したことを示します。
OK	選択した機能を実行し、ダイアログ ボックスを閉じます。	
キャンセル	ダイアログ ボックスを閉じます。	

ドキュメントの作成と編集

ドキュメントの作成方法

はじめに

[ドキュメント エディタ]を使用してドキュメントを作成するには、目的のパートナーとトランザクション セットの組み合わせを画面で入力できるようにシステムを設定する必要があります。

メモ

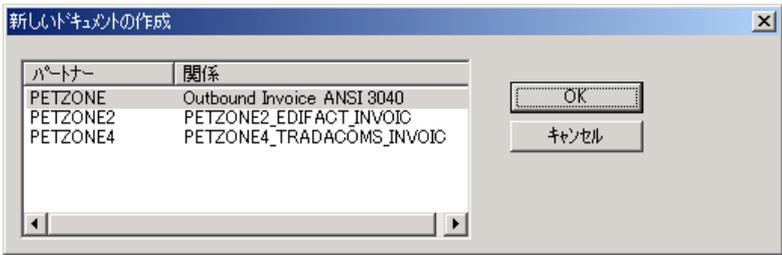
また、適切な画面入力トランスレーション オブジェクトを登録し、これに対応するアウトバウンド関係をパートナーに設定する必要があります。

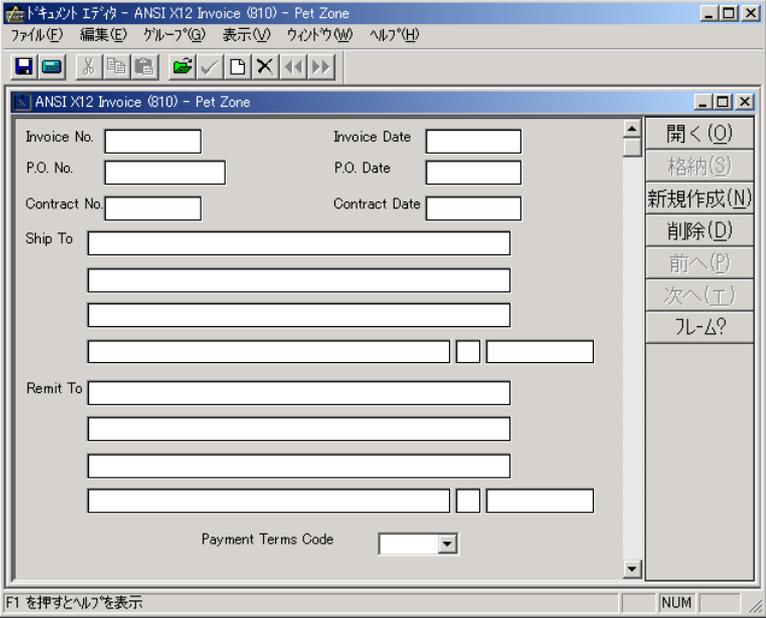
参照

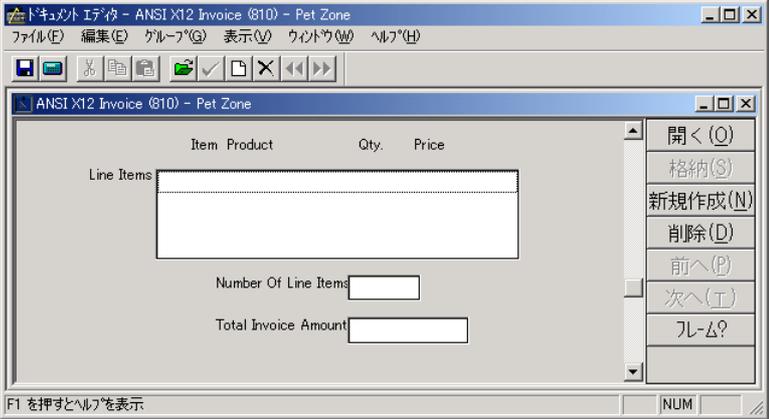
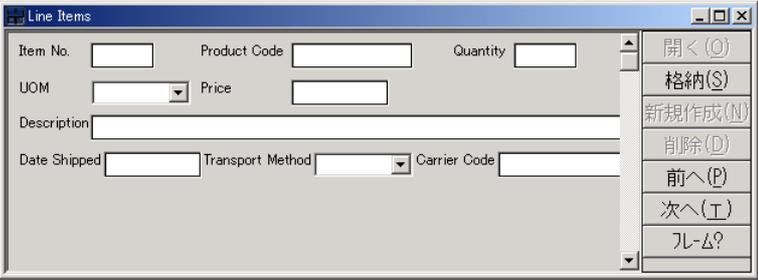
- トランスレーション オブジェクトの登録については、「[新しいトランスレーション オブジェクトの登録方法](#)」を参照してください。
- 対応するアウトバウンド関係の設定については、「[新しいアウトバウンド関係の作成方法](#)」を参照してください。
- [ドキュメント エディタ]の詳細については、Gentran:Server のオンライン ヘルプを参照してください。

手順

ドキュメントを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]の適切な領域から、[ワークスペース]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [ワークスペース]ブラウザが表示されます。</p>
2	<p>[新規作成]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [新しいドキュメントの作成]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>  <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
3	<ul style="list-style-type: none"> ▶ リストから適切なパートナー/トランザクションセットの組み合わせを選択します。 ▶ [OK] をクリックします。 <p>システムからの応答 選択した組み合わせのトランスレーション オブジェクトが表示されます。</p> <p>例 次の図に、トランスレーション オブジェクトの例を示します。</p>  <p style="text-align: right; color: green;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
4	<p>ドキュメントトランスレーションオブジェクト上の各ボックスに、必要なデータ アイテムをすべて入力します。</p> <p>メモ ドキュメントにループ構造 (ライン アイテムなどの下位レベルの詳細レコード) が含まれている場合、入力トランスレーションオブジェクトには、この例に示すリストが格納されます。</p> 
5	<p>リスト内のアイテムにアクセスするには、最初のエントリを反転表示にして [新規作成] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 次の例のように、リスト ボックスが表示されます。</p>  <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
6	<p>アイテムのデータを入力します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 2 番目以降のアイテムを入力するには、[次へ] をクリックするか、または ALT + T を押します。 ▶ すべてのループアイテムを入力したら、[格納] をクリックして保存し、[ループ] ダイアログ ボックスを終了します。 ▶ ドキュメントにコードが含まれている場合は、それぞれのコード フィールドで Shift を押しながら F1 を押すとコードのリストを表示できます。
7	<p>ドキュメントに計算フィールドが含まれている場合は、ドキュメントを保存する前に、[ドキュメント エディタ] の [ファイル] メニューから [再計算] を選択します。</p> <p>システムからの応答 合計が更新され、ドキュメントのエラー チェックが行われます。</p>
8	<p>データの入力が終わったら、[ドキュメント エディタ] の [ファイル] メニューから [保存] を選択します。</p> <p>システムからの応答 情報が保存され、再計算およびエラー チェックが自動的に行われます。エラーが検出された場合には、エラーを表示する旨のメッセージが表示されます。</p>
9	<p>[ドキュメント エディタ] の [ファイル] メニューから、[終了] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [ドキュメント エディタ] が終了します。終了の前に、ドキュメントを保存するかどうかを確認するメッセージが表示されます。</p> <p>メモ これで、このドキュメントを [ワークスペース] ブラウザで開いて編集できるようになりました。</p>

ドキュメントの開き方と編集方法

はじめに

[ドキュメント エディタ]を使用してドキュメントを編集するには、編集するパートナー/トランザクション セットの組み合わせの画面入力サポートされるようにシステムを設定する必要があります。

メモ

適切な画面入力トランスレーション オブジェクトを読み込み、対応するアウトバウンド関係をパートナーに設定する必要があります。

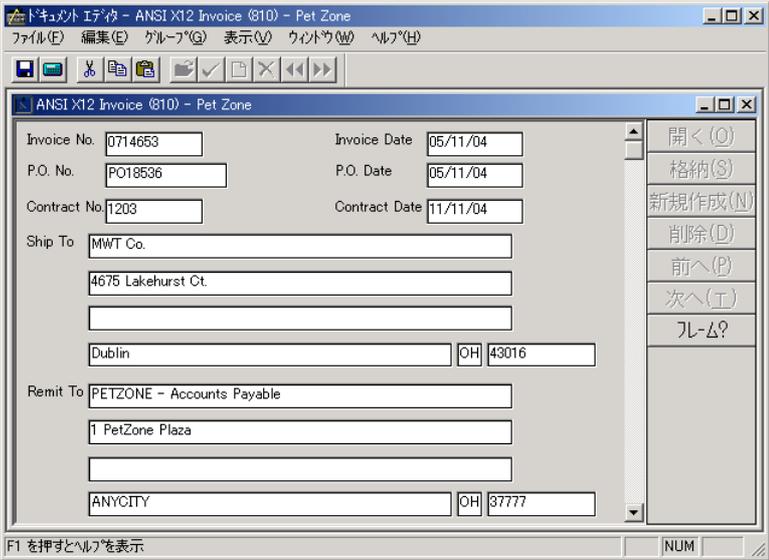
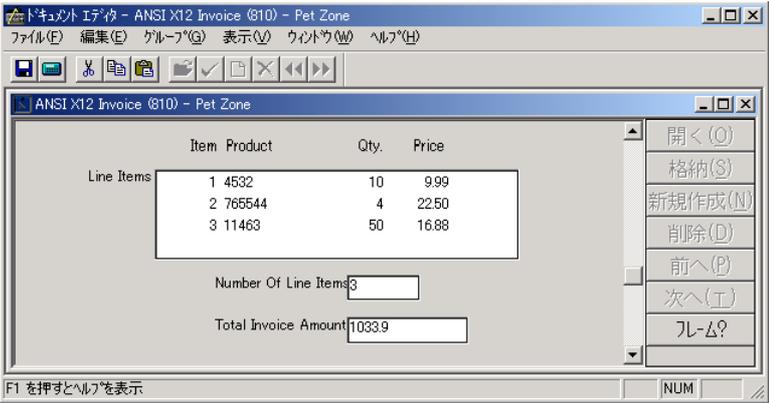
参照

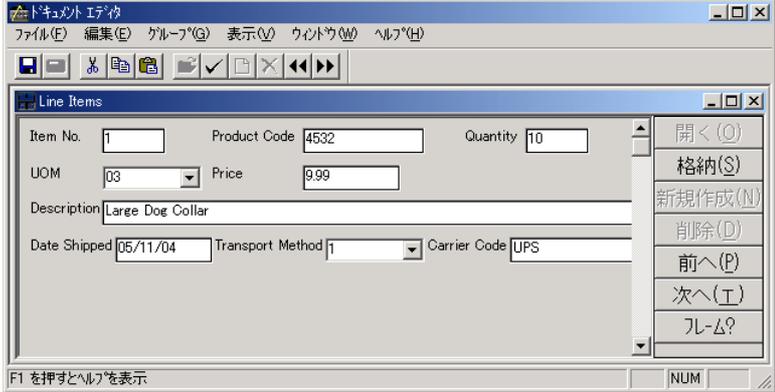
- ▶ トランスレーション オブジェクトの登録については、「[新しいトランスレーション オブジェクトの登録方法](#)」を参照してください。
- ▶ 対応するアウトバウンド関係の設定については、「[新しいアウトバウンド関係の作成方法](#)」を参照してください。
- ▶ [ドキュメント エディタ]の詳細については、Gentran:Server のオンラインヘルプを参照してください。

手順

ドキュメントを開いて編集するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]の適切な領域から、[ワークスペース]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [ワークスペース]ブラウザが表示されます。</p>
2	<p>[ワークスペース]から目的のドキュメントを選択します。</p> <p>メモ 編集できるのは、[ワークスペース]内のドキュメントのみです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ドキュメントが、既に[アウトドキュメント]に移されている場合でも、まだ送信されていなければ"アンポスト"機能を使用して[ワークスペース]に戻すことができます(「ドキュメントのアンポスト」を参照してください)。 ▶ ドキュメントが送信済みである場合は修正できません。ただし、[アウトドローワ]から[ワークスペース]へドキュメントのコピーを移動し、それを修正して送信することができます。(「ドキュメントのコピー(再処理と再送)」を参照してください)。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
3	<p>[開く] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 次の例のように、[ドキュメント エディタ] にドキュメントが表示されます。</p> 
4	<p>必要に応じて、データを修正します。</p> <p>メモ ドキュメントにループ構造 (ライン アイテム などの下位レベルの詳細レコード) が含まれている場合、入力トランスレーションオブジェクトには、この例に示すリストが格納されます。</p>  <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
5	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 新しいライン アイテムを追加するには、最初のエントリを反転表示にして [新規作成] をクリックします。 ▶ このリスト内のアイテムにアクセスするには、変更するエントリを反転表示にして [開く] をクリックするか、アイテムをダブルクリックします。 <p>システムからの応答 次の例のように、リストが表示されます。</p> 
6	<p>これで、アイテムを変更したり、データを入力したりできます。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ エントリ間を移動するには、[次へ] と [Prev] を使用します。 ▶ 2 番目以降のアイテムを入力するには、[次へ] をクリックするか、または ALT + T を押します。 ▶ すべてのループ アイテムを入力したら、[格納] をクリックして保存し、[ループ] ダイアログ ボックスを終了します。 ▶ ドキュメントにコードが含まれている場合は、それぞれのコード フィールドで Shift を押しながら F1 を押すとコードのリストを表示できます。
7	<p>ドキュメントに計算フィールドが含まれている場合は、ドキュメントを保存する前に、[ドキュメント エディタ] の [ファイル] メニューから [再計算] を選択します。</p> <p>システムからの応答 合計が更新され、ドキュメントのエラー チェックが行われます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
8	<p>データの入力が終わったら、[ドキュメント エディタ]の[ファイル]メニューから[保存]を選択します。</p> <p>システムからの応答 情報が保存され、再計算およびエラー チェックが自動的に行われます。エラーが検出された場合には、エラーを表示する旨のメッセージが表示されます。</p>
9	<p>[ドキュメント エディタ]の[ファイル]メニューから、[終了]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [ドキュメント エディタ]が終了します。終了の前に、ドキュメントを保存するかどうかを確認するメッセージが表示されます。</p>

ドキュメントの管理

ドキュメントの表示方法

表示機能

"表示"機能を使用すると、[\[表示の選択\]ダイアログボックス](#)で選択した書式に応じて、さまざまな種類の情報を表示できます。表示の種類は以下のとおりです。

- ▶ 生の入力データ
- ▶ 外部データ
- ▶ EDI フォーマットのデータ
- ▶ トランスレータ レポート
- ▶ データ オーディット
- ▶ トラック情報

メモ

- ▶ 書式付き表示オプションは、画面入力トランスレーション オブジェクトがパートナー関係レコード内で使用可能である場合にのみアクティブになります。
- ▶ 外部データ オプションは、トランスレーション内で使用するデータ ファイルが使用可能である場合にのみアクティブになります。
- ▶ 生の入力データや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から[16進]形式に切り換えることができます。

表示機能の使用

"表示"機能は、以下の場合に使用できます。

- ▶ ドキュメント ブラウザ ([イン ドキュメント],[アウト ドキュメント],[ワークスペース],[イン ドローワ],[アウト ドローワ]など)がアクティブで、1つのドキュメントが選択されている場合。
- ▶ [インターチェンジ]または[インターチェンジの復元]ブラウザがアクティブで、インターチェンジ内の1つのドキュメントが選択されている場合。

参照

[インターチェンジ]ブラウザの詳細については、「[インターチェンジにドキュメントを表示する方法](#)」を参照してください。

(次のページへ続く)

ドキュメント
ブラウザからの
ドキュメントの表示

ドキュメント ブラウザからドキュメントを表示するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]の適切な領域から、<u>[インドキュメント]ブラウザ</u>、<u>[アウトドキュメント]ブラウザ</u>、<u>[ワークスペース]ブラウザ</u>、<u>[インドローワ]ブラウザ</u>、または<u>[アウトドローワ]ブラウザ</u>を選択します。</p> <p>システムからの応答 そのブラウザの概要ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 該当するパートナーのドキュメントの種類を選択します。 ▶ [表示]をクリックします。 <p>システムからの応答 それらのドキュメントを含むブラウザが表示されます。</p>
3	<p>該当するブラウザからドキュメントを1つ選択します。</p>
4	<p>[表示]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 <u>[表示の選択]ダイアログ</u> ボックスが表示されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作	
5	<p>次の表を参考にして、入力データをどのように表示するかを指定するオプションを選択します。</p> <p>メモ オプションが選択できない場合もあります。</p>	
	選択	表示
	Gentran データ	EDI データ
	外部データ	<p>トランスレーション内で使用するデータファイル</p> <p>メモ トランスレーション内で使用した外部データファイルがない場合、このオプションは利用できません。</p>
	書式化されたドキュメント	<p>画面入力トランスレーション オブジェクトを使用して [ドキュメント エディタ] のデータが表示されます。</p> <p>メモ このオプションは、そのドキュメントに画面入力トランスレーション オブジェクトが存在しない場合は選択できません。</p>
	トランスレータレポート	<p>トランスレータがこのドキュメントに対して実行した動作のレポート、および EDI またはトランスレーション オブジェクトに関するエラーのリストです。</p> <p>参照 トランスレータ レポートの詳細については、『管理 ガイド』の「エラー メッセージ」を参照してください。</p>
	データ オーディット	<p>1 つのドキュメントについて使用可能なドキュメント トラック情報を表示します。</p> <p>メモ この機能は、ドキュメント レベルのオーディットが無効になっている場合は使用できません。</p>
トラック情報	Gentran データとメールボックス メッセージ情報との間での、外部データ ファイルのトラック情報を表示します。	
6	[OK] をクリックして、指定した方法で表示します。	

(次のページへ続く)

**[インターチェンジ]
ブラウザからの
ドキュメントの表示**

[インターチェンジ]または[インターチェンジの復元]ブラウザからドキュメントを表示するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[デスク]の適切な領域から、[インターチェンジ]ブラウザを選択します。
2	ドキュメントを1つ選択します。
3	ツールバーの[データ]アイコンをクリックします。 システムからの応答 インターチェンジの EDI データ表示にアクセスします ([インターチェンジ]ブラウザの [データの表示] ウィンドウまたは [インターチェンジの復元] ブラウザに表示されています)。 メモ 生の入力データや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から [16進]形式に切り換えることができます。

現在処理中のドキュメントの表示方法

【処理中】ブラウザ

【処理中】ブラウザには、Gentran:Server システムで現在処理中のドキュメントが表示されます。このブラウザを使用すると、Gentran:Server システム内のユーザーによって処理中のドキュメントがどれであるかを確認することができます。

メモ

現在 Gentran:Server システムで処理中のドキュメントは、該当するブラウザにグレーで表示されます (使用不可であることを示します)。その処理が完了してシステムに解放されるまで、このドキュメントにはアクセスできません。

リセット機能

【処理中】ブラウザでは、"リセット"機能を使用すると、ブラウザに表示されており、処理が中断された任意のドキュメントを元の場所に戻すことができます。通常、この機能はドキュメントの処理が正常に終了しなかった場合に使用します。

手順

現在処理中のドキュメントを表示するには、次の手順に従います。

ステップ	操作	
1	[表示]メニューから【処理中】を選択します。 システムからの応答 【処理中】ブラウザが表示されます。	
2	現在処理中のドキュメントを表示するか、次の表のいずれかの機能を実行します。	
	機能	操作
	リセット	【処理中】ブラウザに表示されており、処理が中断された任意のドキュメントを元の場所に戻します。 メモ 通常、この機能はドキュメントの処理が正常に終了しなかった場合に使用します。

ドキュメント内の特定のテキストの検索方法

検索機能

この機能を使用すると、アクティブなデータ表示ウィンドウ内で、特定のテキストを検索できます。

検索機能の使用

"検索"機能は、データ表示ウィンドウがアクティブな場合にのみ使用できます。次のデータ表示ウィンドウがあります。

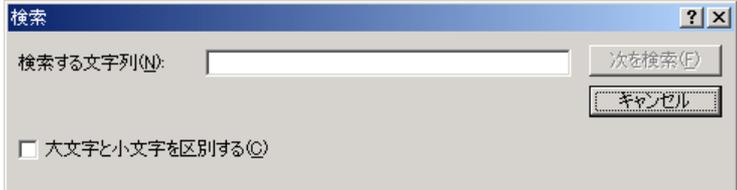
- ▶ オーディット ログ
- ▶ ドキュメントのトラッキング
- ▶ インターチェンジのトラッキング
- ▶ インターチェンジの生データ表示
- ▶ ドキュメントの生データ表示
- ▶ インターチェンジの外部データ表示
- ▶ ドキュメントの外部データ表示

(次のページへ続く)

手順

指定したテキストを検索するには、次の手順に従います。

ステップ	操作												
1	<p>次のデータ表示ウィンドウのいずれかを表示します。</p> <p>メモ 生の入力データや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から[16進]形式に切り換えることができます。</p> <table border="1" data-bbox="603 667 1423 1948"> <thead> <tr> <th data-bbox="603 667 890 725">表示するウィンドウ</th> <th data-bbox="890 667 1423 725">表示する方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="603 725 890 819">オーディット ログ</td> <td data-bbox="890 725 1423 819">[表示]メニューから[オーディット ログ]を選択します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="603 819 890 1061">ドキュメントのトラッキング</td> <td data-bbox="890 819 1423 1061"> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ブラウザでドキュメントを選択します。 ▶ [コマンド]メニューから[表示]を選択します。 ▶ "トラック情報"オプションをクリックし、[OK]をクリックします。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="603 1061 890 1303">インターチェンジのトラッキング</td> <td data-bbox="890 1061 1423 1303"> <ul style="list-style-type: none"> ▶ インターチェンジブラウザで、インターチェンジを選択します。 ▶ [コマンド]メニューから[表示]を選択します。 ▶ "トラック情報"オプションを選択し、[OK]をクリックします。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="603 1303 890 1644">インターチェンジの生データ表示</td> <td data-bbox="890 1303 1423 1644"> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [デスク]の適切な領域から[インターチェンジ]を選択します。 ▶ [インターチェンジ]ブラウザからインターチェンジを選択します。 ▶ [表示]メニューから[インターチェンジ]を選択します。 ▶ [インターチェンジ]カスケードメニューから[データ]を選択して、EDIデータを表示します。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="603 1644 890 1948">ドキュメントの生データ表示</td> <td data-bbox="890 1644 1423 1948"> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [インターチェンジ]ブラウザでドキュメントを選択します。 ▶ [コマンド]メニューから[表示]を選択します。 ▶ [表示の選択]ダイアログボックスで[OK]をクリックして、EDIデータを表示します。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p> </td> </tr> </tbody> </table>	表示するウィンドウ	表示する方法	オーディット ログ	[表示]メニューから[オーディット ログ]を選択します。	ドキュメントのトラッキング	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ブラウザでドキュメントを選択します。 ▶ [コマンド]メニューから[表示]を選択します。 ▶ "トラック情報"オプションをクリックし、[OK]をクリックします。 	インターチェンジのトラッキング	<ul style="list-style-type: none"> ▶ インターチェンジブラウザで、インターチェンジを選択します。 ▶ [コマンド]メニューから[表示]を選択します。 ▶ "トラック情報"オプションを選択し、[OK]をクリックします。 	インターチェンジの生データ表示	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [デスク]の適切な領域から[インターチェンジ]を選択します。 ▶ [インターチェンジ]ブラウザからインターチェンジを選択します。 ▶ [表示]メニューから[インターチェンジ]を選択します。 ▶ [インターチェンジ]カスケードメニューから[データ]を選択して、EDIデータを表示します。 	ドキュメントの生データ表示	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [インターチェンジ]ブラウザでドキュメントを選択します。 ▶ [コマンド]メニューから[表示]を選択します。 ▶ [表示の選択]ダイアログボックスで[OK]をクリックして、EDIデータを表示します。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>
表示するウィンドウ	表示する方法												
オーディット ログ	[表示]メニューから[オーディット ログ]を選択します。												
ドキュメントのトラッキング	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ブラウザでドキュメントを選択します。 ▶ [コマンド]メニューから[表示]を選択します。 ▶ "トラック情報"オプションをクリックし、[OK]をクリックします。 												
インターチェンジのトラッキング	<ul style="list-style-type: none"> ▶ インターチェンジブラウザで、インターチェンジを選択します。 ▶ [コマンド]メニューから[表示]を選択します。 ▶ "トラック情報"オプションを選択し、[OK]をクリックします。 												
インターチェンジの生データ表示	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [デスク]の適切な領域から[インターチェンジ]を選択します。 ▶ [インターチェンジ]ブラウザからインターチェンジを選択します。 ▶ [表示]メニューから[インターチェンジ]を選択します。 ▶ [インターチェンジ]カスケードメニューから[データ]を選択して、EDIデータを表示します。 												
ドキュメントの生データ表示	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [インターチェンジ]ブラウザでドキュメントを選択します。 ▶ [コマンド]メニューから[表示]を選択します。 ▶ [表示の選択]ダイアログボックスで[OK]をクリックして、EDIデータを表示します。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>												

(続き) ステップ	操作	
1 (続き)	表示するウィンドウ	表示する方法
	インターチェンジの外部データ表示	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [デスク]の適切な領域から[インターチェンジ]を選択します。 ▶ [インターチェンジ]ブラウザからインターチェンジを選択します。 ▶ [表示]メニューから[インターチェンジ]を選択します。 ▶ [インターチェンジ]カスケードメニューから[外部データ]を選択して外部データを表示します。
	ドキュメントの外部データ表示	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [インターチェンジ]ブラウザでドキュメントを選択します。 ▶ [コマンド]メニューから[表示]を選択します。 ▶ [表示の選択]ダイアログボックスで、[外部データ]を選択して[OK]をクリックし、外部データを表示します。
2	<p>[編集]メニューから[検索]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [検索]ダイアログボックスが表示されます。</p> 	
3	[検索する文字列]ボックスに、検索するテキストを入力します。	
4	<p>大文字と小文字を区別させるかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 区別させる場合は、[大文字と小文字を区別する]チェックボックスをオンにしてステップ5に進みます。 ▶ 区別させない場合は、ステップ5に進みます。 <p style="text-align: right; color: green;">(次のページへ続く)</p>	

(続き) ステップ	操作
5	<p>[次を検索] をクリックして、指定したテキストに最初に一致するテキストを検索します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 指定したテキストが見つかったと、データ表示ウィンドウ内でそのテキストが反転表示になります。▶ 指定したテキストが見つからなかった場合にはビーブ音が鳴ります。その場合はステップ 6 に進みます。
6	指定したテキストが見つかった場合、[次を検索] をクリックすると、指定したテキストに一致する次のテキストを検索します。
7	<p>[キャンセル] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 データ表示ウィンドウに戻ります。</p>

ドキュメントの検索方法

はじめに

[ドキュメントの検索]を使用すると、システム内の特定のドキュメントを素早く簡単に見つけることができます。この機能は、一致した各ドキュメントのトラック情報も提供します。

手順

ドキュメントを検索するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[コマンド]メニューから[ドキュメントの検索]を選択します。 システムからの応答 [ドキュメントの検索]ダイアログボックスが表示されます。
2	適切な検索条件を入力します。
3	[検索]をクリックします。 システムからの応答 指定した基準を満たすドキュメントが検出され、各ドキュメントのトラッキングデータが表示されます。
4	ドキュメントをダブルクリックすると、関連するトラック情報が表示されます。

ドキュメントの並べ替え方法

手順

[インドキュメント]ブラウザ、[? インドキュメント]ブラウザ、[インドローウ]ブラウザ、[ワークスペース]ブラウザ、[アウトドキュメント]ブラウザ、[?アウトドキュメント]ブラウザ、[アウトドローウ]ブラウザまたは[送信キュー]ブラウザで、ドキュメントを並べ替えるには該当する値の列タイトルをクリックします。

[アウト ドローワ]での状態によるドキュメントのフィルタ方法

はじめに

[アウト ドローワ]ブラウザでは、状態によってドキュメントの表示にフィルタをかけるようになっている場合に、"フィルタ"機能を使用できます。

[アウト ドローワ]ブラウザでの並べ替え

[アウト ドローワ]ブラウザでのドキュメント表示にフィルタをかけるには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[デスク]の適切な領域から、[アウト ドローワ]を選択します。 システムからの応答 [アウト ドローワ概要]ダイアログ ボックスが表示されます。
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 該当するパートナーのドキュメントの種類を選択します。 ▶ [表示]をクリックします。 システムからの応答 [アウト ドローワ]ブラウザが表示されます。
3	[フィルタ]をクリックします。 システムからの応答 [フィルタ]ダイアログ ボックスが表示されます。
4	[アウト ドローワ]内のドキュメント表示に、ドキュメントの状態によるフィルタをかける場合、表示しない状態の隣にあるチェック ボックスをオフにすることによって、特定の状態のドキュメントが表示されないようにすることができます。 メモ チェック ボックスをオフにすると、その状態のドキュメントは表示されなくなります。既定では、状態に関係なく、すべてのドキュメントが表示されます。
5	[OK]をクリックします。 システムからの応答 [アウト ドローワ]ブラウザの内容に、指定のフィルタがかけられます。

ドキュメントの削除方法

はじめに

"削除"機能は、1つまたは複数のドキュメントをシステムから削除する場合に使用します。

メモ

ドキュメントを削除すると、関連するドキュメント情報、トラック情報、およびトランスレーションレポート情報もすべて削除されます。また、インターチェンジ内の最後のドキュメントを削除すると、インターチェンジエントリも削除されます。

手順

1つまたは複数のドキュメントを削除するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]の適切な領域で場所を選択し、ドキュメントの現在の場所を選択します。</p> <p>システムからの応答 [インドキュメント]ブラウザ、[?インドキュメント]ブラウザ、[インドローワ]ブラウザ、[アウトドキュメント]ブラウザ、[?アウトドキュメント]ブラウザ、または[アウトドロワ]ブラウザを選択した場合は、そのブラウザの概要ダイアログボックスが表示されます。</p>
2	<p>概要ダイアログボックスが表示されたら、以下の操作を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 該当するパートナーのドキュメントの種類を選択します。 ▶ [表示]をクリックします。 <p>システムからの応答 それらのドキュメントを含むブラウザにアクセスします。</p>
3	<p>[削除]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 確認ダイアログボックスが表示されます。</p>
4	<p>[はい]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 ドキュメントが削除されます。</p>

ドキュメントの印刷方法

はじめに

ドキュメントが選択されていない場合、"印刷"機能はブラウザ内の全ドキュメントの概要リストを印刷します。ドキュメントを選択している場合、"印刷"機能は以下のいずれかを印刷します。

- ▶ EDI データ
- ▶ (パートナー関係)が確立された印刷トランスレーション オブジェクトを使用した書式化されたドキュメント
- ▶ これらのドキュメントの概要リスト

手順

1つまたは複数のドキュメントを印刷するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]の適切な領域で場所を選択し、ドキュメントの現在の場所を選択します。</p> <p>システムからの応答 [インドキュメント]ブラウザ、[?インドキュメント]ブラウザ、[インドローワ]ブラウザ、[アウトドキュメント]ブラウザ、[?アウトドキュメント]ブラウザ、または[アウトドローワ]ブラウザを選択した場合は、そのブラウザの概要ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 該当するパートナーのドキュメントの種類を選択します。 ▶ [表示]をクリックします。 <p>システムからの応答 ブラウザにドキュメントが表示されます。</p>
3	<p>すべてのドキュメントの概要リストを印刷するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 印刷する場合は、[印刷]をクリックして[印刷]ダイアログボックスを開きます。ステップ 6に進みます。 ▶ 印刷しない場合は、そのままステップ 4に進みます。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
4	<p>選択したドキュメント (書式付きまたは書式なし) または選択したドキュメントの概要リストを印刷するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 印刷する場合は、1 つまたは複数のドキュメントを選択して [印刷] をクリックし、ステップ 5 に進みます。 <p>システムからの応答 [印刷の選択] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 印刷しない場合は、そのままステップ 6 に進みます。
5	<p>[印刷の選択] ダイアログ ボックスで適切なオプションを選択し、[OK] をクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 選択したフォーマットされていないドキュメントを印刷するには、"Selected Items" オプションを選択します。 ▶ 選択したドキュメントを書式付きとして印刷するには、"Selected Items" オプションを選択し、[書式化する] チェックボックスをオンにします (書式付きとして印刷するには、印刷トランスレーション オブジェクトが必要です)。 ▶ [インドキュメント] ブラウザまたは[?インドキュメント] ブラウザから印刷する場合は、[ドキュメントをインドローワに移動する] チェックボックスの設定によって、ドキュメントを [インドローワ] ブラウザに移動するか、そのままの場所に残しておくかを選択できます。 ▶ 選択したドキュメントの概要リストを印刷するには、" 選択された項目の概要リスト " オプションを選択します。 <p>システムからの応答 [印刷] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
6	<p>[印刷] ダイアログ ボックスで、適切なオプションを設定して [OK] をクリックします。</p> <p>メモ ブラウザからドキュメントを選択せずに [印刷] をクリックした場合、および [印刷の選択] ダイアログ ボックスから [選択された項目の概要リスト] を選択した場合は、[印刷] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>

ドキュメントのルーティング

ドキュメントの [イン ドローワ] への移動

はじめに

この機能は、選択した1つまたは複数のドキュメントを [\[イン ドローワ\] ブラウザ](#) に移動します。エクスポート または 印刷が正常に完了すると、ドキュメントは [\[イン ドキュメント\] ブラウザ](#) または [\[? イン ドキュメント\] ブラウザ](#) から [\[イン ドローワ\] ブラウザ](#) に自動的に移されます。しかし、ターンアラウンド (応答) ドキュメントを作成するため、ドキュメントを手動で [\[イン ドローワ\] ブラウザ](#) に移動したい場合もあります。

手順

1つまたは複数のドキュメントを移動するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[デスク] の適切な領域から、[イン ドキュメント] ブラウザ または [? イン ドキュメント] ブラウザ を選択します。</p> <p>システムからの応答 そのブラウザの概要ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 該当するパートナーのドキュメントの種類を選択します。 ▶ [表示] をクリックします。 <p>システムからの応答 それらのドキュメントを含むブラウザにアクセスします。</p>
3	<p>[イン ドローワ] ブラウザ に移動するドキュメントを選択します。</p>
4	<p>[移動] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 選択したドキュメントが、[イン ドローワ] ブラウザ に移されます。</p>

ドキュメントのコピー (再処理と再送)

はじめに

"コピー"機能は、既に正常に送信されたドキュメントを [\[ワークスペース\]ブラウザ](#) にコピーし、これを修正して再送することができます。"コピー"機能は、[アウト ドローワ]がアクティブである場合にのみ使用できます。

メモ

この機能を使用すると、重複したドキュメントがトレーディング パートナーに送信される可能性があります。

参照

ドキュメントを修正したら、これを再送することができます。再送の詳細については、「[ドキュメントの再送方法](#)」を参照してください。

手順

1つまたは複数のドキュメントをコピーするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[デスク]の適切な領域から、[アウト ドローワ]を選択します。 システムからの応答 [アウト ドローワ概要] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	<ul style="list-style-type: none">▶ 該当するパートナーのドキュメントの種類を選択します。▶ [表示]をクリックします。 システムからの応答 [アウト ドローワ]ブラウザ が表示されます。
3	[ワークスペース]ブラウザ にコピーするドキュメントを選択します。
4	[コピー]をクリックします。 システムからの応答 選択したドキュメントが、 [ワークスペース]ブラウザ にコピーされます。

ドキュメントのポスト

はじめに

"ポスト"機能を使用すると、選択した1つまたは複数の適合ドキュメントを[\[アウトドキュメント\]ブラウザ](#)に移動することができます。トランスレーションオブジェクトで定義されている検証ルールに準拠する場合、ドキュメントは適合していると見なされます。[状態]列に"OK"と表示されている場合、ドキュメントは適合しています。[状態]列に"失敗"と表示されている場合は、ドキュメントが適合していないためポストされません。

メモ

"ポスト"機能は、[ワークスペース]がアクティブである場合にのみ使用できます。

手順

1つまたは複数のドキュメントをポストするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[デスク]の適切な領域から、[ワークスペース]を選択します。 システムからの応答 [ワークスペース]ブラウザ が表示されます。
2	[アウトドキュメント]ブラウザ に移動する適合ドキュメントを選択します。 メモ [状態]列に"OK"と表示されている場合は、ドキュメントが適合していることを意味します。[状態]列に"失敗"と表示されている場合は、ドキュメントが適合していないためポストできません。
3	[ポスト]をクリックします。 システムからの応答 選択したドキュメントが、 [アウトドキュメント]ブラウザ に移されます。

ドキュメントのアンポスト

はじめに

"アンポスト"機能を使用すると、選択した1つまたは複数のドキュメントを [\[ワークスペース\]ブラウザ](#)に戻すことができます。これにより、ドキュメントがトレーディングパートナーに送信されないようにしたり、送信前に修正するためにドキュメントを移動したりできます。"アンポスト"機能は、[\[アウトドキュメント\]ブラウザ](#)がアクティブブラウザである場合にのみ使用できます。

メモ

ドキュメントを修正する場合は、送信する前にポストし直す必要があります。

手順

1つまたは複数のドキュメントをアンポストするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]の適切な領域から、[アウトドキュメント]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [アウトドキュメント概要]ダイアログボックスが表示されます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 該当するパートナーのドキュメントの種類を選択します。 ▶ [表示]をクリックします。 <p>システムからの応答 [アウトドキュメント]ブラウザが表示されます。</p>
3	<p>[ワークスペース]ブラウザに戻すドキュメントを選択します。</p>
4	<p>[アンポスト]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 選択したドキュメントが、[ワークスペース]ブラウザに戻されます。</p>

ドキュメントへの応答方法

はじめに

" 応答 " 機能を使用すると、インバウンド ソース ドキュメントからデータを転送することによって、応答ドキュメントを自動的に生成できます。" 応答 " 機能は、現在選択されているブラウザが [インドロワ] で、1 つ以上のドキュメントが選択されており、選択されたドキュメントのターンアラウンド トランスレーション オブジェクトが存在している場合にのみ使用できます。

ターンアラウンド ドキュメント

" 応答 " 機能は、現在選択されているドキュメントに対する応答として、パートナー関係からのターンアラウンド トランスレーション オブジェクトを使用してターンアラウンド ドキュメントを作成します。詳細については、「[インバウンド トランスレーション オブジェクトの選択](#)」を参照してください。ターンアラウンド ドキュメントは、適合ドキュメントだけでなく、不適合ドキュメント (状態が " 失敗 " のドキュメント) に対しても作成できます。

ドキュメントの修正

ターンアラウンド プロセスによって生成されたドキュメントは [ワークスペース] に配置され、送信する前に修正できます。

メモ

ドキュメントを修正するには、作成したドキュメントのアウトバウンド関係に画面入力トランスレーション オブジェクトが設定されている必要があります。

参照

適切な画面入力トランスレーション オブジェクトを設定する方法については、「[新しいアウトバウンド関係の作成方法](#)」を参照してください。

(次のページへ続く)

手順

1つまたは複数のドキュメントに応答するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]の適切な領域から、[インドローワ]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [インドローワ概要]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none">▶ 該当するパートナーのドキュメントの種類を選択します。▶ [表示]をクリックします。 <p>システムからの応答 [インドローワ]ブラウザが表示されます。</p>
3	<p>ターンアラウンド (応答)ドキュメントを作成するドキュメントを選択します。</p>
4	<p>[応答]をクリックします。</p> <p>システムからの応答</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 選択した各ドキュメントへの応答として、パートナー関係で指定したターンアラウンド トランスレーション オブジェクトを使用して、自動的にターンアラウンド ドキュメントが作成されます。▶ 作成されたターンアラウンド ドキュメントは[ワークスペース]内に表示され、[アウトドキュメント]ブラウザにポストする前に必要に応じて修正できます。 <p>参照 ドキュメントをポストする方法については、「ドキュメントのポスト」を参照してください。</p>

ドキュメントのインポート方法

はじめに

Gentran:Server では、[ドキュメント エディタ]を使用してシステムにデータを直接入力する代わりに、データをデータ ファイルからインポートすることができます。ドキュメントをインポートするには、インポートするトランザクションセットのシステム インポート トランスレーション オブジェクトおよびインポート トランスレーション オブジェクトを、システムに登録しておく必要があります。

参照

トランスレーション オブジェクトの登録については、「[新しいトランスレーション オブジェクトの登録方法](#)」を参照してください。

その他の構成作業

インポート ファイルの種類ごとに、System Configuration プログラムの [インポート] タブでインポートの仕様を定義する必要があります。インポート プロセス中にどのインポート トランスレーション オブジェクトまたはシステム インポート トランスレーション オブジェクトを使用してトランスレーションを開始するのかを指定します。

以下のいずれかにあてはまる場合は、ファイルをインポートできない可能性があります。UNC ファイルパスまたはファイル名のシステム構成プログラムへの追加に際しては、システム管理者に相談してください。

- UNC ファイルパスからファイルを選択し、System Configuration プログラムでは、そのファイルの種類インポートにローカルドライブが指定されている。
- ローカルドライブからファイルを選択し、System Configuration プログラムでは、そのファイルの種類インポートに UNC ファイル名が指定されている。

参照

インポート指定の追加の詳細については、『管理 ガイド』の「[インポート指定の編集方法](#)」を参照してください。

(次のページへ続く)

手順

ドキュメントをインポートするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]の適切な領域から、[ワークスペース]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [ワークスペース]ブラウザが表示されます。</p>
2	<p>[インポート]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [インポートするアプリケーション ファイル] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ▶ インポートするファイルを選択します。 ▶ [開く]をクリックします。 <p>システムからの応答 [ワークスペース]ブラウザにドキュメントがインポートされます。</p> <p>ドキュメントの状態は"OK"または"失敗"になります。"OK"は、ドキュメントが正常に読み込まれてエラー チェックにパスしたことを示し、"失敗"はエラー チェックにパスしなかったことを示します。</p> <p>メモ 不適合ドキュメントは送信できない可能性があります。こうした場合は、データ ファイルからそれらのドキュメントを削除して再処理するか、[ドキュメント エディタ]を使用してドキュメントを訂正します(それらのドキュメントの画面入力トランスレーション オブジェクトがある場合のみ)。</p> <p>参照 [ドキュメント エディタ]でのドキュメントの修正については、「ドキュメントの開き方と編集方法」を参照してください。</p> <p>重要 ファイルをインポートしても [ワークスペース]ブラウザにドキュメントが表示されない場合は、[オーディット ログ]を確認してください。</p>

ドキュメントのエクスポート方法

はじめに

ドキュメントをデータ ファイルにエクスポートするには、トランザクション セットのエクスポート トランスレーション オブジェクトをシステムに読み込んで登録し、そのパートナーのインバウンド関係レコードのエクスポート トランスレーション オブジェクトとして設定する必要があります。

メモ

- ▶ エクスポート コマンドを実行した後で、同じエクスポート ファイルに続けてエクスポートを行うと、そのファイルに新しい外部データが追加されてファイルサイズが増加します。
- ▶ [インバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックスの [メールボックスへエクスポート] コマンドを設定した場合、指定のメールボックスにドキュメントがエクスポートされます。

参照

- ▶ トランスレーション オブジェクトの登録については、「[新しいトランスレーション オブジェクトの登録方法](#)」を参照してください。
- ▶ エクスポート トランスレーション オブジェクトの設定については、「[\[アウトバウンド トランスレーション オブジェクト\] ダイアログ ボックス](#)」を参照してください。
- ▶ "メールボックスへエクスポート" 機能の設定については、「[\[インバウンド トランスレーション オブジェクト\] ダイアログ ボックス](#)」を参照してください。

手順

ドキュメントをエクスポートするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[デスク] の適切な領域から、[インドキュメント] ブラウザ、[? インドキュメント] ブラウザ、または [インドローワ] ブラウザ を選択します。</p> <p>システムからの応答 選択したブラウザの概要ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<p>該当するパートナーのドキュメントの種類を選択し、[表示] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 該当するドキュメント ブラウザが表示されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作	
3	エクスポートするドキュメントを選択し、[エクスポート] をクリックします。 システムからの応答 <u>[エクスポート方法の選択] ダイアログ ボックス</u> が表示されます。	
4	次のいずれかのオプションを選択し、[OK] をクリックします。	
	実行する操作	選択するオプション
	選択したすべてのドキュメントをデータに変換し、1つのファイルに書き込む	1つのファイルにエクスポートする システムからの応答 <u>[ドキュメントをエクスポートするファイル] ダイアログ ボックス</u> が表示されます。
	選択したドキュメントを、パートナーのインバウンド関係で設定したファイルに書き込む	既定のファイルにエクスポート する
選択したドキュメントの名前を変更する	ドキュメント によるファイルの選択 システムからの応答 <u>[ドキュメントをエクスポートするファイル] ダイアログ ボックス</u> が表示されます。	

コミュニケーションズの使い方

目次

▶ 概要	2
▶ [送信キュー]ブラウザ.....	3
▶ [コミュニケーションセッション]ダイアログ ボックス	4
▶ [ファイル処理]ダイアログ ボックス.....	5
▶ ドキュメントの送信方法	6
▶ 全ドキュメントの送信方法	7
▶ ドキュメントの再送方法	9
▶ ドキュメントの受信方法	11
▶ 送信キューの表示方法	13
▶ データ ファイルの処理方法.....	14

概要

本章の内容

この章では、Gentran:Server 上でコミュニケーションズを使用する方法について説明します。

コミュニケーションズ機能

"コミュニケーションズ"機能を使用すると、トレーディング パートナーとの間でデータの送信および受信を行うことができます。Gentran:Server ではコミュニケーションに必要な処理を"コミュニケータ"で実行します。

送信処理

次の表に、インターチェンジを送信するときが発生するシステム処理をまとめます。

段階	説明
1	選択したインターチェンジ内のドキュメントは EDI エンベロープへ一括して送られ、必要な Control Number などはパートナー プロファイルの情報から生成されます。
2	インターチェンジがビルドされると、そのインターチェンジは [インターチェンジ] ブラウザ内のリストに表示されます。 参照 インターチェンジを表示する手順については、「 インターチェンジの表示方法 」を参照してください。
3	リモート エンドとのコミュニケーションが確立されます。コミュニケーション セッションが成功したか失敗したかどうかに応じて、メッセージの状態が更新されます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ メールボックスが設定されていない、またはメールボックス サービスが開始されていない、などの理由でコミュニケーションが失敗した場合、インターチェンジおよびドキュメントは "送信準備完了" の状態のままとなります。 ▶ モデムが見つからないためにコミュニケーションが失敗した場合、インターチェンジおよびドキュメントは "順番待ち" の状態のままとなります。 メモ この時点では、ユーザ側の動作はいっさい必要ありません。送信に失敗したインターチェンジは、次の伝送セッションの一部として自動的に送信されます。
4	コミュニケーションが成功すると、ドキュメントはアウト ドロウワに移動し、インターチェンジの状態は "送信済み" に設定されます。

[送信キュー]ブラウザ

はじめに

[送信キュー]ブラウザには、現在送信の順番待ちの状態にあるドキュメントのリストが表示されます。

図

次の図に、[キュー]ブラウザを示します。



各部と機能

次の表に、[キュー]ブラウザの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
表示	[表示の選択]ダイアログボックスが表示され、選択したドキュメントを表示できます。
印刷	[印刷の選択]ダイアログボックスが表示され、選択したドキュメントを印刷できます。
削除	この機能は、[キュー]ブラウザでは利用できません。
エクスポート	この機能は、[キュー]ブラウザでは利用できません。
リフレッシュ	ブラウザの表示をリフレッシュします。
閉じる	ブラウザを閉じます。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。

[コミュニケーションセッション]ダイアログボックス

はじめに

[コミュニケーションセッション]ダイアログボックスでは、メールボックスを選択し、コミュニケーションセッションを開始してデータを送信および受信することができます。

図

次の図に、[コミュニケーションセッション]ダイアログボックスを示します。



各部と機能

次の表に、[コミュニケーションセッション]ダイアログボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
通信するメールボックスの選択	Gentran:Server のメールボックスのリストが表示されます。
OK	ダイアログボックスを閉じて、選択したメールボックスでコミュニケーションセッションを開始します。
キャンセル	機能を取り消し、ダイアログボックスを閉じます。

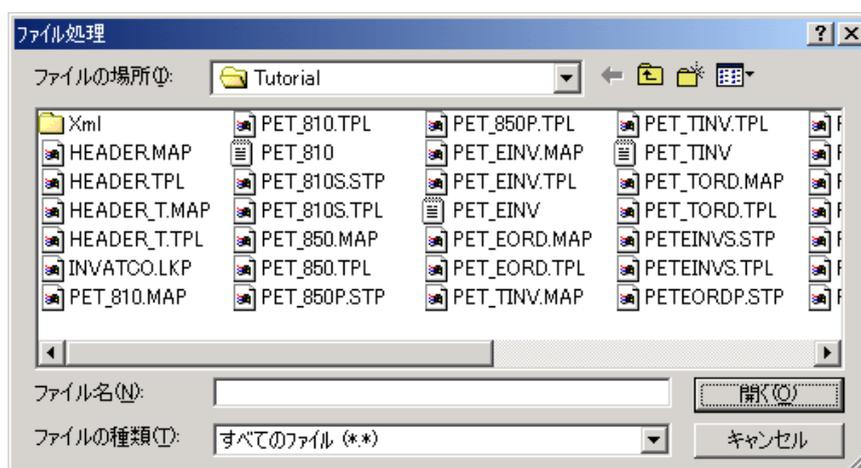
[ファイル処理]ダイアログ ボックス

はじめに

"ファイル処理"機能を使用すると、コミュニケーションセッションを介してファイルを受信した場合と同じように、EDIファイルでポスト コミュニケーションズプロセスを呼び出すことができます。

図

次の図に、[ファイル処理]ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

次の表に、[ファイル処理]ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
ファイルの場所	ファイルのパスとフォルダが表示されます。
ファイル名	ファイルの名前を指定します。
ファイルの種類	ファイルの種類が表示されます。
開く	選択した機能を実行し、ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	状況依存ヘルプが表示されます。

ドキュメントの送信方法

手順

1つまたは複数のドキュメントを送信するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]の適切な領域から、[アウト ドキュメント]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [アウト ドキュメント概要] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p>メモ 送信するドキュメントが [アウト ドキュメント]ブラウザ に表示されていない場合は、ドキュメントを [ワークスペース]ブラウザ から [アウト ドキュメント]ブラウザ にポストする必要があります。</p> <p>参照 ドキュメントをポストする手順については、「ドキュメントのポスト」を参照してください。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 該当するパートナーのドキュメントの種類を選択します。 ▶ [表示] をクリックします。 <p>システムからの応答 [アウト ドキュメント]ブラウザ が表示されます。</p>
3	<p>送信する 1つまたは複数のドキュメントを選択します。</p> <p>メモ 複数のドキュメントを選択するには、1番目のドキュメントをクリックし、Shift を押しながら最後のドキュメントをクリックします。アウト ドキュメントのリスト内で隣接していない複数のドキュメントを選択するには、Ctrl を押しながら各ドキュメントをクリックします。</p>
4	<p>ドキュメントを選択したら、[送信] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [Gentran:Server for Windows] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
5	<p>[はい] をクリックして、伝送セッションを開始します。</p>

全ドキュメントの送信方法

はじめに

[アウトドキュメント]内の全ドキュメントを送信するには、以下の2つの方法があります。

- ▶ [デスク]で[送受信]アイコンを選択する。
- ▶ [アウトドローワ]ブラウザを表示して、[送信]をクリックする。

手順：方法1

全ドキュメントを送信するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]で[送受信]アイコンをクリックします。</p> <p>システムからの応答 [Gentran:Server for Windows]ダイアログボックスが表示されます。</p>
2	<p>[はい]をクリックして、伝送セッションを開始します。</p> <p>システムからの応答 [コミュニケーションセッション]ダイアログボックスが表示されます。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ▶ データの送信先のメールボックスを1つまたは複数選択します。 ▶ [OK]をクリックすると、コミュニケーションセッションが開始されてデータが送信されます(伝送セッションを取り消す場合には[キャンセル]をクリックします)。 <p>メモ この動作により、[アウトドキュメント]内の全ドキュメントが、選択したメールボックスのいずれか1つを使用しているパートナーに送信されます。</p> <p>[アウトドキュメント]にドキュメントがない場合、または[インターチェンジ]ブラウザに状態が"準備完了"のインターチェンジがない場合は、受信専用セッションが実行され、データの受信に伴って[インドキュメント]または[?インドキュメント]が更新されます。</p>

(次のページへ続く)

手順：方法 2

全ドキュメントを送信するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]の適切な領域から、[アウトドキュメント]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [アウトドキュメント概要]ダイアログボックスが表示されます。</p> <p>メモ 送信するドキュメントがアウトドキュメントに表示されていない場合は、ドキュメントをワークスペースからアウトドキュメントにポストする必要があります。</p> <p>参照 ドキュメントをポストする手順については、「ドキュメントのポスト」を参照してください。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 該当するパートナーのドキュメントの種類を選択します。 ▶ [表示]をクリックします。 <p>システムからの応答 [アウトドキュメント]ブラウザが表示されます。</p>
3	<p>ドキュメントを選択しないでください。ドキュメントが選択されている場合は、Ctrlを押しながら第1マウスボタンをクリックして選択を解除してください。</p>
4	<p>[送信]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [Gentran:Server for Windows]ダイアログボックスが表示されます。</p>
5	<p>[はい]をクリックして、伝送セッションを開始します。</p> <p>メモ [アウトドキュメント]内のすべてのドキュメントが、該当するメールボックスへ送信されます。</p>

ドキュメントの再送方法

はじめに

エンベロープに正常に収められて送信されたドキュメントは、アウトドローワに格納されます。ドキュメントを再送するには、そのドキュメントのコピーを新たに作成して、送信プロセスを再実行する必要があります。

手順

ドキュメントを再送するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[デスク]の適切な領域から、[アウトドローワ]を選択します。 システムからの応答 [アウトドローワ概要]ダイアログボックスが表示されます。
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 該当するパートナーのドキュメントの種類を選択します。 ▶ [表示]をクリックします。 システムからの応答 [アウトドローワ]ブラウザが表示されます。
3	再送するドキュメントを選択します。 メモ 複数のドキュメントを選択するには、1番目のドキュメントをクリックし、 Shift を押しながら最後のドキュメントをクリックします。アウトドローワのリスト内で隣接していない複数のドキュメントを選択するには、 Ctrl を押しながら各ドキュメントをクリックします。
4	[コピー]をクリックしてドキュメントのコピーを作成し、これをワークスペースに格納します。
5	[デスク]の適切な領域から [ワークスペース] を選択します。 システムからの応答 [ワークスペース]ブラウザが表示されます。
6	必要に応じて、ドキュメントに変更を加えます。 メモ ドキュメントを修正できるのは、パートナー関係の画面入力トランスレーションオブジェクトが存在する場合のみです。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
7	<ul style="list-style-type: none">ドキュメントを選択します。[ポスト]をクリックします。 <p>システムからの応答 選択したドキュメントが、[アウトドキュメント]ブラウザにポストされます。</p>
8	<p>[デスク]の適切な領域から [アウトドキュメント] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [アウトドキュメント概要]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
9	<ul style="list-style-type: none">該当するパートナーのドキュメントの種類を選択します。[表示]をクリックします。 <p>システムからの応答 [アウトドキュメント]ブラウザが表示されます。</p>
10	<ul style="list-style-type: none">ドキュメントを選択します。[送信]をクリックします。 <p>システムからの応答 [Gentran:Server for Windows] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
11	<p>[はい]をクリックして、伝送セッションを開始します。</p>

ドキュメントの受信方法

はじめに

送信セッションが実行されると、メールボックスに受信待ちの情報がないかどうか自動的にチェックされます。メールボックスにデータがある場合は、これらが自動的に受信されます。

何も送信せずに先に受信する必要がある場合は、次のいずれかの方法で受信専用セッションを開始する必要があります。

- ▶ [コマンド]メニューから、[受信]コマンドを選択する。
- ▶ [インドキュメント]ブラウザを表示して、[受信]をクリックする。

手順：方法 1

受信専用セッションを開始するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[コマンド]メニューから[受信]を選択します。 システムからの応答 [コミュニケーションセッション]ダイアログボックスが表示されます。
2	コミュニケーションセッションを開始してデータを送信するには、[OK]をクリックします。 メモ これにより受信専用セッションが開始され、受信したデータに応じて[インドキュメント]ブラウザおよび[?インドキュメント]ブラウザが更新されます。

手順：方法 2

受信専用セッションを開始するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[表示]メニューから[インドキュメント]を選択します。 システムからの応答 [インドキュメント概要]ダイアログボックスが表示されます。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 該当するパートナーのドキュメントの種類を選択します。 ▶ [表示] をクリックします。 <p>システムからの応答 [インドキュメント]ブラウザが表示されます。</p>
3	<p>[受信] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [コミュニケーションセッション]ダイアログボックスが表示されます。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ▶ データの送信先のメールボックスを1つまたは複数選択します。 ▶ [OK] をクリックすると、コミュニケーションセッションが開始されてデータが送信されます。 <p>メモ コミュニケーションセッションが開始され、[インドキュメント]ブラウザおよび[?インドキュメント]ブラウザを更新し、そのセッションの結果として受信したデータを表示します。</p>

送信キューの表示方法

はじめに

[送信キュー]ブラウザには、現在送信待ちのドキュメントのリストが表示されます。このブラウザでは、メインシステムブラウザと同様のドキュメントベースの作業を行うことができます。

メモ

送信キューには、伝送セッションが失敗した場合にのみドキュメントが格納されます。こうしたドキュメントは、伝送セッションが正常に実行されるまで送信キューに格納されています。ユーザの介入は必要ありません。

手順

送信キューを表示するには、次の手順に従います。

ステップ	操作	
1	[表示]メニューから[送信キュー]を選択します。 システムからの応答 [送信キュー]ブラウザが表示されます。	
2	ドキュメントを選択します。	
3	次の表に従って、実行する機能を決めます。	
	実行する操作	クリックするボタン
	次のドキュメントなどの内容を表示する場合 <ul style="list-style-type: none"> ▶ EDI データ内で選択した 1 つのドキュメント ▶ 書式化されたドキュメント ▶ トランスレーションレポート 参照 詳細については、「 ドキュメントの表示方法 」を参照してください。	表示
選択したドキュメントまたはドキュメントの概要を印刷する場合 参照 詳細については、「 ドキュメントの印刷方法 」を参照してください。	印刷	

データ ファイルの処理方法

はじめに

"ファイル処理"機能を使用すると、コミュニケーションセッションを介して受信されたファイルと同様に、どのデータファイルに対してもポスト コミュニケーションズプロセスを呼び出すことができます。フロッピーディスク、または使用しているシステムの任意の場所にあるデータ ファイルを処理することができます。

手順

データ ファイルをコミュニケータに送信するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[コマンド]メニューから[ファイル処理]を選択します。 システムからの応答 [ファイル処理]ダイアログボックスが表示されます。
2	<ul style="list-style-type: none">▶ データファイルを選択します。▶ [開く]をクリックします。 システムからの応答 ファイルがコミュニケーションセッションを介して受信された場合と同様に、そのファイルに対するポスト コミュニケーションズプロセスが即座に呼び出されます。

インターチェンジの使い方

目次

- ▶ 概要 2
- ▶ [インターチェンジ]ブラウザ 3
- ▶ [インターチェンジのフィルタ]ダイアログ ボックス 9
- ▶ インターチェンジの表示方法 12
- ▶ 表示されたインターチェンジのフィルタ方法 15
- ▶ インターチェンジにドキュメントを表示する方法 17
- ▶ パートナーにインターチェンジを添付する方法 19
- ▶ インターチェンジの再送方法 22
- ▶ インターチェンジ、グループ、ドキュメントを手動で
受信確認する方法 24

概要

本章の内容

この章では、Gentran:Server でインターチェンジを使用する方法について説明します。

参照

[インターチェンジの復元] ブラウザについての詳細は、「[アーカイブデータの復元](#)」を参照してください。

[インターチェンジ] ブラウザ

[インターチェンジ] ブラウザを使用すると、以下の処理を実行できます。

- ▶ 送信または受信したすべてのインターチェンジ、グループ、およびドキュメントのリストが表示されます。
- ▶ インターチェンジの状態に関する情報 (ファンクショナル受信確認を受信したかどうか、およびその受信確認の状態など) を表示します。
- ▶ インターチェンジの表示をフィルタ操作します。
- ▶ ドキュメントをインターチェンジに表示します。
- ▶ 外部データ、EDI データ、および関連するトランスレータ レポートを表示します (利用可能な場合)。

メモ

EDI データを見る場合、[表示] メニューを選択し、テキストから 1 6 進に表示を変更することができます。

[インターチェンジ]ブラウザ

はじめに

[インターチェンジ]ブラウザを使用して、送信または受信したすべてのインターチェンジ、グループ、およびドキュメントのリストを表示できます。[インターチェンジ]ブラウザは常に使用可能です。このブラウザには、インターチェンジに関する状態情報(ファンクショナル受信確認を受信したかどうか、およびその受信確認の状態など)が表示されます。

情報の編成

[インターチェンジ]ブラウザでは、情報が階層構造で編成されています。次の表に、[インターチェンジ]ブラウザにおける情報の階層構造をまとめます。

レベル	アクセス方法	表示される情報 (中央のペイン – すべての情報が表示されるわけではありません)
インターチェンジ	[インターチェンジ]ブラウザを開きます。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ インターチェンジの方向 ▶ インターチェンジが作成された日時 ▶ パートナー名 ▶ Control Number ▶ インターチェンジの処理状態 ▶ ネットワークの状態 ▶ インターチェンジ受信確認の状態 ▶ メッセージの状態 <p>メモ これらのコンポーネントのいずれかが欠けているか、または特定のインターチェンジに適切でない場合には、表示されません。</p>
グループ	インターチェンジをダブルクリックします。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ グループ Control Number ▶ グループの種類 ▶ グループ受信確認の状態 <p>メモ これらのコンポーネントのいずれかが欠けているか、または特定のグループに適切でない場合には、表示されません。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) レベル	アクセス方法	表示される情報 (中央のペイン — すべての情報が 表示されるわけではありません)
ドキュメント	グループをダブルクリックします。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ドキュメントの状態 ▶ ドキュメント Control Number ▶ ドキュメントの種類 ▶ ドキュメント名 ▶ 参照データ ▶ ドキュメントの適合状態 ▶ トランザクション受信確認の状態 <p>メモ これらのコンポーネントのいずれかが欠けているか、または特定のドキュメントに適切でない場合には、表示されません。</p>
ドキュメント データ	ドキュメントをダブルクリックします。 メモ システム上で対象のドキュメントの画面入力トランスレーションオブジェクトを利用できることが、必須条件です。	ドキュメント データ

(次のページへ続く)

ブラウザの機能

[インターチェンジ]ブラウザでは、以下の機能を実行できます。

- ▶ [インターチェンジのフィルタ]ダイアログ ボックスから日付、パートナー、および方向 (インバウンドとアウトバウンド) をフィルタ条件に設定して、インターチェンジを表示できます。
- ▶ 外部データ、EDI データ、および選択したインターチェンジまたはドキュメントのトランスレータ レポート データを、ブラウザ内の適切なペインに表示できます。

メモ

EDI データや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から[16進]形式に切り換えることができます。

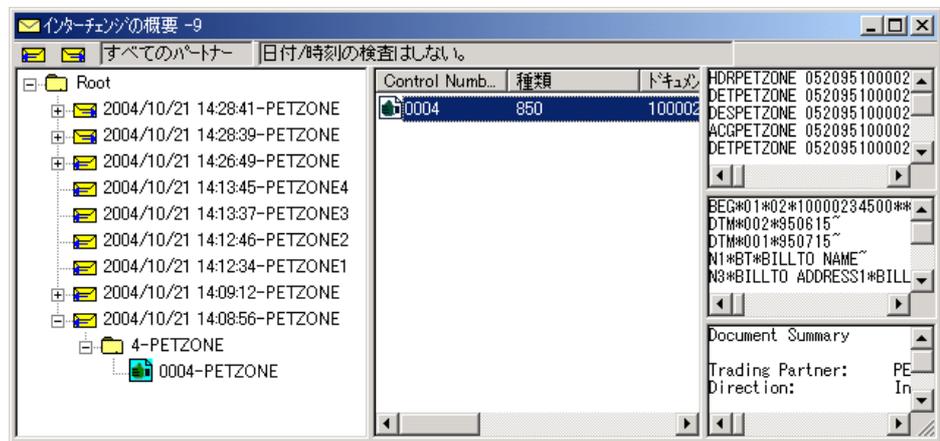
- ▶ インターチェンジの状態を "送信準備完了" から "保留" に (またはその逆に) 切り替えることができます。
- ▶ グループの状態を、手動で "受信確認済み" に変更できます。
- ▶ 選択したアイテムを印刷または削除できます。

メモ

インターチェンジをすぐには送信しない場合、この切り換え機能を使用することができます。

図

次の図に、外部データ、EDI データ、およびトランスレータ レポートのオプションが選択されているインターチェンジのブラウザを示します。



(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、[インターチェンジ] ブラウザの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
ステータスバー	<p>[インターチェンジのフィルタ] ダイアログ ボックスで指定したフィルタの指定事項が反映されます。</p> <p>メモ 中央のペインからアイテムを1つ選択すると、[電子商取引 (EC) マネージャ] のステータスバーが更新されます。</p>
(左のペイン — インターチェンジ ツリー)	<p>送信または受信したすべてのインターチェンジ、グループ、およびドキュメントのリストが表示されます。また、作成時刻およびパートナー名も表示されます。</p> <p>メモ [インターチェンジ] ブラウザの表示をリフレッシュするには、F5 を押します。</p> <p>参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 各レベルの内容の詳細については、「情報の編成」を参照してください。 ▶ 状態アイコンの詳細については、「ドキュメントレベルの状態アイコン」を参照してください。
(中央のペイン — 詳細なリスト)	<p>選択されたすべてのインターチェンジ、グループ、またはドキュメントのリストの詳細が表示されます。表示された情報は、そのレベルに依存します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 複数のアイテムを選択するには、Ctrl を押したままアイテムを選択します。 ▶ [インターチェンジ] ブラウザの表示をリフレッシュするには、中央のペインを右クリックし、ショートカットメニューから [リフレッシュ] を選択します (または、F5 を押します)。
(右上のペイン — 外部データ)	<p>トランスレーションで使用したデータ ファイルが表示されます (このオプションを [表示] メニューの [インターチェンジ] から選択した場合)。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 詳細リストから 1 つのアイテムが選択された場合のみ、このオプションは有効です。 ▶ トランスレーション内で使用した外部データ ファイルがない場合、このオプションは利用できません。 ▶ EDI データや外部データを表示するときには、[表示] メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト] から [16進] 形式に切り換えることができます。

(続き) 各部	機能
(右中央のペイン —Gentran データ)	<p>データが EDI 書式で表示されます (このオプションを [表示] メニューの [インターチェンジ] から選択した場合)。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 詳細リストから 1 つのアイテムが選択された場合のみ、このオプションは有効です。 ▶ EDI データや外部データを表示するときには、[表示] メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト] から [16 進] 形式に切り換えることができます。
(右下のペイン — トランスレータ レポート)	<p>トランスレータがこのドキュメントに対して実行した動作のレポート、および EDI またはトランスレーション オブジェクトに関する確認エラーのリストが表示されます (このオプションを [表示] メニューの [インターチェンジ] から選択した場合)。</p> <p>メモ</p> <p>詳細リストから 1 つのアイテムが選択された場合のみ、このオプションは有効です。</p> <p>参照</p> <p>トランスレータ レポートの詳細については、『管理 ガイド』の「エラー メッセージ」を参照してください。</p>

(次のページへ続く)

ドキュメント レベル
の状態アイコン

次の表に、[インターチェンジ] ブラウザのドキュメント レベルで使用される状態アイコンをまとめます。

状態	アイコン	説明
OK		(緑) — ドキュメントが EDI スタンダードに完全に適合しており、処理を続行できる状態にあることを示します。
失敗		<p>(赤) — 次のいずれかの状態を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ドキュメントが、EDI スタンダードに適合していません。これがエラーの原因である場合は、そのドキュメントに関連付けられたトランスレータレポートにエラーが表示されます。ドキュメントは EDI スタンダードに完全には適合していませんが、処理を続行できる状態にあります。 ▶ 受信したドキュメントを特定のトレーディングパートナーに関連付けることができません。この場合、そのドキュメントに対応するパートナーのリストには " 不明 " と表示されます。このドキュメントを、パートナーとのインターチェンジで受信したほかのドキュメントと関連付けるには、[インターチェンジ] ブラウザからドキュメントを添付します。 ▶ 適切な取引関係またはトランスレーション オブジェクトを、ドキュメントと関連付けることができません。関係またはトランスレーション オブジェクトを探すために使用した情報の種類に関する詳細情報が、オーディット ログに記録されます。この問題を解決するには、パートナー エディタを使用して有効な関係を確立し、その関係について有効なエクスポート、印刷、またはターンアラウンド トランスレーション オブジェクトを定義する必要があります。 ▶ インターチェンジ、ファンクショナル グループ、またはトランザクション レベル エンベロープ構造の処理中に、重大なエラーが発生しました。ヘッダーとトレーラの Control Number の不一致、無効なトレーラ管理カウント、Control Number の順番の確認エラーなども、このエラーに含まれます。これらのエラーが発生した場合、ドキュメントが入っているインターチェンジについてのトランスレータレポートにエラーが表示されます。
重複		(黄色) — このドキュメントに、システム上の別のドキュメントと同じ名前が付けられていることを示します。

[インターチェンジのフィルタ]ダイアログボックス

はじめに

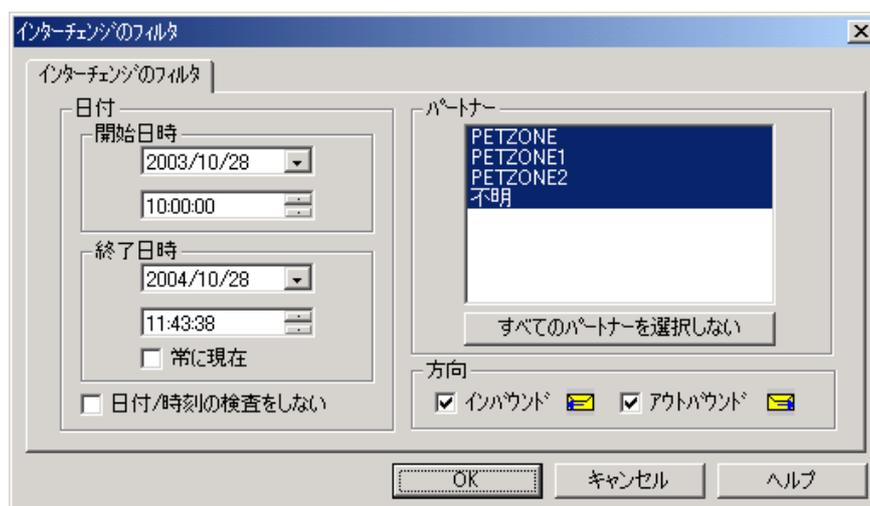
[インターチェンジのフィルタ]ダイアログボックスを使用すると、インターチェンジの表示に、日付、パートナー、および方向(インバウンドとアウトバウンド)によるフィルタをかけることができます。

メモ

Gentran:Serverの[選択]ダイアログボックス内の[インターチェンジのフィルタ]タブで、グローバル[インターチェンジのフィルタ]のグローバル設定をカスタマイズすることができます。[選択]ダイアログボックスを開くには、[オプション]メニューから[選択]を選択します。

図

次の図に、[インターチェンジのフィルタ]ダイアログボックスを示します。



(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、[インターチェンジのフィルタ] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
開始日時	<p>日付範囲の始まりの日が表示されます。この日付をフィルタ条件として、インターチェンジが表示されます。</p> <p>メモ [開始日時] ボックスは、[日付 / 時刻の検査をしない] チェック ボックスがオフになっている場合にのみアクティブになります。</p>
終了日時	<p>日付範囲の終わりの日が表示されます。この日付をフィルタ条件として、インターチェンジが表示されます。</p> <p>メモ [終了日時] ボックスは、[日付 / 時刻の検査をしない] チェック ボックスまたは [常に現在] チェック ボックスのいずれかが選択されている場合にはアクティブになりません。</p>
常に現在	<p>日付範囲の終わりの日付を常に現在のシステム日付および時刻にする場合は、[常に現在] チェック ボックスをクリックします。</p> <p>メモ [常に現在] チェック ボックスは、[日付 / 時刻の検査をしない] チェック ボックスがオフになっている場合にのみアクティブになります。</p>
日付 / 時刻の検査をしない	<p>日付および時刻をフィルタ条件にしてインターチェンジを表示するかどうかを指定します (選択した場合)。</p>
パートナー	<p>システム上に存在するすべてのパートナー プロファイルがリスト表示されます。このリストを使用すると、指定したパートナーをフィルタ条件にしてインターチェンジを表示できます。</p> <p>メモ 既定の設定ではすべてのパートナーが表示されますが、パートナー プロファイルをクリックしてクリアすることができます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
すべてのパートナーを選択しない	<p>すべてのパートナー プロファイルをクリアします。</p> <p>メモ これにより、指定したパートナーをフィルタ条件としてインターチェンジを表示できるようになります。</p> <p>注意 少なくとも1つのパートナーを選択する必要があります。</p>
インバウンド アウトバウンド	<p>方向 (インバウンドとアウトバウンド) をフィルタ条件にしてインターチェンジを表示します。</p> <p>メモ 既定の表示は、インバウンド インターチェンジおよびアウトバウンド インターチェンジの両方にフィルタをかけます。</p> <p>注意 このオプションを利用するには、[インバウンド] チェックボックスまたは [アウトバウンド] チェックボックスのいずれか1つを選択する必要があります。</p>
OK	ダイアログ ボックスを閉じて、選択した内容を保存します。
キャンセル	選択した内容を保存せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。

インターチェンジの表示方法

手順

インターチェンジを表示するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]の適切な領域から、[インターチェンジ]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [インターチェンジ]ブラウザが表示されます。</p> <p>メモ [インターチェンジ]ブラウザの表示をリフレッシュするには、中央のペインを右クリックし、ショートカットメニューから[リフレッシュ]を選択します(または、F5を押します)。</p>
2	<p>インターチェンジの表示で、状態によるフィルタをかけるかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ フィルタをかける場合は、「表示されたインターチェンジのフィルタ方法」を参照してください。▶ フィルタをかけない場合は、ステップ3に進みます。 <p>メモ "フィルタ"機能を使用すると、インターチェンジの表示に、日付、パートナー、および方向(インバウンドまたはアウトバウンド)によるフィルタをかけることができます。</p>
3	<p>インターチェンジを選択します。</p> <p>(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作	
4	次の表に従って、次に行う操作を決めます。	
	実行する操作	選択
	選択したインターチェンジに関連する外部データを表示する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [表示]メニューから[インターチェンジ]を選択します。 ▶ サブメニューから[関連外部データ]を選択します。 <p>メモ EDIデータや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から[16進]形式に切り換えることができます。</p>
	選択したインターチェンジの内容をEDIデータ書式で表示する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [表示]メニューから[インターチェンジ]を選択します。 ▶ サブメニューから[Gentranデータ]を選択します。 <p>メモ EDIデータや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から[16進]形式に切り換えることができます。</p>
	選択したインターチェンジのトランスレータレポートを表示する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [表示]メニューから[インターチェンジ]を選択します。 ▶ サブメニューから[トランスレータレポート]を選択します。
選択したインターチェンジまたはインターチェンジの概要を印刷する	[ファイル]メニューから[印刷]を選択します。 (次のページへ続く)	

(続き) ステップ	操作	
4 (続き)	選択したインターチェンジと、これに関連するすべてのドキュメントを削除する	<p data-bbox="954 389 1407 456">[ドキュメント]メニューから[削除]を選択します。</p> <p data-bbox="954 479 1011 510">メモ</p> <ul data-bbox="954 519 1407 1429" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="954 519 1407 967">▶ 状態が"順番待ち"のインターチェンジを削除すると、アウトドキュメントおよびトレーディングパートナーのインボックスで、特定のメッセージを削除する必要があることを示す警告メッセージが表示されます。そのまま続けると、パートナーの処理結果がControl Numberの順番に基づく場合は、トランザクション、グループ、およびインターチェンジのControl Numberを修正する必要があることを示す警告メッセージが表示されます。 <li data-bbox="954 976 1407 1258">▶ 状態が"送信準備完了"のインターチェンジを削除すると、パートナーの処理結果がControl Numberの順番に基づく場合は、トランザクション、グループ、およびインターチェンジのControl Numberを修正する必要があることを示す警告メッセージが表示されます。 <li data-bbox="954 1267 1407 1429">▶ インターチェンジのドキュメントが受信確認処理(受信確認の生成、または、整合)を待っている場合、そのドキュメントの処理が終わるまで削除されません。
5	パートナー関係にインターチェンジを添付する	[ドキュメント]メニューから[添付]を選択します。

表示されたインターチェンジのフィルタ方法

はじめに

[インターチェンジ]ブラウザがアクティブになっている場合、"フィルタ"機能を使用すると、インターチェンジの表示に、日付、パートナー、および方向(インバウンドとアウトバウンド)によるフィルタをかけることができます。

手順

インターチェンジをパートナーや日付順にフィルタ表示するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[デスク]の適切な領域から、[インターチェンジ]を選択します。 システムからの応答 [インターチェンジ]ブラウザが表示されます。
2	[コマンド]メニューから[フィルタ]を選択します。 システムからの応答 [インターチェンジのフィルタ]ダイアログボックスが表示されます。
3	インターチェンジの表示で、日時によるフィルタをかけるかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ フィルタをかける場合は、[日付/時刻の検査をしない]チェックボックスをオフにしてステップ4に進みます。 ▶ フィルタをかけない場合は、[日付/時刻の検査をしない]チェックボックスをオンにしてステップ6に進みます。
4	[開始日時]スライドバーを使用して、表示するインターチェンジの日付範囲の始まりを指定します。
5	日付範囲の終わりを、常に現在のシステム日時にするかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 常に現在のシステム日付および時刻にする場合は、[常に現在]チェックボックスをオンにします。 ▶ 現在のシステム日付および時刻にしない場合は、[常に現在]チェックボックスをオフにし、[終了日時]スライドバーで日付範囲の終わりを設定します。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
6	<p>インターチェンジの表示に、パートナーによるフィルタをかけるかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ フィルタをかける場合は、表示するパートナーを [パートナー] リスト ボックス (すべてのパートナー プロファイルを表示) から選択します。 <p>メモ 既定値ではすべてのパートナーが表示されますが、パートナー プロファイルをクリックして選択を解除し、表示を変更することもできます。すべてのパートナー プロファイルの選択を解除するには、[すべてのパートナーを選択しない] をクリックします。その後、1つ以上のプロファイルをクリックすれば、そのプロファイルを選択できます。少なくとも1つのパートナーを選択する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ フィルタをかけない場合は、ステップ7に進みます。
7	<p>インターチェンジのどちらの方向にフィルタをかけるかによって、次を実行します。</p> <p>既定値 既定の表示は、インバウンド インターチェンジおよびアウトバウンド インターチェンジの両方にフィルタをかけます。方向をクリアするには、[インバウンド] または [アウトバウンド] チェック ボックスをクリックします。</p> <p>メモ 少なくとも1つの [方向] チェック ボックスがオンになっている必要があります。</p>
8	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 指定した条件に基づいて、インターチェンジの表示にフィルタがかけられます。</p>

インターチェンジにドキュメントを表示する方法

はじめに

インターチェンジ内の個々のドキュメントを表示するためには、各ドキュメントの画面入力トランスレーション オブジェクトが使用可能である必要があります。

手順

インターチェンジ内のドキュメントを表示するには、次の手順に従います。

ステップ	操作	
1	<p>[デスク]の適切な領域から、[インターチェンジ]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [インターチェンジ]ブラウザが表示されます。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [インターチェンジ]ブラウザには、送受信されたすべてのインターチェンジ、グループ、およびドキュメントが表示されます。 ▶ [インターチェンジ]ブラウザの表示をリフレッシュするには、中央のペインを右クリックし、ショートカットメニューから[リフレッシュ]を選択します(または、F5を押します)。 	
2	<p>ドキュメントを選択して次のステップに進むか、またはドキュメントをダブルクリックして表示します。</p> <p>メモ このドキュメントの画面入力トランスレーション オブジェクトが使用可能である必要があります。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>	
3	ドキュメントを選択したら、次の表に従って次に行う操作を決めます。	
	<p>実行する操作</p> <p>このドキュメントのトランスレータ レポートを表示する</p>	<p>選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [表示]メニューから[インターチェンジ]を選択します。 ▶ [トランスレータ レポート]を選択します。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作	
3 (続き)	実行する操作	選択
	選択したインターチェンジの内容を EDI データ書式で表示する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [表示]メニューから [インターチェンジ] を選択します。 ▶ サブメニューから [Gentran データ] を選択します。 <p>メモ EDI データや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から [16進]形式に切り換えることができます。</p>
	選択したインターチェンジに関連する外部データを表示する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [表示]メニューから [インターチェンジ] を選択します。 ▶ サブメニューから [関連外部データ] を選択します。 <p>メモ EDI データや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から [16進]形式に切り換えることができます。</p>
	選択したドキュメントまたはトランスレータレポートを印刷する	[ファイル]メニューから [印刷] を選択します。
	選択したドキュメントを削除する	[ドキュメント]メニューから [削除] を選択します。
適切なブラウザにドキュメントをコピーする	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [ドキュメント]メニューから [コピー] を選択します。 ▶ 適切なブラウザ (適合するインバウンドドキュメントの場合は [? インドキュメント]ブラウザ または [インドキュメント]ブラウザ、アウトバウンドドキュメントの場合は [ワークスペース]ブラウザ) をサブメニューから選択します。 	

パートナーにインターチェンジを添付する方法

はじめに

[パートナーへの添付]ダイアログボックスは、[インターチェンジ]ブラウザがアクティブで、インターチェンジを1つ選択している場合に表示できます。添付機能を使用すると、インターチェンジをパートナーに連結することができます。この機能は、識別可能なパートナーがなく、[? インドキュメント]ブラウザにパートナーなしで表示されているドキュメントを受信した場合に使用します。

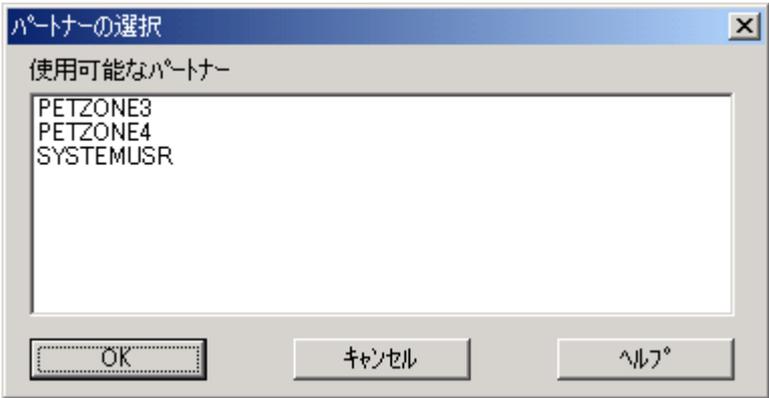
メモ

このようなドキュメントのインターチェンジは、[インターチェンジ]ブラウザにパートナーなしで表示されます。

手順

パートナーにインターチェンジを添付するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[デスク]の適切な領域から、[インターチェンジ]を選択します。 システムからの応答 [インターチェンジ]ブラウザ が表示されます。
2	インターチェンジを1つ選択します。
3	パートナーが既に存在しているかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 存在している場合は、ステップ4に進みます。 ▶ 存在していない場合は、次に進む前にパートナーを作成する必要があります。 参照 新しいパートナーおよびパートナー関係を作成する手順については、「 新しいパートナーの定義の作成方法 」を参照してください。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
4	<p>[ドキュメント]メニューから [添付] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [パートナーの選択]ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
5	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [使用可能なパートナー] リスト ボックスから、目的のパートナーを選択します。 ▶ [OK] をクリックします。 <p>システムからの応答 選択したインターチェンジがこのパートナーに結合され、[インターチェンジ]ブラウザに戻ります。</p>
6	<p>インターチェンジを添付するパートナーには、複数のインターチェンジ定義があるかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 複数の定義がある場合は、ダイアログ ボックスにメッセージが表示されます。次のステップに進みます。 ▶ 複数の定義がない場合は、ステップ 8 に進みます。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作	
7	次の表に従って、次に行う操作を決めます。	
	インターチェンジを添付するパートナーに、以下のアイテムが複数ある場合	表示されたダイアログ ボックスでの操作
	インターチェンジ定義	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 適切なインターチェンジ定義を選択します。 ▶ [OK] をクリックします。
	グループ定義	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 適切なグループ定義を選択します。 ▶ [OK] をクリックします。
8	<p>インターチェンジをパートナーに添付したら、[デスク] の適切な領域から [? インドキュメント] を選択して開きます。</p> <p>メモ ドキュメントは、エクスポートしたり、印刷したり、[インドローワ]ブラウザに移動したりできます。</p>	

インターチェンジの再送方法

はじめに

[インターチェンジ]ブラウザからアウトバウンド インターチェンジを再送するには、再送コマンドを使用する必要があります。

メモ

再送できるインターチェンジは、以前に送信されたものか、または状態が "送信準備完了" のものだけです。

再送処理

次の表に、選択したインターチェンジを再送する際にシステム内で発生する処理をまとめます。

段階	説明
1	選択したインターチェンジ内のドキュメントが EDI エンベロープに一括して送られ、必要な Control Number がパートナー プロファイル内の情報から生成されます。
2	作成されたインターチェンジは、 [インターチェンジ]ブラウザ に表示されます。 参照 インターチェンジを表示する手順については、「 インターチェンジの表示方法 」を参照してください。
3	再送コマンドが実行されると、まず TRADACOMS インターチェンジであるかどうか判別されます。インターチェンジが TRADACOMS である場合、FIL セグメント内の現在のバージョン番号が 1 増分されます。インターチェンジは、この更新の後にほかのインターチェンジと同じ方法で再送されます。
4	リモート エンドとのコミュニケーションが確立されます。コミュニケーションセッションが成功したか失敗したかに応じて、メッセージの状態が更新されます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ メールボックスが設定されていない、またはメールボックスサービスが開始されていない、などの理由でコミュニケーションが失敗した場合、インターチェンジおよびドキュメントは "送信準備完了" の状態のままとなります。 ▶ モデムが見つからないためにコミュニケーションが失敗した場合、インターチェンジおよびドキュメントは "順番待ち" の状態のままとなります。 メモ この時点では、ユーザ側の動作はいっさい必要ありません。送信に失敗したインターチェンジは、次の伝送セッションの一部として自動的に送信されます。 (次のページへ続く)

(続き) 段階	説明
5	コミュニケーションが成功すると、ドキュメントは [アウトドローワ]ブラウザ に移動し、インターチェンジの状態は " 送信済み " に設定されます。

手順

アウトバウンド インターチェンジを再送するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[デスク] の適切な領域から、[インターチェンジ] を選択します。 システムからの応答 [インターチェンジ]ブラウザ が表示されます。
2	再送するアウトバウンド インターチェンジを選択します。
3	[ドキュメント] メニューから [再送] を選択します。 システムからの応答 [Gentran:Server for Windows] ダイアログ ボックスが表示されます。
4	[はい] をクリックして、伝送セッションを開始します。

インターチェンジ、グループ、ドキュメントを手動で受信確認する方法

はじめに

"受信確認"機能では、単にアウトバウンドドキュメントの状態が変更されるだけで、受信確認が生成されるわけではありません。[インターチェンジ]ブラウザ内のインターチェンジ、グループ、およびドキュメントの状態は、さまざまな理由により、手動で受信確認済みに設定しなければならない場合があります。

例

たとえば、時間切れドキュメントに関してパートナーに問い合わせたところ、そのドキュメントが受信されているにもかかわらず受信確認が送信されていないという場合は、手動で状態を変更する必要があります。

手順

インターチェンジ、グループ、およびドキュメントの状態を手動で受信確認済みに変更するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[デスク]の適切な領域から、[インターチェンジ]を選択します。 システムからの応答 [インターチェンジ]ブラウザが表示されます。
2	受信確認の済んでいないインターチェンジ、グループ、またはドキュメントを選択します。 メモ 受信確認の済んでいないドキュメントは、以下のいずれかの状態になっています。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ "時間切れ" ▶ "待機中" ▶ "送信済み" ▶ "ネットワーク上" ▶ "収集済み" ▶ "ネットワークエラー" ▶ "ネットワーク警告"
3	[ドキュメント]メニューから[受信確認]を選択します。 システムからの応答 ドキュメントの状態が受信確認済みに設定されます。

外部データの使い方

目次

▶ 概要	2
▶ [外部データの概要]ビューア	4
▶ [外部データフィルタ]ダイアログ ボックス	8
▶ 外部データ ファイルの表示方法.....	11
▶ 外部データ ファイルのフィルタ方法.....	13

概要

本章の内容

この章では、Gentran:Server で外部データを使用する方法について説明します。

参照

- ▶ 復元された外部データ概要ビューアについての詳細は、「[アーカイブデータの復元](#)」を参照してください。
- ▶ [外部データの概要]ビューアについての詳細は、「[\[インターチェンジ\]ブラウザ](#)」を参照してください。

外部データ

Gentran:Server では、ユーザーが指定すれば、EDI ドキュメントまたはインターチェンジとこれらに対応する外部 (アプリケーション) データとの関係をトラックします。重要な処理の場合、処理の開始時に外部データの固定コピーがシステム内で作成されます。インバウンド (ファイル処理とエクスポート) 処理の場合、記憶を維持するために、外部データ ファイルのコピーが再度作成されます。Gentran:Server では、外部データをアーカイブすることもできます。

システム構成サブシステム内の [外部データ] フォルダにコピーする外部データ (ファイル処理、インポート、およびエクスポート) を指定します。

メモ

エクスポート、インポート、またはファイル処理機能の少なくとも 1 つに対して外部データをコピーするように指定しないと、この外部データを表示するオプションは利用できません。

参照

- ▶ ドキュメントのインポートについての詳細は、「[ドキュメントのインポート方法](#)」を参照してください。
- ▶ ドキュメントのエクスポートについての詳細は、「[ドキュメントのエクスポート方法](#)」を参照してください。
- ▶ Gentran:Server でのトラッキングについての詳細は、「[トラッキングの使い方](#)」を参照してください。
- ▶ 外部データのアーカイブについての詳細は、「[アーカイブと復元の使い方](#)」を参照してください。
- ▶ 外部データ ファイルを [外部データ] フォルダにコピーするためのシステム活動を選択する方法についての詳細は、『[管理ガイド](#)』の「[システム構成 - \[外部データ\] タブ](#)」のセクションを参照してください。

(次のページへ続く)

**[外部データ]
ビューア**

[外部データ]ビューアを使用して、以下の処理を実行できます。

- ▶ 送信済みまたは受信済みのドキュメントやインターチェンジに関連付けられている、すべての外部データ ファイルのリストを表示する。
- ▶ 外部データの表示にフィルタをかける。
- ▶ 外部データ、関連する EDI データ、および関連するトランスレータ レポートを表示する (利用可能な場合)。

メモ

EDI データや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から[16進]に切り換えることができます。

[外部データの概要]ビューア

はじめに

[外部データの概要]ビューアを使用すると、送信済みまたは受信済みのドキュメントやインターチェンジに関連付けられている、すべての外部データ ファイルのリストを表示することができます。[外部データの概要]ビューアは、常に使用可能です。

情報の編成

[外部データの概要]ビューアでは、以下の表のような階層によって情報が編成されています。

レベル	アクセス方法	表示される情報
外部データ ファイル (番号付き)	[外部データの概要] ビューアを開きます。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ファイルのパスおよびファイル名 ▶ ファイルが作成された日時
ドキュメント またはイン ターチェンジ	外部データ ファイル をダブルクリックし ます。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ドキュメントやインターチェンジ の Control Number ▶ 関連付けられているパートナー ▶ ドキュメントの種類 ▶ 受信確認の状態 ▶ ドキュメント名 ▶ 参照データ ▶ ドキュメントが作成された日時 <p>メモ これらのコンポーネントのいずれかが 欠けているか、または特定のグループ に適切でない場合には、表示されま せん。</p>

(次のページへ続く)

**"外部データの概要"
機能**

[外部データの概要]ビューアで、次の機能を実行できます。

- ▶ [外部データフィルタ]ダイアログボックスで、日/時や動作によって、外部データの表示にフィルタをかけます。
- ▶ ブラウザの該当ペインで、外部データ、EDIデータ、および選択した外部データファイルのトランスレータレポートデータの表示にフィルタをかけます。

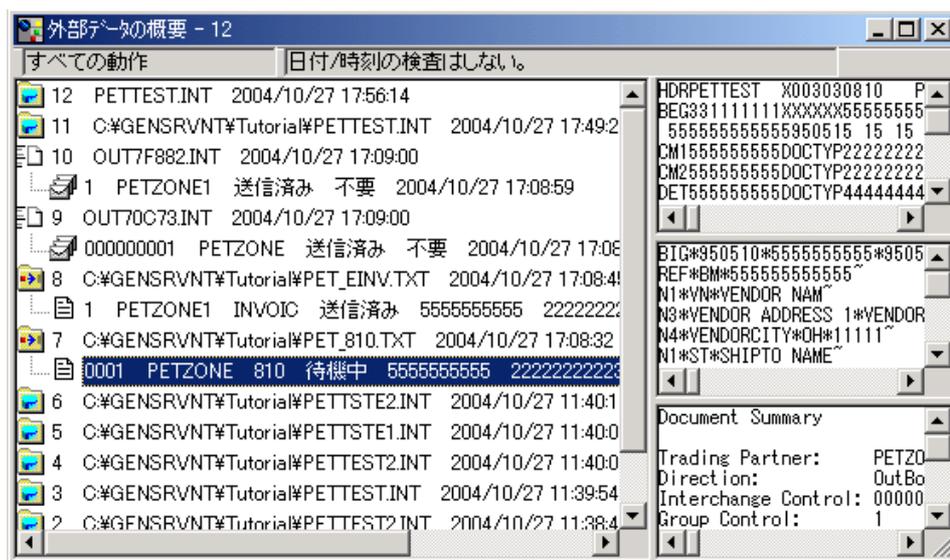
メモ

EDIデータや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から[16進]に切り換えることができます。

- ▶ 選択したアイテムを印刷します。
- ▶ 外部データファイルを[外部データ]フォルダから削除します。

図

次の図に、外部データ、EDIデータ、およびトランスレータレポートのオプションが選択されている[外部データの概要]ビューアを示します。



(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、[外部データの概要]ビューアの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
ステータスバー	[外部データフィルタ]ダイアログボックスで指定したフィルタの指定事項が反映されます。
(左のペイン — 外部ツリー)	すべての外部データファイルおよび(使用可能な場合)関連する EDI ドキュメントやインターチェンジのうち送信済みまたは受信済みであるもののリストが表示されます。 参照 <ul style="list-style-type: none"> 各レベルの内容の詳細については、「情報の編成」を参照してください。 このビューアで使用するアイコンについての詳細は、「アイコン」を参照してください。
(右上のペイン — 外部データ)	トランスレーションで使用したデータファイルが表示されます(このオプションを[表示]メニューの[外部データ]から選択した場合)。
(右中央のペイン — Gentran データ)	関連ドキュメントが EDI 書式で表示されます(このオプションを[表示]メニューの[外部データ]から選択した場合)。 メモ トランスレーションで使用したドキュメントがない場合、このオプションは利用できません。
(右下のペイン — エクスポートドキュメント概要トランスレータレポート)	トランスレータがこのドキュメントに対して実行した外部動作のレポート、および EDI またはトランスレーションオブジェクトに関するエラーのリストが表示されます(このオプションを[表示]メニューの[外部データ]から選択した場合)。 参照 トランスレータレポートの詳細については、『管理ガイド』の「エラーメッセージ」を参照してください。

(次のページへ続く)

アイコン

次の表に、[外部データの概要]ビューアで使用されるアイコンをまとめます。

アイコン	説明
	ファイル処理またはメールボックス ファイル処理のシステム活動を示します。
	送信のシステム活動を示します。
	インポートまたはメールボックス インポートのシステム活動を示します。
	エクスポートのシステム活動を示します。
	外部データ ファイルに関連するインターチェンジを示します。
	外部データ ファイルに関連するドキュメントを示します。 メモ このアイコンの色が赤の場合は、ドキュメントにエラーがあることを示します。

[外部データ フィルタ] ダイアログ ボックス

はじめに

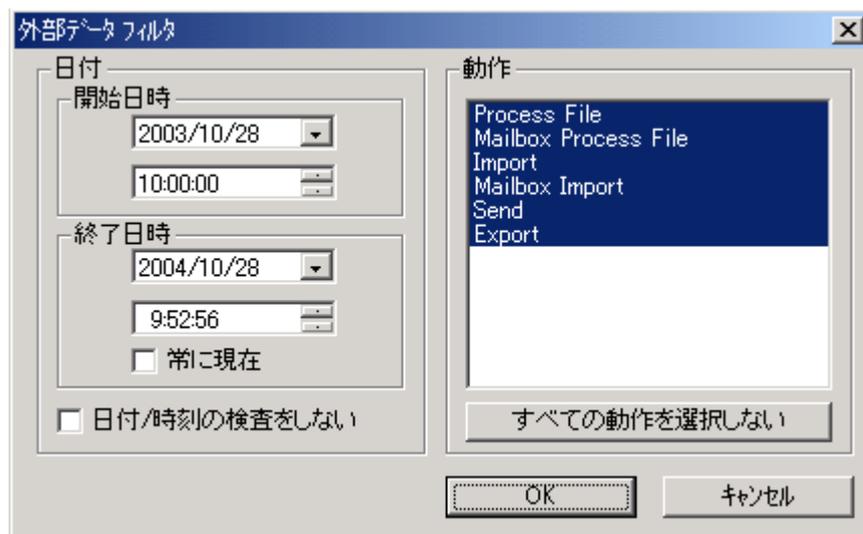
[外部データ フィルタ] ダイアログ ボックスを使用すると、日付およびこのファイルに対して実行した動作 (ファイル処理、メールボックス ファイル処理、インポート、メールボックス インポート、送信、およびエクスポート) によって、外部データ ファイルの表示にフィルタをかけることができます。

アクセス方法

[外部データ] ブラウザがアクティブである場合、[コマンド] メニューから [フィルタ] を選択します。

図

次の図に、[外部データ フィルタ] ダイアログ ボックスを示します。



(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、[外部データ フィルタ] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
開始日時	<p>日付範囲の始まりの日が表示されます。指定した日付範囲によって、外部データ ファイルの表示にフィルタをかけます。</p> <p>メモ [開始日時] ボックスは、[日付/時刻の検査をしない] チェック ボックスが選択されていない場合にのみアクティブになります。</p>
終了日時	<p>日付範囲の終わりの日が表示されます。指定した日付範囲によって、外部データ ファイルの表示にフィルタをかけます。</p> <p>メモ [終了日時] ボックスは、[日付/時刻の検査をしない] チェック ボックスまたは[常に現在] チェック ボックスのいずれかがオンになっている場合にはアクティブになりません。</p>
常に現在	<p>日付範囲の終わりの日付を常に現在のシステム日付および時刻にする場合は、[常に現在] チェック ボックスをクリックします。</p> <p>メモ [常に現在] チェック ボックスは、[日付/時刻の検査をしない] チェック ボックスがオンになっていない場合にのみアクティブになります。</p>
日付/時刻の検査をしない	<p>日付および時刻をフィルタ条件にして外部データ ファイルを表示するかどうかを指定します(選択した場合に表示)。</p>
動作	<p>外部データ ファイルを使用して実行される可能性のある動作のすべてがリスト表示されます。このリストを使用すると、指定した動作をフィルタ条件にして外部データ ファイルを表示できます。</p> <p>メモ 既定値ではすべての動作が表示されますが、これらをクリアすることもできます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
すべての動作を 選択しない	すべての動作をクリアします。 メモ このオプションを使用すると、指定した動作をフィルタ条件にして外部データ ファイルを表示できます。 注意 少なくとも 1 つの動作を選択する必要があります。
OK	ダイアログ ボックスを閉じて、選択した内容を保存します。
キャンセル	選択した内容を保存せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。

外部データ ファイルの表示方法

手順

外部データ ファイルを表示するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[表示]メニューから[外部データ]>[ブラウザ]を選択します。 システムからの応答 [外部データの概要]ビューア が表示されます。
2	動作または日付によって、外部データ ファイルの表示にフィルタをかけて表示するかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none">▶ フィルタをかける場合は、「外部データファイルのフィルタ方法」を参照してください。▶ フィルタをかけない場合は、ステップ3に進みます。
3	外部データ ファイルを選択します。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作	
4	次の表に従って、次に行う操作を決めます。	
	実行する操作	選択
	選択した 1 つのファイルの外部データを表示する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [表示] メニューから [外部データ] を選択します。 ▶ サブメニューから [関連外部データ] を選択します。 <p>メモ EDI データや外部データを表示するときには、[表示] メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト] から [16 進] に切り換えることができます。</p>
	関連する EDI データを表示する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [表示] メニューから [外部データ] を選択します。 ▶ サブメニューから [Gentran データ] を選択します。 <p>メモ EDI データや外部データを表示するときには、[表示] メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト] から [16 進] に切り換えることができます。</p>
	外部データ ファイルに対して実行した動作のトランスレータ レポートを表示する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [表示] メニューから [外部データ] を選択します。 ▶ サブメニューから [トランスレータ レポート] を選択します。
	外部データ ファイルを [外部データ] フォルダから削除する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ビューアの左のペインから、適切なファイルを選択します。 ▶ [表示] メニューから [削除] を選択します。
	外部データ ファイル、EDI データ、またはトランスレータ レポートを印刷する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ビューアの右のペインから、適切なアイテムを選択します。 ▶ [ファイル] メニューから [印刷] を選択します。

外部データ ファイルのフィルタ方法

はじめに

[外部データの概要]ビューアがアクティブであれば、"フィルタ"機能を使用して、日付および動作でフィルタをかけて外部データ ファイルを表示できます。

手順

外部データ ファイルを、日付や動作の順に並べ替えて表示するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[表示]メニューから[外部データ]>[ブラウザ]を選択します。 システムからの応答 [外部データの概要]ビューアが表示されます。
2	[コマンド]メニューから[フィルタ]を選択します。 システムからの応答 [外部データフィルタ]ダイアログ ボックスが表示されます。
3	日時によって、外部データ ファイルの表示にフィルタをかけるかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ フィルタをかける場合は、[日付/時刻の検査をしない]チェックボックスをオフにしてステップ4に進みます。 ▶ フィルタをかけない場合は、[日付/時刻の検査をしない]チェックボックスをオンにしてステップ6に進みます。
4	[開始日時]スライド バーを使用して、表示する外部データ ファイルの日付範囲の始まりを指定します。
5	日付範囲の終わりを、常に現在のシステム日時にするかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 常に現在のシステム日時にする場合は、[常に現在]チェックボックスをオンにします。 ▶ 現在のシステム日時にしない場合は、[常に現在]チェックボックスをオフにし、[終了日時]スライド バーで日付範囲の終わりを設定します。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
6	<p>動作によって、外部データ ファイルの表示にフィルタをかけるかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ フィルタをかける場合は、表示する動作を [動作] リストから選択します。 <p>メモ 既定値ではすべての動作が表示されますが、動作をクリックしてオフにし、表示を変更することもできます。また、[すべての動作を選択しない] をクリックしてすべての動作をオフにしてから、1 つまたは複数の動作を選択することもできます。少なくとも 1 つの動作を選択する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ フィルタをかけない場合は、そのままステップ 7 に進みます。
7	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 指定した条件に基づいて外部データ ファイルの表示にフィルタをかけます。</p>

受信確認の使い方

目次

▶ 概要	2
▶ インバウンド受信確認の基準の定義方法	3
▶ アウトバウンド受信確認の基準の定義方法	6
▶ ドキュメントを手動で受信確認する方法	10
▶ EDIFACT 受信確認の注意事項	12
▶ 受信確認の時間切れをチェックする方法	14

概要

本章の内容

この章では、Gentran:Server の受信確認の使用方法を説明します。次のトピックで構成されます。

- ▶ インバウンド受信確認の基準の定義
- ▶ アウトバウンド受信確認の基準の定義
- ▶ ドキュメント、グループ、またはインターチェンジの手動受信確認
- ▶ 受信確認の時間切れのチェック

受信確認

受信確認は、伝送を受信したことをトレーディング パートナーに通知するために送信します。エラーが発生した場合は、そのエラーに関する情報も通知されます。トレーディング パートナーから受け取る受信確認、およびトレーディング パートナーに送る受信確認のレベルを定義する必要があります。

インバウンド受信確認の基準の定義方法

はじめに

インバウンドのドキュメント、ファンクショナルグループ、およびインターチェンジの受信確認に使用する基準は、パートナー エディタの [インバウンド関係] ダイアログ ボックスを使用してパートナー レベルで定義します。ファンクショナル受信確認を生成するために必要となるトランスレーション オブジェクトは、システム トランスレーション オブジェクトとして含まれており、Gentran:Server のインストール時に自動的に登録されています。

メモ

インバウンド関係のドキュメントを受信した結果としてファンクショナル受信確認を生成する場合、そのインバウンド関係の確立の一部として、パートナーの要求に対する受信確認を生成するために、対応するアウトバウンド関係を設定します。

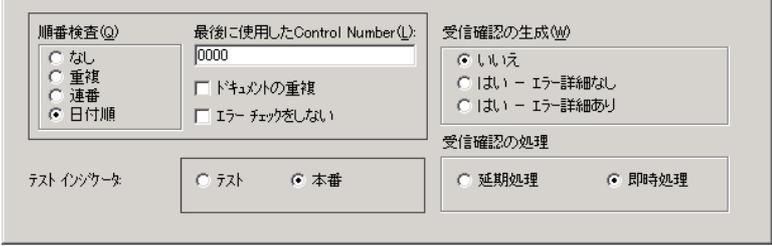
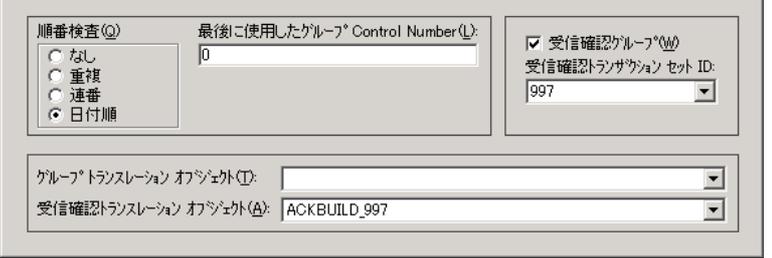
参照

受信確認の生成に使用するアウトバウンド関係を確立する方法については、「[新しいアウトバウンド関係の作成方法](#)」を参照してください。

(次のページへ続く)

手順

受信確認を生成する基準を定義するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>ドキュメントの受信確認基準は、パートナー関係を設定する際に、[インバウンド関係]ダイアログボックスの"詳細"オプションを使用して定義します(次の図を参照)。</p>  <p>メモ 受信確認の処理で[即時処理]を選択した場合、インバウンドブレイクセッション中に受信確認の整合が行われます。受信確認の処理で[延期処理](既定値)を選択した場合、スケジュール間隔にしたがって整合が行われます。</p> <p>参照</p> <ul style="list-style-type: none"> 受信確認の延期処理の詳細については、『管理ガイド』の「システム構成-[システム]タブ」を参照してください。 [インバウンド関係]ダイアログボックスにおけるパラメータの設定についての詳細は、「新しいインバウンド関係の作成方法」を参照してください。
2	<p>ファンクショナルグループの受信確認基準は、[インバウンドグループ登録]を設定する際に、[インバウンドグループ登録]ダイアログボックスの"詳細"オプションを使用して定義します(次の図を参照)。</p>  <p>参照 [インバウンドグループ登録]ダイアログボックスにおけるパラメータの設定についての詳細は、「インバウンドファンクショナルグループの選択」を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
3	<p>インターチェンジの受信確認基準は、[インバウンド インターチェンジ登録] を設定する際に、[インバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスの " 詳細 " オプションを使用して定義します (次の図を参照)。</p> <div data-bbox="619 555 1385 833" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>順番検査(Q)</p> <p> <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 重複 <input type="radio"/> 連番 <input checked="" type="radio"/> 日付順 </p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>最後に使用したControl Number(L):</p> <p>000000000</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p><input checked="" type="checkbox"/> 受信確認のインターチェンジ(W)</p> <p>受信確認トランザクション セット ID:</p> <p style="text-align: center;">▼</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> <div style="width: 45%;"> <p>インターチェンジトランザクション オブジェクト(I)</p> <p style="text-align: center;">▼</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>受信確認トランザクション オブジェクト(A)</p> <p style="text-align: center;">▼</p> </div> </div> </div> <p>参照 [インバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスにおけるパラメータの設定についての詳細は、「インバウンド インターチェンジの選択」を参照してください。</p>

アウトバウンド受信確認の基準の定義方法

はじめに

ドキュメントの整合および受信確認は、システムが自動的に実行する処理です。受信した受信確認の処理に必要なトランスレーションオブジェクトは、システムトランスレーションオブジェクトとして含まれており、Gentran:Server のインストール時に登録されています。

ただし、パートナー エディタの [アウトバウンド関係] ダイアログ ボックスを使用して、受信確認のレベルを設定する必要があります。

メモ

アウトバウンド関係にドキュメントを送信した結果としてファンクショナル受信確認を受信する場合、そのアウトバウンド関係の確立の間に、対応するインバウンド関係が設定されます。このインバウンド関係は、パートナーから受信確認を受信するために使用します。

参照

受信確認を受信するためのインバウンド関係を確立する方法については、「[新しいインバウンド関係の作成方法](#)」を参照してください。

(次のページへ続く)

手順

パートナーから受信する受信確認のレベルを設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>インターチェンジの受信確認を受信する際の要件は、[アウトバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスの [詳細] セクションで設定します (次の図を参照)。</p> <div data-bbox="619 607 1394 1160" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;"> <input type="checkbox"/> 既定値のメールボックスと E メール アドレスを使用 メールボックス: <input type="text" value="GENTRAN Tutorial"/> <input type="button" value="メールボックスの新規作成"/> E メール アドレス: <input type="text"/> <input type="button" value="メールボックスの編集"/> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px; margin-top: 5px;"> コンテンツ タイプ: <input type="text" value="Application/EDI"/> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px; margin-top: 5px;"> <input checked="" type="checkbox"/> 1 つのインターチェンジにおけるドキュメントの最大数を設定 1 つのインターチェンジにおけるドキュメントの最大数: <input type="text" value="0"/> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px; margin-top: 5px;"> 最後に使用した Control Number (L): <input type="text" value="000000002"/> <input checked="" type="checkbox"/> 受信確認を期待 (W) 時間切れ (V): <input type="text" value="48"/> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px; margin-top: 5px;"> インターチェンジトランスレーション オブジェクト (T): <input type="text" value="ISA Build Template - ANSI"/> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px; margin-top: 5px;"> 受信確認トランスレーション オブジェクト (A): <input type="text"/> </div> </div> <p>参照 [アウトバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスにおけるパラメータの設定についての詳細は、「アウトバウンド インターチェンジの選択」を参照してください。</p> <p>推奨事項 [インターチェンジトランスレータ オブジェクト] および [受信確認トランスレーション オブジェクト] リスト内のトランスレーション オブジェクトは、結果がどうなるか不明な場合は変更しないようにしてください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
2	<p>ファンクショナル グループの受信確認を受信する際の要件は、[アウトバウンド グループ登録]ダイアログ ボックスの[詳細]セクションで設定します(次の図を参照)。</p> <div data-bbox="620 526 1402 985" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>最後に使用したグループ Control Number(L): 2</p> <p>トランザクション Control Number</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> グループからの順番(S)</p> <p>最後に使用した Control Number(L): 0</p> <p>グループトランスレーション オブジェクト(O): GS Build Template - ANSI</p> <p>受信確認トランスレーション オブジェクト(A):</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p><input checked="" type="checkbox"/> 受信確認を期待(W)</p> <p>時間切れ(W): 48</p> <p>書式(E)</p> <p><input checked="" type="radio"/> 正常</p> <p><input type="radio"/> 6/3</p> <p><input type="radio"/> 5/4</p> <p><input type="radio"/> 5/3</p> </div> </div> </div> <p>推奨事項 [グループ トランスレーション オブジェクト]および[受信確認 トランスレーション オブジェクト]リスト内のトランスレーション オブジェクトは、結果がどうなるか不明な場合は変更しないようにしてください。</p> <p>メモ 受信確認が時間切れの場合([時間切れ]ボックスに指定した時間内に受信されない場合)、[インターチェンジ]ブラウザでは時間切れという状態で示されます。</p> <p>参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [アウトバウンド グループ登録]ダイアログ ボックスにおけるパラメータの設定についての詳細は、「アウトバウンド ファンクショナルグループの選択」を参照してください。 ▶ インターチェンジブラウザを表示する手順については、「インターチェンジにドキュメントを表示する方法」を参照してください。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
3	<p>トランザクション セットの受信確認を受信する際の要件は、[アウトバウンド関係]ダイアログ ボックスの [詳細] セクションで設定します (次の図を参照)。</p> <div data-bbox="619 526 1390 683" style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>最後に使用したControl Number(L): <input type="text" value="0000"/></p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> 受信確認を期待(望) <input type="checkbox"/> トキオットの重複 </p> <p> 時間切れ(切): <input type="text" value="48"/> テスト インジカータ <input type="radio"/> テスト <input checked="" type="radio"/> 本番 </p> </div> <p>参照 [アウトバウンド関係]ダイアログ ボックスにおけるパラメータの設定についての詳細は、「アウトバウンド関係のまとめ」を参照してください。</p>

ドキュメントを手動で受信確認する方法

はじめに

"受信確認"機能では、単にアウトバウンドドキュメントの状態が変更されるだけで、受信確認が生成されるわけではありません。アウトドローワブラウザ内のドキュメントの状態は、さまざまな理由により、手動で受信確認済みに設定しなければならない場合があります。

例

たとえば、時間切れドキュメントに関してパートナーに問い合わせたところ、そのドキュメントが受信されているにもかかわらず受信確認が送信されていないという場合は、手動で状態を変更する必要があります。

参照

[\[インターチェンジ\]ブラウザ](#)上のドキュメント、グループ、またはインターチェンジを手動で受信確認する方法については、「[\[インターチェンジ、グループ、ドキュメントを手動で受信確認する方法\]](#)」を参照してください。

手順

ドキュメントの状態を手動で "acknowledged" に変更するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[デスク]の適切な領域から、[アウトドローワ]を選択します。 システムからの応答 [アウトドローワ概要]ダイアログボックスが表示されます。
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 該当するパートナーのドキュメントの種類を選択します。 ▶ [表示]をクリックします。 システムからの応答 [アウトドローワ]ブラウザ が表示されます。
3	"Ack'd" に設定する必要がある "Unacknowledged" のドキュメントを選択します。 メモ 受信確認の済んでいないドキュメントは、以下のいずれかの状態になっています。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ "時間切れ" ▶ "待機中" ▶ "送信済み" ▶ "ネットワーク上" ▶ "収集済み" ▶ "ネットワークエラー" ▶ "ネットワーク警告" <div style="text-align: right;">(次のページへ続く)</div>

(続き) ステップ	操作
4	[受信確認] をクリックします。 システムからの応答 ドキュメントの状態が "Ack'd" に設定されます。

EDIFACT 受信確認の注意事項

はじめに

アウトバウンドの EDIFACT Control ドキュメントが作成される時、既定のシステム動作では Internal System User パートナーから Sender ID と Receiver ID を抽出します。EDIFACT スタンドによると、Control ドキュメントの UCI と UCF レコード内の Sender ID と Receiver ID は、インバウンドの UNB と UNG セグメントからの値をそれぞれ含んでいる必要があります。

Gentran:Server の製品 CD (Maps\Special ディレクトリ内) には、新しいトランスレーション オブジェクト (CntrlBld_DLL.tpl, と説明 ACKBUILD_CONTRL_DLL) が入っています。User Exit の GentranAutomation.DLL にアクセスすることを通じて、このマップによりインバウンド データ ファイルから Sender ID と Receiver ID が取得できます。GentranAutomation.DLL は新しい DLL で、製品をインストールもしくはアップグレードしたときに自動的に登録されます。現在、この DLL は CntrlBld_DLL マップのみが使用しています。

メモ

既存の機能または新機能のどちらか 1 つが使用できます。"Outbound Control Build" 関係に選択した既定のトランスレーション オブジェクトは、ACKBUILD_CONTRL です。

手順

Sender ID と Receiver ID を取得するためには、新しい CntrlBld_DLL.tpl の機能を使用してください。

ステップ	操作
1	<p>[ツール]メニューから、[パートナー エディタ]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [パートナー エディタ]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [パートナーの選択] リストから [Outbound Control Build] 関係を選択します。 ▶ [アウトバウンド] をクリックします。 <p>システムからの応答 そのパートナーの [アウトバウンド関係]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
3	<p>[アウトバウンド関係]ダイアログ ボックスで、[トランスレーション] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [アウトバウンド トランスレーション オブジェクト]ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
4	インポート リストから、[ACKBUILD_CONTRL_DLL] を選択します。 メモ "Outbound Control Build" 関係に選択した既定のトランスレーション オブジェクトは、ACKBUILD_CONTRL です。
5	[保存] をクリックして選択内容を保存し、[アウトバウンド関係] ダイアログ ボックスに戻ります。

受信確認の時間切れをチェックする方法

はじめに

受信確認の時間切れは、"時間切れチェック"機能を使用して手動でチェックできます。

メモ

受信確認の時間切れを自動的にチェックする頻度は、システム構成プログラムで指定できます。これにより、時間切れ受信確認チェックが行われる間隔を狭めたり、チェックを完全に無効にしたりできます。

参照

受信確認の自動時間切れチェックの頻度の変更については、『管理ガイド』の「時間切れ受信確認のチェック頻度を変更する方法」を参照してください。

手順

受信確認の時間切れをチェックするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[コマンド]メニューから[時間切れチェック]を選択します。</p> <p>システムからの応答 受信確認が要求されているインターチェンジ、グループ、またはドキュメントが時間切れの状態(受信確認が指定時間を過ぎたのに届いていない状態)になっていないかどうかをチェックします。時間切れのインターチェンジ、グループ、またはドキュメントは、[インターチェンジ]ブラウザで状態が"時間切れ"に設定されます。</p> <p>参照 インターチェンジブラウザの使い方についての詳細は、「インターチェンジの表示方法」を参照してください。</p>

トラッキングの使い方

目次

▶ 概要	2
▶ インバウンド情報のトラッキング	3
▶ アウトバウンド情報のトラッキング	6
▶ データ オーディット情報の表示および印刷	9
▶ トラック情報の表示および印刷	11

概要

本章の内容

この章では、Gentran:Server のトラッキング システムの使用方法について説明します。

トラッキング機能

ドキュメントで重大なイベントが発生するたびに、ドキュメント トラッキング レコードが記録されます。たとえば、ドキュメントの作成時、修正時、またはエクスポート時などに、ドキュメント トラッキング レコードが記録されます。

インバウンド情報のトラッキング

はじめに

インバウンド処理では、Gentran:Server の "ファイル処理" コマンドまたはメールボックス メッセージ (コンテンツ タイプ が [Application/EDI] に構成されている場合) を介し、システムがインバウンド伝送ファイル (外部データなど) を受信することがあります。システムが受信したこのようなファイルは、エクスポートすることができます。また、自動的にエクスポートされるようにシステムを構成することもできます。

ファイル処理のプロセス

"ファイル処理" コマンドによってデータ ファイルがシステムに直接取り込まれると、このファイルに含まれる情報を保存するために Commpost が複数の動作を実行します。

まず、[システム構成] で、ファイル処理データをコピーするように設定されている場合は、Commpost によってそのファイルが "外部データ" ディレクトリにコピーされます。

次に、Commpost によって ExtData_tb が新しいレコードに更新されます。このレコードには、保存する外部データの種類 (ExtData など)、新しい外部データ キー (新たに割り当てられた後)、およびこの外部データ参照にかかわるその他の関連データの情報が含まれています。

最後に、Commpost によってこのファイルがインターチェンジに分割され、トランスレータ用の INT ファイル (インターチェンジ) および IPC ファイルが作成されます。Commpost がトランスレータを呼び出します。トランスレータは、インバウンド処理を続行し、作成したインターチェンジに外部データ参照をリンクさせる ExtDataXref_tb にレコードを作成します。各インターチェンジには IPC ファイルが 1 つあり、その IPC ファイルによって、インターチェンジに対応する伝送ファイルの開始および終了オフセット インジケータ、および外部データの種類やキーなどの情報がトランスレータに渡されます。

こうすることにより、トラック情報または外部データを表示するときに、システムがこのファイル (外部データ) を参照できるようになります。

メモ

外部情報をコピーするように Gentran:Server を構成していない場合には、外部データ ビューアは使用できません。

(次のページへ続く)

ファイル処理の プロセス (続き)

参照

- ▶ "ファイル処理" コマンドについての詳細は、「[データ ファイルの処理方法](#)」を参照してください。
- ▶ "エクスポート" コマンドについての詳細は、「[ドキュメントのエクスポート方法](#)」を参照してください。
- ▶ 外部データ設定の変更についての詳細は、『管理 ガイド』の「[システム構成 - \[外部データ\] タブ](#)」を参照してください。
- ▶ ExtData_tb および ExtDataXref_tb データベース テーブルについての詳細は、『管理 ガイド』の付録「[データベース テーブルの使い方](#)」を参照してください。

メールボックス ファイル処理の プロセス

メールボックスからシステムにデータが入ると、関連するすべてのメッセージ識別子がトラッキングされます。この処理では、まずトレーディング パートナーによってデータ ファイルが作成され (コンテンツ タイプは [Application/EDI] に設定される)、そのトレーディング パートナーの [アウト ボックス] 内に関連するメッセージ ID が作成されます。次に、トレーディング パートナーはそれを Gentran アプリケーションの [インボックス] に送信します。その結果、新しいターゲット メッセージ ID が作成されます。

CommMgr (GENTRAN:Server エグゼクティブ サービス) は、コンテンツ タイプが [Application/EDI] であると認識します。前述したと同様の方法で、CommMgr はデータを受信し、前の項と同じ方法で ExtData_tb に外部データ参照を保存します。ただし、CommMgr がデータを受信するため、このデータベース登録が保存されます。

次に、CommMgr は、GDW_Process_MBFile コマンドを使用して、実行する自動処理の一時セッション ファイルをビルドします。プロセス管理によって Commpost を呼び出されます。

Commpost が IPC ファイルをビルドし、その際、インターチェンジの伝送ファイルには、外部データ キーおよび開始と終了のオフセット インジケータが書き込まれます。さらに、Commpost はデータ処理を終了するために各インターチェンジのトランスレータを呼び出し、外部データ参照を Gentran データにリンクさせる ExtDataXref_tb に登録を書き込みます。

参照

- ▶ メールボックス機能の詳細については、『コミュニケーションズ ユーザー ガイド』を参照してください。
- ▶ ExtData_tb および ExtDataXref_tb データベース テーブルについての詳細は、『管理 ガイド』の付録「[データベース テーブルの使い方](#)」を参照してください。
- ▶ "自動処理" コマンドについての詳細は、「[プロセス管理の使い方](#)」を参照してください。

(次のページへ続く)

エクスポート処理

エクスポートするデータはシステム内にあるので、エクスポート ファイルを実際に作成する外部データはトランスレータで取り扱います。つまり、トランスレータでは、データベース内のトラック情報を保存します。

エクスポート処理では、トランスレータがドキュメントをエクスポート トランスレーション オブジェクトへの入力として使用します。エクスポート ファイルは、トランスレーション オブジェクトの仕様に依じて、システム内で作成されます。トランスレータでは続いて、新しく生成されたエクスポート ファイルをシステム データ格納先の「外部データ」フォルダにコピーし、ExtData_tb を適当な情報に更新し、さらに ExtDataXref_tb を外部データおよび関連ドキュメント情報に更新します。

参照

- ▶ "エクスポート" コマンドについての詳細は、「[ドキュメントのエクスポート方法](#)」を参照してください。
- ▶ ExtData_tb および ExtDataXref_tb データベース テーブルについての詳細は、『管理ガイド』の付録「[データベース テーブルの使い方](#)」を参照してください。

アウトバウンド情報のトラッキング

はじめに

アウトバウンド処理では、Gentran:Server の " インポート " コマンドまたはメールボックス メッセージ (コンテンツ タイプ が [Application/Import] に構成されている場合) を使用して外部データをインポートすることができます。ファイルがシステム内にインポートされれば、そのファイルを送信することも、自動的に送信されるようにプロセス管理を構成することもできます。" 送信 " コマンドの後に新しいメールボックス メッセージが作成され、その後の送信伝送の際には、最初にインポートされたものと同じ外部データ ファイルに関連付けられている新規のメールボックス メッセージが作成されます。

インポート処理

インポート処理では、外部データが Gentran:Server に直接インポートされます。このデータは、自動プロセス管理 (GDW_Import) によってインポートすることも、手動でインポートすることもできます。データのインポート方法に応じて、Unattend または EDIMGR のいずれかで外部データ ファイルをシステム データ保管先の「外部データ」フォルダにコピーします。

続いて、UNATTEND または EDIMGR では、ExtData_tb をファイル名、ファイルのタイムスタンプの日時、動作が実行された日時、および ExtDataKEY を示す登録に更新します。

続いて、UNATTEND または EDIMGR では、IPC ファイルに ExtDataType パラメータと ExtDataKEY パラメータを書き込みます (このファイル内でそれぞれ " タイプ "、" キー " と呼ばれます)。

最後に、トランスレータがインポート トランスレーション オブジェクトを実行します。その結果、IPC ファイルから ExtDataType および ExtDataKEY が取得され、EDIMGR または UNATTEND が作成した外部データ参照にドキュメントをリンクさせる ExtDataXref_tb が書き込まれます。

参照

- ▶ " インポート " コマンドについての詳細は、「[ドキュメントのインポート方法](#)」を参照してください。
- ▶ ExtData_tb および ExtDataXref_tb データベース テーブルについての詳細は、『管理 ガイド』の付録「[データベース テーブルの使い方](#)」を参照してください。
- ▶ " 自動処理 " コマンドについての詳細は、「[プロセス管理の使い方](#)」を参照してください。

(次のページへ続く)

メールボックス インポート処理

収集メールボックスを使用して外部データ ファイルをインポートすると、関連するすべてのメッセージ識別子がトラッキングされます。アウトバウンド データがシステム内を流れるとき、収集メールボックスでデータ ファイルおよび対応するメッセージ ID を [アウトボックス] に作成します (コンテンツ タイプの設定は [Application/Import])。続いて、収集メールボックスによって、このメッセージ ID が Gentran アプリケーションの [インボックス] に送信され、新しいターゲット メッセージ ID が作成されます。

メモ

メールボックス インポートの場合、[システム構成] の [インポート] タブで UNC パスとファイル名を指定する必要があります。このとき、[システム構成] の [ディレクトリ] タブで TRANSIN ディレクトリに設定したパスと同一のパスを指定してください。

参照

- ▶ 詳細については、『コミュニケーションズ ユーザー ガイド』の「メールボックス サービスの開始方法」を参照してください。
- ▶ ディレクトリの設定についての詳細は、「[システム構成-\[ディレクトリ\]タブ](#)」を参照してください。
- ▶ インポート指定の設定についての詳細は、「[システム構成-\[インポート\]タブ](#)」を参照してください。

CommMgr (Gentran:Server エグゼクティブ サービス) では、コンテンツ タイプが [Application/Import] であると認識して、このファイルのインポートを開始します。続いて、CommMgr では外部データ参照を ExtData_tb に保存してから、自動処理セッション ファイルを (新しい GDW_MBImport コマンドで) 作成して、データを Gentran:Server にインポートします。セッション ファイルが作成されると、自動処理によって、IPC ファイルの作成、およびトランスレータがインポートを実行するために必要な外部データ情報の書き込みが行われます。最後に、トランスレータが呼び出されてインポート マップを実行し、これによってトラック情報が ExtDataXref_tb に保存されます。

参照

- ▶ メールボックス機能の詳細については、『コミュニケーションズ ユーザー ガイド』を参照してください。
- ▶ ExtData_tb および ExtDataXref_tb データベース テーブルについての詳細は、『管理 ガイド』の「[データベース テーブルの使い方](#)」を参照してください。
- ▶ "自動処理" コマンドについての詳細は、「[プロセス管理の使い方](#)」を参照してください。

(次のページへ続く)

送信処理

ファイルがインポートされると、作成した **Gentran:Server** ドキュメントをメールボックスに送信することができます。この処理では、対応するメールボックスメッセージを **Gentran** アプリケーション メールボックスに作成し、このメッセージをパートナーのメールボックスに送信します。ファイル処理やインポート動作と同じく、送信動作では外部データに関連付けられたソース メッセージ ID とターゲット メッセージ ID を使用します。ただし、他の動作とは異なり、外部データとしてメッセージを使用し、そのメッセージはインターチェンジに関連付けられます。

送信されたインターチェンジと送信先のメールボックス メッセージとのリンクは、**ExtDataXref_tb** に保存されます。この情報が必要な場合、[\[外部データの概要\]ビューア](#)に表示することができます。

例

この例では、ユーザーが 1～4 つのドキュメントを送信して、1 つのインターチェンジを作成しています。送信するインターチェンジをトランスレータで作成した後、**CommMgr** が呼び出され、このインターチェンジをメールボックスに送信します。**CommMgr** は、インターチェンジの送信中にメールボックスのメッセージ ID を受信し、**Gentran** アプリケーション メールボックスにメッセージを作成します。続いて、タイプがメッセージである **ExtData_tb** に外部データ参照を作成します。これで **CommMgr** によって、レコードを作成するための十分な情報が、インターチェンジをメッセージにリンクさせる **ExtDataXref_tb** に集められたこととなります。

参照

- メールボックス機能の詳細については、『[コミュニケーションズ ユーザー ガイド](#)』を参照してください。
- **ExtData_tb** および **ExtDataXref_tb** データベース テーブルについての詳細は、『[管理 ガイド](#)』の「[データベース テーブルの使い方](#)」を参照してください。
- "送信" コマンドについての詳細は、「[ドキュメントの送信方法](#)」を参照してください。

データ オーディット情報の表示および印刷

はじめに

通常、ドキュメントで発生した問題の解決に役立つ情報を得るためには、データ オーディット (1つのドキュメントのドキュメントトラック情報) を表示します。これらのレコードは、どのドキュメント ブラウザからも表示できます。

手順

データ オーディット情報を表示または印刷するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]の適切な領域から、使用するブラウザを選択します。</p> <p>システムからの応答 [インドキュメント]、[? インドキュメント]、[アウト ドキュメント]、[? アウト ドキュメント]、[インドローフ]、または[アウト ドローフ]のブラウザを選択すると、そのブラウザの適切な概要ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 該当するパートナーのドキュメントの種類を選択します。 ▶ [表示]をクリックすると、ブラウザが開いて、指定されたドキュメントが表示されます。
3	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ドキュメントを1つ選択します。 ▶ [コマンド]メニューから[表示]を選択します。 <p>システムからの応答 [表示の選択]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
4	<p>[データのオーディット]オプションを選択し、[OK]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 そのドキュメントの[ドキュメント オーディット]ウィンドウが表示されます。</p> <p>メモ [ドキュメント オーディット]ウィンドウには、選択したドキュメントとオーディット メッセージが表示されます。また、メッセージの重要度、イベント ID、イベント名、オーディット番号、ユーザー名、マシン名、およびメッセージも表示されます。</p> <p>参照 [オーディット ログ]およびユーザー定義メッセージについての詳細は、『管理 ガイド』の「オーディット通知システムの使い方」を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
5	<p>表示されているデータ オーディット情報を印刷するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 印刷する場合は、[ファイル]メニューから[印刷]を選択します。▶ 印刷しない場合は、[閉じる]アイコンをクリックして[トラック情報]ウィンドウを閉じます。

トラック情報の表示および印刷

はじめに

この機能を実行すると、Gentran データ用の外部データ ファイルをメールボックス メッセージ情報にトラッキングした結果、およびその逆にトラッキングした結果が表示されます。これらのレコードは、どのドキュメント ブラウザからも表示できます。

手順

トラック情報を表示または印刷するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>デスクの適切な領域から、使用するブラウザを選択します。</p> <p>システムからの応答 [インドキュメント]、[? インドキュメント]、[アウト ドキュメント]、[? アウト ドキュメント]、[インドローフ]、または[アウト ドローフ]の各ブラウザを選択すると、そのブラウザの適切な概要ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 該当するパートナーのドキュメントの種類を選択します。 ▶ [表示]をクリックすると、ブラウザが開いて、指定されたドキュメントが表示されます。
3	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ドキュメントを1つ選択します。 ▶ [コマンド]メニューから[表示]を選択します。 <p>システムからの応答 [表示の選択]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
4	<p>[トラック情報]オプションを選択し、[OK]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 そのドキュメントの[トラック情報]ウィンドウが表示されます。</p> <p>メモ [トラック情報]ウィンドウには、相関関係にあるファイルのセットが1つのエントリとして表示されます。イベントがウィンドウに入りきらない場合は、スクロールバーを使用して残りのレコードを表示できます。</p>
5	<p>表示されているトラック情報を印刷するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 印刷する場合は、[ファイル]メニューから[印刷]を選択します。 ▶ 印刷しない場合は、[閉じる]アイコンをクリックして[トラック情報]ウィンドウを閉じます。

アーカイブと復元の使い方

目次

概要	2
▶ はじめに	2
データのアーカイブ	3
▶ 概要	3
▶ アーカイブ マネージャ	5
▶ [Gentran EDI アーカイブ定義] ダイアログ ボックス	11
▶ [インターチェンジ選択基準] ダイアログ ボックス	13
▶ [インターチェンジの検索] ダイアログ ボックス	16
▶ [グループの検索] ダイアログ ボックス	19
▶ [ドキュメントの検索] ダイアログ ボックス	21
▶ [メールボックスのアーカイブ定義] ダイアログ ボックス	23
▶ [メールボックスの選択基準] ダイアログ ボックス	25
▶ [メールボックスの検索] ダイアログ ボックス	27
▶ [外部データのアーカイブ定義] ダイアログ ボックス	29
▶ [外部データ選択基準] ダイアログ ボックス	31
▶ [外部データの検索] ダイアログ ボックス	33
▶ [検索結果] ダイアログ ボックス	35
▶ [ソート順] ダイアログ ボックス	37
▶ アーカイブ定義の作成方法	38
▶ データのアーカイブ方法	40
▶ アーカイブ データの表示方法	41
▶ アーカイブ データの検索方法	45
アーカイブ データの復元	47
▶ 概要	47
▶ [インターチェンジの復元] ブラウザ	49
▶ 復元されたインターチェンジの表示方法	55
▶ 復元されたインターチェンジのフィルタ方法	58
▶ 復元されたドキュメントの表示方法	60
▶ 復元されたドキュメントの再処理方法	62
▶ 復元されたインターチェンジの再送方法	63

概要

はじめに

本章の内容

この章では、Gentran:Server での対話型アーカイブの使用方法および復元方法について説明します。

アーカイブ機能

"アーカイブ"機能を使用すると、過去のインターチェンジ(インバウンドおよびアウトバウンド)、アプリケーションデータ、およびメールボックスメッセージの記録を入手できます。これにより、定義済みの格納パラメータ(アーカイブ定義)に基づいて、インターチェンジ、外部データ、またはメールボックスメッセージのオフラインアーカイブデータファイルを作成できます。アーカイブデータファイルは、長期にわたって保管できます。

また、Gentran:Server プロセス管理を使用すると、定義済みの間隔でデータをページしたりアーカイブできます。

参照

自動アーカイブセッションの設定についての詳細は、「[プロセス管理の使い方](#)」を参照してください。

復元機能

"復元"機能を使用すると、アーカイブデータを Gentran:Server で再処理することができます。この機能では、アーカイブデータファイルのデータが、アクティブなシステムにコピーされます。インターチェンジが復元されたら、必要に応じて、[インターチェンジの復元]ブラウザに表示して再処理できます。

アーカイブのタイミング

システムデータは、毎週アーカイブすることをお勧めします。この機能は、大容量のデータを処理するシステムでは特に重要です。

データのアーカイブ

概要

アーカイブできるデータの種類

アーカイブできるデータの種類は以下のとおりです。

- ▶ インバウンドおよびアウトバウンド インターチェンジ (Gentran EDI)
- ▶ メールボックス メッセージ (およびその添付)
- ▶ 外部データ

メモ

ドキュメントが受信確認処理 (受信確認の生成または整合) を待っている場合、そのドキュメントの処理が終わるまでアーカイブはされません。

アーカイブ定義

"アーカイブ" 機能は、格納されている "アーカイブ定義" を使用して構成できます。アーカイブ定義とは、アーカイブするデータを指定するために使用するアーカイブパラメータのセットです。同じアーカイブ処理を繰り返すときにパラメータを定義し直すことなく実行するために、定義ファイル (*.ARD ファイル) として保存されます。

参照

詳細については、「[アーカイブ定義の作成方法](#)」を参照してください。

(次のページへ続く)

アーカイブ処理

次の表に、アーカイブ処理についてまとめます。

段階	説明	
1	アーカイブパラメータを定義します (*.ARD ファイル)。使用できるアーカイブパラメータは、アーカイブするデータの種類によって異なります。	
	選択	使用できるアーカイブパラメータ
	Gentran EDI	<ul style="list-style-type: none"> ▶ パートナープロファイル ID ▶ インターチェンジがインバウンドかアウトバウンドか ▶ 経過期間 ▶ 処理状態 ▶ ネットワークの状態 ▶ 受信確認状態
	メールボックスメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ メールボックス (特定またはすべてのメールボックス) ▶ 場所 (インボックス、アウトボックス、または両方) ▶ 経過期間 ▶ 状態 ▶ コンテンツタイプ
外部データ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 実行する操作 ▶ 経過期間 	
2	<p>アーカイブ処理を実行します。これにより、実際のアーカイブファイル (*.ARV) がアーカイブフォルダに作成されます。</p> <p>メモ 定義は、対話的に実行することも、プロセス管理を使用して自動的に実行することもできます。</p> <p>参照 自動的にアーカイブプロセスを実行する方法については、「プロセス管理の使い方」を参照してください。</p>	
3	アーカイブ処理では、データはデータベーステーブルとシステムデータストアの両方からコピー (または削除) されます。	

アーカイブ マネージャ

はじめに

[アーカイブ マネージャ]は、データのアーカイブと復元を行うための機能です。[アーカイブ マネージャ]では、次を表示できます。

- ▶ アーカイブ定義ファイル
- ▶ アーカイブされた管理情報の概要データ
- ▶ アーカイブ データ ファイルに格納されたデータの詳細内容

メモ

- ▶ EDI データや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から[16進]形式に切り換えることができます。
- ▶ [アーカイブ]ツリーは、ファイル名または日/時を基準にして並べ替えることができます。

また、[アーカイブ マネージャ]は、特定の情報の検索に使用する検索パラメータを素早く定義することを可能にする検索機能も備えています。条件に適合する検索結果が、[データのアーカイブ方法](#)に表示されます。その中から必要な情報を選択すると、[アーカイブ マネージャ]のツリー表示でその情報が反転表示になります。

表示可能な アーカイブ情報

[アーカイブ マネージャ]には、アーカイブした情報に関するさまざまなデータが保持されていて、これらのデータを簡単に表示することができます。

参照

アーカイブ データの表示についての詳細は、「[アーカイブ データの表示方法](#)」を参照してください。

[アーカイブ マネージャ]のユーザー インターフェイスでは、アーカイブデータの階層レベルをツリー構造で表示します。次の表に、Gentran EDI、メールボックス、および外部データのアーカイブ登録の各レベルで使用可能な情報をまとめます。

メモ

「該当なし」は、そのアイテムがアーカイブされたデータの種類を示す目的のみに使用されるグラフィック記号であることを示します。

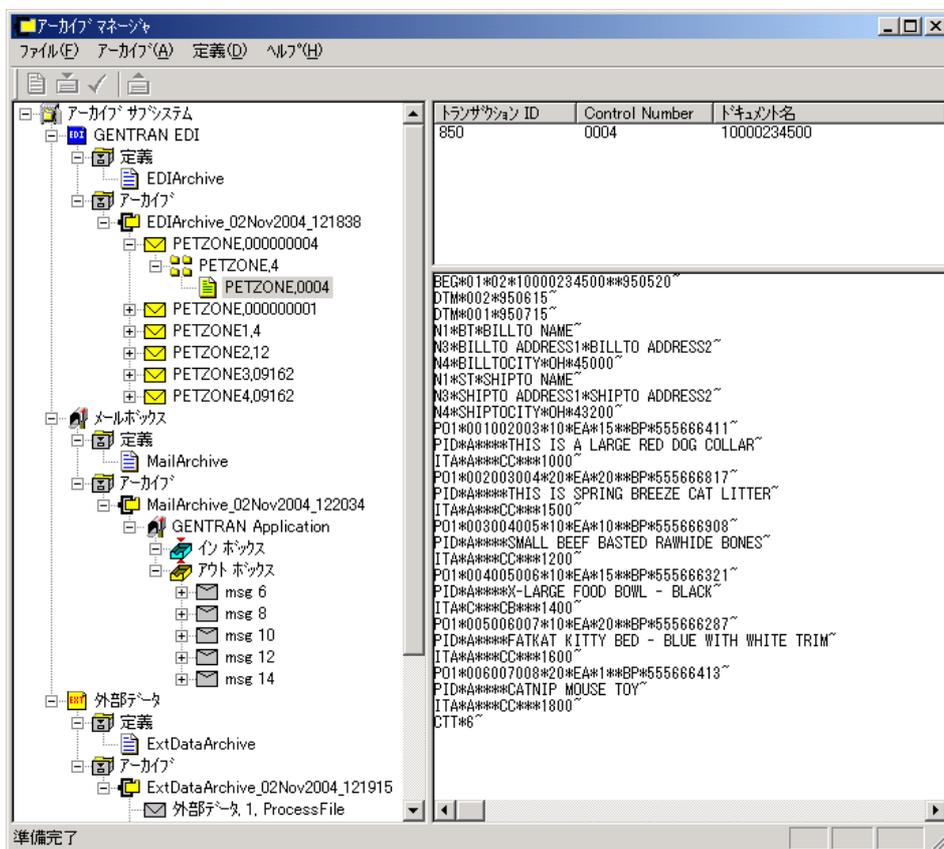
選択	表示できる情報
Gentran EDI、メールボックス、または外部データレベルのアーカイブ ファイル	次に関する概要情報 <ul style="list-style-type: none"> ▶ アーカイブを開始した日時 ▶ アーカイブが終了した日時 ▶ アーカイブしたアイテムの数 ▶ 削除したアイテムの数 (削除した場合) (次のページへ続く)

(続き) 選択	表示できる情報
インターチェンジ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ パートナー プロファイル ID ▶ 方向 ▶ 日時 ▶ インターチェンジ Control Number
	データ オーディット
	トラック情報
グループ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ グループ Control Number ▶ ファンクショナル グループ ID ▶ グループ管理キー
ドキュメント	<ul style="list-style-type: none"> ▶ トランザクション ID ▶ トランザクション Control Number ▶ ドキュメント名
	データ オーディット
	トラック情報
メールボックス	該当なし
イン ボックス アウト ボックス	該当なし
メッセージ	次に関する概要情報 <ul style="list-style-type: none"> ▶ シリーズ ID ▶ メッセージ ID ▶ ソース ID ▶ コンテンツ タイプ ▶ 送信者 ID / 受信者 ID ▶ 送信者名 / 受信者名 ▶ 送信者メールボックス E メール / 受信者メールボックス E メール ▶ 件名 ▶ 状態 ▶ 作成された時間メッセージ
	データ オーディット <div style="text-align: right; color: green;">(次のページへ続く)</div>

(続き) 選択	表示できる情報
添付	<p>次に関する概要情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 添付 ID ▶ コンテンツ タイプ ▶ ファイル名 <p>データ オーディット</p> <p>外部ビューア (既定のビューアはメモ帳) または [アーカイブ マネージャ] の画面のいずれかに表示されるファイル</p> <p>メモ EDI データや外部データを表示するときには、 [表示] メニューから適切なコマンドを選択することによって、 [テキスト] から [16 進] 形式に切り換えることができます。</p>
外部データ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 外部データの種類 ▶ 外部データ キー ▶ 動作 ▶ 動作の日時 ▶ 元のファイル名 <p>データ オーディット</p>
右上のペイン	<p>次の事項 (選択したアーカイブ情報のレベルおよび種類によって異なります)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ファイル情報 (アーカイブの開始と終了、アーカイブされたアイテムの数、および削除されたアイテム) ▶ インターチェンジ情報 ▶ グループ情報 ▶ ドキュメント情報 ▶ メッセージ情報 ▶ 添付情報 ▶ 外部データ情報 ▶ データ オーディット情報 ▶ トラック情報
右下のペイン	選択した添付の内容

(次のページへ続く)

次の図に、[アーカイブ マネージャ]を示します。[アーカイブ] ツリーを展開し、メールボックス メッセージの1つが選択されています。



(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、[アーカイブ マネージャ]の各部とその機能をまとめます。

各部	機能
ファイル	[アーカイブ マネージャ]を終了します。
アーカイブ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ データを復元します。 ▶ 復元するデータにマークを付けます (1 つまたはすべてのアイテム)。 ▶ データのマークを消去します (1 つまたはすべてのアイテム)。 ▶ アーカイブ レベルをリフレッシュします。 ▶ インターチェンジ、ドキュメント、メッセージ、または外部データのレベルでデータ オーディットを表示します。 ▶ インターチェンジ、ドキュメント、添付、または外部データの各レベルでのデータ オーディットおよびデータを表示します。 ▶ アーカイブ ファイルを削除します。 ▶ 特定のアーカイブ データを検索します。 ▶ [アーカイブ]のデータの並べ替え方法を選択します。
定義	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 新規のアーカイブ定義を作成します。 ▶ アーカイブ定義を編集または削除します。 ▶ データをアーカイブします。
ヘルプ	[アーカイブ マネージャ]に関するアーカイブ ヘルプおよび情報を表示します。
	新規のアーカイブ定義を作成します。
	データをアーカイブします。
	システムに復元する選択済みのアイテムにマークを付けます。
	マークが付けられているデータをシステムに復元します。
左のペイン	<p>データをアーカイブ、表示、および復元するために使用します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
右上のペイン	次のものが表示されますが、選択するレベルやタイプによって表示内容が異なります。 <ul style="list-style-type: none">▶ ファイル情報 (アーカイブの開始と終了、アーカイブされたアイテムの数、および削除されたアイテム)▶ インターチェンジ情報▶ グループ情報▶ ドキュメント情報▶ メッセージ情報▶ 添付情報▶ 外部データ情報▶ データ オーディット情報▶ トラック情報
右下のペイン	選択したインターチェンジ、ドキュメント、添付、または外部データ ファイルの内容が表示されます。

[Gentran EDI アーカイブ定義] ダイアログ ボックス

図 次の図に、[Gentran EDI アーカイブ定義] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

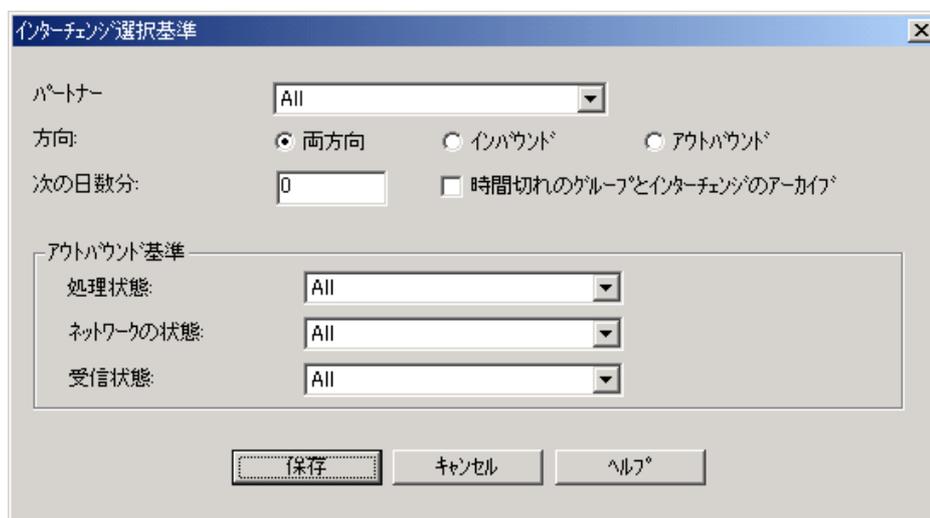
次の表に、[Gentran EDI アーカイブ定義] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
名前	アーカイブ定義ファイルの名前を指定します。 メモ この名前は、一意にする必要があります。
アーカイブ後にデータを削除	データをアーカイブした後にインターチェンジデータを Gentran:Server システムから削除するように指定します。
追加	[メールボックスの選択基準] ダイアログ ボックス にアクセスし、新しいアーカイブ基準を定義できるようにします。
編集	[メールボックスの選択基準] ダイアログ ボックス にアクセスし、選択した基準のアーカイブ基準を変更できるようにします。
削除	選択した Gentran EDI 基準をシステムから削除します。 注意 基準を削除するとき、削除してよいかどうかを確認するメッセージは表示されません。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
パートナー	パートナー プロファイル ID を指定します。
方向	インターチェンジの方向を示します。
次の日数分	インターチェンジの経過期間を示します。
処理状態	インターチェンジの処理済みの状態を指定します。既定値は [All] です。
ネットワークの状態	インターチェンジのネットワークの状態を指定します。既定値は [All] です。
受信確認状態	インターチェンジの受信確認の状態を指定します。既定値は [All] です。
時間切れグループとインターチェンジ	時間切れグループおよびインターチェンジをアーカイブするかどうかを指定します。既定値は [N (no)] です。
保存	アーカイブ定義を保存して、[Gentran EDI アーカイブ定義] ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	[Gentran EDI アーカイブ定義] ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	このダイアログ ボックスに関する状況依存ヘルプが表示されます。

[インターチェンジ選択基準] ダイアログ ボックス

図 次の図に、[インターチェンジ選択基準] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

次の表に、[インターチェンジ選択基準] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
パートナー	特定のパートナー プロファイル ID を選択します (既定値はすべてのパートナー)。
方向	[両方向] (インバウンドおよびアウトバウンド インターチェンジ)、[インバウンド]、または [アウトバウンド] を選択します。
次の日数分	インターチェンジをアーカイブする経過期間 (日付) を指定します。

(次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
時間切れのグループとインターチェンジのアーカイブ	<p>時間切れグループおよびインターチェンジをアーカイブするかどうかを指定します。既定値は [N (no)] です。チェックボックスがオンになっている場合、時間切れグループおよびインターチェンジがアーカイブされる場所に "受信確認 (延期)" の実装前のシステムの動作が適用されます (ユーザーが受信確認状態に [All] または [ReconcileOverdue] を選択し、方向が [両方向] または [アウトバウンド] の場合)。</p> <p>このチェックボックスがオフになっている場合 ([N] が既定の動作)、アウトバンドの時間切れグループおよびインターチェンジはアーカイブされません。</p>
処理状態	<p>アーカイブされるインターチェンジの処理済み状態を指定します。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [All] (既定値はすべての状態) ▶ [Received] ▶ [Sent] ▶ [ReadyToSend] ▶ [Queued] ▶ [Held] ▶ [SendFailed]
ネットワークの状態	<p>アーカイブされるインターチェンジのネットワークの状態を指定します。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [All] (既定値はすべての状態) ▶ [NotSent] ▶ [ReceivedOK] ▶ [ReceivedWarning] ▶ [ReceivedError] ▶ [PickedUp] ▶ [ThirdParty] <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
受信状態	アーカイブされるインターチェンジの受信確認の状態を指定します。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">▶ [All] (既定値はすべての状態)▶ [ReconcileNotRequired]▶ [ReconcileWaiting]▶ [ReconciledOK]▶ [ReconciledErrors]▶ [ReconciledPartial]▶ [ReconciledReject]▶ [ReconcileOverdue]
保存	選択基準を保存して、[インターチェンジ選択基準] ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	[インターチェンジ選択基準] ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	このダイアログ ボックスに関する状況依存ヘルプが表示されます。

[インターチェンジの検索] ダイアログ ボックス

図 次の図に、[インターチェンジの検索] ダイアログ ボックスを示します。

各部と機能

次の表に、[インターチェンジの検索] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
パートナー	特定のパートナー プロファイル ID を選択します (既定値はすべてのパートナー)。
方向	[両方向] (インバウンドおよびアウトバウンド インターチェンジ)、[インバウンド], または [アウトバウンド] を選択します。
Control Number	特定の Control Number を定義します。
受け取る期間	この日時の範囲に受信したデータを検索するように定義します (YYYY/MM/DD および HH:MM:SS 形式)。 (次のページへ続く)

各部	機能
処理状態	<p>検索するインターチェンジの処理済みの状態を指定します。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [All] (既定値はすべての状態) ▶ [Received] ▶ [Sent] ▶ [ReadyToSend] ▶ [Queued] ▶ [Held] ▶ [SendFailed]
ネットワークの状態	<p>検索するインターチェンジのネットワークの状態を指定します。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [All] (既定値はすべての状態) ▶ [NotSent] ▶ [ReceivedOK] ▶ [ReceivedWarning] ▶ [ReceivedError] ▶ [PickedUp] ▶ [ThirdParty]
受信状態	<p>検索するインターチェンジの受信確認の状態を指定します。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [All] (既定値はすべての状態) ▶ [ReconcileNotRequired] ▶ [ReconcileWaiting] ▶ [ReconciledOK] ▶ [ReconciledError] ▶ [ReconciledPartial] ▶ [ReconciledReject] ▶ [ReconcileOverdue]
送る期間	<p>この日時の範囲に送信したデータを検索するように定義します (YYYY/MM/DD および HH:MM:SS 形式)。</p> <p>メモ カレンダー コントロールにアクセスするには矢印をクリックします。</p>
検索	<p>選択した条件に該当するインターチェンジを検索し、その結果を [検索結果] ダイアログ ボックスに表示します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

各部	機能
キャンセル	ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	このダイアログ ボックスに関する状況依存ヘルプが表示されます。

[グループの検索] ダイアログ ボックス

図

次の図に、[グループの検索] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

次の表に、[グループの検索] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
パートナー	特定のパートナー プロファイル ID を選択します (既定値はすべてのパートナー)。
方向	[両方向] (インバウンドおよびアウトバウンド インターチェンジ)、[インバウンド]、または [アウトバウンド] を選択します。
Control Number	特定の Control Number を定義します。
グループ ID	特定のグループ識別子を定義します。

(次のページへ続く)

各部	機能
受信状態	検索するグループの受信確認の状態を指定します。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">▶ [All] (既定値はすべての状態)▶ [ReconcileNotRequired]▶ [ReconcileWaiting]▶ [ReconciledOK]▶ [ReconciledErrors]▶ [ReconciledPartial]▶ [ReconciledReject]▶ [ReconcileOverdue]
検索	選択した条件に基づいて、該当するグループを検索し、その結果が [検索結果] ダイアログ ボックス に表示されます。
キャンセル	ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	このダイアログ ボックスに関する状況依存ヘルプが表示されます。

[ドキュメントの検索] ダイアログ ボックス

図

次の図に、[ドキュメントの検索] ダイアログ ボックスを示します。

各部と機能

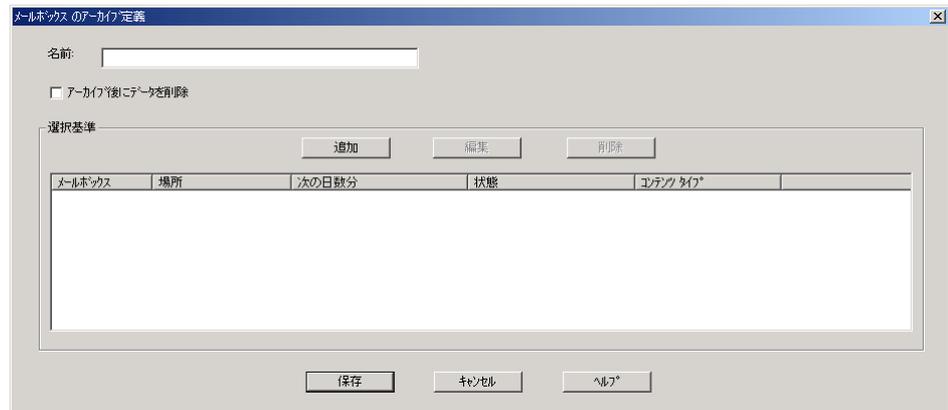
次の表に、[ドキュメントの検索] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
パートナー	特定のパートナー プロファイル ID を選択します (既定値はすべてのパートナー)。
方向	[両方向] (インバウンドおよびアウトバウンド インターチェンジ)、[インバウンド]、または [アウトバウンド] を選択します。
Control Number	特定の Control Number を定義します。
トランザクション ID	特定のトランザクション識別子を定義します。
参照データ	トランスレーション オブジェクトから参照データを指定します。
名前	トランスレーション オブジェクトに対して設定されているドキュメント名を指定します。 (次のページへ続く)

各部	機能
受信状態	検索するドキュメントの受信確認の状態を指定します。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">▶ [All] (既定値はすべての状態)▶ [Received]▶ [ReconcileWaiting]▶ [ReconciledOK]▶ [ReconciledErrors]▶ [ReconciledPartial]▶ [ReconciledReject]▶ [ReconcileOverdue]
検索	選択した条件に基づいて、該当するドキュメントを検索し、その結果が [検索結果] ダイアログ ボックス に表示されます。
キャンセル	ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	このダイアログ ボックスに関する状況依存ヘルプが表示されます。

[メールボックスのアーカイブ定義] ダイアログ ボックス

図 次の図に、[メールボックスのアーカイブ定義] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

次の表に、[メールボックスのアーカイブ定義] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
名前	アーカイブ定義ファイルの名前を指定します。 メモ この名前は、一意にする必要があります。
アーカイブ後にデータを削除	データをアーカイブした後にメッセージデータを Gentran:Server システムから削除するように指定します。
追加	[メールボックスの選択基準] ダイアログ ボックス にアクセスし、新しいアーカイブ基準を定義できるようにします。
編集	[メールボックスの選択基準] ダイアログ ボックス にアクセスし、選択したメールボックス基準のアーカイブ基準を変更できるようにします。
削除	選択したメールボックス基準をシステムから削除します。 注意 基準を削除するとき、削除してよいかどうかを確認するメッセージは表示されません。
メールボックス	メールボックス名を指定します。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
場所	メッセージの場所を示します。
次の日数分	メッセージをアーカイブする経過期間 (日付) を指定します。
状態	アーカイブされるメッセージの状態を指定します。既定値は [All] です。
コンテンツ タイプ	メッセージのコンテンツ タイプを指定します。既定値は [Any] です。
保存	アーカイブ定義を保存して、[メールボックスのアーカイブ定義] ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	[メールボックスのアーカイブ定義] ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	このダイアログ ボックスに関する状況依存ヘルプが表示されます。

[メールボックスの選択基準]ダイアログボックス

図 次の図に、[メールボックスの選択基準]ダイアログボックスを示します。



各部と機能

次の表に、[メールボックスの選択基準]ダイアログボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
メールボックス	特定のメールボックスが表示されます (既定値はすべてのメールボックス)。
場所	メッセージの場所を示します。有効な選択肢は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ [両方向] (インボックスとアウトボックス) ▶ [インボックス] ▶ [アウトボックス]
次の日数分	メッセージをアーカイブする経過期間 (日付) を指定します。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
状態	<p>アーカイブされるメッセージの状態を指定します。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [All] (既定値はすべての状態) ▶ [Delivered] ▶ [Picked Up] ▶ [Read] ▶ [Sent] ▶ [Sent Third Party]
コンテンツ タイプ	<p>メッセージのコンテンツ タイプを指定します。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [Any] (既定値) ▶ [Application/EDI] ▶ [Application/Document-EDI] ▶ [Application/Import] ▶ [Application/rosettanet-agent] (Gentran:Server for RosettaNet がインストールされている場合のみ) <p>メモ この編集ボックスを使用して、作成済みのコンテンツ タイプを入力することができます。</p>
保存	<p>選択基準を保存して、[メールボックスの選択基準] ダイアログ ボックスを閉じます。</p>
キャンセル	<p>[メールボックスの選択基準] ダイアログ ボックスを閉じます。</p>
ヘルプ	<p>このダイアログ ボックスに関する状況依存ヘルプが表示されます。</p>

[メールボックスの検索]ダイアログボックス

図

次の図に、[メールボックスの検索]ダイアログボックスを示します。



各部と機能

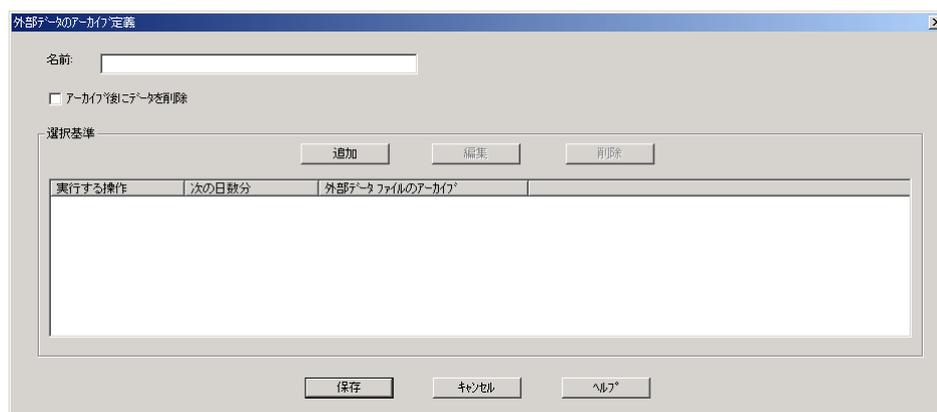
次の表に、[メールボックスの検索]ダイアログボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
メールボックス	特定のメールボックスが表示されます (既定値はすべてのメールボックス)。
場所	メッセージの場所を示します。有効な選択肢は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ [両方向] (インボックスとアウトボックス) ▶ [インボックス] ▶ [アウトボックス] <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
状態	<p>アーカイブされるメッセージの状態を指定します。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [All] (既定値はすべての状態) ▶ [Sent] ▶ [Read] ▶ [Delivered] ▶ [Picked Up] ▶ [Sent Third Party]
コンテンツ タイプ	<p>メッセージのコンテンツ タイプを指定します。既定値は [Any] で、作成した任意のコンテンツ タイプを入力できます。</p>
作成期間	<p>この日時の範囲に作成したデータを検索するように定義します (YYYY/MM/DD および HH:MM:SS 形式)。</p> <p>メモ カレンダー コントロールにアクセスするには矢印をクリックします。</p>
送る期間	<p>この日時の範囲に送信したデータを検索するように定義します (YYYY/MM/DD および HH:MM:SS 形式)。</p> <p>メモ カレンダー コントロールにアクセスするには矢印をクリックします。</p>
受け取る期間	<p>この日時の範囲に受信したデータを検索するように定義します (YYYY/MM/DD および HH:MM:SS 形式)。</p> <p>メモ カレンダー コントロールにアクセスするには矢印をクリックします。</p>
検索	<p>選択した条件に基づいて、該当するメッセージを検索し、その結果が [検索結果] ダイアログ ボックス に表示されます。</p>
キャンセル	<p>[メールボックスの検索] ダイアログ ボックスを閉じます。</p>
ヘルプ	<p>このダイアログ ボックスに関する状況依存ヘルプが表示されます。</p>

[外部データのアーカイブ定義] ダイアログ ボックス

図 次の図に、[外部データのアーカイブ定義] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

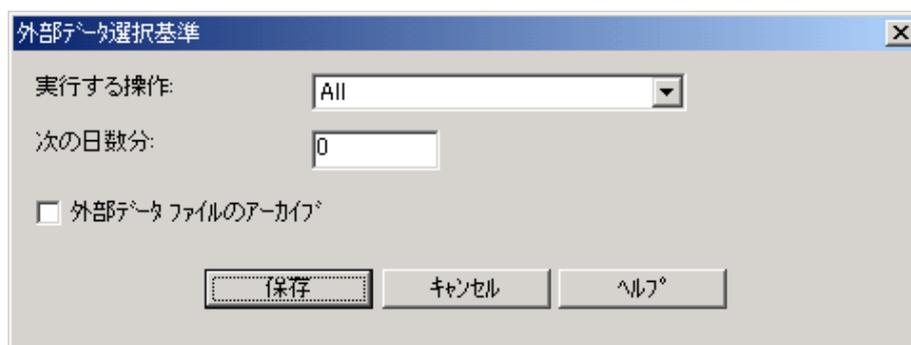
次の表に、[外部データのアーカイブ定義] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
名前	アーカイブ定義ファイルの名前を指定します。 メモ この名前は、一意にする必要があります。
アーカイブ後にデータを削除	データをアーカイブした後にメッセージデータを Gentran:Server システムから削除するように指定します。
追加	[外部データ選択基準] ダイアログ ボックス にアクセスし、新しいアーカイブ基準を定義できるようにします。
編集	選択したメールボックス基準の [外部データ選択基準] ダイアログ ボックス にアクセスし、選択したメールボックス基準のアーカイブ基準を変更できるようにします。
削除	選択した外部データ基準をシステムから削除します。 注意 基準を削除するとき、削除してよいかどうかを確認するメッセージは表示されません。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
実行する操作	外部データ ファイルに対して実行された動作が表示されます。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ [All] (既定値) ▶ [ProcessFile] ▶ [MBProcessFile] ▶ [Import] ▶ [MBImport] ▶ [Send] ▶ [Export]
次の日数分	外部データ ファイルをアーカイブする経過期間 (日付) を指定します。
外部データ ファイルのアーカイブ	外部データ ファイルがアーカイブされることを示します。
保存	アーカイブ定義を保存して、【外部データのアーカイブ定義】ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	【外部データのアーカイブ定義】ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	このダイアログ ボックスに関する状況依存ヘルプが表示されます。

[外部データ選択基準] ダイアログ ボックス

図 次の図に、[外部データ選択基準] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

次の表に、[外部データ選択基準] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
実行する操作	外部データ ファイルに対して実行された動作が表示されます。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ [All] (既定値) ▶ [ProcessFile] ▶ [MBProcessFile] ▶ [Import] ▶ [MBImport] ▶ [Send] ▶ [Export]
次の日数分	外部データ ファイルをアーカイブする経過期間 (日付) を指定します。
外部データ ファイルのアーカイブ	外部データ ファイルがアーカイブされることを示します。
保存	選択基準を保存して、[外部データ選択基準] ダイアログ ボックスを閉じます。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
キャンセル	[外部データ選択基準] ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	このダイアログ ボックスに関する状況依存ヘルプが表示されます。

[外部データの検索] ダイアログ ボックス

図 次の図に、[外部データの検索] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

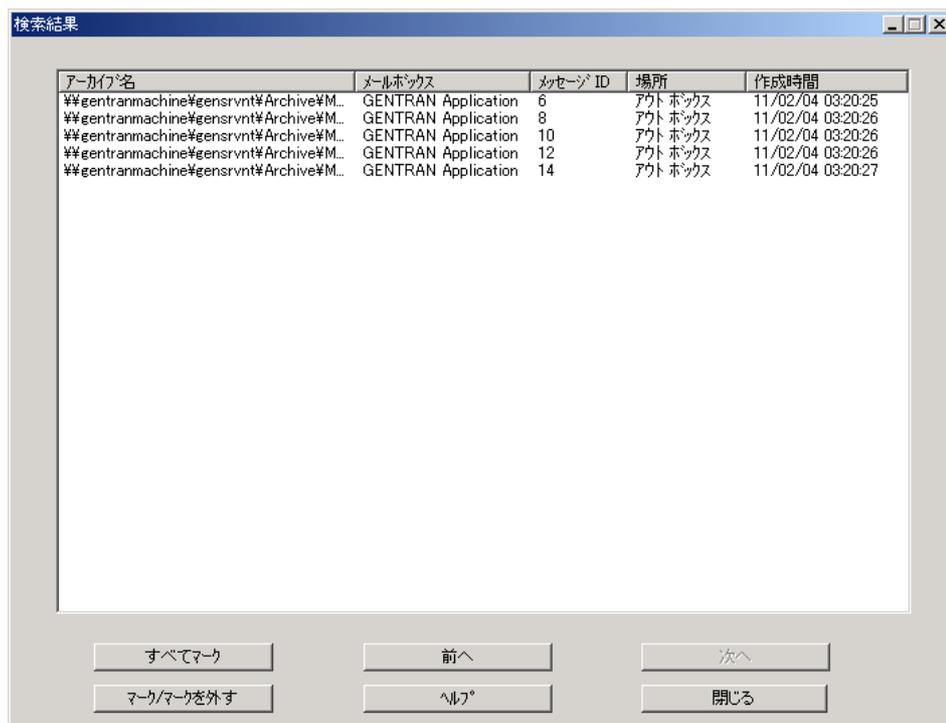
次の表に、[外部データの検索] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
実行する操作	<p>検索する外部データ ファイルに対して実行する動作を指定します。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [All] (既定値) ▶ [ProcessFile] ▶ [MBProcessFile] ▶ [Import] ▶ [MBImport] ▶ [Send] ▶ [Export]
実行する期間	<p>外部データ ファイルに対して動作を実行するタイミングを指定することにより、検索を行う日時の範囲を定義します (YYYY/MM/DD および HH:MM:SS 形式)。</p> <p>メモ カレンダー コントロールにアクセスするには矢印をクリックします。</p>
元のファイル名	<p>検索する外部データ ファイルの元のファイル名を示します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
外部データ キー	検索する外部データ キーを指定します。
検索	選択した条件に基づいて、該当するメッセージを検索し、その結果が [検索結果] ダイアログ ボックス に表示されます。
キャンセル	[外部データの検索] ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	このダイアログ ボックスに関する状況依存ヘルプが表示されます。

[検索結果] ダイアログ ボックス

図 次の図に [検索結果] を示します。アーカイブされたメールボックス メッセージに対して実行した検索の結果が表示されています。



(次のページへ続く)

各部と機能

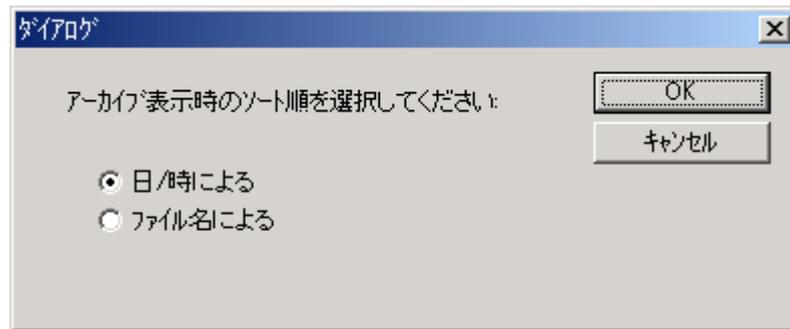
次の表に、[検索結果] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
(リスト)	検索した対象 (インターチェンジ、グループ、ドキュメント、メッセージ、または外部データ) に応じて、各状況に対応した情報が表示されます。
すべてマーク	[検索結果] ダイアログ ボックス内のすべてのアイテムに、復元されることを示すマークを付けます。
戻る	リスト内の前のアイテムを選択します。 メモ このボタンは、アーカイブ ファイルを選択した場合にのみ有効になります。
次へ	リスト内の次のアイテムを選択します。 メモ このボタンは、アーカイブ ファイルを選択した場合にのみ有効になります。
マーク / マークを外す	復元するために選択したアイテム (または以前に選択したアイテム) にフラグを付けます。 メモ このトグル ボタンは、アーカイブ ファイルを選択した場合にのみ有効になります。
ヘルプ	状況依存ヘルプが表示されます。
閉じる	[検索結果] ダイアログ ボックスを終了します。

[ソート順]ダイアログボックス

図

次の図は、[アーカイブ]ツリー表示でのアーカイブデータの並べ替え方法を選択するとき使用する[ソート順]ダイアログボックスを示します。



アクセス方法

[アーカイブ]メニューから[選択]を選択します。

各部と機能

次の表に、[ソート順]ダイアログボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
アーカイブ表示時のソート順を選択してください	次のいずれかの並べ替え順序を選択します。 <ul style="list-style-type: none">▶ [日/時による]▶ [ファイル名による]
OK	選択した並べ替え順序を適用してダイアログボックスを閉じます。
キャンセル	並べ替え順序を変更せずにダイアログボックスを閉じます。

アーカイブ定義の作成方法

手順

アーカイブ定義ファイルを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[デスク] の適切な領域から、[アーカイブ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 アーカイブ マネージャ が表示されます。</p>
2	<p>[アーカイブ] ツリーを展開します。</p> <p>メモ この操作は、新しいアーカイブ定義を作成するために必要となります。</p>
3	<p>Gentran EDI、メールボックス、または外部データの下にある [定義] を右クリックし、ショートカットメニューから [新規作成] を選択すると、アーカイブ パラメータを定義できます。</p> <p>システムからの応答 [Gentran EDI アーカイブ定義] ダイアログ ボックス、[メールボックスのアーカイブ定義] ダイアログ ボックス、または [外部データのアーカイブ定義] ダイアログ ボックス が表示されます。</p>
4	<p>[名前] ボックスに、アーカイブ定義の名前を入力します。</p>
5	<p>アーカイブした後、Gentran:Server システムからそのデータを削除するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 削除する場合は、[アーカイブ後にデータを削除] チェックボックスをオンにして次のステップに進みます。 ▶ 削除しない場合は、次のステップに進みます。
6	<p>[追加] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 該当する [選択基準] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作	
7	<p>適切なパラメータを設定します。</p> <p>参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 使用できるインターチェンジパラメータについての詳細は、「[インターチェンジ選択基準]ダイアログボックス」を参照してください。 ▶ 使用できるメールボックスパラメータについての詳細は、「[メールボックスの選択基準]ダイアログボックス」を参照してください。 ▶ 使用できる外部データパラメータについての詳細は、「[外部データ選択基準]ダイアログボックス」を参照してください。 <p>メモ</p> <p>[選択基準]ダイアログボックスのすべての要素は、全データをアーカイブする、という既定値に自動的に設定されます。</p>	
8	<p>[保存]をクリックします。</p> <p>システムからの応答</p> <p>[選択基準]ダイアログボックスが終了します。</p>	
9	<p>別のアーカイブ基準を作成するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 作成する場合は、ステップ6からステップ8を繰り返します。 ▶ 作成しない場合は、次のステップに進みます。 	
10	<p>該当する[アーカイブ定義]ダイアログボックスで、[保存]をクリックします。</p> <p>システムからの応答</p> <p>アーカイブパラメータを含むアーカイブ定義ファイルが作成されます。定義ファイルは、拡張子 .ARD で格納されます。</p>	
11	<p>次の表に従って、次に行う操作を決めます。</p>	
	実行する操作	手順
	アーカイブ基準を編集する	[アーカイブ定義]ダイアログボックスで適切なアイテムを選択して、[編集]をクリックします。
アーカイブ基準を削除する	[アーカイブ定義]ダイアログボックスで適切なアイテムを選択して、[削除]をクリックします。	

データのアーカイブ方法

始める前に

データをアーカイブする前に、選択基準を含むアーカイブ定義ファイルを作成する必要があります。

参照

詳細については、「[アーカイブ定義の作成方法](#)」を参照してください。

手順

データをアーカイブするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	このアーカイブ処理を実行する前に、ユーザーの会社で決められている Gentran:Server システムのバックアップ処理を行います。
2	[デスク]の適切な領域から、[アーカイブ]を選択します。 システムからの応答 アーカイブ マネージャ が表示されます。
3	アーカイブ ツリーを展開して、適切な定義フォルダを開きます。
4	適切なアーカイブ定義を右クリックし、ショートカット メニューから [Archive Data] を選択します。 システムからの応答 <ul style="list-style-type: none"> ▶ アーカイブ処理が実行されます。対話型の進捗ダイアログボックスに、アーカイブ処理の現在の状態が表示されます。必要に応じて、アーカイブをキャンセルすることもできます。 ▶ 指定したパラメータに基づいてデータがアーカイブされ、アーカイブ フォルダに新しいファイルが作成されます。 命名規則 アーカイブ ファイル作成時の命名規則では、アーカイブ定義ファイルの名前にアーカイブの日付と時刻を加えたものが、アーカイブ ファイルの名前になります。ファイル拡張子は .ARV です。
5	アーカイブ処理が完了したら、[アーカイブ マネージャ]のツリー表示で適切なアーカイブ フォルダを右クリックし、[リフレッシュ]を選択します。 システムからの応答 アーカイブ データ ファイルを作成した日付および時刻のアーカイブ ファイルが表示されます。

アーカイブ データの表示方法

手順

アーカイブされた情報を表示するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]の適切な領域から、[アーカイブ]を選択します。</p> <p>システムからの応答 アーカイブ マネージャが表示されます。</p>
2	<p>アーカイブ ツリーを展開して、適切なアーカイブ フォルダを開きます。</p>
3	<p>アーカイブ フォルダで、内容(概要または詳細)を表示するアーカイブ データ ファイルを探すか、または特定のデータを検索し、そのファイルの左にある "+" をクリックします。</p> <p>システムからの応答 アーカイブ ファイルが表示されます。アーカイブ ファイルを選択すると、各アイテムの概要情報が表示されます。</p> <p>参照 各レベルで表示できる情報については、「アーカイブ マネージャ」を参照してください。</p>
4	<p>[アーカイブ]メニューから[選択]を選択し、[アーカイブ]のツリー表示でのアーカイブ データの並べ替え方法を選択して[OK]をクリックします。</p> <p>(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作	
5	追加情報を表示するには、ツリーの適切なレベルを選択し、次の表に従って次に行う操作を決めます。 メモ 「該当なし」は、特定のアイテムを選択したときに表示される情報を表します。	
	表示するアイテム	実行する操作
	アーカイブ ファイル情報 ([アーカイブ マネージャ] の右上のペインに表示)	アーカイブ ファイルを選択します。
	インターチェンジ情報 ([アーカイブ マネージャ] の右上のペインに表示)	インターチェンジを選択します。
	インターチェンジデータ オーディット ([アーカイブ マネージャ] の右上のペ インに表示)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ インターチェンジを右クリック します。 ▶ ショートカット メニューから [表示] > [データ オーディット] を選択します。
	インターチェンジのトラッ ク情報 ([アーカイブ マ ネージャ] の右上のペ インに表示)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ インターチェンジを右クリック します。 ▶ ショートカット メニューから [表示] > [トラック情報] を選 択します。
	インターチェンジファイル (外部ビューアに表示)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ インターチェンジを右クリック します。 ▶ ショートカット メニューから [表示] > [データ] > [外部 ビューア] を選択します。
	インターチェンジファイル ([アーカイブ マネージャ] の右下のペインに表示)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ インターチェンジを右クリック します。 ▶ ショートカット メニューから [表示] > [データ] > [画面] を 選択します。
	グループ情報 ([アーカイブ マネージャ] の右上のペ インに表示)	グループを選択します。
	ドキュメント情報 ([アーカ イブ マネージャ] の右上の ペインに表示)	ドキュメントを選択します。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作	
5 (続き)	表示するアイテム	実行する操作
	ドキュメント データ オーディット ([アーカイブ マネージャ] の右上のペインに表示)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ドキュメントを右クリックします。 ▶ ショートカット メニューから [表示] > [データ オーディット] を選択します。
	ドキュメントのトラック情報 ([アーカイブ マネージャ] の右上のペインに表示)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ドキュメントを右クリックします。 ▶ ショートカット メニューから [表示] > [トラック情報] を選択します。
	ドキュメント ファイル (外部ビューアに表示)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ドキュメントを右クリックします。 ▶ ショートカット メニューから [表示] > [データ] > [外部ビューア] を選択します。
	ドキュメント ファイル ([アーカイブ マネージャ] の右下のペインに表示)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ドキュメントを右クリックします。 ▶ ショートカット メニューから [表示] > [データ] > [画面] を選択します。
	メッセージ情報 ([アーカイブ マネージャ] の右上のペインに表示)	メッセージを選択します。
	メッセージ データ オーディット ([アーカイブ マネージャ] の右上のペインに表示)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ メッセージを右クリックします。 ▶ ショートカット メニューから [表示] > [データ オーディット] を選択します。
	添付情報 ([アーカイブ マネージャ] の右上のペインに表示)	添付を選択します。
添付データ オーディット ([アーカイブ マネージャ] の右上のペインに表示)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 添付を右クリックします。 ▶ ショートカット メニューから [表示] > [データ オーディット] を選択します。 <p style="text-align: right; color: green;">(次のページへ続く)</p>	

(続き) ステップ	操作	
5 (続き)	表示するアイテム	実行する操作
	添付ファイル (外部ビューアに表示)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 添付を右クリックします。 ▶ ショートカット メニューから [表示] > [データ] > [外部ビューア] を選択します。
	添付ファイル ([アーカイブ マネージャ] の右下のペインに表示)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 添付を右クリックします。 ▶ ショートカット メニューから [表示] > [データ] > [画面] を選択します。
	外部データ情報 ([アーカイブ マネージャ] の右上のペインに表示)	外部データ ファイルを選択します。
	外部データ オーディット ([アーカイブ マネージャ] の右上のペインに表示)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 外部データ ファイルを右クリックします。 ▶ ショートカット メニューから [表示] > [データ オーディット] を選択します。
	外部データ ファイル (外部ビューアに表示)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 外部データ ファイルを右クリックします。 ▶ ショートカット メニューから [表示] > [データ] > [外部ビューア] を選択します。
	外部データ ファイル ([アーカイブ マネージャ] の右下のペインに表示)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 外部データ ファイルを右クリックします。 ▶ ショートカット メニューから [表示] > [データ] > [画面] を選択します。
	システムからの応答 要求した情報が表示されます。	

アーカイブ データの検索方法

はじめに

アーカイブ マネージャの検索を使用すると、すべてまたは1つのアーカイブ ファイルを検索するために使用するパラメータを素早く定義して、特定の情報を見つけることができます。その中から必要な情報を選択すると、[アーカイブ マネージャ] のツリー表示でその情報が反転表示になります。

手順

特定のアーカイブ データを検索するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[デスク] の適切な領域から、[アーカイブ] を選択します。 システムからの応答 <u>アーカイブ マネージャ</u> が表示されます。
2	[アーカイブ サブシステム] ツリーから、適切な (Gentran EDI、メールボックス、または外部データの) アーカイブ フォルダを選択します。
3	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [アーカイブ] メニューから [検索] を選択します。 ▶ 続いて、メッセージ、インターチェンジ、グループ、ドキュメント、または外部データを選択します。 システムからの応答 <u>[インターチェンジの検索] ダイアログ ボックス</u> 、 <u>[グループの検索] ダイアログ ボックス</u> 、 <u>[ドキュメントの検索] ダイアログ ボックス</u> 、 <u>[メールボックスの検索] ダイアログ ボックス</u> 、または <u>[外部データの検索] ダイアログ ボックス</u> が表示されます。
4	適切なパラメータを選択します。 メモ [検索] ダイアログ ボックスのパラメータを変更しなかった場合は、既定値 (すべてのアイテム) が検索されます。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
5	<p>[検索] をクリックすると、検索が実行されます。</p> <p>システムからの応答 [検索結果] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p>参照 検索ダイアログ ボックスで実行できる動作についての詳細は、「データのアーカイブ方法」を参照してください。</p>
6	<p>[閉じる] をクリックして、[検索結果] ダイアログ ボックスを閉じます。</p>

アーカイブデータの復元

概要

"復元"機能

"復元"機能を使用すると、[インターチェンジの復元]ブラウザでデータの表示および再実行を行うことができます。データが復元されるときに、アーカイブデータファイル(*.ARVファイル)は変更されません。したがって、必要に応じて、同じアーカイブファイルからデータを再度復元することができます。

復元における注意点

データをシステムに復元する場合は、以下の点に注意してください。

- ▶ アイテムは、アーカイブした後に削除する必要があります。

参照

アーカイブ後削除機能についての詳細は、「[アーカイブ定義の作成方法](#)」を参照してください。

- ▶ メッセージデータの場合、元のメールボックスが存在している必要があります。

メモ

元のメールボックスが存在しない場合は[アーカイブ マネージャ]によって再作成されます。この複製メールボックスには、元のメールボックスのすべてのプロパティが複製されるわけではありません。

アーカイブファイルのテープへの移動

"アーカイブ"機能で作成したアーカイブデータファイルの数が多くなり、空きディスク領域が少なくなってきた場合は、アーカイブデータファイルをテープに移動することもできます。

メモ

Gentran:Serverには、アーカイブファイルをテープメディアにコピーする機能は用意されていません。アーカイブファイルをテープに移動した場合、そのファイルを[アーカイブ検索]で認識することはできません。テープに移動したファイルは、テープに保存した状態で開くことはできません。そのアーカイブファイルを[アーカイブ マネージャ]で表示するには、テープからアーカイブフォルダに読み込み直す必要があります。

推奨事項

テープ管理システムを使用して、テープに保存されているアーカイブファイルをトラッキングすることをお勧めします。

(次のページへ続く)

手順

アーカイブ データを復元するには、次の手順に従います。

ステップ	操作	
1	<p>[デスク]の適切な領域から、[アーカイブ]を選択します。</p> <p>システムからの応答 アーカイブ マネージャが表示されます。</p>	
2	<p>アーカイブ ツリーを展開し、復元するアイテムを探します。</p>	
3	<p>アイテムを右クリックし、ショートカット メニューから [マーク]>[マークを外す]を選択します。</p> <p>システムからの応答 復元するアイテムにフラグが付けられます。</p>	
4	<p>[データの復元]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 マークされているデータがシステムに復元されます。</p> <p>メモ データが復元できない場合は、オーディット ログの表示を促すメッセージが表示されます。オーディット ログには、失敗の原因についての詳細情報が表示されます。</p>	
5	復元されたデータの表示方法については、次の表に従ってください。	
	復元データ	データの表示
	インターチェンジ	[インターチェンジの復元]ブラウザ 参照 詳細については、「 復元されたインターチェンジの表示方法 」を参照してください。
	メッセージ	メールボックス サブシステム 参照 詳細については、『 コミュニケーションズガイド 』を参照してください。
外部データ ファイル	外部データ概要ビューア 参照 詳細については、「 外部データ ファイルの表示方法 」を参照してください。	

[インターチェンジの復元] ブラウザ

はじめに

[インターチェンジの復元] ブラウザを使用して、アーカイブ ファイルから復元したすべてのインターチェンジ、グループ、およびドキュメントのリストを表示できます。このブラウザには、インターチェンジの状態に関する情報 (ファンクショナル受信確認を受信したかどうか、およびその受信確認の状態など) が表示されます。

情報の編成

[インターチェンジの復元] ブラウザでは、情報が階層構造で編成されています。次の表に、[インターチェンジの復元] ブラウザの情報の階層構造をまとめます。

レベル	アクセス方法	表示される情報 (中央のペイン) (すべての情報が表示されるわけではありません。)
インターチェンジ	[インターチェンジの復元] ブラウザを開きます。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ インターチェンジの方向 ▶ インターチェンジが作成された日時 ▶ パートナー名 ▶ Control Number ▶ インターチェンジの処理状態 ▶ ネットワークの状態 ▶ インターチェンジ受信確認の状態 ▶ メッセージの状態 <p>メモ これらのコンポーネントのいずれかが欠けているか、または特定のインターチェンジに適切でない場合には、表示されません。</p>
グループ	インターチェンジをダブルクリックします。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ グループ Control Number ▶ グループの種類 ▶ グループ受信確認の状態 <p>メモ これらのコンポーネントのいずれかが欠けているか、または特定のグループに適切でない場合には、表示されません。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) レベル	アクセス方法	表示される情報 (中央のペイン) (すべての情報が表示されるわけではありません。)
ドキュメント	グループをダブルクリックします。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ドキュメントの状態 ▶ ドキュメント Control Number ▶ ドキュメントの種類 ▶ ドキュメント名 ▶ 参照データ ▶ ドキュメントの適合状態 ▶ トランザクション受信確認の状態 <p>メモ これらのコンポーネントのいずれかが欠けているか、または特定のドキュメントに適切でない場合には、表示されません。</p>
ドキュメント データ	ドキュメントをダブルクリックします。 メモ システム上で対象のドキュメントの画面入力トランスレーションオブジェクトを利用できることが、必須条件です。	ドキュメント データ

(次のページへ続く)

ブラウザの機能

[インターチェンジの復元] ブラウザでは、次の機能を実行できます。

- ▶ [インターチェンジのフィルタ] ダイアログ ボックスから日付、パートナー、および方向 (インバウンドとアウトバウンド) をフィルタ条件に設定して、インターチェンジを表示できます。
- ▶ 外部データ、EDI データ、および選択したインターチェンジまたはドキュメントのトランスレータ レポート データを、ブラウザ内の適切なペインに表示できます。

メモ

EDI データや外部データを表示するときには、[表示] メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト] から [16 進] 形式に切り換えることができます。

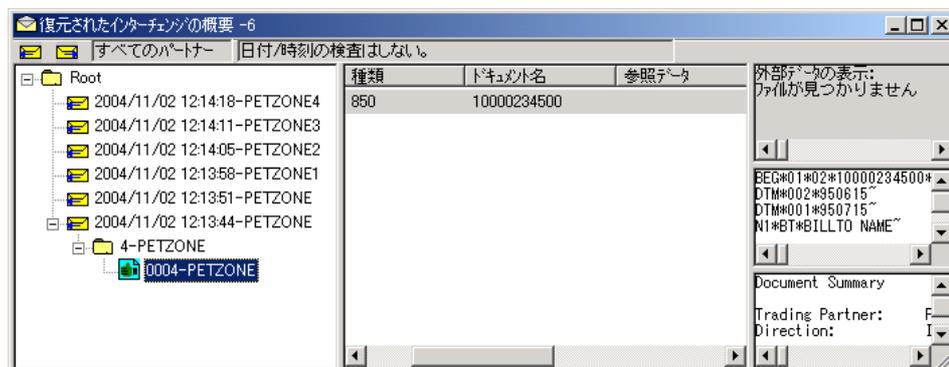
- ▶ インターチェンジの状態を "送信準備完了" から "保留" に (またはその逆に) 切り替えることができます。
- ▶ 選択したアイテムを印刷または削除できます。

メモ

インターチェンジをすぐには送信しない場合、この切り換え機能を使用することができます。

図

次の図に、[復元されたインターチェンジの概要] ブラウザを示します。



(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、[復元されたインターチェンジの概要] ブラウザの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
ステータスバー	<p>[インターチェンジのフィルタ] ダイアログ ボックスで指定したフィルタの指定事項が反映されます。</p> <p>メモ 中央のペインからアイテムを1つ選択すると、[電子商取引 (EC) マネージャ] のステータスバーが更新されます。</p>
(左のペイン — [インターチェンジ] ツリー)	<p>復元されたすべてのインターチェンジ、グループ、およびドキュメントのリストが表示されます。また、作成時刻およびパートナー名も表示されます。</p> <p>メモ [復元されたインターチェンジの概要] ブラウザの表示をリフレッシュするには、F5 を押します。</p> <p>参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 各レベルの内容の詳細については、「表示可能なアーカイブ情報」を参照してください。 ▶ 状態アイコンの詳細については、「ドキュメントレベルの状態アイコン」を参照してください。
(中央のペイン — 詳細なリスト)	<p>選択されたドキュメント、グループ、またはインターチェンジの詳細情報が表示されます。表示された情報は、そのレベルに依存します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 複数のアイテムを選択するには、アイテムを選択している間に Ctrl を押して下さい。 ▶ [インターチェンジ] ブラウザの表示をリフレッシュするには、中央のペインを右クリックし、ショートカットメニューから [リフレッシュ] を選択します (または、F5 を押します)。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
(右上のパイン [外部データ])	<p>トランスレーションでを使用したデータ ファイルが表示されます (このオプションを [表示] メニューの [インターチェンジの復元] から選択した場合)。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 詳細リストから 1 つのアイテムが選択された場合のみ、このオプションは有効です。 ▶ トランスレーション内で使用した外部データ ファイルがない場合、このオプションは利用できません。 ▶ EDI データや外部データを表示するときには、[表示] メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト] から [16 進] 形式に切り換えることができます。
(右中央のパイン [Gentran データ])	<p>データが EDI 書式で表示されます (このオプションを [表示] メニューの [インターチェンジの復元] から選択した場合)。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 詳細リストから 1 つのアイテムが選択された場合のみ、このオプションは有効です。 ▶ EDI データや外部データを表示するときには、[表示] メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト] から [16 進] 形式に切り換えることができます。
(右下のパイン [トランスレータ レポート])	<p>トランスレータがこのドキュメントに対して実行した動作のレポート、および EDI またはトランスレーション オブジェクトに関するエラーのリストが表示されます (このオプションを [表示] メニューの [インターチェンジの復元] から選択した場合)。</p> <p>メモ</p> <p>詳細リストから 1 つのアイテムが選択された場合のみ、このオプションは有効です。</p> <p>参照</p> <p>トランスレータ レポートの詳細については、『管理 ガイド』の「エラー メッセージ」を参照してください。</p>

(次のページへ続く)

ドキュメント レベル
の状態アイコン

次の表に、[インターチェンジの復元] ブラウザのドキュメント レベルで使用される状態アイコンをまとめます。

状態	アイコン	説明
OK		(緑) — ドキュメントが EDI スタandard に完全に適合しており、処理を続行できる状態にあることを示します。
失敗		<p>(赤) — 次のいずれかの状態を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ドキュメントが、EDI Standard に適合していません。これがエラーの原因である場合は、そのドキュメントに関連付けられたトランスレータレポートにエラーが表示されます。ドキュメントは EDI Standard に完全には適合していませんが、処理を続行できる状態にあります。 ▶ 受信したドキュメントを特定のトレーディングパートナーに関連付けることができません。この場合、そのドキュメントに対応するパートナーのリストには " 不明 " と表示されます。このドキュメントを、パートナーとのインターチェンジで受信したほかのドキュメントと関連付けるには、[インターチェンジ] ブラウザからドキュメントを添付します。 ▶ 適切な取引関係またはトランスレーションオブジェクトを、ドキュメントと関連付けることができません。関係またはトランスレーションオブジェクトを探すために使用した情報の種類に関する詳細情報が、オーディット ログに記録されます。この問題を解決するには、パートナー エディタを使用して有効な関係を確立し、その関係について有効なエクスポート、印刷、またはターンアラウンド トランスレーションオブジェクトを定義する必要があります。 ▶ インターチェンジ、ファンクショナルグループ、またはトランザクションレベルエンベロープ構造の処理中に、重大なエラーが発生しました。ヘッダーとトレーラの Control Number の不一致、無効なトレーラ管理カウント、Control Number の順番の確認エラーなども、このエラーに含まれます。これらのエラーが発生した場合、ドキュメントが入っているインターチェンジについてのトランスレータレポートにエラーが表示されます。
重複		(黄色) — このドキュメントに、システム上の別のドキュメントと同じ名前が付けられていることを示します。

復元されたインターチェンジの表示方法

手順

復元されたインターチェンジを表示するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]の適切な領域から、[インターチェンジの復元]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [インターチェンジの復元]ブラウザが表示されます。</p> <p>メモ [インターチェンジ]ブラウザの表示をリフレッシュするには、中央のペインを右クリックし、ショートカットメニューから[リフレッシュ]を選択します(または、F5を押します)。</p>
2	<p>インターチェンジの表示で、状態によるフィルタをかけるかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ フィルタをかける場合には、「復元されたインターチェンジのフィルタ方法」を参照してください。▶ フィルタをかけない場合は、そのままステップ3に進みます。 <p>メモ "フィルタ"機能を使用すると、復元されたインターチェンジを日付、パートナー、および方向(インバウンドまたはアウトバウンド)でフィルタをかけて表示することができます。</p>
3	<p>インターチェンジを選択します。</p> <p>(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作	
4	次の表に従って、次に行う操作を決めます。	
	実行する操作	選択
	選択したインターチェンジの内容を EDI データ書式で表示する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [表示]メニューから[インターチェンジの復元]を選択します。 ▶ サブメニューから[Gentran データ]を選択します。 <p>メモ EDI データや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から[16進]形式に切り換えることができます。</p>
	対応する外部データファイルを表示する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [表示]メニューから[インターチェンジの復元]を選択します。 ▶ サブメニューから[外部データ]を選択します。 <p>メモ EDI データや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から[16進]形式に切り換えることができます。</p>
	選択したインターチェンジのトランスレータレポートを表示する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [表示]メニューから[インターチェンジの復元]を選択します。 ▶ サブメニューから[トランスレータレポート]を選択します。
	選択したインターチェンジまたはインターチェンジの概要を印刷する	[ファイル]メニューから[印刷]を選択します。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作	
4 (続き)	<p>実行する操作</p> <p>選択したインターチェンジと、これに関連するすべてのドキュメントを削除する</p>	<p>選択</p> <p>[ドキュメント]メニューから[削除]を選択します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 状態が " 順番待ち " のインターチェンジを削除すると、[アウトドキュメント]およびトレーディングパートナーの[インボックス]で、特定のメッセージを削除する必要があることを示す警告メッセージが表示されます。そのまま続けると、パートナーの処理結果が Control Number の順番に基づく場合は、トランザクション、グループ、およびインターチェンジの Control Number を修正する必要があることを示す警告メッセージが表示されます。 ▶ 状態が " 送信準備完了 " のインターチェンジを削除すると、パートナーの処理結果が Control Number の順番に基づく場合は、トランザクション、グループ、およびインターチェンジの Control Number を修正する必要があることを示す警告メッセージが表示されます。

復元されたインターチェンジのフィルタ方法

手順

復元されたインターチェンジを、パートナーまたは日付順にフィルタ表示するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]の適切な領域から、[インターチェンジの復元]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [インターチェンジの復元]ブラウザが表示されます。</p>
2	<p>[コマンド]メニューから[フィルタ]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [インターチェンジのフィルタ]ダイアログボックスが表示されます。</p>
3	<p>インターチェンジの表示で、日時によるフィルタをかけるかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 日時によるフィルタをかけない場合は、[日付/時刻の検査をしない]チェックボックスをオンにしてステップ6に進みます。 ▶ 日時によるフィルタをかける場合は、[日付/時刻の検査をしない]チェックボックスをオフにしてステップ4に進みます。
4	<p>[開始日時]スライドバーを使用して、表示するインターチェンジの日付範囲の始まりを指定します。</p>
5	<p>日付範囲の終わりを、常に現在のシステム日時にするかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ システム日時にしない場合は、[常に現在]チェックボックスをオフにし、[終了日時]スライドバーで日付範囲の終わりを設定します。 ▶ システム日時にする場合は、[常に現在]チェックボックスをオンにします。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
6	<p>復元されたインターチェンジの表示で、パートナーによるフィルタをかけるかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ フィルタをかけない場合は、ステップ7に進みます。▶ フィルタをかける場合は、すべてのパートナー プロファイルがリストされている [パートナー] リストから、表示するパートナーを選択します。 <p>メモ 既定ではすべてのパートナーが表示されますが、パートナー プロファイルをクリックして選択解除し、表示を変更することもできます。すべてのパートナー プロファイルの選択を解除するには、[すべてのパートナーを選択しない] をクリックします。その後、1つ以上のプロファイルをクリックすれば、そのプロファイルを選択できます。少なくとも1つのパートナーを選択する必要があります。</p>
7	<p>インターチェンジのどちらの方向にフィルタをかけるかによって、次を実行します。</p> <p>既定値 既定の表示は、インバウンド インターチェンジおよびアウトバウンド インターチェンジの両方にフィルタをかけます。[インバウンド] または [アウトバウンド] チェック ボックスをクリックして方向をクリアします。</p> <p>メモ 少なくとも1つの [方向] チェック ボックスがオンになっている必要があります。</p>
8	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 復元されたインターチェンジが、指定した基準でフィルタされて表示されます。</p>

復元されたドキュメントの表示方法

はじめに

インターチェンジ内の個々のドキュメントを表示するためには、各ドキュメントの画面入力トランスレーション オブジェクトが使用可能である必要があります。

手順

復元されたインターチェンジ内のドキュメントを表示するには、次の手順に従います。

ステップ	操作	
1	<p>[デスク]の適切な領域から、[インターチェンジの復元]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [インターチェンジの復元]ブラウザが表示されます。</p> <p>メモ [インターチェンジ]ブラウザの表示をリフレッシュするには、中央のペインを右クリックし、ショートカットメニューから[リフレッシュ]を選択します(または、F5を押します)。</p>	
2	<p>ドキュメントを選択して次のステップに進むか、ドキュメントをダブルクリックして表示します。</p> <p>メモ このドキュメントの画面入力トランスレーション オブジェクトが使用可能である必要があります。</p>	
3	ドキュメントを選択したら、次の表に従って次に行う操作を決めます。	
	<p>実行する操作</p> <p>このドキュメントのトランスレータ レポートを表示する</p>	<p>選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [表示]メニューから[インターチェンジ]を選択します。 ▶ [トランスレータ レポート]を選択します。 <p>(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作	
3 (続き)	実行する操作	選択
	選択したインターチェンジの内容を EDI データ書式で表示する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [表示]メニューから [インターチェンジ] を選択します。 ▶ サブメニューから [Gentran データ] を選択します。 <p>メモ EDI データや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から [16進]形式に切り換えることができます。</p>
	選択したインターチェンジに関連する外部データを表示する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [表示]メニューから [インターチェンジ] を選択します。 ▶ サブメニューから [関連外部データ] を選択します。 <p>メモ EDI データや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から [16進]形式に切り換えることができます。</p>
	選択したドキュメントまたはトランスレータレポートを印刷する	[ファイル]メニューから [印刷] を選択します。
	選択したドキュメントを削除する	[ドキュメント]メニューから [削除] を選択します。
	適切なブラウザにドキュメントをコピーする	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [ドキュメント]メニューから [コピー] を選択します。 ▶ 適切なブラウザ (適合するインバウンドドキュメントの場合は [? インドキュメント]ブラウザ または [インドキュメント]ブラウザ、アウトバウンドドキュメントの場合は [ワークスペース]ブラウザ) をサブメニューから選択します。

復元されたドキュメントの再処理方法

はじめに

[インターチェンジの復元] ブラウザからデータを再処理するには、選択したアウトドキュメントを[コピー]コマンドで[ワークスペース]に移動し、適合するインバウンドドキュメントを[インドキュメン]ブラウザまたは[?インドキュメント]ブラウザに移動する必要があります。

手順

データを再処理するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]の適切な領域から、[インターチェンジの復元]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [インターチェンジの復元]ブラウザが表示されます。</p> <p>メモ [インターチェンジ]ブラウザの表示をリフレッシュするには、中央のペインを右クリックし、ショートカットメニューから[リフレッシュ]を選択します(または、F5を押します)。</p>
2	<p>ドキュメントを再処理および再送できるようにするため、[ワークスペース]ブラウザ、[インドキュメント]ブラウザ、または[?インドキュメント]ブラウザにコピーするドキュメントを選択します。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [ドキュメント]メニューから[コピー]を選択します。 ▶ カスケードメニューから適切なブラウザを選択すると、復元されたインターチェンジが選択したブラウザにコピーされます。

復元されたインターチェンジの再送方法

はじめに

[インターチェンジの復元] ブラウザからアウトバウンド インターチェンジを再送するには、[再送] コマンドを使用する必要があります。

メモ

再送できるインターチェンジは、以前に送信されたものか、状態が "送信準備完了" のもののみです。

再送処理

次の表に、選択したインターチェンジを再送する際にシステム内で発生する処理をまとめます。

段階	説明
1	<p>復元されたインターチェンジが、[インターチェンジの復元] ブラウザ内のリストに表示されます。</p> <p>参照 復元されたインターチェンジを表示する手順については、「復元されたインターチェンジのフィルタ方法」を参照してください。</p>
2	<p>再送コマンドが実行されると、まず TRADACOMS インターチェンジであるかどうかを判別されます。インターチェンジが TRADACOMS である場合、FIL セグメント内の現在のバージョン番号が 1 増分されます。インターチェンジは、この更新の後にほかのインターチェンジと同じ方法で再送されます。</p>
3	<p>リモート エンドとのコミュニケーションが確立されます。コミュニケーションセッションが成功したか失敗したかどうかに応じて、メッセージの状態が更新されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メールボックスが設定されていない、またはメールボックスサービスが開始されていない、などの理由でコミュニケーションが失敗した場合、インターチェンジおよびドキュメントは "送信準備完了" の状態のままとなります。 ▶ モデムが見つからないためにコミュニケーションが失敗した場合、インターチェンジおよびドキュメントは "順番待ち" の状態のままとなります。 <p>メモ この時点では、ユーザ側のアクションはいっさい必要ありません。送信に失敗したインターチェンジは、次の伝送セッションの一部として自動的に送信されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

段階	説明
4	コミュニケーションが成功すると、ドキュメントは [アウトドローワ]ブラウザ に移動し、インターチェンジの状態は "送信済み" に設定されます。

手順

復元されたアウトバウンド インターチェンジを再送するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[デスク] の適切な領域から、[インターチェンジの復元] を選択します。 システムからの応答 [インターチェンジの復元]ブラウザ が表示されます。
2	再送するアウトバウンド インターチェンジを選択します。
3	[ドキュメント] メニューから [再送] を選択します。 システムからの応答 [Gentran:Server for Windows] ダイアログ ボックスが表示されます。
4	[はい] をクリックして、伝送セッションを開始します。

プロセス管理の使い方

目次

概要	2
▶ はじめに	2
セッション	4
▶ 概要	4
▶ セッションの作成方法	11
▶ セッションの編集方法	14
▶ セッションの削除方法	17
イベント	18
▶ 概要	18
▶ 新しいイベントの作成方法	27
▶ イベントの編集方法	31
▶ イベントの削除方法	35
▶ イベントの表示方法	36
▶ イベントをアクティブ化および一時停止する方法	41
▶ イベントを即時に実行する方法	44
カレンダー	46
▶ 概要	46
▶ カレンダーを作成または編集する方法	49
▶ カレンダーの削除方法	51

概要

はじめに

本章の内容

この章では、Gentran:Server のプロセス管理の使用方法を説明します。

プロセス管理の機能

プロセス管理は、メッセージ処理を自動化するためのシステム機能です。基本的に、ユーザーは実行する処理とそのタイミングを設定するだけでよく、後はプロセス管理によって自動的に運営されます。

プロセス管理を使用すると、Gentran:Server の処理機能を開始するためのカスタマイズ イベントを簡単にビルドできます。これらの処理機能には、次のものがあります。

- ▶ アプリケーション ファイルからのデータのインポート
- ▶ アプリケーション ファイルへのデータのエクスポート
- ▶ 送信
- ▶ 受信

また、ファイル管理機能やプロセス管理機能を実行できるため、アプリケーションと Gentran:Server を統合して使用する際の柔軟性が向上します。

イベント作成処理

プロセス管理は、" イベント "によって制御されます。イベントとは、実行する処理 (セッション) とセッションを処理するタイミング (カレンダ、曜日、日付、またはファイルの有無) との組み合わせのことです。次の表に、イベント作成処理の概要をまとめます。

段階	説明
1	プロセス管理セッションを作成します。 参照 詳細については、「 セッションの作成方法 」を参照してください。
2	必要に応じて、プロセス管理カレンダーを作成します。 参照 詳細については、「 カレンダーを作成または編集する方法 」を参照してください。 (次のページへ続く)

(続き) 段階	説明
3	プロセス管理イベントを作成します。 参照 詳細については、「 新しいイベントの作成方法 」を参照してください。
4	イベントをアクティブにします。 参照 詳細については、「 イベントをアクティブ化および一時停止する方法 」を参照してください。

セッション

概要

はじめに

セッションの定義は、プロセス管理イベントに不可欠な要素です。セッションの設定プロセスを使用して、プロセス管理セッションスクリプトを設定および編集することができます。セッションはイベントとは別個に定義されるので、同じセッション定義を何回でもスケジュールすることができます。

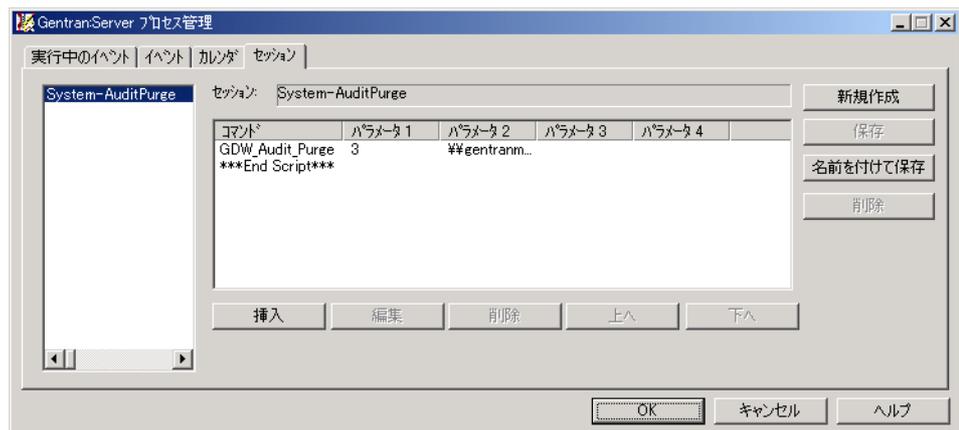
セッションスクリプト

セッションスクリプトは、コマンド (Gentran:Server の関数) のリストで構成され、セッションスクリプトに記載された順番どおりにコマンドが実行されます。使用可能な各コマンドにパラメータを設定できます。選択したコマンドに条件を設定することもできます。これらの条件によって、セッション内でコマンドを実行するかどうかが決まります。

条件は、2種類指定できます。まず、特定のファイルの有無を照会する条件を指定できます。次に、特定の場所にドキュメントが存在するかどうかを識別する条件を指定できます。条件を評価した結果が `true` であれば、コマンドが実行されます。条件を評価した結果が `false` であれば、そのコマンドをスキップして、その次に定義されているコマンドから処理が続行されます。

[プロセス管理] ダイアログボックス ([セッション] タブ)

次の図に、[プロセス管理] ダイアログボックスの [セッション] タブを示します。



(次のページへ続く)

[セッション] タブ の各部と機能

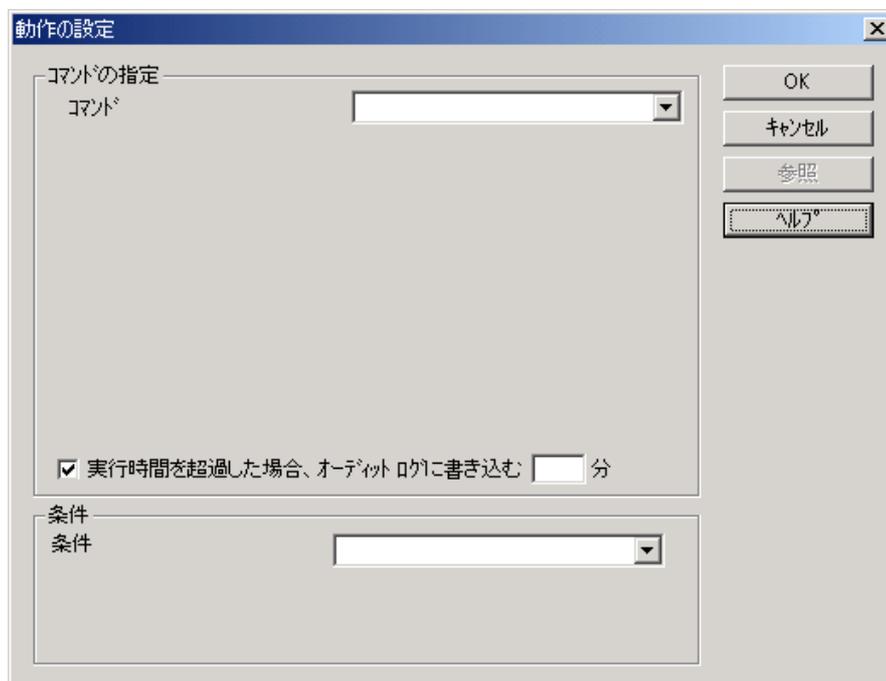
次の表に、[プロセス管理] ダイアログ ボックスの [セッション] タブの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
(リスト)	定義済みのセッション スクリプトのすべてが表示されます。
セッション	現在選択されているセッションのスクリプトが表示されます。
挿入	[動作の設定] ダイアログ ボックスが開きます。これを使用して、現在の行の上にスクリプト コマンドを挿入できます。
編集	[動作の設定] ダイアログ ボックスが開きます。これを使用して、選択したスクリプト コマンドを変更できます。
削除	選択しているスクリプト コマンドを削除します。
上へ	選択したスクリプト コマンドを、スクリプト内の1つ上の行に移動します。
下へ	選択したスクリプト コマンドを、スクリプト内の1つ下の行に移動します。
新規作成	[新しいセッション] ダイアログ ボックスが開きます。これを使用して、新しいセッションを作成できます。
保存	現在のセッション スクリプトを保存します。
名前を付けて保存	現在のセッション スクリプトを別の名前で保存します。
削除	選択したセッションを削除します。

(次のページへ続く)

[動作の設定] ダイアログボックス

次の図に、[動作の設定] ダイアログボックスを示します。



[動作の設定] ダイアログボックスの各部と機能

次の表に、[動作の設定] ダイアログボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
コマンドの指定	<p>スクリプトに追加するスクリプト コマンドを指定できます。</p> <p>メモ コマンドを選択すると、そのコマンドのパラメータが [コマンドの指定] セクション内のこのボックスの下に表示されます。</p>
条件	<p>選択したコマンドに条件を設定できます。これらの条件によって、セッション内でコマンドを実行するかどうかが決まります。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

各部	機能
実行時間を超過した場合、オーデイトログに書き込む	<p>コマンドの実行時間が指定された時間数(分単位)を超過した場合に、オーデイトメッセージが書き込まれるように指定できます。</p> <p>メモ コマンドの実行時間が割り当て時間を超過した場合、オーデイトログに警告メッセージが書き込まれますが、コマンドの実行は完了するまで続行されます。</p>
分	<p>一定の時間を経過してもコマンドの処理が終了しない場合、オーデイトログにメッセージが書き込まれますが、この書き込みが行われる経過時間数を分単位で指定します。</p>

コマンド

次の表に、スクリプト コマンドおよびその動作をまとめます。

メモ

これらのコマンドについての詳細は、Gentran:Server のオンライン ヘルプを参照してください。

コマンド	操作
Exec_Program	<p>実行するプログラムを指定します。</p> <p>メモ このコマンドが実行されると、[オーデイト ログ]に、どのプログラム(作業ディレクトリ内のコマンドライン)が実行されたかを示す情報メッセージが書き込まれます。</p>
Exec_Program_Ex	<p>実行するプログラム、およびイベント ID やコントローラ名を渡すプログラムを指定します。</p> <p>メモ この関数は、Gentran:Server for RosettaNet™ のインストールプログラムで使用されます。</p>
File_Copy	<p>ファイルをコピーします。</p> <p>メモ このコマンドが実行されると、[オーデイト ログ]に、ファイルのコピーが成功したことを示す情報メッセージが書き込まれます。</p>
File_Rename	<p>ファイルの名前を変更します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) コマンド	操作
File_Delete	ファイルをシステムから削除します。 メモ このコマンドが実行されると、[オーディット ログ] に、ファイルの削除が成功したことを示す情報メッセージが書き込まれます。
GDW_Archive	選択したアーカイブ定義ファイルの定義に基づいて、アーカイブ コマンドを実行します。
GDW_Audit_Rpt	オーディット レコードを指定されたファイルにコピーします。
GDW_Audit_Purge	システム内のオーディット レコードをすべて削除します。 メモ パージされたオーディット ログ エントリはデータベースから削除され、テキストファイルに追加されません。テキスト ファイルが大きくなることをチェックしなくてもいいように、このコマンドよりも File_Delete コマンドを使用する方法もあります。
GDW_Audit_Write	指定されたパラメータに基づいて、オーディット ログにプロセッシング ユーザー オーディット メッセージを書き込みます。
GDW_Document_Purge	指定された日付 / 期間、場所、または状態に基づいて、ドキュメント レコードを Gentran:Server データベースから削除します。
GDW_Document_Rpt	指定された状態、場所、または日付 / 期間に基づいて、Gentran:Server データベース内のドキュメントのドキュメント データ (および、該当する場合はグループおよびインターチェンジ データ) が保存されるファイルを作成します。
GDW_Export	" エクスポート " 機能を実行します。また、インバウンド トランスレーションの出力をメールボックス サーバー マネージャに戻すことができるようにする送信メールボックス機能を実行することができます。 メモ エクスポート トランスレーション オブジェクトをシステムに登録しておく必要があります。
GDW_ExtData_Delete	外部データまたは期間に対して実行された動作に従い、外部データ参照を削除します。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) コマンド	操作
GDW_Import	指定されたファイルからの " インポート " 機能を実行します。 メモ インポート トランスレーション オブジェクトをシステムに登録しておく必要があります。
GDW_Partner_Delete	パートナー削除コマンドを実行します。
GDW_Partner_Import	パートナー インポート コマンドを実行します。
GDW_Partner_Export	パートナー エクスポート コマンドを実行します。
GDW_Print	" 印刷 " 機能を実行します。 メモ 印刷トランスレーション オブジェクトをシステムに登録しておく必要があります。
GDW_Process_File	コミュニケーション セッションによってファイルを受信する場合と同じように、EDI ファイルでポスト コミュニケーションズ プロセスを呼び出します。 メモ エクスポート トランスレーション オブジェクトをシステムに登録しておく必要があります。
GDW_Receive	" 受信専用 " 機能を実行します。
GDW_Send	(パートナー、メールボックスとトランザクションの組み合わせを指定しなければ、) ポストされたすべてのドキュメントが自動的に送信されます。
GDW_Send_Receive	" 送信 / 受信 " 機能を実行します。この機能は、直前に実行した送信 / 受信セッションの終了を待たず、指定時に送信 / 受信を実行します。
Terminate_Script	スクリプトを終了します。

(次のページへ続く)

条件

次の表に、スクリプト条件およびその動作をまとめます。

条件	条件に基づく動作
以下のファイルが存在する場合	指定したファイルがシステム内で検索され、そのファイルが見つかったかどうかを条件にしてコマンドが実行されます。
ドキュメントが以下の場所に存在する場合	指定された場所のドキュメントが検索され、その場所でドキュメントが見つかったかどうかを条件にしてコマンドが実行されます。

セッションの作成方法

手順

プロセス管理セッションを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
セッションの作成	
1	<p>[デスク]で[プロセス管理]アイコンをクリックします。</p> <p>システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<p>[セッション]タブをクリックして、セッション オプションを表示します。</p> <p>システムからの応答 [プロセス管理]ダイアログ ボックス([セッション]タブ)が表示されます。</p>
3	<p>[新規作成]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [新しいセッション]ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
4	<p>[セッション名]ボックスに、新しいセッションの名前を入力します。名前には、英数字が使用できます。</p> <p>メモ ハイフン(-)も使用できます。</p>
5	<p>[OK]をクリックすると、新しいセッションが追加されます。</p>
セッション スクリプトの作成	
1	<p>新しいセッションが選択されている状態で[挿入]をクリックすると、現在の行の上にコマンドが挿入されます。</p> <p>システムからの応答 [動作の設定]ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスを使ってスクリプト コマンドを作成することができます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
2	<p>[コマンド] リスト ボックスでコマンドを選択します。</p> <p>メモ [コマンド] リスト ボックスを使用すると、スクリプトに追加するスクリプト コマンドを選択できます。また、そのコマンドのパラメータが [コマンドの指定] セクション内のこのボックスの下に表示されます。</p> <p>コマンドを選択すると、ダイアログ ボックスの [コマンドの指定] セクションにボックスが追加表示される場合もあります。</p>
3	<p>ダイアログ ボックスの [コマンドの指定] セクション内のボックスに適切な値を入力します。</p> <p>参照 詳細については、「コマンド」を参照してください。</p>
4	<p>コマンドが処理されない場合にメッセージがオーディット ログに書き込まれるようにする際の制限時間 (分単位) を指定するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定する場合は、チェック ボックスをオンにして、ボックスに分数を入力します。 ▶ 指定しない場合は、次のステップに進みます。
5	<p>コマンドに条件を適用するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 適用する場合は、[条件] リストから条件を選択します。 ▶ 適用しない場合は、ステップ 8 に進みます。 <p>メモ それぞれのスクリプト コマンドには、条件が関連付けられています。これらの条件はコマンドの実行直前に評価され、セッションの処理の流れを制御するために使用できます。</p> <p>条件を選択すると、ダイアログ ボックスの [条件] セクションに 2 つのボックスが追加表示されます。</p>
6	<p>ダイアログ ボックスの [条件] セクション内のボックスに適切な値を入力します。</p> <p>メモ [以下のファイルが存在する場合] という条件を選択している場合は、システムによるチェックの対象ファイルの名前を指定するときに、ワイルドカード (*) を使用できます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
7	<p>条件付き実行を指定したかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定した場合は、[結果] リストから [True] または [False] を選択する必要があります。 ▶ 指定しなかった場合は、次のステップに進みます。 <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [True] を選択すると、指定された場所にドキュメントがある場合、または指定されたファイルが存在する場合にのみコマンドが実行されます。 ▶ [False] を選択すると、指定された場所にドキュメントがない場合、または指定されたファイルが存在しない場合にのみコマンドが実行されます。
8	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 コマンドが保存され、[Gentran:Server プロセス管理] ダイアログボックスに戻ります。</p>
9	<p>必要なコマンドのすべてをセッション スクリプトに追加するまで、ステップ 1～8 を繰り返します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ スクリプト内のコマンドの順番を変更する必要がある場合は、[上へ] および [下へ] ボタンを使用します。 ▶ スクリプト内のコマンドを編集する必要がある場合は、そのコマンドを選択して [編集] をクリックします。 ▶ コマンドをスクリプトから削除する必要がある場合は、そのコマンドを選択して [削除] をクリックします。
セッションの保存	
1	<p>[保存] をクリックして、新しいセッション スクリプトを保存します。</p>
2	<p>[OK] をクリックして、[Gentran:Server プロセス管理] ダイアログボックスを閉じます。</p>

セッションの編集方法

はじめに

実行中のセッションまたはアクティブなセッションがイベントによって呼び出された場合は、そのイベントの処理が終了するか、そのイベントを一時停止にするまで、セッションの編集および保存は行えません。ただし、セッションを編集し、"名前を付けて保存"機能を使用して別の名前で保存することは可能です。

参照

イベントを一時停止する方法についての詳細は、「[手順: イベントの一時停止](#)」を参照してください。

手順

既存のイベントを編集するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[デスク]で[プロセス管理]アイコンをクリックします。 システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理]ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[セッション]タブをクリックして、セッション オプションを表示します。 システムからの応答 [プロセス管理]ダイアログ ボックス ([セッション]タブ) が表示されます。
3	セッションを選択すると、セッション スクリプトが表示されます。
4	セッションが選択されている状態で[挿入]をクリックすると、現在の行の上にコマンドが挿入されます。 システムからの応答 [動作の設定]ダイアログ ボックスが表示されます。
5	[コマンド]リスト ボックスでコマンドを選択します。 メモ [コマンド]リスト ボックスを使用すると、スクリプトに追加するスクリプト コマンドを選択できます。また、そのコマンドのパラメータが[コマンドの指定]セクション内のこのボックスの下に表示されます。 参照 使用できるコマンドについては、「 コマンド 」を参照してください。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
6	<p>コマンドが処理されない場合にメッセージがオーディット ログに書き込まれるようにする際の制限時間 (分単位) を指定するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 指定する場合は、チェック ボックスをオンにして、ボックスに分数を入力します。▶ 指定しない場合は、次のステップに進みます。
7	<p>コマンドを選択すると、ダイアログ ボックスの [コマンドの指定] セクションにボックスが追加表示される場合もあります。これらのボックスに適切な値を入力します。</p>
8	<p>コマンドに条件を適用する場合は、[条件] リスト ボックスから条件を選択します。</p>
9	<p>条件を選択すると、ダイアログ ボックスの [条件] セクションに2つのボックスが追加表示されます。これらのボックスに適切な値を入力します。</p> <p>メモ [以下のファイルが存在する場合] という条件を選択している場合は、システムによるチェックの対象ファイルの名前を指定するときに、ワイルドカード (*) を使用できます。</p>
10	<p>条件付き実行を指定する場合は、[結果] リスト ボックスから [True] または [False] を選択する必要があります。</p> <p>メモ [True] を選択すると、指定された場所にドキュメントがある場合、または指定されたファイルが存在する場合にのみコマンドが実行されます。[False] を選択すると、指定された場所にドキュメントがない場合、または指定されたファイルが存在しない場合にのみコマンドが実行されます。</p>
11	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 コマンドが保存され、[Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスに戻ります。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
12	<p>セッション スクリプトに必要なコマンドをすべて追加するまで、ステップ 4～11 を繰り返します。スクリプト内のコマンドの順番を変更する必要がある場合は、[上へ] および [下へ] ボタンを使用します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none">▶ スクリプト内のコマンドを編集する必要がある場合は、そのコマンドを選択して [編集] をクリックします。▶ コマンドをスクリプトから削除する必要がある場合は、そのコマンドを選択して [削除] をクリックします。
13	<p>[保存] をクリックして、新しいセッション スクリプトを保存します。</p> <p>メモ</p> <p>セッションを別の名前で保存する場合は、[名前を付けて保存] をクリックして新しいセッション名を入力し、[OK] をクリックします。</p>
14	<p>[OK] をクリックして、[Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスを閉じます。</p>

セッションの削除方法

はじめに

実行中のセッションまたはアクティブなセッションがイベントによって呼び出された場合は、そのイベントの処理が終了するか、またはそのイベントを一時停止にするまで、このセッションを削除できません。

参照

イベントを一時停止する方法についての詳細は、「[手順：イベントの一時停止](#)」を参照してください。

手順

セッションを削除するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[デスク]で[プロセス管理]アイコンをクリックします。 システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[セッション] タブをクリックして、セッション オプションを表示します。 システムからの応答 [プロセス管理] ダイアログ ボックス ([セッション] タブ) が表示されます。
3	<ul style="list-style-type: none">▶ セッションを選択します。▶ [削除] をクリックして、現在の選択を削除します。 システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスに、削除の確認を求めるメッセージが表示されます。
4	[はい] をクリックして、現在の選択を削除します。
5	[OK] をクリックして、[Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスを閉じます。

イベント

概要

はじめに

イベントは、次の事項の組み合わせで構成されます。

- ▶ 実行する時刻または日付、もしくはチェックの対象となるファイルの名前
- ▶ イベントの処理を実行するコントローラ
- ▶ セッション定義

[プロセス管理]では、時間の限定またはポーリングに基づいてイベントが実行されます。イベントは、セッション定義で定義します。

[プロセス管理]を使用すると、毎日指定した時間にイベントを実行することができます。追加オプションを使用して、特定の曜日や日付に処理が実行されるように制限することができます。さらに、処理スケジュールから特定の休日や曜日を除外するようにカレンダーを定義することもできます。

次のダイアログ ボックスを使用して、イベントを管理します。

- ▶ [プロセス管理]ダイアログ ボックス ([イベント] タブ)
- ▶ [イベントの設定]ダイアログ ボックス
- ▶ [プロセス管理]ダイアログ ボックス ([実行中のイベント] タブ)

始める前に

イベントを作成する前に、実行するセッション定義を定義しておく必要があります。

参照

セッションの作成についての詳細は、「[セッションの作成方法](#)」を参照してください。

時間限定イベント

時間限定イベントがアクティブになると、Gentran スケジューラによって該当する曜日または日付の正確な時刻にイベントが開始されます。

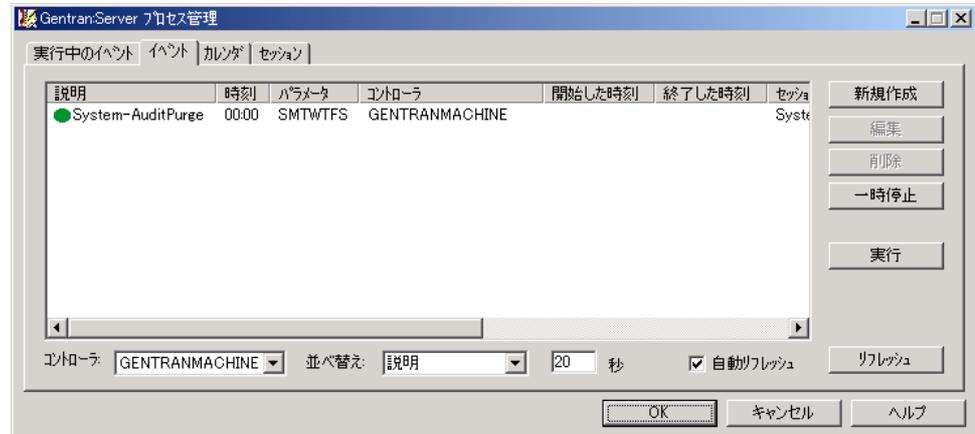
ポーリング イベント

ポーリング イベントがアクティブになると、Gentran ポーラがコントローラをポーリングして (イベント定義で指定された内容に基づいて) 定義済みファイルの有無を確認し、 (イベント定義に基づいて) 指定されたファイルが存在する場合、あるいは存在しない場合にイベントが開始されます。

(次のページへ続く)

[プロセス管理] ダイアログボックス ([イベント] タブ)

次の図に、[プロセス管理] ダイアログボックスの [イベント] タブを示します。



[イベント] タブの各部と機能

次の表に、[プロセス管理] ダイアログボックスの [イベント] タブの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
(リスト)	スケジュールされたイベントがすべて表示されます。
コントローラ	イベントを実行するコントローラをフィルタ条件にして、イベントのリストをフィルタリングします。

(次のページへ続く)

(続き) 各部	機能	
並べ替え	イベントのリストを並べ替えます。次の表に、使用可能な並べ替え方法をまとめます。	
	並べ替えの基準	イベントの配列順序
	説明 (既定値)	イベントの説明を基準にして、アルファベット順に並べ替えます。
	コントローラ	コントローラごとにアルファベット順に並べ替えます。 メモ イベントは、コントローラごとにイベント説明のアルファベット順に表示されます。
状態	現在処理中のイベント (赤のインジケータ) を 1 番目、アクティブなイベント (緑のインジケータ) を 2 番目、一時停止しているイベント (黄色のインジケータ) を 3 番目にして並べ替えます。 メモ 各状態において、イベントのリストはイベント説明のアルファベット順に配列されます。	
秒	[秒] ボックスに、ダイアログ ボックスの表示を更新する間隔 (秒単位) を入力します (既定値は 20 秒)。	
自動リフレッシュ	[プロセス管理] ダイアログ ボックスの表示が自動的に更新されるように設定するかどうかを指定します ([自動リフレッシュ] を設定すれば、[リフレッシュ] をクリックしてこのダイアログ ボックスの表示を更新する必要がなくなります)。	
新規作成	[イベントの設定] ダイアログ ボックス が開きます。これを使用して、新しいイベント エントリを作成できます。	
編集	[イベントの設定] ダイアログ ボックス が開きます。これを使用して、選択したイベント エントリを変更できます。	
削除	選択されたイベント エントリを削除します。 (次のページへ続く)	

(続き) 各部	機能
アクティブ 一時停止	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 選択したイベントが一時停止になっている場合 (黄色のインジケータ)、[アクティブ]/[一時停止]トグルボタンに[アクティブ]と表示されます。 ▶ 選択したイベントがアクティブになっている場合 (緑のインジケータ)、[アクティブ]/[一時停止]トグルボタンに[一時停止]と表示されます。
実行	<p>GENTRAN:Server のプロセス管理ダイアログによりスケジュールされたイベントを即時に実行することができます。この機能により、セッションを手動で実行することができ、新しいイベントや、失敗したイベントのテストに使用できます。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ イベントを即時に実行した場合でも、スケジュールされた次のイベントに取って代わることはありません。 ▶ このメッセージボックスをクリックした場合、次の情報メッセージダイアログボックスが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> — 選択されたイベントが 30 分以内に実行されるようにスケジュールされている場合、イベントが実行される時、今すぐ実行するかどうかの確認を求められます (今すぐ実行する場合は、[OK] をクリック、要求をキャンセルする場合は、[キャンセル] をクリックします)。 — 選択されたイベントが 30 分以内に実行されるようにスケジュールされていない場合、即時に実行するかどうかの確認を求められます (今すぐ実行する場合は、[OK] をクリック、要求をキャンセルする場合は、[キャンセル] をクリックします)。
リフレッシュ	[イベント] タブの表示を更新します。

(次のページへ続く)

**[イベントの設定]
ダイアログ ボックス**

次の図に、[イベントの設定] ダイアログ ボックスを示します。



**[イベントの設定]
ダイアログ ボック
スの各部と機能**

次の表に、[イベントの設定] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめ
ます。

各部	機能
説明	イベントについての説明です。
セッション	[セッション] タブで定義したすべてのセッションのリストが表示されます。
コントローラ	イベントを実行するコントローラの名前を指定します。
通知タイプ イベント	このイベントを "通知タイプ" に指定します。これによっ て、通知ログに設定したパラメータに基づいて、このイベ ントが実行されるようになります。 メモ このチェック ボックスをオンにすると、[時刻] タ ブと [ポリング] タブは非アクティブになります。

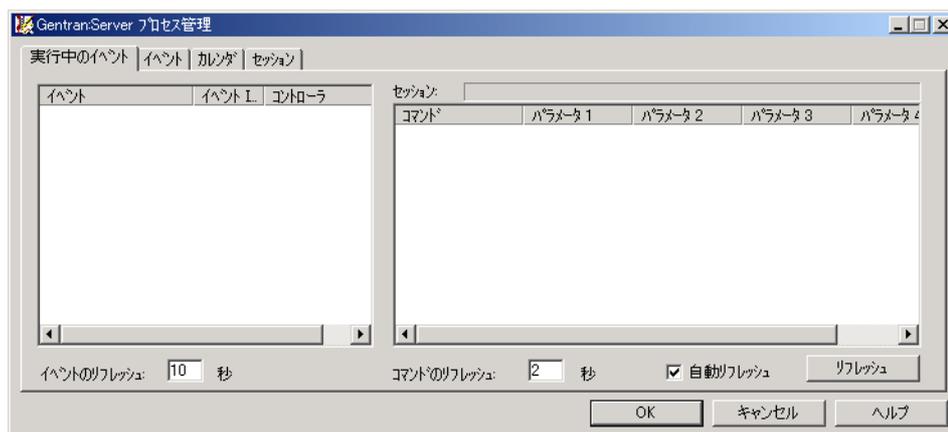
(次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
[時刻] タブ	
開始	<p>セッションの実行開始時刻を指定します。</p> <p>メモ 時刻は、24 時間制の HH:MM 形式で入力してください。その他の形式で時刻を入力した場合、システム内では入力された値を 24 時間制の時刻に置き換えようとする。</p>
から	<p>このイベントが停止する時刻を指定します。</p> <p>メモ 24 時間制 (HH:MM 形式)、または 12 時間制 (HH:MM または H:MM 形式) を使用できます。12 時間制では、"a" (AM) および "p" (PM) を使用します。</p>
分	<p>次にイベントを実行するまでの間隔を指定します。</p> <p>例 たとえば、「15」分と指定すると、イベントは 15 分ごとに実行されます。</p>
カレンダー	<p>[カレンダー] タブで定義したすべてのカレンダーのリストが表示されます。したがって、これを使用して、このセッションをスケジュールするときにチェックの対象にするカレンダーを選択できます。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ カレンダーを使用して、選択したセッションを実行しない日付を月別に指定できます。 ▶ [日付] ボックスを使用する場合、[カレンダー] ボックスは使用できません。
日 / 月 / 火 / 水 / 木 / 金 / 土	<p>イベントを実行する曜日を指定します。</p>
日付	<p>イベントを実行する日付を指定します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ この日付は任意の書式で入力できますが、入力する日付の順序は Windows 日付書式の国際オプションに準拠させる必要があります (つまり、米国では、日付は月 / 日 / 年の書式で入力する必要があります)。 ▶ [カレンダー] ボックスからカレンダーを選択した場合、または曜日を選択した場合には、[日付] フィールドは使用できません。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
[ポーリング] タブ	
ファイル名	システムによるチェックの対象になるファイルの名前を指定します。 メモ チェックの対象になるファイルの名前を指定するとき、ワイルドカード (*) を使用できます。
参照	[ネットワーク サーバーの選択] ダイアログ ボックスが開き、チェックの対象になるファイルを参照して指定することができます。
結果	結果が "True" または "False" のいずれの場合にイベントを実行するかを示します。 メモ <ul style="list-style-type: none"> ▶ [True] を選択した場合、指定したファイルが存在しているときにのみイベントが実行されます。 ▶ [False] を選択すると、指定したファイルが存在しない場合にのみイベントが実行されます。

[プロセス管理] ダイアログボックス ([実行中のイベント] タブ)

次の図に、[プロセス管理] ダイアログボックスの [実行中のイベント] タブを示します。



(次のページへ続く)

[実行中のイベント] タブの各部と機能

次の表に、[プロセス管理]ダイアログボックスの[実行中のイベント]タブの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
(イベント リスト)	現在実行中のイベントが表示されます。
(セッションリスト)	各コマンド、および現在実行中のイベントのセッションスクリプトに関する関連パラメータがリスト表示されます。 メモ 緑の矢印は、現在実行中のコマンドを示します。
イベントの リフレッシュ	[実行中のイベント]リストを更新する間隔(既定値は10秒)を指定します。 メモ <ul style="list-style-type: none"> ▶ 有効な値は2～300秒です。 ▶ この値は、ダイアログボックス上のフォーカスを変更する(別のボックスをクリックする)と保存されます。 ▶ [コマンドのリフレッシュ]ボックスを使用可能にするには、[自動リフレッシュ]チェックボックスをオンにしておく必要があります。
コマンドの リフレッシュ	[セッション]リストを更新する間隔(既定値は2秒)を指定します。 メモ <ul style="list-style-type: none"> ▶ 有効な値は2～300秒です。 ▶ この値は、ダイアログボックス上のフォーカスを変更する(別のボックスをクリックする)と保存されます。 ▶ [コマンドのリフレッシュ]ボックスを使用可能にするには、[自動リフレッシュ]チェックボックスをオンにしておく必要があります。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
自動リフレッシュ	自動リフレッシュ機能を有効にするかどうかを示します。既定の設定では有効になっているので、 [リフレッシュ] をクリックして [実行中のイベント] タブの表示を更新する必要はありません。
リフレッシュ	[実行中のイベント] タブの表示を手動で更新します。 メモ イベントの有効期限が過ぎた (アクティブでなくなった) 後に [実行中のイベント] タブの表示が更新されていない場合、そのイベントは、 [実行中のイベント] タブの表示が更新されるまで、 [実行中のイベント] タブに (非アクティブであっても) 表示されたままになります。

新しいイベントの作成方法

はじめに

イベントは、" 時間限定 " または " ポーリング " で実行するように指定できます。イベントを " 時間限定 " で実行する場合は、実行する時刻、定義済みのカレンダー、曜日を指定するか、または 1 回のみ実行する日付を指定します。イベントの実行時間になると、Gentran スケジューラ サービスによってそのイベントの処理が開始されます。

イベントを " ポーリング " で実行する場合は、ファイル名を指定し、ファイルの有無によってイベントを実行するか否かを指定できます。Gentran ポーラ サービスでは、プロセスコントローラをポーリングします。

- ▶ ファイルを終了するように指定した場合、Gentran ポーラは、ファイルが出現したときにイベントの処理を開始します。
- ▶ ファイルを終了しないように指定した場合、Gentran ポーラは、ファイルが存在しなくなったときにイベントの処理を開始します。

手順

新しいイベントを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
新しいイベントの作成	
1	[デスク] で [プロセス管理] アイコンをクリックします。 システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[イベント] タブをクリックして、イベント オプションを表示します。 システムからの応答 <u>[プロセス管理] ダイアログ ボックス ([イベント] タブ)</u> が表示されます。
3	[新規作成] をクリックします。 システムからの応答 <u>[イベントの設定] ダイアログ ボックス</u> が表示されます。これを使用して、新しいイベント エントリを作成できます。
4	[説明] ボックスに、イベントの説明を入力します。
5	[セッション] リスト ボックスから、実行するセッションを選択します。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
6	[コントローラ] ボックスに、このイベントを実行するコントローラのコンピュータ名を入力または選択します。
7	<p>このイベントを通知タイプとして指定するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定する場合は、チェック ボックスをオンにして、「イベントの保存」のステップ 2 に進みます。 ▶ 指定しない場合は、次のステップに進みます。
時間限定イベントの場合は、次の手順に従います。	
1	<p>[時刻] フィールドの [開始] ボックス ([時刻] タブ) に時刻を入力する必要があります。</p> <p>メモ 時刻は、24 時間制の HH:MM 形式で入力してください。</p>
2	<p>イベントの停止時刻を指定する場合は、[時刻] タブの [まで] ボックスにその時刻を入力します。</p> <p>メモ 24 時間制 (HH:MM 形式)、または 12 時間制 (HH:MM または H:MM 形式) を使用できます。12 時間制では、"a" (AM) および "p" (PM) を使用します。</p>
3	<p>次にイベントを実行するまでの間隔を指定するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定する場合は、[時刻] タブの [間隔] ボックスにイベントの実行間隔を分単位で入力し、ステップ 4 に進みます。 <p>例 たとえば、「15」分と指定すると、イベントは開始時刻から 15 分ごとに実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定しない場合は、ステップ 4 に進みます。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
4	<p>定義済みのカレンダーを使用するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 使用する場合は、[カレンダー] リストからカレンダーを選択し、ステップ 5 に進みます。 ▶ 使用しない場合は、ステップ 5 に進みます。 <p>メモ カレンダーを使用すると、選択したセッションを実行しない日付を月別に指定できます。カレンダーを選択した場合、このセッションを実行する特定の曜日を選択することもできます。ただし、カレンダーを選択した場合、[日付] ボックスに曜日を指定することはできません。</p> <p>参照 カレンダーを定義する必要がある場合は、「カレンダーを作成または編集する方法」を参照してください。</p>
5	<p>このセッションをスケジュールする曜日を選択するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 選択する場合は、イベントをスケジュールする曜日の横にあるチェック ボックスをオンにして、ステップ 6 に進みます。 ▶ 選択しない場合は、ステップ 6 に進みます。 <p>メモ 既定値では、すべての曜日が選択されています。このセクションで曜日を選択した場合、選択した曜日にもスケジュールが実行されます。このセクションから曜日を選択した場合、[日付] ボックスは使用できません。</p>
6	<p>このセッションを 1 回のみ実行する日を指定するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定する場合は、[日付] ボックスに日付を入力して、この表の「イベントの保存」に進みます。 ▶ 指定しない場合は、そのまま「イベントの保存」に進みます。 <p>メモ [日付] ボックスを使用すると、このセッションを 1 回のみ実行する日付を指定することができます。セッションは、実行後にデータベースから削除されます。[日付] ボックスに日付を入力すると、各曜日のチェック ボックスは使用できなくなります。</p> <p>書式 この日付は任意の書式で入力できますが、入力する日付の順序は Windows 日付書式の国際オプションに準拠させる必要があります (つまり、日付は米国では MM/DD/YY の書式で、英国では DD/MM/YY の書式で入力する必要があります)。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
ポーリング イベントの場合は、次の手順に従います。	
1	<p>[イベントの設定] ダイアログ ボックスで、[ポーリング] タブをクリックします。</p> <p>システムからの応答 ポーリング オプションが表示されます。</p>
2	<p>[ファイル名] ボックスで、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ チェックするファイルのパスおよび名前を入力します。 ▶ [参照] をクリックして、適切なドライブおよびディレクトリからファイルを選択します。 <p>メモ チェックの対象になるファイルの名前を指定するとき、ワイルドカード (*) を使用できます。</p>
3	<p>[結果] リスト ボックスで、[True] または [False] を選択します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [True] を選択した場合、指定したファイルが存在しているときにのみイベントが実行されます。 ▶ [False] を選択した場合、指定したファイルが存在しないときにのみイベントが実行されます。
イベントの保存	
1	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 イベントが保存され、[イベントの設定] ダイアログ ボックスが終了します。</p>
2	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスが終了します。</p>

イベントの編集方法

はじめに

イベントを編集するには、イベントを一時停止させる必要があります。

参照

イベントを一時停止する方法についての詳細は、「[手順：イベントの一時停止](#)」を参照してください。

手順

既存のイベントを編集するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
イベントの編集	
1	[デスク]で[プロセス管理]アイコンをクリックします。 システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理]ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[イベント]タブをクリックして、イベント オプションを表示します。 システムからの応答 [プロセス管理]ダイアログ ボックス([イベント]タブ) が表示されます。
3	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 修正するイベントを選択します。 ▶ [編集]をクリックします。 システムからの応答 [イベントの設定]ダイアログ ボックス が表示されます。
4	イベントの説明を変更する場合は、[説明]ボックスに新しい説明を入力します。
5	別のセッションを実行するように指定する場合は、実行するセッションを[セッション]リスト ボックスから選択します。
6	このイベントを実行するコントローラを変更する場合は、[コントローラ]ボックスにコンピュータ名を入力します。
7	このイベントを通知タイプとして指定するかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定する場合は、チェック ボックスをオンにして、「イベントの保存」のステップ 2 に進みます。 ▶ 指定しない場合は、次のステップに進みます。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
時間限定イベントの場合は、次の手順に従います。	
1	<p>[時刻]フィールドの[開始]ボックス([時刻]タブ)に、時刻を入力します。</p> <p>メモ 24時間制の(HH:MM形式)、または12時間制(HH:MM形式)を使用できます。12時間制では、"a"(AM)または"p"(PM)を使用します。</p>
2	<p>イベントの停止時刻を指定する場合は、[時刻]タブの[まで]ボックスにその時刻を入力します。</p> <p>メモ 24時間制(HH:MM形式)、または12時間制(HH:MMまたはH:MM形式)を使用できます。12時間制では、"a"(AM)および"p"(PM)を使用します。</p>
3	<p>次にイベントを実行するまでの間隔を指定するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定する場合は、[時刻]タブの[間隔]ボックスにイベントの実行間隔を分単位で入力し、ステップ4に進みます。 <p>例 たとえば、「15」分と指定すると、イベントは15分ごとに実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定しない場合は、ステップ4に進みます。
4	<p>定義済みのカレンダーを使用するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 使用する場合は、[カレンダー]リストからカレンダーを選択し、ステップ5に進みます。 ▶ 使用しない場合は、ステップ5に進みます。 <p>メモ カレンダーを使用して、選択したセッションを実行しない日付を月別に指定できます。カレンダーを選択した場合、このセッションを実行する特定の曜日を選択することもできます。ただし、カレンダーを選択した場合、[日付]ボックスに曜日を指定することはできません。</p> <p>参照 カレンダーを定義する必要がある場合は、「カレンダーを作成または編集する方法」を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
5	<p>このセッションをスケジュールする曜日を選択するかどうかに よって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 選択する場合は、該当する曜日の横にあるチェック ボックス をオンにして、ステップ 6 に進みます。 ▶ 選択しない場合は、ステップ 6 に進みます。 <p>メモ 既定値では、すべての曜日が選択されています。このセク ションで曜日を選択した場合、選択した曜日にのみスケ ジュールが実行されます。このセクションから曜日を選択 した場合、[日付] ボックスは使用できません。</p>
6	<p>このセッションを 1 回のみ実行する日を指定するかどうかによっ て、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定する場合は、[日付] ボックスに日付を入力して、この表 の「イベントの保存」に進みます。 ▶ 指定しない場合は、そのまま「イベントの保存」に進みます。 <p>メモ このボックスを使用すると、このセッションを 1 回のみ実行する 日付を指定し、実行後にセッションをデータベースから削除する ように設定することができます。[日付] ボックスに日付を入力す ると、各曜日のチェック ボックスは使用できなくなります。</p> <p>書式 この日付は任意の書式で入力できますが、入力する日付の順 序は Windows 日付書式の国際オプションに準拠させる必要 があります (つまり、日付は米国では MM/DD/YY の書式で、 英国では DD/MM/YY の書式で入力する必要があります)。</p>
ポーリング イベントの場合は、次の手順に従います。	
1	<p>[イベントの設定] ダイアログ ボックスで、[ポーリング] タブを クリックします。</p> <p>システムからの応答 ポーリング オプションが表示されます。</p>
2	<p>次のいずれかの方法で、[ファイル名] ボックスに入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ チェックするファイルのパスおよび名前を入力します。 ▶ [参照] をクリックして、適切なドライブおよびディレクトリ からファイルを選択します。 <p>メモ チェックの対象になるファイルの名前を指定するとき、ワ イルドカード (*) を使用できます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
3	<p>[結果] リスト ボックスから、[True] または [False] を選択します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [True] を選択した場合、指定したファイルが存在しているときにのみイベントが実行されます。 ▶ [False] を選択した場合、指定したファイルが存在しないときにのみイベントが実行されます。
イベントの保存	
1	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 イベントが保存され、[イベントの設定] ダイアログ ボックスが終了します。</p>
2	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスが終了します。</p>

イベントの削除方法

はじめに

イベントを削除するには、イベントを一時停止させる必要があります。

参照

イベントを一時停止する方法についての詳細は、「[手順: イベントの一時停止](#)」を参照してください。

手順

イベントを削除するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[デスク]で[プロセス管理]アイコンをクリックします。 システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[イベント]タブをクリックして、イベント オプションを表示します。 システムからの応答 [プロセス管理] ダイアログ ボックス ([イベント] タブ) が表示されます。
3	<ul style="list-style-type: none">▶ イベントを選択します。▶ [削除]をクリックして、現在の選択を削除します。 システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスに、削除の確認を求めるメッセージが表示されます。
4	[OK]をクリックします。 システムからの応答 イベントが削除されます。
5	[OK]をクリックします。 システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスが終了します。

イベントの表示方法

【イベント】タブ

[Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスを使用して、システム内に定義されているすべてのイベントを表示できます。

[イベント] タブには、各イベントの次の仕様が表示されます。

- ▶ イベントの説明
- ▶ 時刻
- ▶ パラメータ (時間限定の場合は曜日、ポーリングの場合は結果)
- ▶ イベントを実行するコントローラ
- ▶ 開始時刻
- ▶ 終了時刻
- ▶ セッション名
- ▶ カレンダ名 (時間限定イベントの場合のみ)
- ▶ ファイル名 (ポーリング イベントの場合のみ)

イベント表示のフィルタ操作

[イベント] タブでは、イベントを実行するコントローラでイベントをフィルタして表示することができます。また、説明、コントローラ、および状態でイベントを並べ替えることもできます。

【実行中のイベント】タブ

[実行中のイベント] タブでは、現在実行中のイベントのみを表示することができます。この機能を使用すると、現在実行中のシステム イベント (たとえば、一時コミュニケーションセッション) も表示できます。

【イベント】リスト ボックス

[実行中のイベント] タブの [イベント] リスト ボックス (ダイアログ ボックスの左側に) には、現在実行中のすべてのイベントおよび各イベントが実行されているコントローラのリストが表示されます。

【セッション】リスト ボックス

[実行中のイベント] タブの [セッション] リスト ボックス (ダイアログ ボックスの左側) には、[イベント] リスト ボックスで選択されているイベントのセッション スクリプトが表示されます。また、[セッション] リスト ボックスには、各コマンドのすべてのパラメータも表示されます。この詳細表示を使用すると、Gentran エグゼクティブでどのプログラムが実行されているかを確認することができます。現在実行中のセッション コマンドは緑色の矢印で示されます。

(次のページへ続く)

手順：全イベントの表示

すべてのイベントを表示するには、次の手順に従います。

ステップ	操作	
1	[デスク]で[プロセス管理]アイコンをクリックします。 システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスが表示されます。	
2	[イベント]タブをクリックして、イベント オプションを表示します。 システムからの応答 [プロセス管理]ダイアログ ボックス([イベント]タブ)が表示されます。	
3	イベントを実行するコントローラでイベントをフィルタして表示する場合は、[コントローラ]リストボックスからコントローラを選択します。	
4	次の表に従って、[並べ替え]リストから適切な並べ替えキーを選択します。	
	並べ替える順番	選択
	イベントの説明を基準にして、アルファベット順に並べ替える	説明 メモ これが既定値です。
	コントローラを基準にして、アルファベット順に並べ替える	コントローラ
	イベントを以下の順番に並べ替える <ul style="list-style-type: none"> ▶ 在处理中のイベント (赤のインジケータ) ▶ ブロックされているイベント (緑のインジケータに赤の "X") ▶ アクティブなイベント (緑のインジケータ) ▶ 一時停止しているイベント (黄色のインジケータ) 	状態
(次のページへ続く)		



(続き) ステップ	操作
5	<p>必要に応じて、リフレッシュ オプションを変更します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ダイアログ ボックスを自動的にリフレッシュする間隔を変更する場合は、[秒] ボックスにその間隔を秒単位で入力します (既定値は 20 秒)。 <p>メモ 有効な値は 2 ~ 300 秒です。この値は、ダイアログ ボックス上のフォーカスを変更する (別のボックスをクリックする) と保存されます。[秒] ボックスを使用可能にするには、[自動リフレッシュ] チェック ボックスをオンにしておく必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスの [イベント] タブを自動的にリフレッシュしない (つまり、ダイアログ ボックスの表示を更新するには [リフレッシュ] をクリックする) 場合には、[自動リフレッシュ] チェック ボックスをクリックしてオフにします。 <p>メモ 自動リフレッシュ機能は、既定値で有効になっています (つまり、[リフレッシュ] をクリックしなくても [イベント] タブの表示は自動的に更新されます)。</p>
6	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスが終了します。</p>

(次のページへ続く)

手順：実行中のイベントの表示

実行中のイベントを表示するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]で[プロセス管理]アイコンをクリックします。</p> <p>システムからの応答 [プロセス管理]ダイアログボックス([実行中のイベント]タブ)が表示されます。</p>
2	<p>詳細を表示するイベントを、[イベント]リストボックスから選択します。</p> <p>メモ そのイベントのセッション スクリプト内の各コマンドおよび関連するパラメータが、[セッション]リストボックスに表示されます。実行中のセッション コマンドは、緑色の矢印で示されます。</p> <p>(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
3	<p>必要に応じて、リフレッシュ オプションを変更します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ダイアログ ボックスを自動的にリフレッシュする間隔を変更する場合は、[秒] ボックスにその間隔を秒単位で入力します (既定値は 20 秒)。 <p>メモ 有効な値は 2 ～ 300 秒です。この値は、ダイアログ ボックス上のフォーカスを変更する (別のボックスをクリックする) と保存されます。[秒] ボックスを使用可能にするには、[自動リフレッシュ] チェック ボックスをオンにしておく必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスの [イベント] タブを自動的にリフレッシュしない (つまり、ダイアログ ボックスの表示を更新するには [リフレッシュ] をクリックする) 場合には、[自動リフレッシュ] チェック ボックスをクリックしてオフにします。 <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 自動リフレッシュ機能は、既定値で有効になっています (つまり、[リフレッシュ] をクリックしなくても [実行中のイベント] タブの表示は自動的に更新されます)。 ▶ [イベント] リスト ボックスをリフレッシュする間隔の既定値は 10 秒です。 ▶ [セッション] リスト ボックスの表示をリフレッシュする間隔の既定値は 2 秒です。 ▶ イベントの有効期限が過ぎた (アクティブでなくなった) 後に [実行中のイベント] タブの表示が更新されていない場合、そのイベントは、[実行中のイベント] タブの表示が更新されるまで、[実行中のイベント] タブに (非アクティブであっても) 表示されたままになります。
4	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスが終了します。</p>

イベントをアクティブ化および一時停止する方法

はじめに

[Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスの [イベント] タブでは、イベントを "アクティブ化" または "一時停止" することによってイベントの状態を変更できます。[イベント] タブのリスト ボックス内で一番左の列にあるインジケータにより、イベントの状態が登録されています。インジケータの色は、次のいずれかになります。

- ▶ **赤** — イベントは現在実行中で、処理が完了するまで編集できません。
- ▶ **黄** — イベントは一時停止しています。アクティブになるまでは処理されません。
- ▶ **緑** — イベントはアクティブです。
- ▶ **緑に赤の "x"** - イベントはアクティブになっていますが、現在はブロックされています。これは、現在処理中のイベントの数が、同時に実行できるイベント数に達しているためです。

参照

同時に実行できるプロセス管理イベント数の制限の設定については、『管理 ガイド』の「[コントローラの設定を変更する方法](#)」を参照してください。

(次のページへ続く)

手順：イベントの アクティブ化

イベントをアクティブにするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]で[プロセス管理]アイコンをクリックします。</p> <p>システムからの応答 <u>[プロセス管理]ダイアログボックス([実行中のイベント]タブ)</u>が表示されます。</p>
2	<p>[イベント]タブをクリックして、イベント オプションを表示します。</p> <p>システムからの応答 <u>[プロセス管理]ダイアログボックス([イベント]タブ)</u>が表示されます。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ▶ アクティブにする一時停止中のイベントを選択します。 ▶ [アクティブ]をクリックします。
4	<p>[OK]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理]ダイアログボックスが終了します。</p>

(次のページへ続く)

**手順：イベントの
一時停止**

イベントを一時停止するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[デスク]で[プロセス管理]アイコンをクリックします。 システムからの応答 [プロセス管理]ダイアログ ボックス([実行中のイベント]タブ)が表示されます。
2	[イベント]タブをクリックして、イベント オプションを表示します。 システムからの応答 [プロセス管理]ダイアログ ボックス([イベント]タブ)が表示されます。
3	<ul style="list-style-type: none">▶ 一時停止するアクティブなイベントを選択します。▶ [一時停止]をクリックします。 メモ イベントが実行中の場合、そのイベントは、実行が完了するまで一時停止にできません。
4	[OK]をクリックします。 システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理]ダイアログ ボックスが終了します。

イベントを即時に実行する方法

はじめに

[Gentran:Server プロセス管理] ダイアログの [イベント] タブを使用すると、選択されたイベントを即時に実行することができます。この機能により、セッションを手動で実行することができ、新しいイベントや、失敗したイベントのテストに使用できます。

手順

イベントを即時に実行する手順は次のとおりです。

ステップ	操作
1	[デスク] で [プロセス管理] アイコンをクリックします。 システムからの応答 <u>[プロセス管理] ダイアログ ボックス ([実行中のイベント] タブ)</u> が表示されます。
2	[イベント] タブをクリックして、イベント オプションを表示します。 システムからの応答 <u>[プロセス管理] ダイアログ ボックス ([イベント] タブ)</u> が表示されます。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作	
3	アクティブにするイベントを選択し、[実行] をクリックします。 システムからの応答 システムからの応答を調べるにはこの表を使用してください。	
	表示メッセージ	操作
	このイベントは、次の < スケジュールされた時間 > に実行されます。それとも今実行しますか？	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 即時にイベントを実行するには、[OK] を選択します。 ▶ 要求をキャンセルする (イベントをスケジュール時刻に実行する) には、[キャンセル] をクリックします。
今すぐ < イベント名 > を実行しますか？	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 即時にイベントを実行するには、[OK] を選択してください。 ▶ キャンセルするには、[キャンセル] をクリックしてください。 	
4	[OK] をクリックします。 システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスが終了します。	

カレンダー

概要

はじめに

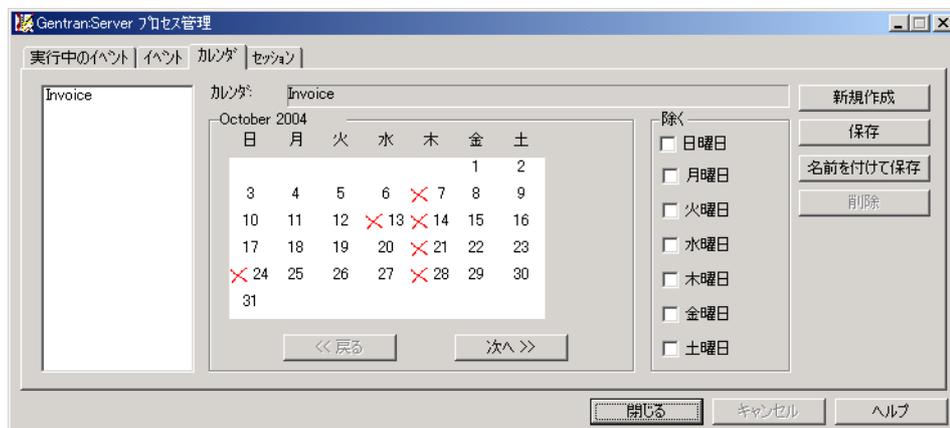
プロセス管理の " カレンダー " 機能を使用すると、特定の日付または曜日を処理から除外してシステム カレンダーを構成できます。また、処理スケジュールから特定の休日や曜日を除外するようにカレンダーを定義することもできます。

セッション定義と同じく、これらのカレンダーはイベントとは別個に定義できるので、複数のイベント エントリにカレンダーを " 添付 " することができます。カレンダーは現在の年、月から始まります。

(次のページへ続く)

**[プロセス管理]
ダイアログボックス
([カレンダー] タブ)**

次の図に、[プロセス管理] ダイアログ ボックスの [カレンダー] タブを示します。



**[カレンダー] タブの
各部と機能**

次の表に、[プロセス管理] ダイアログ ボックスの [カレンダー] タブの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
(カレンダー リスト)	定義済みのカレンダーのすべてが表示されます。
(カレンダー)	選択したカレンダーで、現在表示されている月次についての情報を示します。
戻る	カレンダーの表示が、前の月に更新されます。 メモ このボタンは、カレンダーが選択されていて、そのカレンダーの 2 番目以降の月が表示されている場合にのみアクティブになります。
次へ	カレンダーの表示が、次の月に更新されます。 メモ このボタンは、カレンダーが選択されている場合にのみアクティブになります。
除く	選択した曜日が、処理の対象外になります。
新規作成	[新しいカレンダー] ダイアログ ボックスが開きます。これを使用して、新しいカレンダーを作成できます。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
保存	現在のカレンダーを保存します。 メモ [保存] コマンドは、カレンダーがダイアログボックスの中央に表示されている場合にのみアクティブになります。
名前を付けて保存	現在のカレンダーを別の名前で保存します。 メモ [名前を付けて保存] コマンドは、カレンダーがダイアログボックスの中央に表示されている場合にのみアクティブになります。
削除	選択したカレンダーを削除します。

カレンダーを作成または編集する方法

手順

カレンダーを作成または編集するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]で[プロセス管理]アイコンをクリックします。</p> <p>システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理]ダイアログボックスが表示されます。</p>
2	<p>[カレンダー]タブをクリックします。</p> <p>システムからの応答 [プロセス管理]ダイアログボックス([カレンダー]タブ)が表示されます。</p>
3	<p>新しいカレンダーを作成するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作成する場合は、[新規作成]をクリックします。 <p>システムからの応答 [新しいカレンダー]ダイアログボックスが表示されます。</p>  <ul style="list-style-type: none"> 作成しない場合は、編集するカレンダーを選択してステップ6に進みます。 <p>システムからの応答 [カレンダー]タブの中央にカレンダーが表示されます。</p>
4	<p>[カレンダー名]ボックスに、1～8文字の英数字で新しいカレンダー名を入力します。</p>
5	<p>[OK]をクリックすると、新しいカレンダーが追加されます。</p> <p>システムからの応答 [カレンダー]タブの中央に新しいカレンダーが表示されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
6	<p>特定の日付を処理から除外するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 除外する場合は、該当する日付をカレンダー上でクリックします。 ▶ 除外しない場合は、次のステップに進みます。 <p>メモ 処理から除外される日付には、カレンダー上にマークが表示されます。カレンダーに表示される月を戻したり先に進めたりするには、[戻る]または[次へ]をクリックします。</p>
7	<p>特定の曜日を処理から除外するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 除外する場合は、[除く]セクションで、処理から除外する各曜日のチェックボックスをオンにします。 ▶ 除外しない場合は、次のステップに進みます。 <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 処理を実行しない曜日には、1つの曜日だけでも複数の曜日でも指定できます。曜日の選択を解除するには、そのチェックボックスをオフにします。 ▶ 必要に応じて、7つの曜日のすべてを処理から除外することもできます。この場合、処理はまったく実行されません。
8	<p>[保存]をクリックして、新しいカレンダーを保存します。</p>
9	<p>[OK]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスが終了します。</p>

カレンダの削除方法

手順

カレンダを削除するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[デスク]で[プロセス管理]アイコンをクリックします。 システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理]ダイアログボックスが表示されます。
2	[カレンダ]タブをクリックします。 システムからの応答 [プロセス管理]ダイアログボックス([カレンダ]タブ)が表示されます。
3	<ul style="list-style-type: none">カレンダを選択します。[削除]をクリックして、現在の選択を削除します。 システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理]ダイアログボックスに、削除の確認を求めるメッセージが表示されます。
4	[はい]をクリックして、現在の選択を削除します。
5	[OK]をクリックします。 システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理]ダイアログボックスが終了します。

用語解説

? インドキュメント

このブラウザには、システムによって受信されたが、エラーチェックに合格しなかったドキュメント、または識別可能なパートナーまたはトランザクションセットを持たないドキュメントのリストが表示されます。

? アウトドキュメント

このブラウザには、システムにインポートされたが、無効であるドキュメントのリストが表示されます。

この機能を使用すると、[アウト ドロワー]内のドキュメントの状態を手動で"受信確認済み"に変更できます。

AIAG

自動車産業行動委員会 (Automotive Industry Action Group) は、自動車業界の標準制定団体です。これらのスタンダードは、ANSI X12 スタンダードのサブセットになっています。

ANA

商品番号割当協会 (Article Numbering Association)。

ANSI

American National Standards Institute. ANSI では、安全ガラスやバッテリー容量をはじめ、さまざまな製品やサービスの標準を制定しています。ANSI X12 委員会は、米国での EDI スタンダードの制定における中心的な組織です。

DTD

DTD (ドキュメント タイプ定義) は、XML ドキュメントまたはメッセージの構造およびセマンティクスを指定するために使用されるスキーマの種類です。

EANA

国際商品番号割当協会 (International Article Numbering Association)、ベルギーのブリュッセルに設置。

(次のページへ続く)

EDI	電子データ交換 (Electronic Data Interchange: EDI) とは、企業がコンピュータを使用して、書類を作成することなくビジネスドキュメントをアプリケーション間で直接交換するためのプロセスのことです。
EDIA	電子データ交換協会 (Electronic Data Interchange Association)。前身は輸送データ調整委員会 (Transportation Data Coordinating Committee: TDCC) です。
EDIFACT	行政、商業、運輸向け電子データ交換 (Electronic Data Interchange for Administration, Commerce, and Transport)。
EDI スタandard	ビジネスドキュメントを EDI ドキュメントに変換するためのルールです。
ODETTE	ヨーロッパ遠隔伝送データ交換機構 (Organization for Data Exchange by Tele-Transmission in Europe)。
TDCC	「EDIA」を参照してください。
TRADACOMS	Article Numbering Association (UK) LTD が公開している英国の EDI Standard。
UCS	Uniform Communications Standard は、食料雑貨業界で使用する標準です。
VICS	Voluntary Inter-industry Communication Standards は小売業界の Standard 制定団体であり、ANSI X12 のサブセットを定めています。
X12	EDI Standard を制定し公開する ANSI の委員会。
アウト ドキュメント	このブラウザには、送信の準備が完了しているドキュメントのリストが表示されます。ドキュメントは、正常に送信された後、自動的に [アウト ドロウ] に転送されます。

(次のページへ続く)

アウト ドローワ	このブラウザには、正常に送信されたドキュメントのリストが表示されます。
アプリケーション システム	特定のビジネス機能を遂行するように設計されている、EDI の外にあるコンピュータ システム。会計、購買、資材管理、人事、出荷などのシステムがあります。
暗号鍵	暗号鍵は、暗号操作の要です。暗号鍵を入手することによって、その鍵に関連するデータにアクセスすることができるようになるため、他人の手に渡らないよう秘密にしておく必要があります。たとえば、ファイルの暗号化に鍵を使用した場合、その鍵にアクセスできる人は誰でもファイルを復号化することができます。さらに、メッセージに署名するために使用する鍵にアクセスできると、メッセージの署名が偽造される可能性もあります。
アンポスト	この機能を使用すると、既に [アウト ドキュメント] にポストしたドキュメントを [ワークスペース] に戻して、処理を続行することができます。
移動	この機能を使用すると、1つのドキュメントやドキュメントのグループを [インドキュメント] や [? インドキュメント] から [インドローワ] に移動したり、または [? アウト ドキュメント] から [ワークスペース] に移動したりできます。
印刷	このコマンドを使用すると、選択したドキュメントの書式なしバージョンまたは書式付きバージョンを、そのドキュメントのパートナー関係に設定された印刷トランスレーション オブジェクトを使用して印刷したり、またはそのドキュメントの概要リストを印刷したりできます。
印刷物	トレーディング パートナーから受け取ったデータが印刷トランスレーション オブジェクトへ渡されると出力されます。データを実際に印刷する必要はありません。ハードディスク上のファイルを印刷物にすることもできます。
インターチェンジ	インターチェンジには、同じ伝送において、ある送信者からある受信者に送られたドキュメント (トランザクション セット) の全ファンクショナル グループが含まれます。

(次のページへ続く)

**インターチェンジ
ブラウザ**

このブラウザには、送信または受信したすべてのインターチェンジの階層リストを表示できます。インターチェンジの状態情報(ファンクショナル受信確認を受信したかどうか、およびその受信確認の状態など)が表示されます。また、このブラウザでは、インターチェンジ内のドキュメントを表示できます。[インターチェンジ]ブラウザは常に使用可能です。

インドキュメント

このブラウザには、システムによって受信されたが、ユーザーが未処理のドキュメントのリストが表示されます。ドキュメントの処理(印刷またはエクスポート)が終了すると、ドキュメントは[インドラウ]に転送されます。

インドラウ

このブラウザには、受信され、処理されたドキュメントのリストが表示されます。

インポート

このコマンドを実行すると、外部アプリケーションファイルからデータをインポートできます。ファイルの内容に応じて、パートナー、トランザクション、またはトランスレーションオブジェクトの情報の入力を要求される場合があります。

エージェンシー

EDI コミュニケーションのスタンダードの開発および更新を行う組織。ANSI、EDIA、AIAG、UCS、および VICS などの組織があります。

エクスポート

この機能を使用すると、1つまたは複数のドキュメントを外部ファイルに書き込んで、別のアプリケーションで処理できるようにすることが可能です。このオプションを利用するには、ドキュメント用のシステムエクスポートトランスレーションオブジェクト、または各パートナーに固有のドキュメント用エクスポートトランスレーションオブジェクトが必要です。

エレメント

スタンダードによって定義されている使用可能な情報の最小単位。たとえば、数量、単価、または説明について定義します。

個々のエレメントは、それぞれの状況に応じて意味合いが多少異なります。したがって、エレメントは通常、組み合わせられてセグメントとなるまでは、有用な意味を持つものとはみなされません。

(次のページへ続く)

エレメント (続き)

以下の表のように、3 種類のデータ エレメントがあります。

データ エレメント	定義
単純データ エレメント	スタンダードによって定義されている最小単位の情報。
複合データ エレメント	複数のコンポーネント エレメントで構成されるデータ エレメント。
コンポーネント データ エレメント	複合データ エレメントを構成する個々のデータ エレメント。サブエレメントとも言います。

エンベロープ

処理の便宜を図るために、伝送時に情報を分割する手段のひとつ。エンベロープには、それぞれヘッダー セグメントとトレーラ セグメントが含まれています。これらのセグメントは、そのエンベロープとほかのエンベロープとを区別し、エンベロープの内容に関する情報を提供します。

エンベロープには、次に示す 3 つのレベルがあります。

トランザクション セット

各トランザクション セット (ビジネス ドキュメント) は、トランザクション セット エンベロープに入っています。

ファンクショナル グループ

関連するビジネス ドキュメントが入っているエンベロープです。スタンダードにより、ファンクショナル グループ エンベロープにまとめなければならないトランザクション セットが定義されています。

インターチェンジ エンベロープ

1 回のコミュニケーションで 1 つのトレーディング パートナーに送信されるすべてのデータ。" インターチェンジ エンベロープ " は、ANSI で使用されている用語です。EDIA ではこのレベルのエンベロープを意味する用語として " 伝送エンベロープ " を使用しています。しかし、ここでは " 伝送 (transmission)" という用語について別の使い方をしているため、インターチェンジ エンベロープとだけ呼ぶことにします。

メモ

コミュニケーション セッションには、インターチェンジ エンベロープを簡単に取り込むことができます。そのため、スタンダード 制定団体ではコミュニケーション セッション全体をカバーする第 4 レベルのエンベロープを検討中です。

(次のページへ続く)

応答	この機能を使用すると、[インドロウ] 内で選択されている 1 つ以上のドキュメントへの応答として、(パートナー関係に設定されたターンアラウンド トランスレーション オブジェクトを使用して) ターンアラウンド ドキュメントを作成できます。
オーディット ログ	この機能を使用すると、システムのオーディット ログ情報を表示することができます。
既定値	定義済みの値 — 特に上書きしていない限り、プログラムではあらかじめビルドされている値が使用されます。
クラスタ	サービスを提供するためにまとめたコンピュータのセット。クラスタを使用することでサービスのアベイラビリティとスケーラビリティの両方を向上させることができます。Windows NT および Windows 2000 の両方のオペレーティングシステムでは、複数のコンピュータをクラスタリングしてネットワーク上でクライアント / サーバー アプリケーションを動作させるソフトウェア ソリューションが提供されています。
クリック	クリックとは、指定されたアイテムの上にカーソルを置き、第 1 マウス ボタンを押してから離すことを言います。第 1 マウス ボタンは、マウスを右きき用にしていても左きき用にしていても、人差し指を使って押すボタンのことです。
検索	この機能を使用すると、アクティブなデータ表示ウィンドウ内で、特定のテキストを検索できます。
コピー	この機能を使用すると、1 つまたは複数のドキュメントを [アウト ドロウ] から [ワークスペース] にコピーできます。
コミュニケーション セッション	1 回の連続接続期間における、ある電話番号との間でのすべてのやりとり。これには、異なるトレーディング パートナー向けの 2 つまたは 3 つのインターチェンジエンベロープをネットワークへ送信することも含まれます。

(次のページへ続く)

コミュニケーター	Gentran:Server のコミュニケーション ソフトウェア。コミュニケーターを使用すると、送信、受信、再送信、コミュニケーション ポート定義の確立、コミュニケーション プロファイルの確立、コミュニケーション スクリプトの確立、およびコミュニケーション セッションの表示と削除を行うことができます。
コンポーネント データ エLEMENT	複合データ エLEMENTを構成する個々のデータ エLEMENT。サブELEMENTとも言います。
サードパーティ ネットワーク	「ネットワーク」を参照してください。
受信	この機能を使用すると、トレーディング パートナーからデータを受信するためのコミュニケーション セッションを手動で開始できます。
受信確認	この用語は、ANSI 997 ファンクショナル受信確認、EDIA 999 acceptance/rejection advice、および EDIFACT CNTRL を示すために使用されます。
状態	<p>状態ボックスに表示されている、ドキュメントまたはインターチェンジの処理状態。</p> <p>[? インドキュメント]</p> <p>[失敗] [? インドキュメント]内のすべてのドキュメントに、この状態が適用されます。このコードは、次のいずれかの状態を示します。</p> <ul style="list-style-type: none">ドキュメントが、EDI スタンダードに適合していません。これがエラーの原因である場合は、そのドキュメントに関連付けられたトランスレータ レポートにエラーが表示されます。ドキュメントは EDI スタンダードに完全には適合していませんが、処理を続行できる状態にあります。受信したドキュメントを特定のトレーディング パートナーに関連付けることができません。この場合、そのドキュメントに対応するパートナーは "不明" とリストに表示されます。このドキュメントを、パートナーとのインターチェンジで受信したほかのドキュメントと関連付けるには、[インターチェンジ] ブラウザからドキュメントを添付します。

(次のページへ続く)

**状態
(続き)**

- ▶ 適切な取引関係またはトランスレーション オブジェクトを、ドキュメントと関連付けることができません。関係またはトランスレーション オブジェクトを探すために使用した情報の種類に関する詳細情報が、オーディット ログに記録されます。この問題を解決するには、パートナー エディタを使用して有効な関係を確立し、その関係について有効なエクスポート、印刷、またはターンアラウンド トランスレーション オブジェクトを定義する必要があります。
- ▶ インターチェンジ、ファンクショナル グループ、またはトランザクション レベル エンベロープ構造の処理中に、重大なエラーが発生しました。ヘッダーとトレーラの Control Number の不一致、無効なトレーラ管理カウント、Control Number の順番の確認エラーなども、このエラーに含まれます。これらのエラーが発生した場合、ドキュメントが入っているインターチェンジについてのトランスレータ レポートにエラーが表示されます。

[?アウト ドキュメント]

[失敗] このコードは、ドキュメントが EDI スタandard 定義に適合していないことを示します。問題のドキュメントについてのトランスレータ レポートを表示すると、適合失敗の原因になったエラーを特定できます。

[イン ドキュメント]

[OK] [イン ドキュメント]内のすべてのドキュメントに "OK" の状態が適用されます。これらのドキュメントは完全に適合しており、処理を続行できる状態にあります。

[イン ドローワ]

[OK] このコードは、ドキュメントが EDI スタandard に完全に適合しており、処理を続行できる状態にあることを示します。

[失敗] [?イン ドキュメント]内のすべてのドキュメントに、この状態が適用されます。このコードは、次のいずれかの状態を示します。

- ▶ ドキュメントが、EDI スタandard に適合していません。これがエラーの原因である場合は、そのドキュメントに関連付けられたトランスレータ レポートにエラーが表示されます。ドキュメントは EDI スタandard に完全には適合していませんが、処理を続行できる状態にあります。
- ▶ 受信したドキュメントを特定のトレーディング パートナーに関連付けることができません。この場合、そのドキュメントに対応するパートナーは "不明" とリストに表示されます。このドキュメントを、パートナーとのインターチェンジで受信したほかのドキュメントと関連付けるには、[インターチェンジ]ブラウザからドキュメントを添付します。

(次のページへ続く)

**状態
(続き)**

- ▶ 適切な取引関係またはトランスレーション オブジェクトを、ドキュメントと関連付けることができません。関係またはトランスレーション オブジェクトを探すために使用した情報の種類に関する詳細情報が、オーディット ログに記録されます。この問題を解決するには、パートナー エディタを使用して有効な関係を確立し、その関係について有効なエクスポート、印刷、またはターンアラウンド トランスレーション オブジェクトを定義する必要があります。
- ▶ インターチェンジ、ファンクショナル グループ、またはトランザクション レベル エンベロープ構造の処理中に、重大なエラーが発生しました。ヘッダーとトレーラの Control Number の不一致、無効なトレーラ管理カウント、Control Number の順番の確認エラーなども、このエラーに含まれます。これらのエラーが発生した場合、ドキュメントが入っているインターチェンジについてのトランスレータ レポートにエラーが表示されます。

[インターチェンジ]

[インターチェンジ] ブラウザには、インターチェンジの処理状態、インターチェンジのネットワーク状態、インターチェンジ、グループ、およびドキュメントの受信確認状態、ならびにドキュメントの適合状態を表すグラフィックス (アイコン) があります。[インターチェンジ] ブラウザでいずれかのエントリを反転表示にすると、そのラインの状態コードについての説明が **Gentran:Server** のステータス バーに表示されます。

[インターチェンジ処理状況]

[インターチェンジの受信済み] (緑) — インターチェンジがシステム内で受信されていることを示します。

[インターチェンジの送信] (緑) — インターチェンジが適切なパートナーに正常に伝送されたことを示します。

[インターチェンジの送信準備完了] (青) — このインターチェンジの送信を試みたが、コミュニケーション セッションが成功しなかったことを示します。このインターチェンジは、次の適切なコミュニケーション セッションの際に送信されます。

[インターチェンジ待ち] — ドキュメントが送信待ちの状態であることを示します。

[インターチェンジの保留] — ドキュメントが "保留" の状態、つまり送信できる状態ではないことを示します。

[インターチェンジの時間切れ] — インターチェンジがインバウンド ファンクショナル受信確認との整合性をとられるのを待っていたが、受信確認が遅いとみなされる待ち時間を越えたことを示します。

[送信に失敗しました]

(赤) — コミュニケーションズ プロセス時のエラーが原因で、送信に失敗したことを示します。

(次のページへ続く)

**状態
(続き)**

インターチェンジの [ネットワークの状態]

[ネットワーク上]

インターチェンジが付加価値ネットワークに正常に配送されたことを示します (Commerce:Network を使用してこの状態を取得するには、メールボックスがデータ書式で 20 のレポートを受信できるように設定しておく必要があります)。

[ネットワーク警告]

インターチェンジが付加価値ネットワークへ配送され、そのネットワークでデータに重大ではないエラーが検出されたことを示します。このデータは、指定されたトレーディング パートナーがデータ収集の目的に利用できます (Commerce:Network を使用してこの状態を取得するには、メールボックスがデータ書式で 20 のレポートを受信できるように設定しておく必要があります)。

[ネットワーク エラー]

インターチェンジが付加価値ネットワークへ配送され、そのネットワークでデータに重大なエラーが検出されたことを示します。指定されたトレーディング パートナーが、このデータをデータ収集の目的で利用することはできません (COMMERCE:Network を使用してこの状態を取得するには、メールボックスがデータ書式で 20 のレポートを受信できるように設定しておく必要があります)。

[PickedUp]

付加価値ネットワークを介してインターチェンジがトレーディング パートナーに正常に配送されたことを示します。 (COMMERCE:Network を使用してこの状態を取得するには、メールボックスがデータ書式で 70 のレポートを受信できるように設定しておく必要があります)。

[サードパーティ ネットワーク]

インターチェンジがサードパーティのネットワークへ送信されたことを示します。

インターチェンジ、グループ、およびドキュメントの [受信確認状態]

[受信確認待ち]

インターチェンジがインバウンド ファンクショナル受信確認との整合性をとられるのを待っていることを示します。

[受信確認時間切れ]

インターチェンジがインバウンド ファンクショナル受信確認との整合性をとられるのを待っていたが、受信確認が遅いとみなされる待ち時間を超えたことを示します。

[受信確認拒否]

パートナーがインターチェンジの受信確認を行い、エラーがあったことを示します。パートナーはインターチェンジの受取を拒否しています。

[受信確認 OK]

パートナーがインターチェンジの受信確認を行い、エラーがなかったことを示します。

(次のページへ続く)

**状態
(続き)****[エラーあり受信確認]**

パートナーがインターチェンジの受信確認を行い、エラーがあったことを示します。エラーがあったにもかかわらず、パートナーはこのインターチェンジを受け入れています。

[受信確認の整合 部分]

トレーディング パートナーがインターチェンジを正常に受信したときに、インターチェンジ内の一部のドキュメントは受け入れられ(エラーがあっても受け入れられた場合を含む)、その他のドキュメントは拒否されたことを示します。

[ドキュメント適合状況]

[OK] このコードは、ドキュメントが EDI スタandard に完全に適合しており、処理を続行できる状態にあることを示します。



[失敗] このコードは、次のいずれかの状態を示します。

- ▶ ドキュメントが、EDI Standard に適合していません。これがエラーの原因である場合は、そのドキュメントに関連付けられたトランスレータ レポートにエラーが表示されます。ドキュメントは EDI Standard に完全には適合していませんが、処理を続行できる状態にあります。
- ▶ 受信したドキュメントを特定のトレーディング パートナーに関連付けることができません。この場合、そのドキュメントに対応するパートナーは " 不明 " とリストに表示されます。このドキュメントを、パートナーとのインターチェンジで受信したほかのドキュメントと関連付けるには、[インターチェンジ] ブラウザからドキュメントを添付します。
- ▶ 適切な取引関係またはトランスレーション オブジェクトを、ドキュメントと関連付けることができません。関係またはトランスレーション オブジェクトを探すために使用した情報の種類に関する詳細情報が、オーディット ログに記録されます。この問題を解決するには、パートナー エディタを使用して有効な関係を確立し、その関係について有効なエクスポート、印刷、またはターンアラウンド トランスレーション オブジェクトを定義する必要があります。
- ▶ インターチェンジ、ファンクショナル グループ、またはトランザクション レベル エンベロープ 構造の処理中に、重大なエラーが発生しました。ヘッダーとトレーラの **Control Number** の不一致、無効なトレーラ管理カウント、**Control Number** の順番の確認エラーなども、このエラーに含まれます。これらのエラーが発生した場合、ドキュメントが入っているインターチェンジについてのトランスレータ レポートにエラーが表示されます。



[重複] このドキュメントに、システム上の別のドキュメントと同じ名前が付けられています。

(次のページへ続く)

**状態
(続き)**

[アウトドキュメント]

[OK] このコードは、ドキュメントが EDI スタンドに完全に適合していることを示します。この状態ドキュメントは、送信可能です。

[アウトドローワ]**[送信済み]**

このコードは、ドキュメントが適切なパートナーに正常に送信されたことを示します。

[待機中]

このコードは、ドキュメントがインバウンド ファンクショナル受信確認との整合性をとられるのを待っていることを示します。

[時間切れ]

このコードは、ドキュメントがインバウンド ファンクショナル受信確認との整合性をとられるのを待っていたが、受信確認が遅れたとみなされる待ち時間を越えたことを示します。

[受信確認済み]

このコードは、パートナーがドキュメントの受信確認を行い、エラーがなかったことを示します。

[応答エラー]

このコードは、パートナーがドキュメントの受信確認を行い、エラーがあったにもかかわらず、パートナーがそのドキュメントを受け入れたことを示します。

[拒否] このコードは、パートナーがドキュメントの受信確認を行い、エラーがあったことを示します。パートナーは、ドキュメントの受取を拒否しています。

[~受信確認]

この状態は、このドキュメントに対する受信確認が想定どおりに実行されず、グループまたはインターチェンジのいずれかの一部が受信確認された場合にのみ表示されます。パートナーがインターチェンジレベルまたはグループレベルで部分的な受信確認を発行する場合、その受信確認では、受け入れるかまたは拒否するかをトランザクションレベルで示す必要があります。

[ネットワーク上]

このコードは、ドキュメントが付加価値ネットワークに正常に配送されたことを示します (COMMERCE:Network を使用してこの状態を取得するには、メールボックスがデータ書式で 20 のレポートを受信できるように設定しておく必要があります)。

[収集済み]

このコードは、付加価値ネットワークを介してドキュメントがトレーディング パートナーに正常に配送されたことを示します (COMMERCE:Network を使用してこの状態を取得するには、メールボックスがデータ書式で 70 のレポートを受信できるように設定しておく必要があります)。

(次のページへ続く)

**状態
(続き)****[ネットワーク警告]**

このコードは、ドキュメントが付加価値ネットワークへ配送され、そのネットワークでデータに重大ではないエラーが検出されたことを示します。このデータは、指定されたトレーディング パートナーがデータ収集の目的に利用できます (COMMERCE:Network を使用してこの状態を取得するには、メールボックスがデータ書式で 20 のレポートを受信できるように設定しておく必要があります)。

[ネットワーク エラー]

このコードは、ドキュメントが付加価値ネットワークへ配送され、そのネットワークでデータに重大なエラーが検出されたことを示します。指定されたトレーディング パートナーが、このデータをデータ収集の目的で利用することはできません (COMMERCE:Network を使用してこの状態を取得するには、メールボックスがデータ書式で 20 のレポートを受信できるように設定しておく必要があります)。

[送信キュー]**[順番待ち]**

このコードは、送信準備のためにドキュメントが正常にインターチェンジされたが、そのインターチェンジがパートナーに正しく転送されなかったことを示します。このインターチェンジは、このパートナーとの次のコミュニケーションセッションの際に自動的に送信されます。

[送信準備完了]

ドキュメントを送信する準備が完了したが、送信するデータのメールボックス メッセージがまだ作成されていないことを示します。

[送信失敗]

コミュニケーションズ プロセス時のエラーが原因で、送信に失敗したことを示します。

[ワークスペース]

[OK] このコードは、ドキュメントが EDI スタandard に完全に適合していることを示します。この状態のドキュメントは、[アウト ドキュメント] へポストして、送信することができます。

[失敗] このコードは、ドキュメントが EDI Standard 定義に適合していないことを示します。問題のドキュメントについてのトランスレータ レポートを表示すると、適合失敗の原因になったエラーを特定できます。

ステータスバー

アプリケーション ウィンドウのステータス バーの機能には、選択、コマンド、またはプロセスに関する情報の定義、各アイテムを反転表示にしたときのメニュー バー アイテムの定義、および入力時の現在のキーボード開始モード (たとえば、"Caps Lock" キーに対しては CAP、"Num Lock" キーに対しては NUM) の表示などがあります。

(次のページへ続く)

セグメント

有用なデータをやり取りするために組み合わせる、いくつかのエレメント。たとえば、カタログ定価セグメントはアイテムの説明、数量、価格、リードタイムなどのエレメントで構成されているとします。この場合、これらのエレメント自体は有用な情報ではありません。しかし、これらのエレメントを組み合わせることにより、そのアイテムが希望に合うかどうか、または価格が妥当なものかどうかなどを判断するために必要な情報になります。セグメントは EDI スタンドアードによって定義されます。複数のセグメントが集まるとトランザクションセットになります。

セット

「トランザクションセット」を参照してください。

送信

この機能を使用すると、トレーディングパートナーにデータを送信するためのコミュニケーションセッションを手動で開始できます。選択されたドキュメントのみがエンベロープに収められて送信されます。ドキュメントが選択されていない場合は、すべてのドキュメントが送信されます。正常に送信されたドキュメントは、[アウト ドローワ]へ移動します。

送信キュー

この機能を使用すると、現在送信待ちになっているドキュメントのリストを表示できます。

**ターンアラウンド
ドキュメント**

ソースドキュメントからのデータエレメントが、ターンアラウンドマップを使用して自動的に転送される際の転送先ドキュメント。

**ターンアラウンド
マップ**

インバウンド(ソース)ドキュメントからターンアラウンドドキュメント(ソースへの論理的応答ドキュメント)を作成するために使用される、一連の命令。ターンアラウンドドキュメントは、ソースドキュメントからターゲットドキュメント(トランスレーションオブジェクト)にデータを転送することによって作成されます。

タイトルバー

アプリケーションウィンドウのタイトルバーにはアプリケーション名が表示されます。タイトルバーを使用して、デスクトップ上の別の場所にウィンドウを移動できます。

(次のページへ続く)

ダイアログボックス

ダイアログボックス(またはダイアログ)で、処理の実行に必要な追加情報またはオプションを指定します。オプションを指定した場合、コマンドを実行するためのボタンを選択できます。要求された作業を実行できない理由を示す警告またはメッセージが表示されるダイアログボックスもあります。ダイアログボックスにタイトルバーがある場合には、デスクトップの別の場所にそのダイアログボックスを移動することができます。

ダイアログボックスを閉じるには、[コントロール]メニューボックスをダブルクリックするか、または[ファイル]メニューから[Close Active Window]を選択します。

ダブルクリック

ダブルクリックとは、指定されたアイテムの上にカーソルを置き、第1マウスボタンをすばやく2回、押してから離すことです。第1マウスボタンは、マウスを右きき用にしている場合でも左きき用にしている場合でも、人差し指を使って押すボタンのことです。

ツールバー

ツールバーには、メニューバーで使用可能なコマンドをグラフィックスで表したボタンが表示されます。この機能によって、選択された1つのドキュメントについてのトラッキング情報を表示できます。

定義済み

画面入力トランスレーションオブジェクトにおける、特定の要素の既定値。必要に応じて値を変更できます。

**データ表示
ウィンドウ**

Gentran:Serverには、次のデータ表示ウィンドウがあります。オーディットログ、ドキュメントトラッキング、インターチェンジトラッキング、インターチェンジの生データ表示、およびドキュメントの生データ表示。

適合 (compliance)

スタンダード仕様のすべての要件を完全に満たす場合に限り、実装が適合となります。特に、実装によって生成された各トランザクション、アクション、またはデータ要素が、後述の"検証"に定義されているように有効にならなければなりません。適合テストは、実装の操作を指定の要件と比較し、適合または不適合のいずれかを判断します。

適合 (compliant)

ドキュメントが、トランスレーションオブジェクトで定義されたとおり、EDIスタンダードに準拠している状態のことです。

(次のページへ続く)

デスク

デスクは、Gentran:Server がこれを使用して、Gentran:Server で頻繁に使用するブラウザ、機能、およびサブシステムに素早く簡単にアクセスできるように、グラフィカルに表したものです。ブラウザ、機能、またはサブシステムにアクセスするには、それを表す [デスク] 上の適切な領域をクリックします。[インドキュメント]、[? インドキュメント]、[ワークスペース]、[アウトドキュメント]、[? アウトドキュメント]、[インターチェンジ]、[インドローワ]、および [アウトドローワ] の各ブラウザにアクセスできます。各ブラウザのアイコンは、ドキュメントの場所にドキュメントが存在する場合に、ドキュメントの絵として表示されます。また、パートナー エディタ サブシステム、ヘルプ システム、プロセス管理 (時計のアイコン)、および送受信 (電話のアイコン) にデスクからアクセスできます。さらに、デスクを使用して、Gentran:Server を終了することもできます (出口 / ドアのアイコン)。

デスクの表示を **オフ** にするには、[表示] メニューの [デスク] をクリックします。これによって、デスクの表示 / 非表示が切り替えられます。アイテムの横にチェックマークが付いている場合、そのアイテムは "表示" になります。

デジタル証明書

デジタル証明書は、一般的に用いられているアイデンティティの検証方法です。証明書は、エンティティを識別するデータセットです。信頼された組織は、証明書を個人またはエンティティに証明書および関連する公開鍵を割り当てます。証明書が発行された個人またはエンティティは、証明書受領者となります。証明書を発行する信頼された組織とは認証局 (CA) であり、証明書の発行者として知られています。信頼された CA は、証明書受領者のアイデンティティを検証してから証明書を発行します。証明書のデータには、証明書受領者の一対の公開鍵 / 秘密鍵のうち公開鍵が含まれています。

デジタル署名

公開鍵暗号方式の本質は、データが 2 つの鍵を返す複雑な数学の公式でコード化されることにあります。最初の鍵でコード化されたデータの復号化には 2 番目の鍵が必要となり、2 番目の鍵でコード化されたデータの復号化には最初の鍵が必要です。最初の鍵は公開鍵として配付し、2 番目の鍵は自分だけがアクセスできる秘密鍵として保護します。鍵の相互的な関係によって、公開鍵を所有する任意の人によるデータの暗号化と、秘密鍵による復号化が可能になります。秘密鍵がない限り、暗号化されたデータは暗号化した本人でもアクセスできなくなります。同様に、秘密鍵でデータを暗号化した場合には、公開鍵を所有する任意の人がデータを復号化することもできます。この場合にはデータのセキュリティが低下しますが、データを作成したのは秘密鍵を所有する人であることが証明できます。

(次のページへ続く)

同期

"ライブ"のコミュニケーションセッションで指定の間隔内に発生する要求応答ペアを必要とする分散プロセスのコミュニケーションコーディネーションのモード。

ドキュメント

実データが含まれ、単一の実体として処理される1つのトランザクションセット。ドキュメントであるか否かの識別は、データ量とは関係なく、単一の実体として処理されるかどうかによってのみ判定されます。たとえば、発注書に記載されているアイテムが1件であろうと、1万件であろうと、それが1枚の発注書で限り1つのドキュメントとなります。

10枚の発注書が含まれるコミュニケーションをトレーディングパートナーが送信した場合、自社側では10のドキュメントを受け取ることになります。コミュニケーションに15枚の請求書が含まれていれば、15のドキュメントを受け取ることになります。

トラック

この機能によって、選択された1つのドキュメントについてのトラッキング情報を表示できます。

**トランザクション
セット
(ドキュメント)**

スタンダードによって定義されているビジネス書式。たとえば、ANSI 850の発注書やUCS 880の請求書などです。スタンダードでは、フォームを構成するセグメントおよびエレメント、セグメントやエレメントが表示される順序、および各セグメントやエレメント間の関係について、それぞれのトランザクションセットを定義しています。これはヨーロッパでは"メッセージ"とも呼ばれています。

(次のページへ続く)

トランスレーション オブジェクト

特定のトランザクション セットの入力または出力が確実に存在し、使用可能な形で表示されるように設定された、あらかじめ設計済みの配置。各パートナー関係で使用するトランスレーション オブジェクトを指定する必要があります。

インバウンド トランスレーション オブジェクト

ターンアラウンド：このトランスレーション オブジェクトは、ドキュメント受信時にそのドキュメントからできるだけ多くのエレメントが含まれる応答ドキュメントを作成するために使用します。

エクスポート ファイル：このトランスレーション オブジェクトでは、ドキュメントの受信時に、そのドキュメントを指定されたファイル書式にエクスポートするように指定します。

印刷：このトランスレーション オブジェクトを使用して、ドキュメントを印刷します。

アウトバウンド トランスレーション オブジェクト：

インポート：このトランスレーション オブジェクトは、アプリケーション ファイルからデータをインポートする場合に使用します。

印刷：このトランスレーション オブジェクトを使用して、ドキュメントを印刷します。

画面入力：このトランスレーション オブジェクトは、[ドキュメント エディタ] にデータを入力するために使用します。

トレーディング パートナー

ドキュメントをやり取りする相手先となる企業。パートナーとも言います。

並べ替え

この機能を使用すると、ドキュメント ブラウザ内のドキュメントのリストを次のような順番で並べ替えることができます。パートナー / 種類 / 名前、パートナー / 名前 / 種類、または種類 / パートナー / 名前。

認証

保護されているリソースやサービスまたは機密情報にアクセスする権限。

ネットワーク

サード パーティ ネットワークまたは付加価値ネットワーク (Value-Added Network: VAN) とも呼ばれます。企業からの伝送を受け入れてトレーディング パートナー側で受け取りの都合がつくまで保持する、COMMERCE:Network などのサービスです。

(次のページへ続く)

バージョン	各スタンダード制定団体は、定期的にスタンダードを更新します。それぞれの正式な更新のことをバージョンと呼びます。
パートナー	ドキュメントをやり取りする相手先となる企業。トレーディング パートナーとも言います。
パートナーエディタ	この機能を使用すると、自社および全トレーディング パートナーのすべてのパートナー情報を定義、編集、および削除できます。
非同期	一定のストリームではなく断続的にデータを転送する分散プロセス間のコミュニケーション。
否認防止	否認防止は、特定の動作が発生したという偽造不可能な証拠を提示するための、メッセージ転送システムの機能です。最も一般的な3つのタイプの否認防止は、発信元の否認防止、提出の否認防止、配送の否認防止です。発信元の否認防止は、メッセージ発信元がメッセージの送信を拒否しようとする試みを防止します。提出の否認防止は、メッセージ転送エージェントが配送のためのメッセージ提出を拒否しようとする試みを防止します。配送の否認防止は、メッセージ受信者がメッセージの受信を拒否しようとする試みを防止します。
表示	ドキュメントの場合、この機能を使用すると、選択した書式に応じて EDI データ、トランスレーション オブジェクトにより書式化されたドキュメント、またはトランスレータ レポートを表示できます。インターチェンジの場合、この機能を使用すると、選択した書式に応じて EDI データまたはトランスレータ レポートを表示できます。
ファンクショナルグループ	関連するトランザクション セット間の互換性を確保する目的で、スタンダード制定団体 (ANSI など) によって定義されたトランザクション セットのグループ。たとえば、すべての購買トランザクション セットをまとめたものとして定義されているファンクショナルグループがあります。

(次のページへ続く)

フェイルオーバー

フェイルオーバーシステムは、プライマリ システムが故障したり、サービスが一時的にシャットダウンされた場合に、スタンバイしているデータベース、サーバー、またはネットワークに自動的に切り替えるバックアップ操作です。フェイルオーバーは、常にアクセスビリティを維持する必要があるミッションクリティカルなシステムに重要なフォルトトレランス (耐障害) 機能です。フェイルオーバーは、ユーザーの要求を、プライマリ システムの操作を模倣するバックアップシステムに自動的に (ユーザーには知らせずに) リダイレクトします。

**複合データ
エレメント**

複数のコンポーネント エレメントで構成されるデータ エレメント。

ブラウザ

ブラウザは、ドキュメント (トランザクションセット)、インターチェンジ、トランスレーション オブジェクトなどのアイテムのリストを表示するウィンドウです。ドキュメント ブラウザには、ドキュメントのみが表示されます。

ヘッダー

データのコンテンツの冒頭に挿入されるコントロール情報です。通常は、データの説明またはデータとアプリケーションの関係を記述するために使用されます。

ポスト

この機能を使用すると、適合ドキュメントを [ワークスペース] から [アウトドキュメント] に移動することができます。

メニュー

選択できるアイテムのリスト。各アイテムは、コマンドを表します。メニュー上の使用できないアイテムは、グレー表示になっています。

メニューバー

アプリケーションのメニューのリストが表示されます。

ラベル

エレメント、キーワードのタイトル、または情報インジケータ以外のトランスレーション オブジェクトに関するほとんどの情報の説明。また、破線のように、情報の区切りとして使用することもできます。

ワークスペース

[ワークスペース] には、アウトバウンド "処理中" ドキュメントのリストが表示されます。最近インポートしたドキュメントや画面入力ドキュメントも表示されます。
